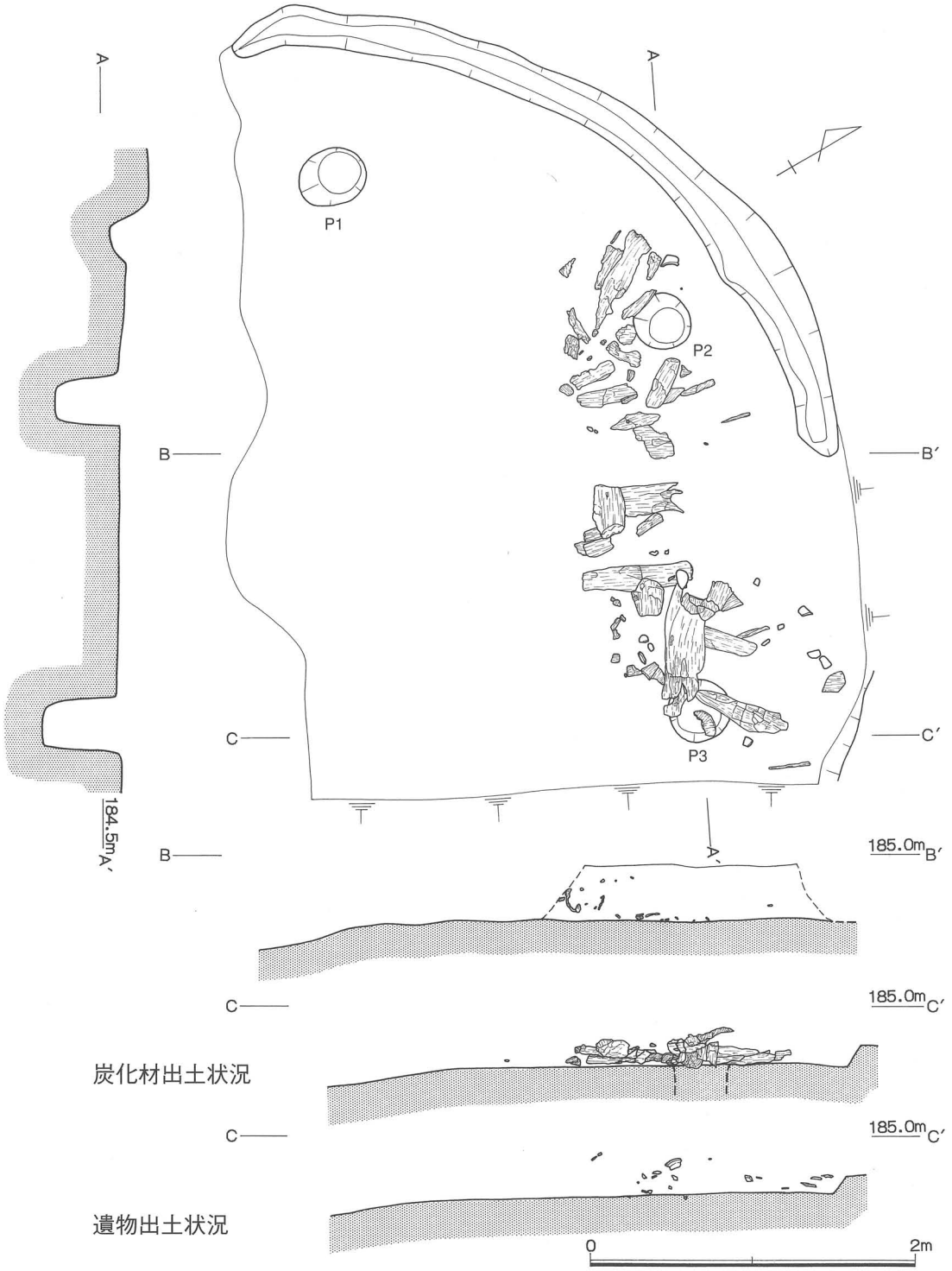
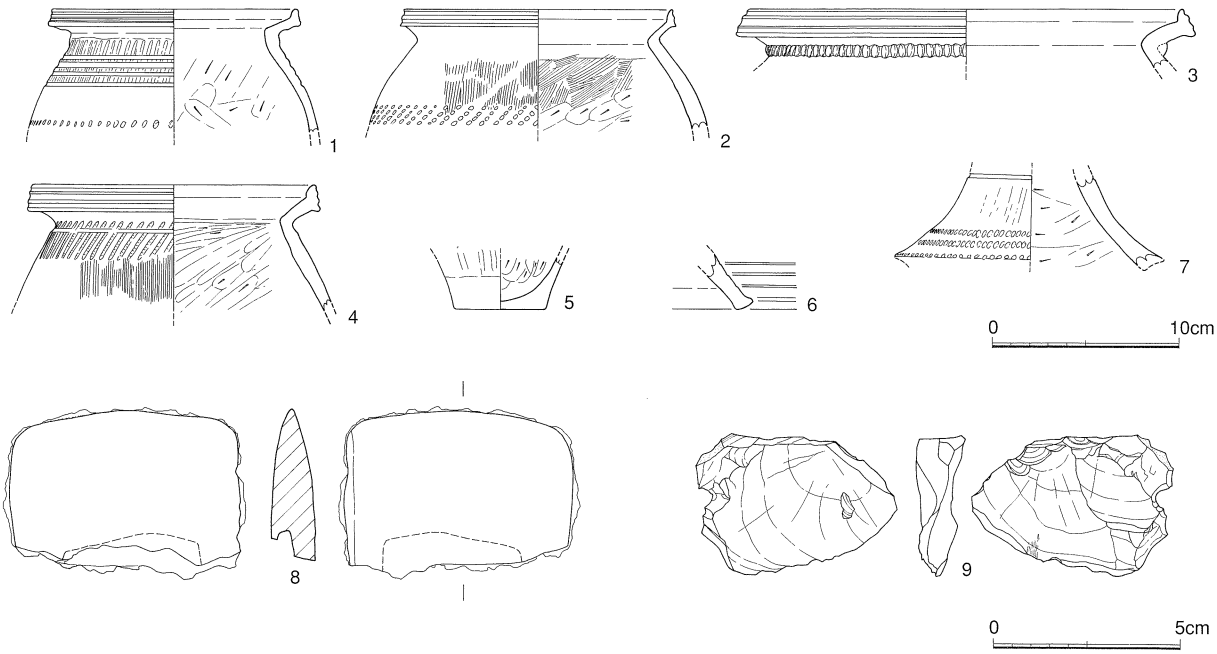


第44図　垣ノ内遺跡 SI13（遺構11）実測図（S=1/40）

SI13（第44～46図、図版30～32）

SI13はⅡ区に検出した焼失竪穴住居である。北側に隣接して後世の攪乱があり、東側も攪乱が激しく、北側の一部を検出できたにすぎない。また斜面下側にあたる南西側は床面が流失しており、検出できなかった。

この竪穴住居に伴う柱穴はＰ１～Ｐ３を確認しており、その配置から５～６本柱の建物が想定される。壁体溝は北西側に残るのみである。床面は覆土に対し僅かに濃い黒褐色で、しまりはあまり無い。第44図には断面見通し図を載せているが、炭化材が床面直上に折り重なって検出されたのに



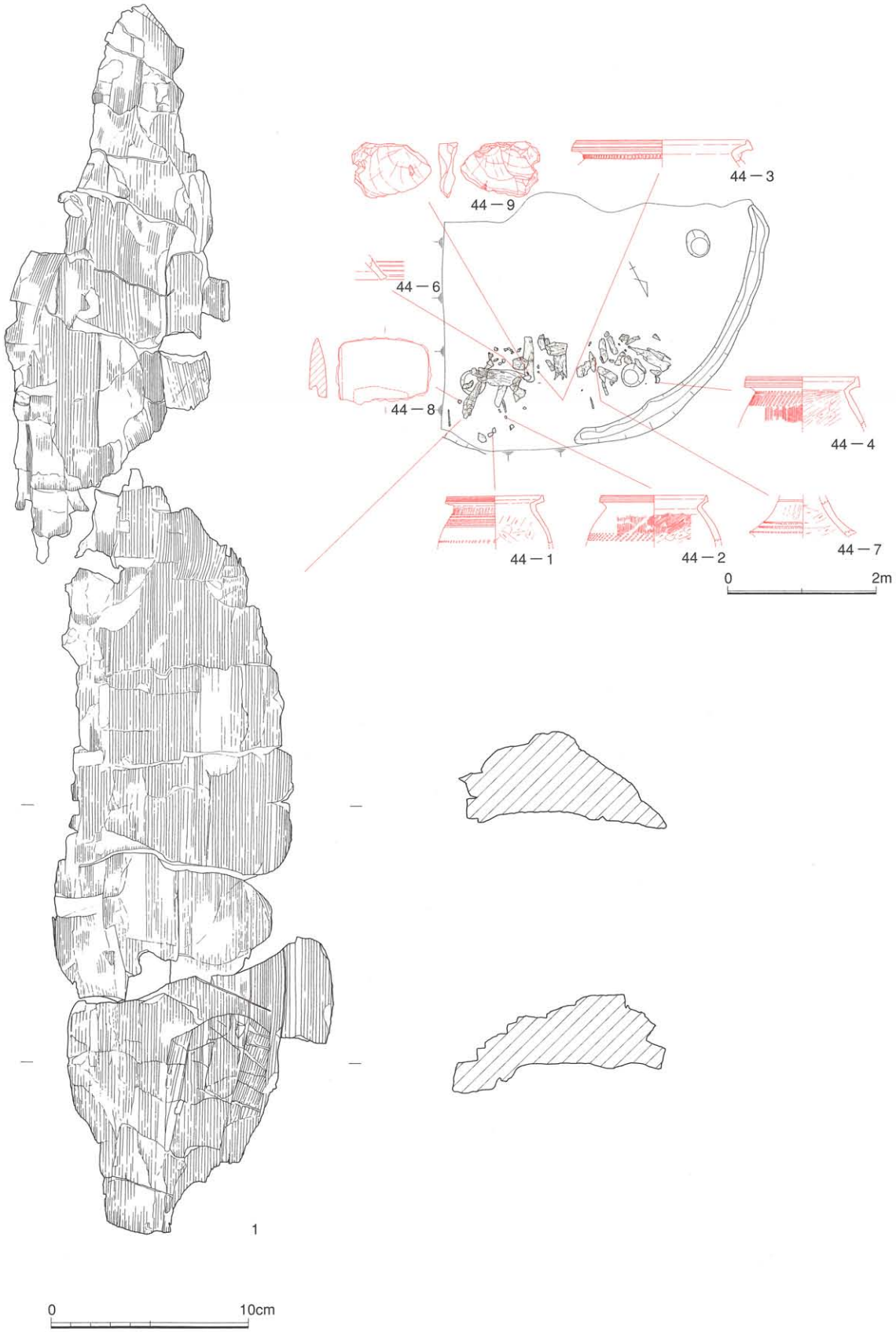
第45図　垣ノ内遺跡 SI13（遺構11）出土遺物（１～７は S=1/4、８・９は S=1/2）

対し、遺物は全体にレベルが高く、炭化材上に載っているものも多かった。

炭化材は竪穴の壁側を中心に出土し、大きく丸太材と板材に分けられる。残りが必ずしも良好とは言えないため、各部材を識別することはできなかった。丸太材は径15～20cmだが、10cm以下の小片もあり、部位により数種類を使い分けていた可能性がある。Ｐ３に建てられたまま出土した炭化材は、柱材の残片と考えられるが、コウヤマキ材の可能性が高い[註3]。板材はさらに残りが悪く、丸太材の小片との区別できないものもあった。残存幅20～35cmの個体があるが、これが当時の板材のサイズと合致するかは定かでない。なお炭化材は全て発泡ウレタンで梱包の上持ち帰った。しかし取り上げ時の気温が低かったためウレタンが十分に発泡せず、結果は思わしくなかった。住居構造の解明が期待されたが、炭化材の残存状況を見る限り困難といわざるを得ない。

出土土器には中期後半（Ⅳ－２）の甕、壷および高坏の脚部がある。45－１、４は頸部に縦長のヘラ描き沈線を入れた後、横方向の凹線を通して刻目文状に仕上げるもので、塩町式の土器である。これらが２、３のような甕と共伴する事が分かる。８は鋳造鉄斧片で、舶載の袋状鉄斧の再利用品であろう。中期に溯る鋳造鉄斧は北部九州に出土例が多い。山陰では鳥取県長山馬籠遺跡[註4]が挙げられるが、島根県西川津遺跡[註5]出土の鉄斧片が挙げられる程度である。板状鉄斧では垣ノ内遺跡から約50km斐伊川を溯った、仁多郡横田町の国竹中山遺跡から２点出土している[註6]。国竹中山遺跡では垣ノ内遺跡と同様に塩町式土器が出土しており、この時代の斐伊川上流域の様相が垣間見られる資料といえる。９は二次加工痕のある頁岩剥片で、熱を受けて変色している。

46－１は炭化材である。前記の通り、出土炭化材は可能な限り発泡ウレタンを用いて梱包の上、持ち帰った。しかし作業が11月から12月になったため、気温が低すぎてウレタンの発泡が極端に悪かった。このためウレタンが炭化材の周囲に十分行き渡らないなどの問題から、破損無く取り上げることができたものは数点にすぎなかった。またウレタン塊から炭化材を取り出す際も、発泡の悪いウレタンは切削が困難であった。今回は時間の関係もあって、最も程度の良い炭化材１点を選択



第46図　垣ノ内遺跡 SI13（遺構11）出土炭化材、遺物出土状況図（1は S=1/3）

し、発掘・復元した。丸太材の残片で、心材は残っていないものの、片側は端部が残っている。復元径は約15cmである。端部から13cm付近の陥没部をホゾ孔と考えていたが、クリーニングの結果、この部分の表面が剥離したものと判明した。

SI13の出土遺物は鋳造鉄斧を含め、床面から５cm前後離れて出土したものが多く、覆土中の遺物が混入している可能性は否定できない。しかし廃材を片づけた様子はなく、炭化材の表面はそれほど荒れていない。柱穴に建てた状態で出土した炭化材もあり、焼失後それほど時間をおかずに覆土に覆われたと考えられる。この覆土が自然流入か、意図的に埋めたものかは覆土の状況から判断することができなかった。竪穴が埋まるプロセスについては不明な点が多いものの、SI13の時期は床面出土の土器から弥生時代中期後半と考えたい。またこの住居で用いられたかは定かでないものの、鋳造鉄斧も同時期の遺物と考える。

なお炭化物の放射線炭素同位体による年代測定は財団法人九州環境管理協会に依頼した。測定結果は以下のとおりである。

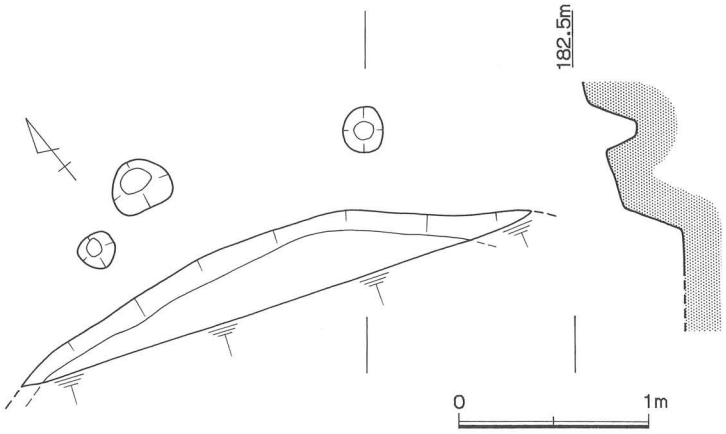
試料名：尾原ダム建設予定内埋蔵文化財の年代測定

財団法人　九州環境管理協会

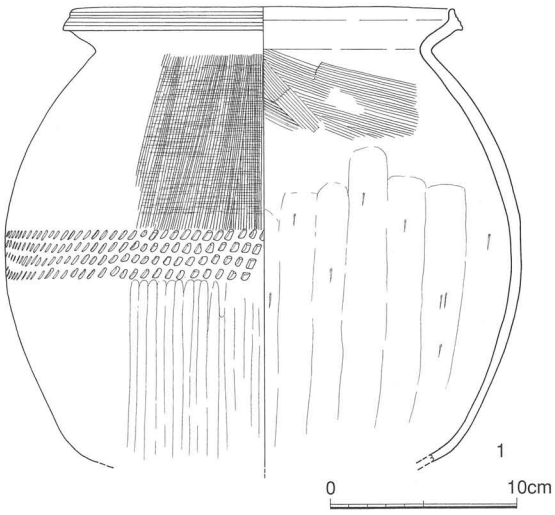
No.	依頼者コード	試　料　名	^{14}C 年代/yearsBP
KEEA－592	焼失住居・炭－４	垣ノ内遺跡植物遺体（木炭）	3390±90 (3480±90)
KEEA－593	焼失住居・炭－11	垣ノ内遺跡植物遺体（木炭）	2180±70 (2240±70)
KEEA－594	焼失住居・炭－100	垣ノ内遺跡植物遺体（木炭）	2190±80 (2250±80)
KEEA－595	焼失住居・炭－101	垣ノ内遺跡植物遺体（木炭）	2090±80 (2150±80)

備考：測定結果は^{14}C 年代測定で慣例になっているLibbyの半減期5568年を採用し、西暦1950年までの経過年yearsBP）で表示しております。また、（　）内の年代は^{14}Cの半減期として現在使用されている最新の値、5730年を採用し算出された値です。年代誤差は放射壊変の統計誤差（１σ）から算出された値であり、測定結果が約70％の確率でこの範囲にあることを意味します。^{14}C 年代は必ずしも暦と一致するとは限りませんのでご注意下さい。

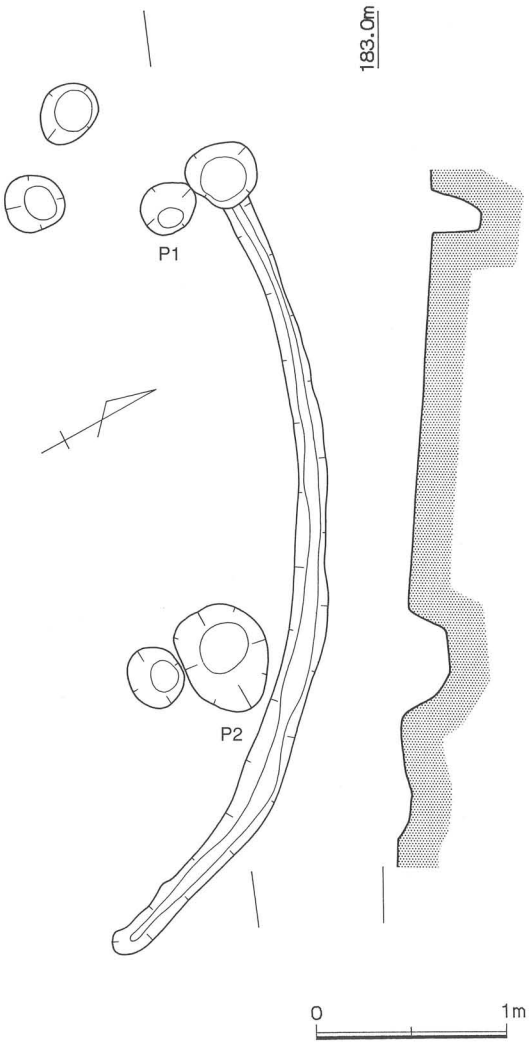
炭－11（依頼者コード）は46－１を取り上げた際に剥離した炭化材を採取したもので、同一個体である。また炭－100、101は、床面精査の際にＰ２、Ｐ３周辺で採取した炭化材である。床面直上の炭化材と考えて良い。炭－２はＰ３上に覆い被さるように出土した板状の炭化材と、その上面に乗っていた細片である。測定結果を見ると、46－１、床面の炭化物はほぼ同様の年代が出ている。炭－４は1,000年以上古い値が示されており、何らかの混入物によるものかもしれない。SI13が掘り込まれている土層は量は少ないものの縄文土器を含んでおり、その炭化物が覆土に混じっていた可能性もある。



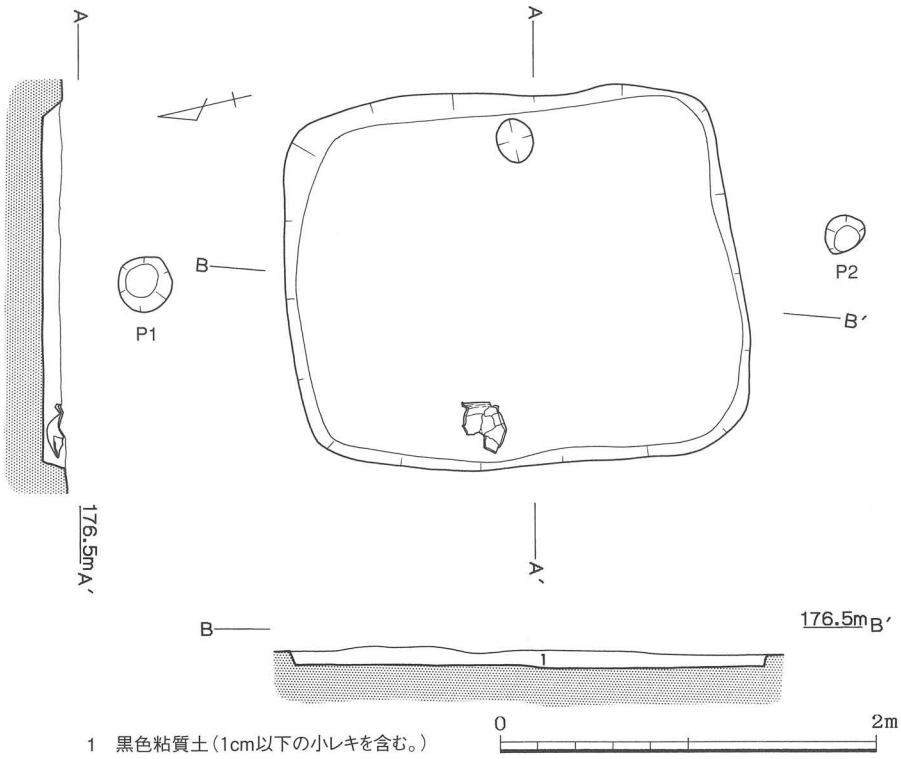
第47図　垣ノ内遺跡 SI14実測図（S＝1/40）



第50図　垣ノ内遺跡 SI16（遺構９）出土遺物（S＝1/4）



第48図　垣ノ内遺跡 SI15実測図（S＝1/40）



1　黒色粘質土（1cm以下の小レキを含む。）

第49図　垣ノ内遺跡 SI16（遺構９）実測図（S＝1/40）

SI14、SI15（第47・48図、図版33）

SI14はⅠ区とＡ区の境界付近に検出した加工段状の遺構である。平成12年度のＡ区発掘調査では全く確認できず、Ⅰ区側の竪穴部分を僅かに検出したにすぎない。竪穴の背後に並ぶピットも住居に伴う可能性がある。規模は大部分が残存していないため不明である。出土遺物は床面直上のものが僅かな上、細片が多く、時期を決定付けるものはなかった。

SI15はⅡ区に検出した壁体溝と付属するピットである。円周の1/6程度壁体溝が確認できるのみで、付近のピットとの対応関係は不明である。付近からは弥生土器片が出土しているが、竪穴が明確でないためこの遺構に伴うものかは不明である。

SI16（第49・50図、図版34）

Ｃ区の最南端で検出した遺構である。縄文土器の包含層（７層）に掘り込まれた長方形の竪穴で深さ数cmの浅いピットがある以外に、柱穴が全くない。主軸延長上にそれぞれピットが開くが、この遺構に伴うものかどうかは不明である。49－１は唯一の出土遺物で、弥生時代中期の甕である。東向きに倒れた状態で出土し、上部の2/3は飛んでしまっている。こうした柱穴を竪穴内に持たない小型の竪穴建物は頓原町門遺跡[註7]に例がある。門遺跡でも他の竪穴住居とは離れた位置に構築されており、竪穴内に柱穴を必要としない簡単な上屋を造る小屋状の建物が、集落に付随して建てられる場合があったようだ。

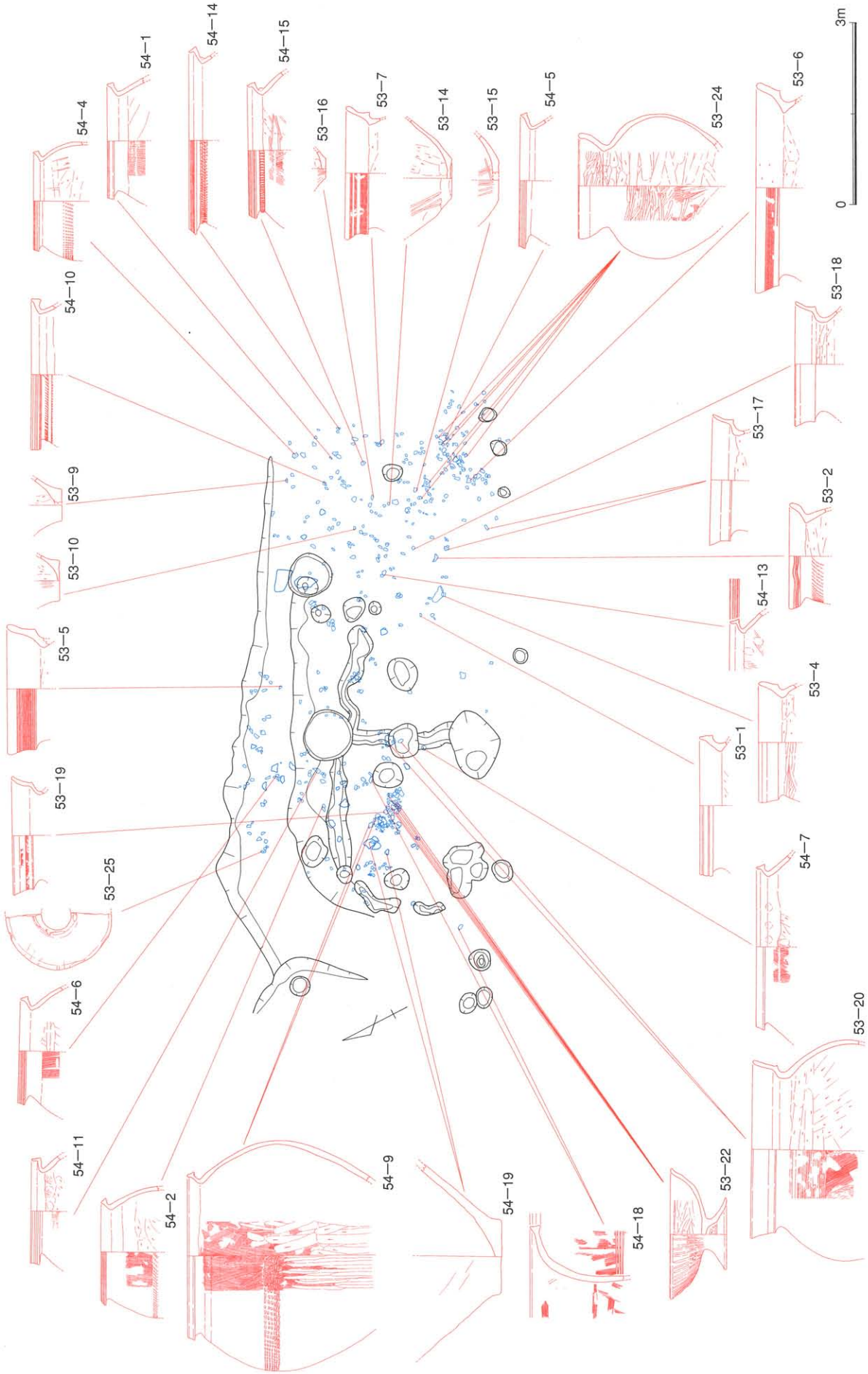
遺構２、加工段１（第51～55図、図版35～39）

Ⅰ区からⅡ区にかけて検出した加工段状遺構群で、２段の加工段とそこに配置される溝状遺構、ピット群を遺構２とする。遺構２の西端を切って造られている加工段を加工段１とする。

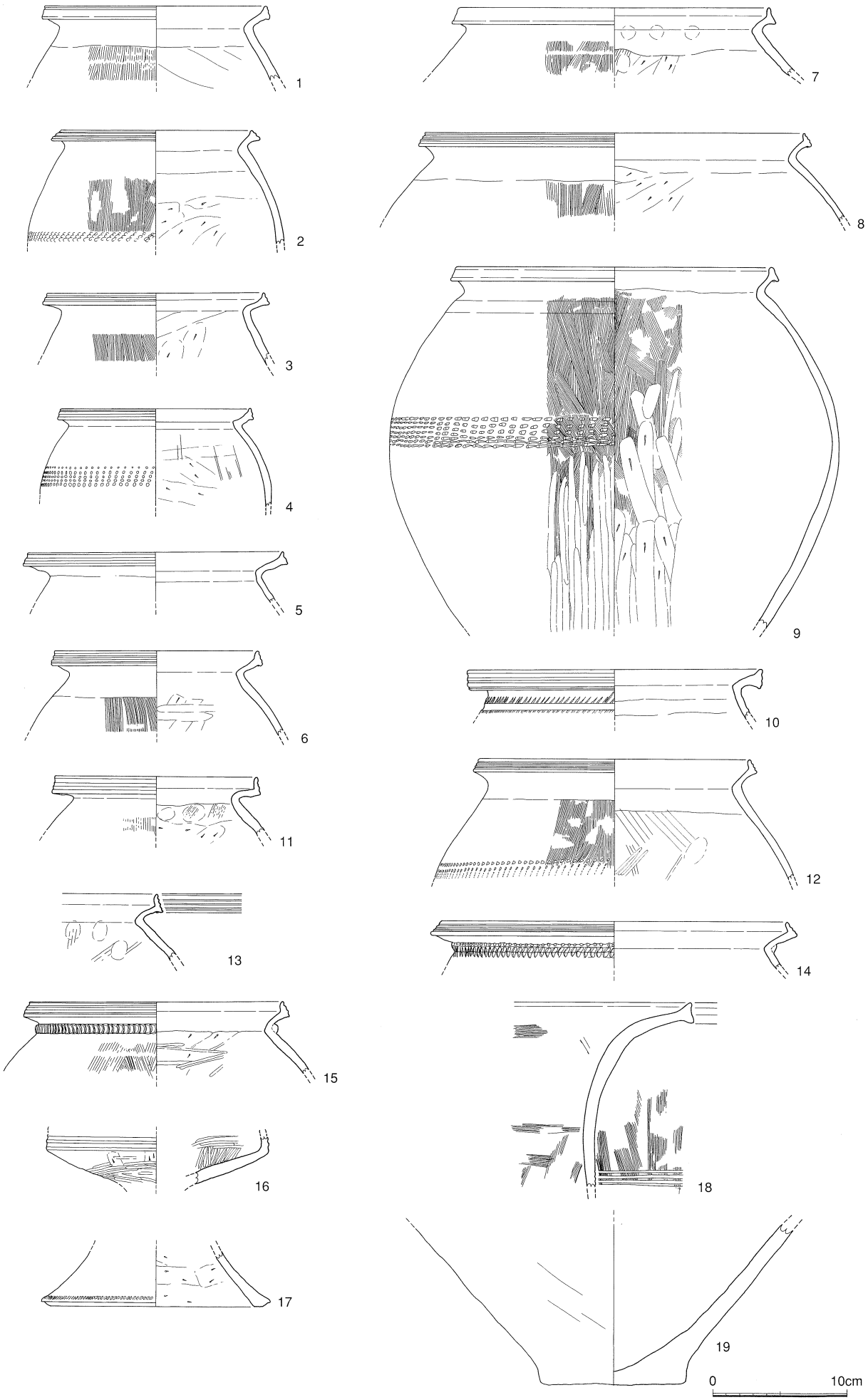
遺構２のうち上段は、下段を構築する際に削平されており、原形をとどめていない。この段からは中期後半（Ⅳ－２）の甕類と環状石斧が出土した。下段は背後の壁面に沿って溝を配し、ピットが並ぶ。調査時は２間×１間の掘立柱建物を想定したが、４本柱の竪穴住居が建つ可能性もある。複数の遺構が混在しているのは確実だが、サブトレンチのセクションでは、それぞれを層位的に把握することができなかった。遺物を含む層位は３層と４層であるが、４層上面では遺構が無かったことから、これらは流入した時期の異なる覆土と考える。出土遺物は弥生時代中期後半から後期末の土器が混在しており、上段の遺構上面に中期後半の遺物が、下段の覆土には中期後半から後期末の遺物が出土している。しかし各時代の遺物出土状況は覆土の堆積順と必ずしも一致しない。覆土は上段に伴う中期後半の遺物をとり込みながら堆積した可能性が高く、下段に構築された遺構は弥生時代後期末（草田６期）に位置づけられる可能性が高い。

第53図４、６、10、14、15、第54図９、25は上段から出土した中期後半（Ⅳ－２）の遺物である。甕類は口縁端部をあまり拡張せず、３～５条の凹線を入れる。端部を上方に僅かに拡張する個体があり、15のように内面のケズリが頸部まで上がっている個体もあることから、時期幅を考える必要があるかもしれない。53－10は頸部に縦方向の刺突と凹線を組み合わせるもので、塩町式土器の影響があるかもしれない。14、15は頸部の貼付突帯に刻みを入れるものである。54－25は摩滅痕のある環状石斧の破片である。

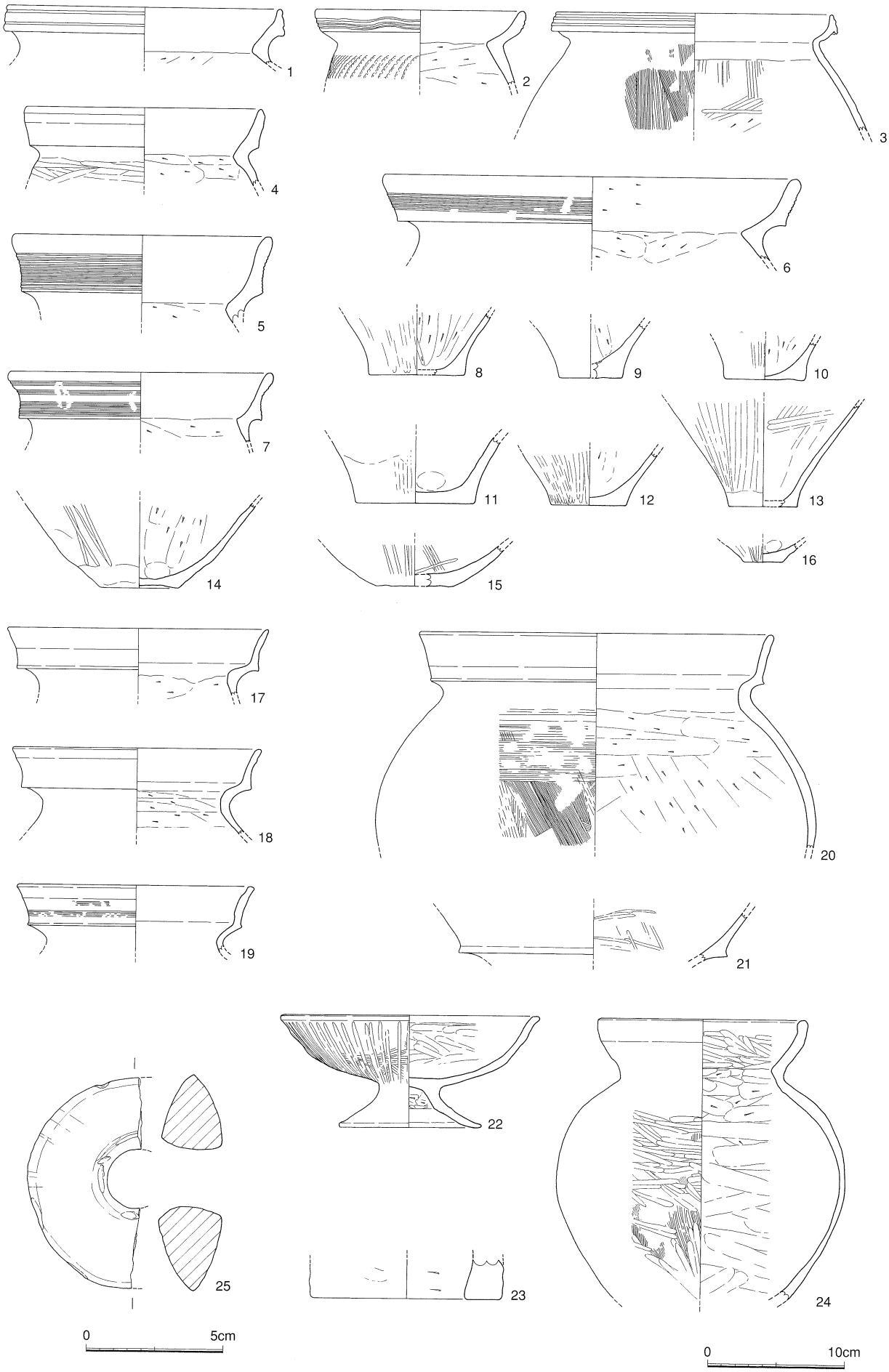
第51図　垣ノ内遺跡遺構２実測図（S＝1/80）



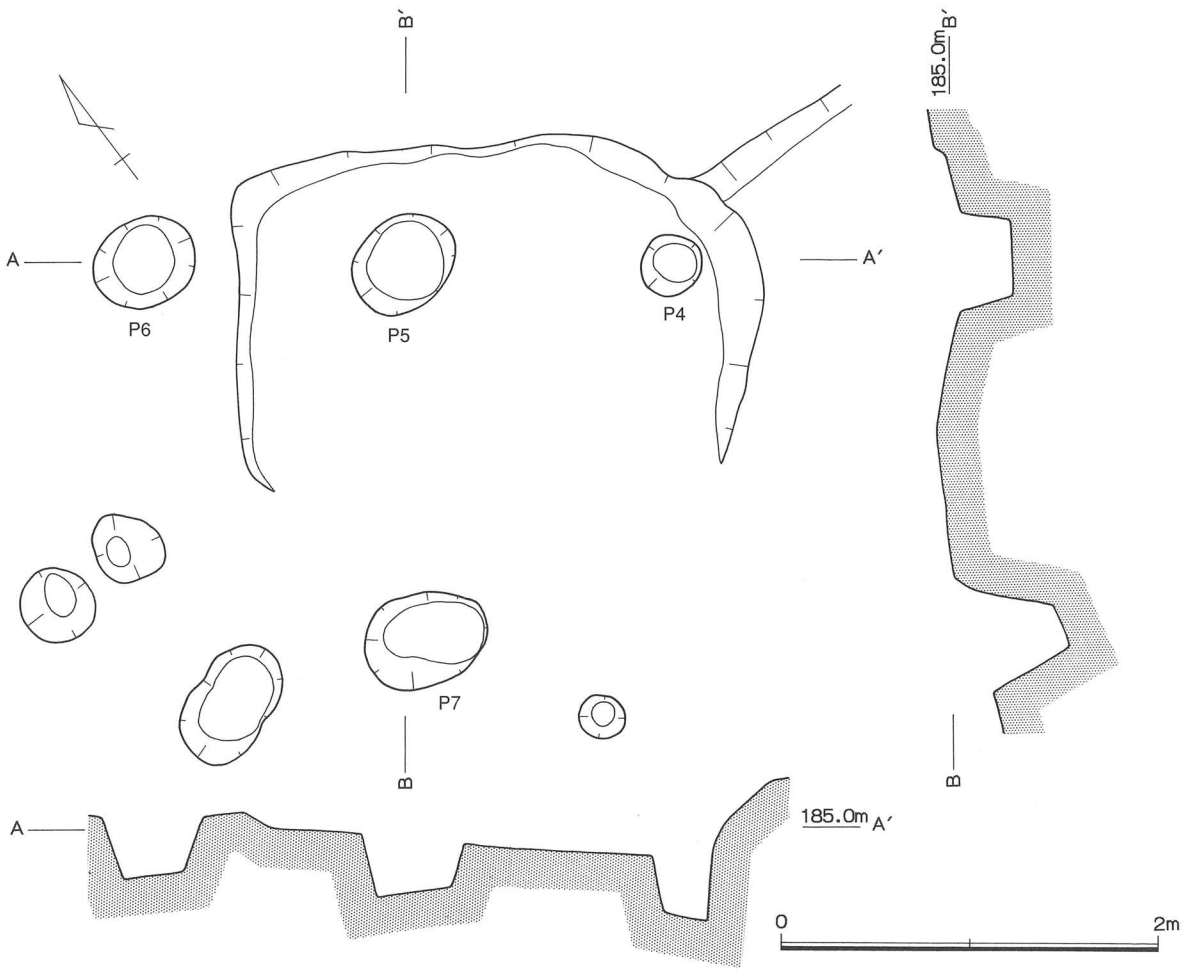
第52図　垣ノ内遺跡遺構２遺物出土状況図



第53図　垣ノ内遺跡遺構２出土遺物１（S=1/4）



第54図　垣ノ内遺跡遺構２出土遺物２（１～24はS＝1/4、25はS＝1/2）



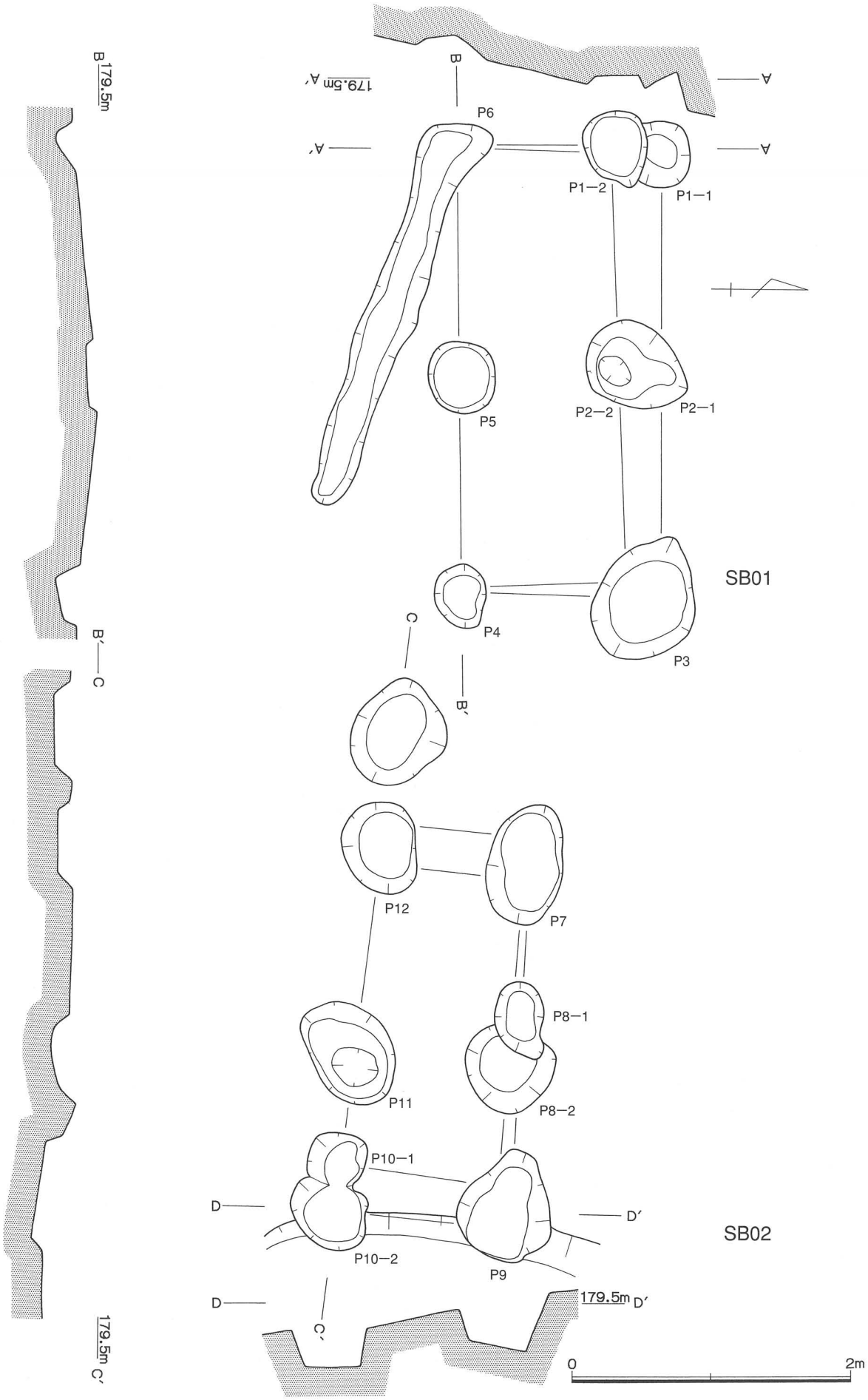
第55図　垣ノ内遺跡加工段１実測図（S＝1/40）

下段出土の土器は、前記のとおり時期幅がある。第53図掲載の遺物は中期後半に位置づけられるものである。13は拡張された口縁を持つ甕であるが、内面のケズリは頸部まで上がってきていない。18、19は広口壷の口縁部と底部だが、同一個体ではない。第54図は主に弥生時代後期以降の遺物で、むしろこの一群が下段に伴う土器と考えられる。後期前半から後期末まで時期幅があるが、中心は草田５～６期の土器である。22は外面を刷毛調整した後、縦方向のミガキを丁寧に入れる低脚坏で草田６期に並行するものだろう。下段の下限がおよそこの時期と考えられる。23は性格不明の土製品で、内部にケズリを施して空洞にする個体である。土製支脚の可能性もあるが、本遺跡で出土した他の土製支脚とは作り、胎土とも異なっている。

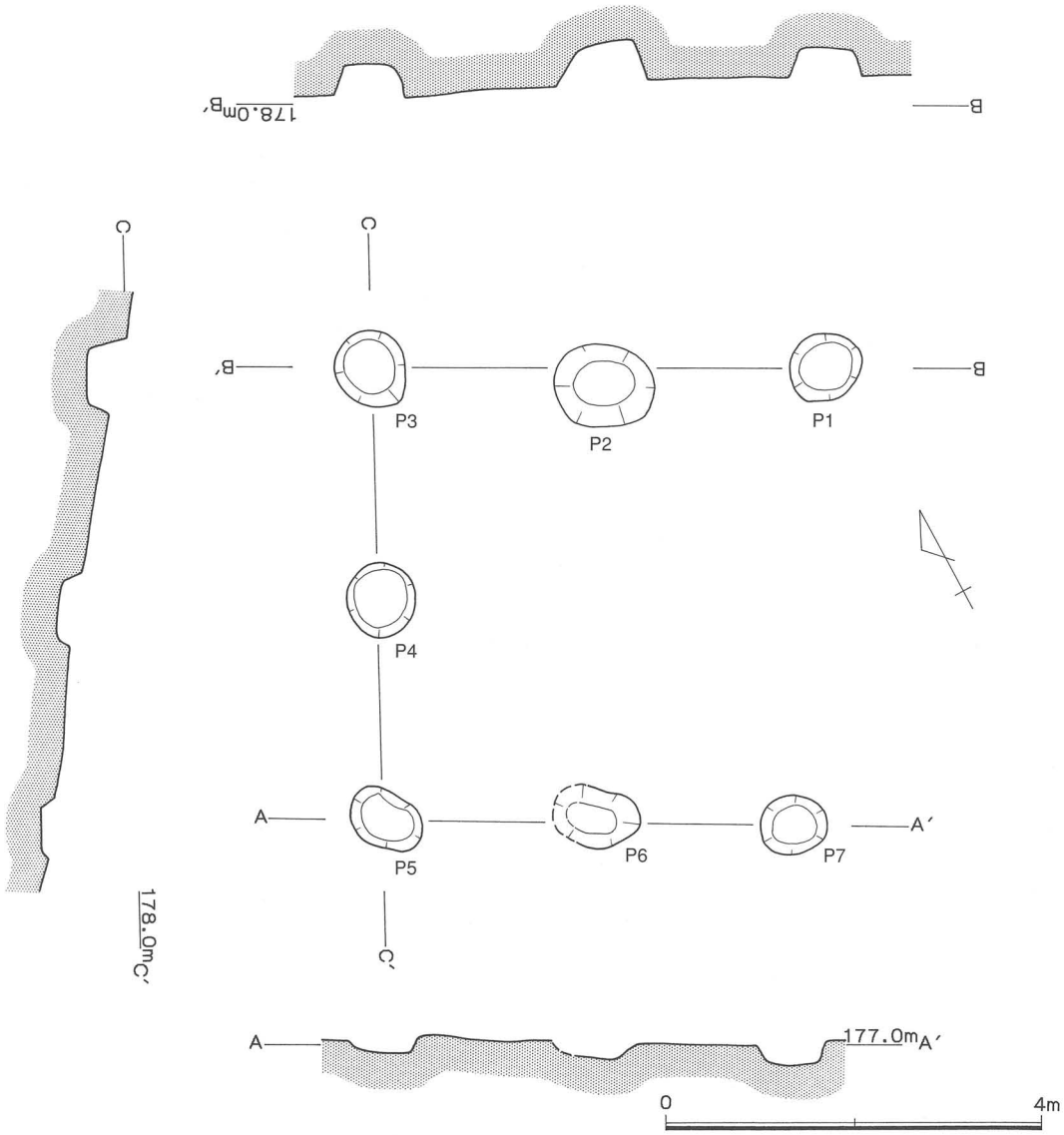
加工段１は遺構２の上段を切って造られた平坦面である。加工段内にピットが２穴あるが、これらはむしろ西側に続くピットと一連である可能性が高い。この加工段は土器の細片が少量出土したのみで、時期は不明である。

SB01・02（第56図、図版40）

２間×１間の掘立柱建物で、それぞれ一回ずつ建て替えられている。SB01は短辺をやや短縮するように南側へシフトさせており、P６には後世のSD01が重なっている。柱穴の底面は谷側の３穴が低い。SB02はSI05・08を切って構築された掘立柱建物で、建て替え時には全体に西にシフトさせている。



第56図　垣ノ内遺跡 SB01・02実測図（S＝1/40）



第57図　垣ノ内遺跡 SB03実測図（S=1/80）

SB01とSB02は、同一規模で、斜面に対して平行にほぼ同じ向きに建てられていることから、同時に使用された可能性が高い。SI08廃絶後のどの段階で建てられたか明確でないが、SB02の柱穴内から内面にケズリのある弥生土器胴部片が出土しており、弥生時代後期ごろに位置づけられる可能性がある。

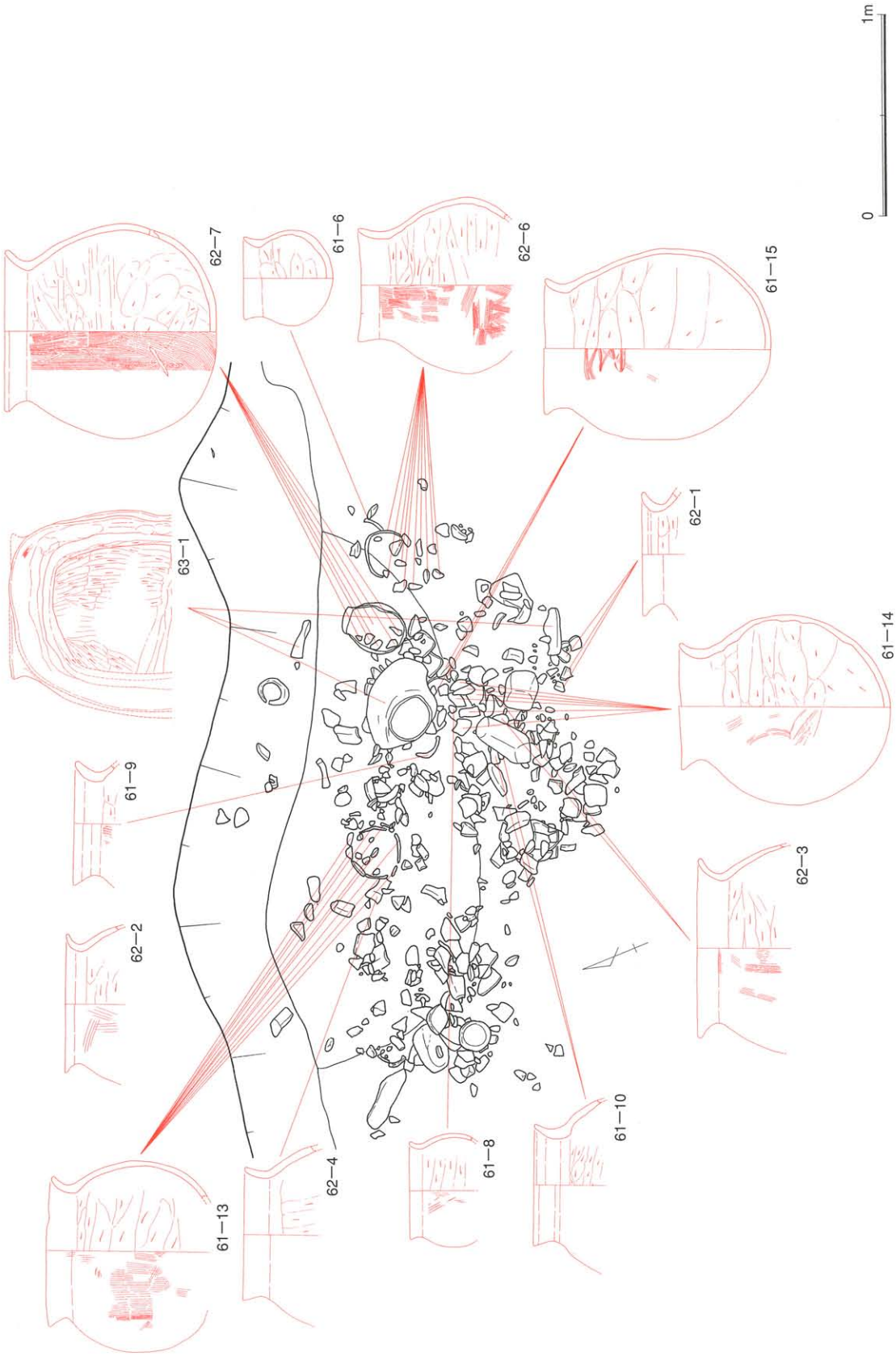
SB03（第57図、図版41）

A区最東端の緩斜面に検出した掘立柱建物で調査区外に続く遺構である。まずP3～P5の3穴を検出したため、急遽東側に調査区を拡大し、さらに4穴を検出した。3×2間以上の規模を持つ、この遺跡では大型の建物である。柱穴は山側ほど深く、谷側ほど浅いが、底面のレベルは必ずしもこれと一致しない。偶然にもP2、P6を結ぶライン上に、重機併用で先行サブトレンチを設定していたためP6の西側は飛んでしまったが、両者の間にピットはなく、総柱建物ではないようだ。柱穴内から遺物は出土していないため時期は不明であるが、直上は弥生時代中期後半の包含層で、周辺もこの時期の遺物が散在しており、弥生時代中期まで溯る可能性がある。

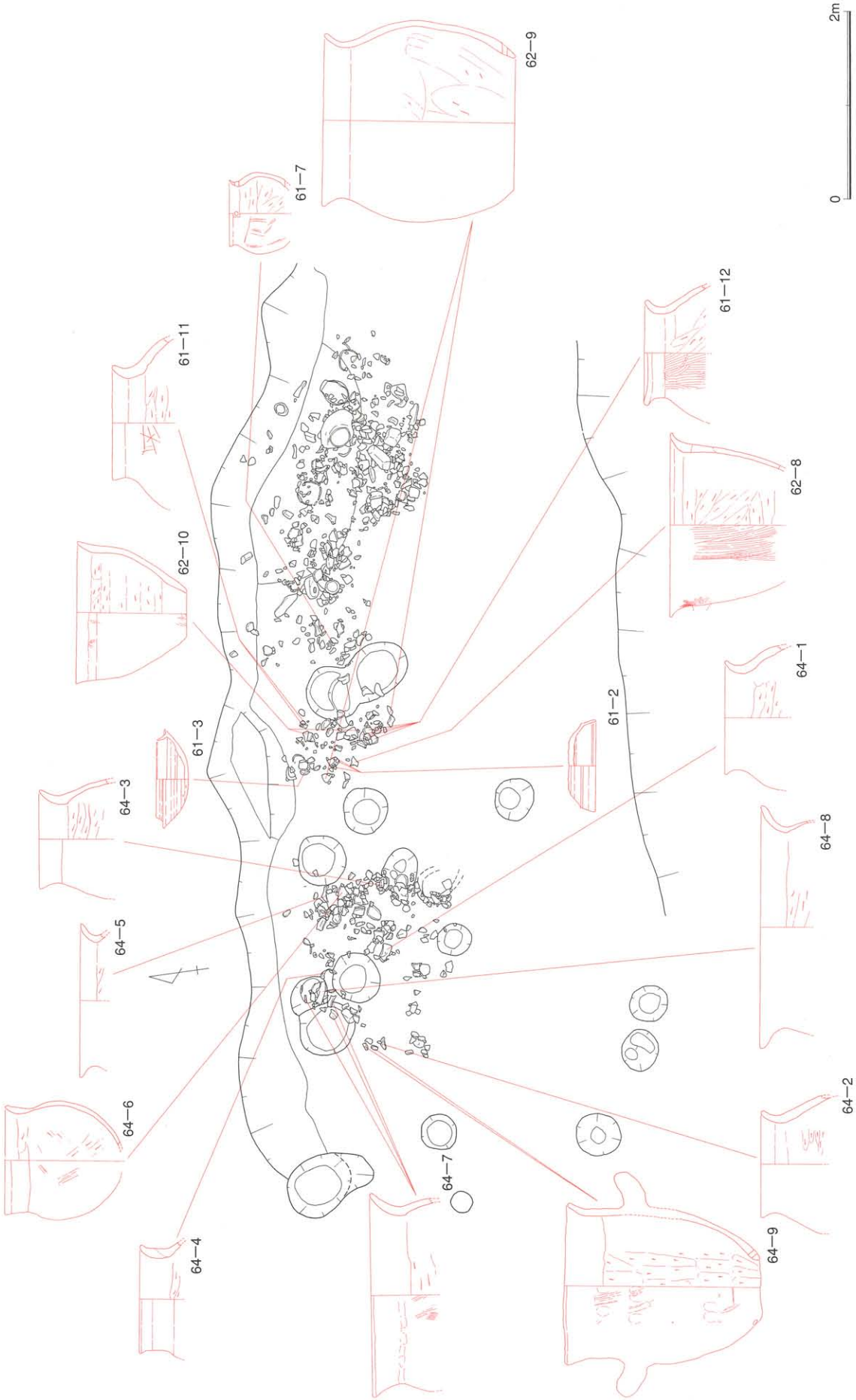
第58図　垣ノ内遺跡加工段２（BKDD、CKDD）実測図（S＝1/60）

加工段２【BKDD、CKDD】（第58〜64図、図版42〜50）

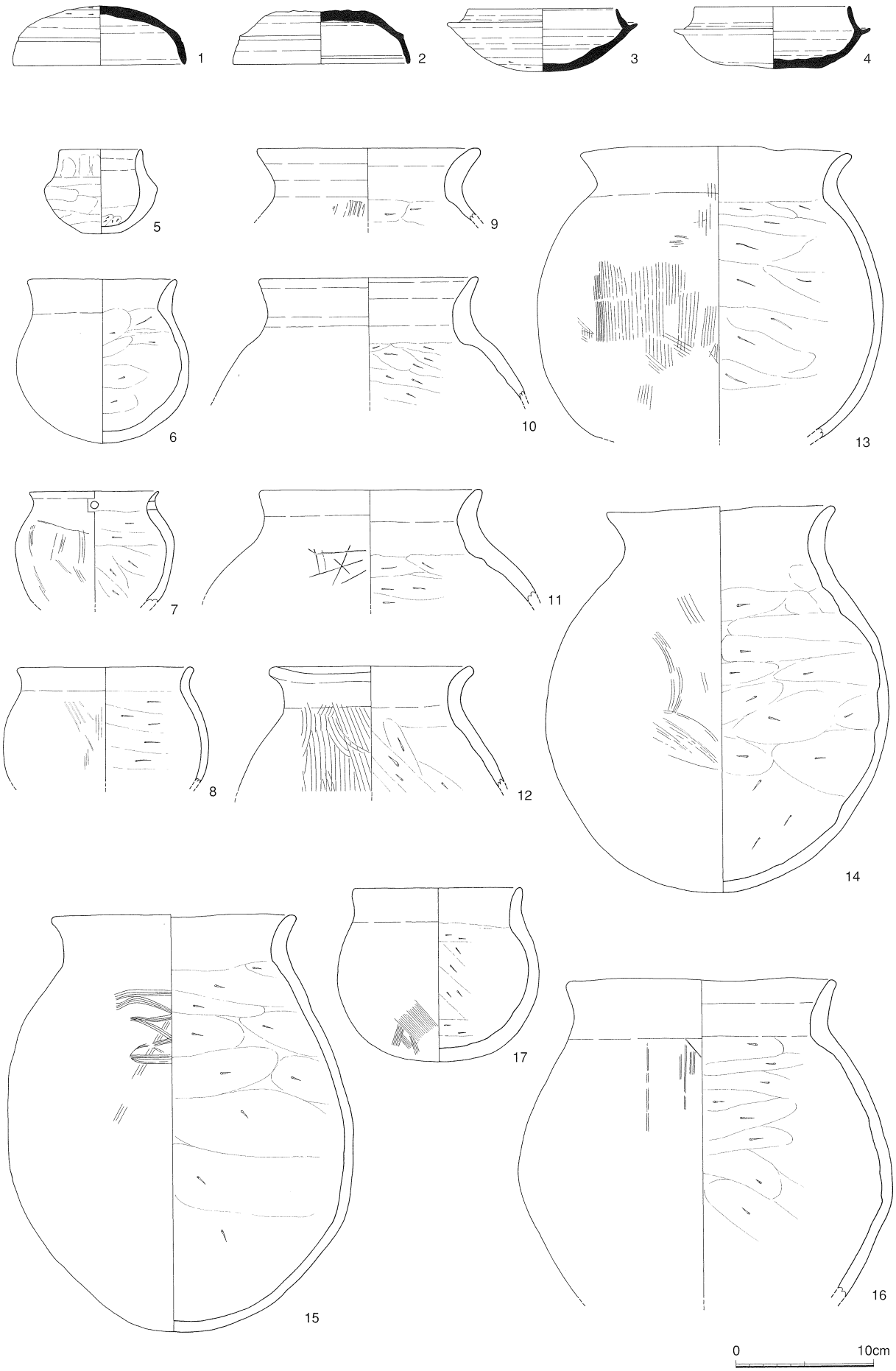
Ｂ区とＣ区にまたがって検出した加工段で、平坦面上には掘立柱建物（SB04〜06）の柱穴群があ



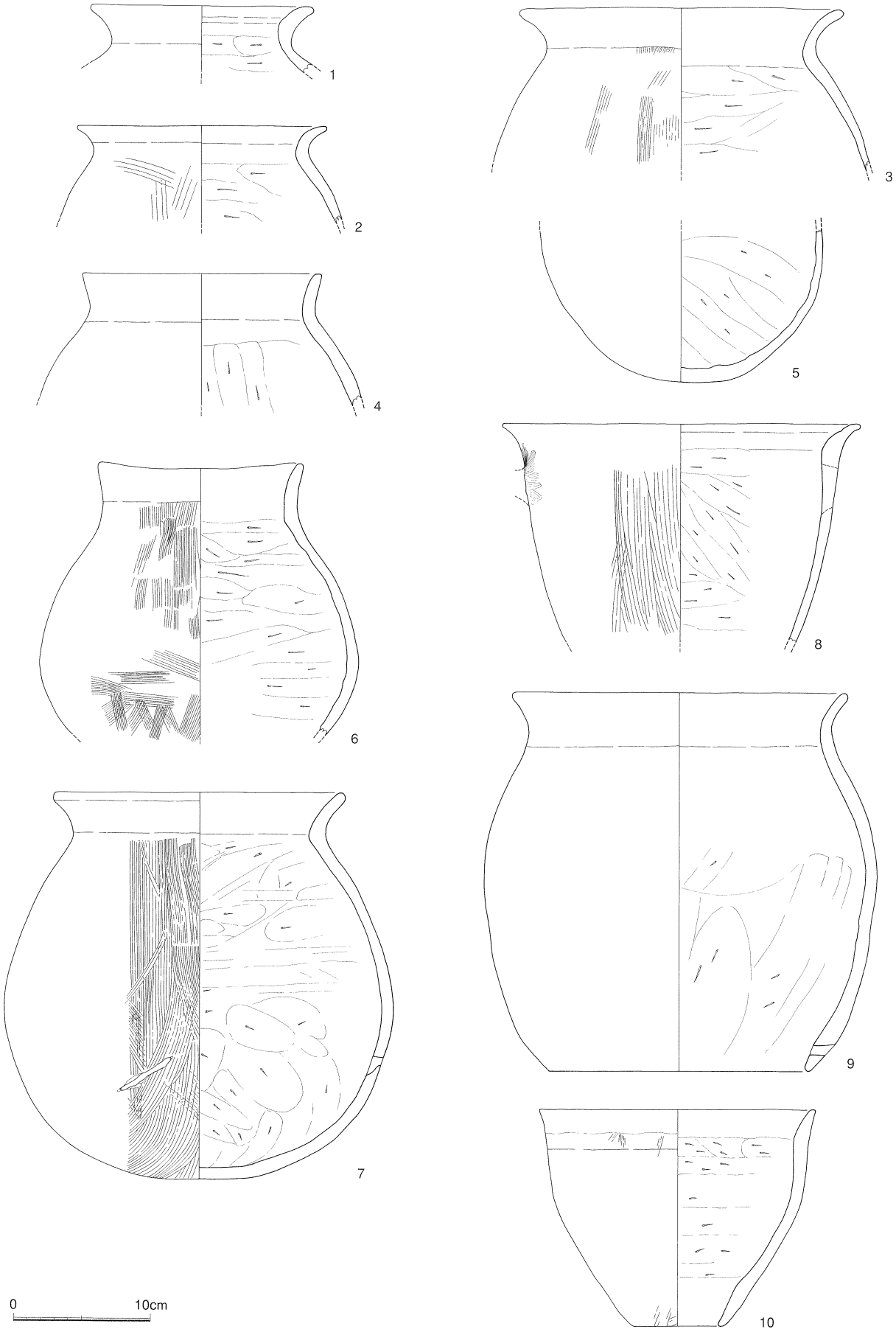
第59図　垣ノ内遺跡加工段２（BKDD、CKDD）遺物出土状況図中心部



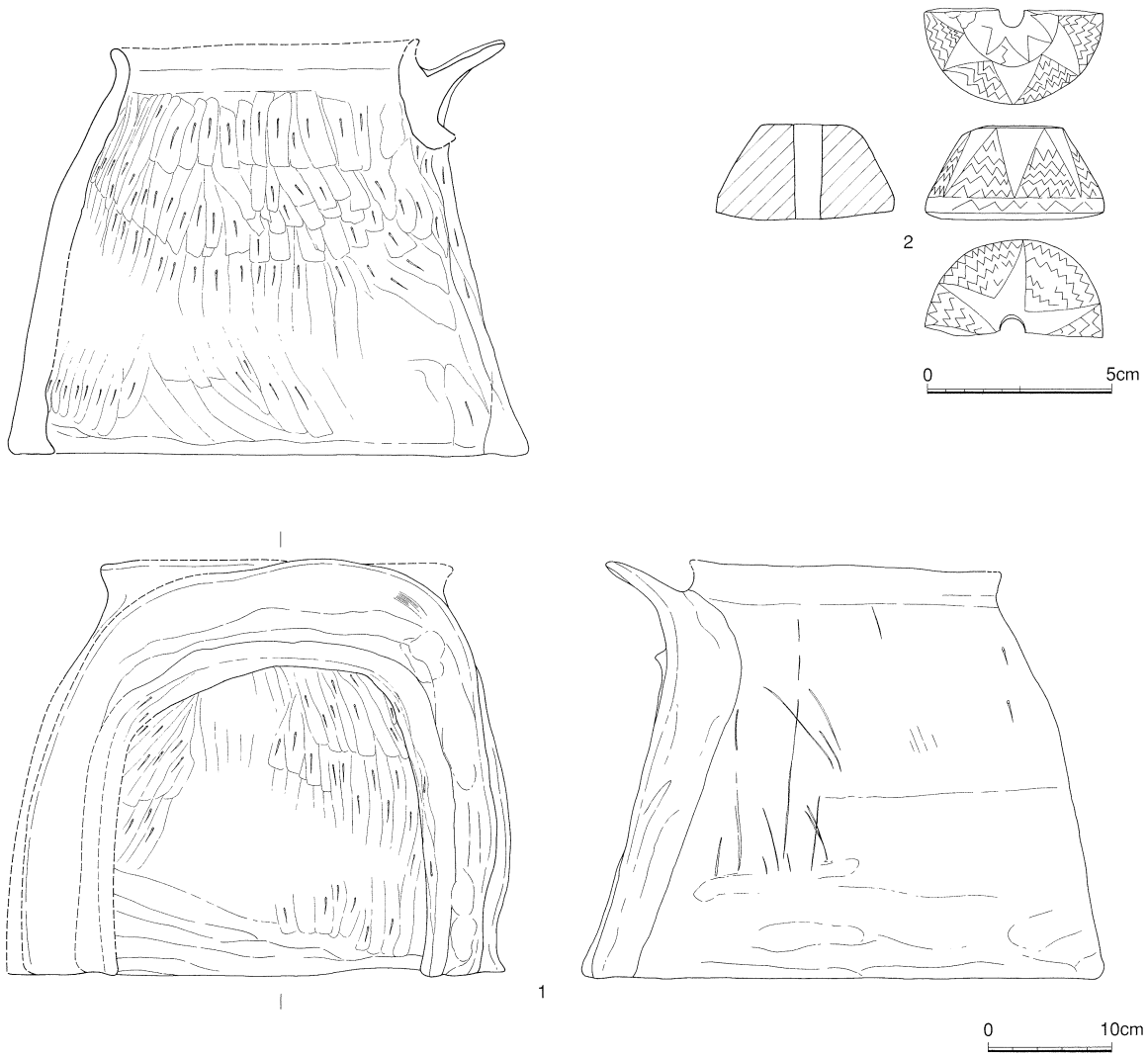
第60図　垣ノ内遺跡加工段２（BKDD、CKDD）遺物出土状況図



第61図　垣ノ内遺跡加工段２（BKDD、CKDD）出土遺物（S＝1/4）



第62図　垣ノ内遺跡加工段２（BKDD、CKDD）出土遺物２（S=1/4）

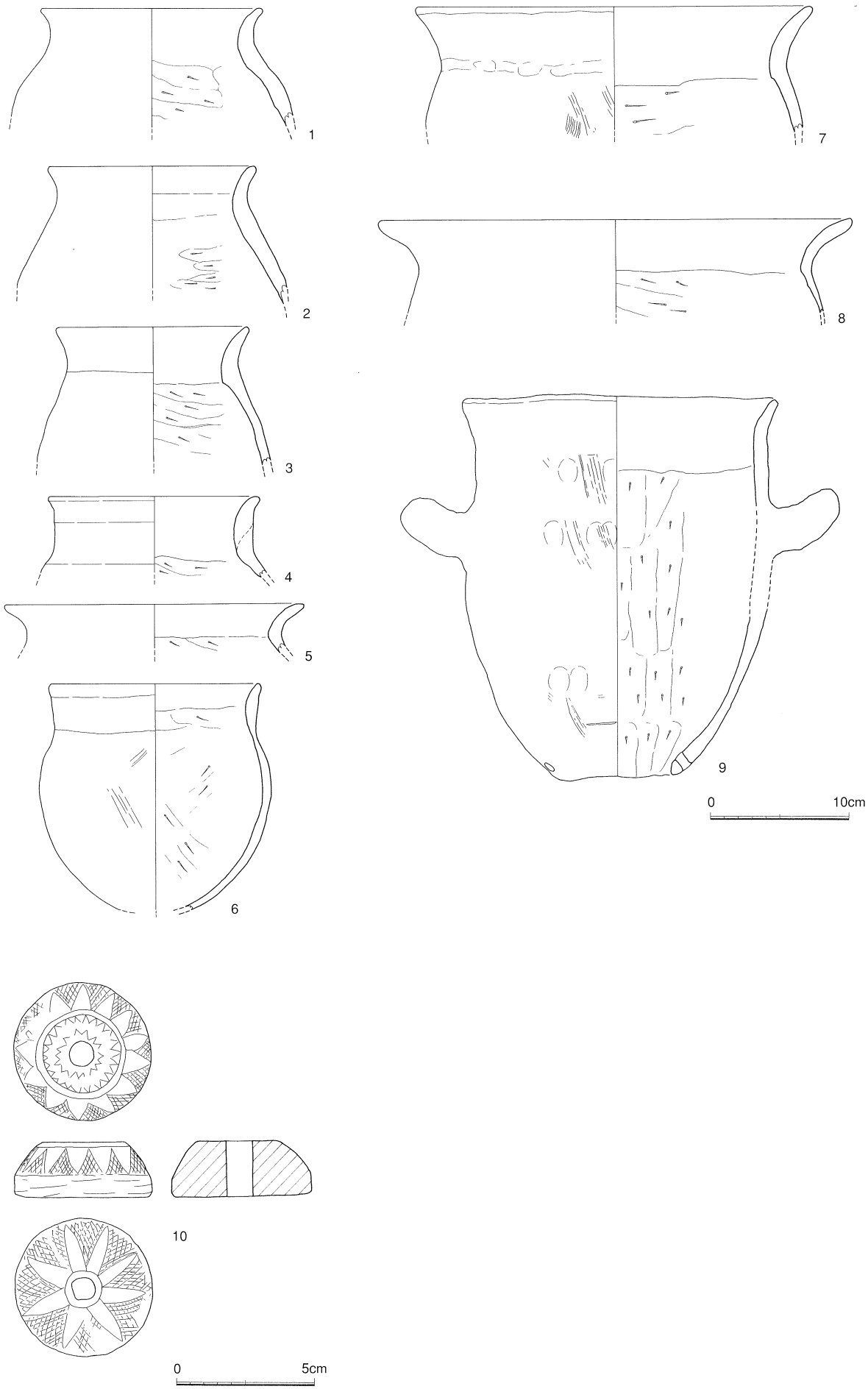


第63図　垣ノ内遺跡加工段２（BKDD、CKDD）出土遺物３（１はS=1/6、２はS=1/2）

る。これらの掘立柱建物については別に記すが、弥生時代後期後半頃まで遡る可能性がある。加工段はこの掘立柱建物に伴って造成されたと考えられるが、６世紀末から７世紀前葉に土器溜りが形成される。加工段背後の壁は最大高約80cmで、灰白色の地山土を削り込んで構築されている。

遺物は柱穴群上に堆積した14層の上面と、19～23層で出土している。出土遺物は２群に分かれ、東半部の移動式竈を中心とする土師器群と、西半部の蓋坏を含む土器群がある。東の一群は23層を中心に加工段上面からやや離れて集積しており、竈と甕、甑が個別に出土するなど個々の遺物に据えられた形跡は見られない。西の一群は多くが14層直上から面的に出土しており、蓋坏が並ぶ様子から意図的に据えられた可能性が指摘できる。西群は蓋坏からみて６世紀後半と考えられ、東群はやや新しい７世紀の土器群と考えられる。

出土遺物は土師器甕・壷176個をはじめ、甑、移動式竈、須恵器蓋坏、紡錘車などが出土している。出土遺物はＢ区、Ｃ区でそれぞれ取り上げており、整理の都合上本書でも分けて掲載している。坏蓋には天井に浅いヘラケズリを施すもの（61－１）と、荒くケズってからナデを行うもの（61－２）があり、坏身もケズリの簡略化が見られる。出雲４期に位置づけられる。土師器甕・壷は口径13cm以下で高さ15cm以下の小型（61－５～８、17）、口径15cm以上で口縁が外湾するもの（61－９～14）、同じく口縁が外湾しないもの（61－15、62－６、64－３、４）の３形態に分類され



第64図　垣ノ内遺跡加工段２（BKDD、CKDD）出土遺物４（１～９はS=1/4、10はS=1/2）

第65図　垣ノ内遺跡 SB05・06・07実測図（S＝1/80）

る。内面のケズリは頸部直下まで行うものと、１cm前後下で止めてから横ナデで仕上げるものがある。甑は、口縁が外湾するもの（62－８）としないもの（62－10）がある。62－９はやや胴が張る個体で、内面に縦向きのケズリを施す。移動式竈（63－１）はほぼ完形に復元できる個体で、外面は刷毛目調整ののち荒くナデで、内面は縦方向のケズリを施す。

SB05・06・07（第65図、図版51）

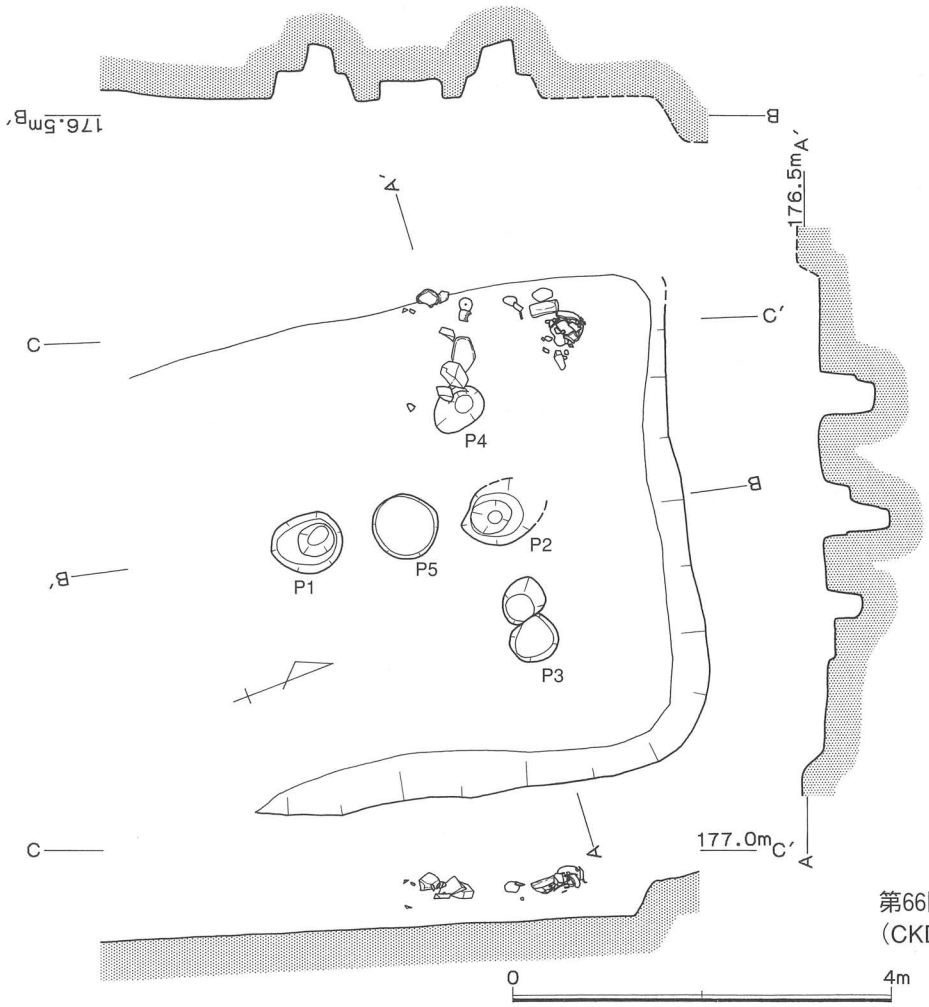
加工段２上に並ぶ掘立柱建物群である。ここでは切り合い関係とピットサイズ、ピット底部のレベルを参考に、SB05～SB07を復元している。

SB05は最も複雑に切り合うＰ１～Ｐ５の柱列で、谷側の柱列は流失したと考えられる。３間×１間の掘立柱建物で、切り合い関係から見て北側の第１列から南へ向かって３回の建て替えが行われている。

SB06はＰ６～Ｐ９で構成されるが、後世に溝が掘削されたために柱配置が定かでない。あるいはＰ９を含まない柵列状の構造物の可能性もある。

SB06はP10～P15からなる柱列で、第１列と若干北側にシフトした第２列がある。３×１間の掘立柱建物であろう。

これらの遺構の時期は、柱穴内から弥生土器の小片が出土していること、セクションからみてSI02廃絶以降に構築されたと考えられることから、弥生時代後期後葉（Ｖ－３）以降の段階で、次々に建てられたと考えられる。

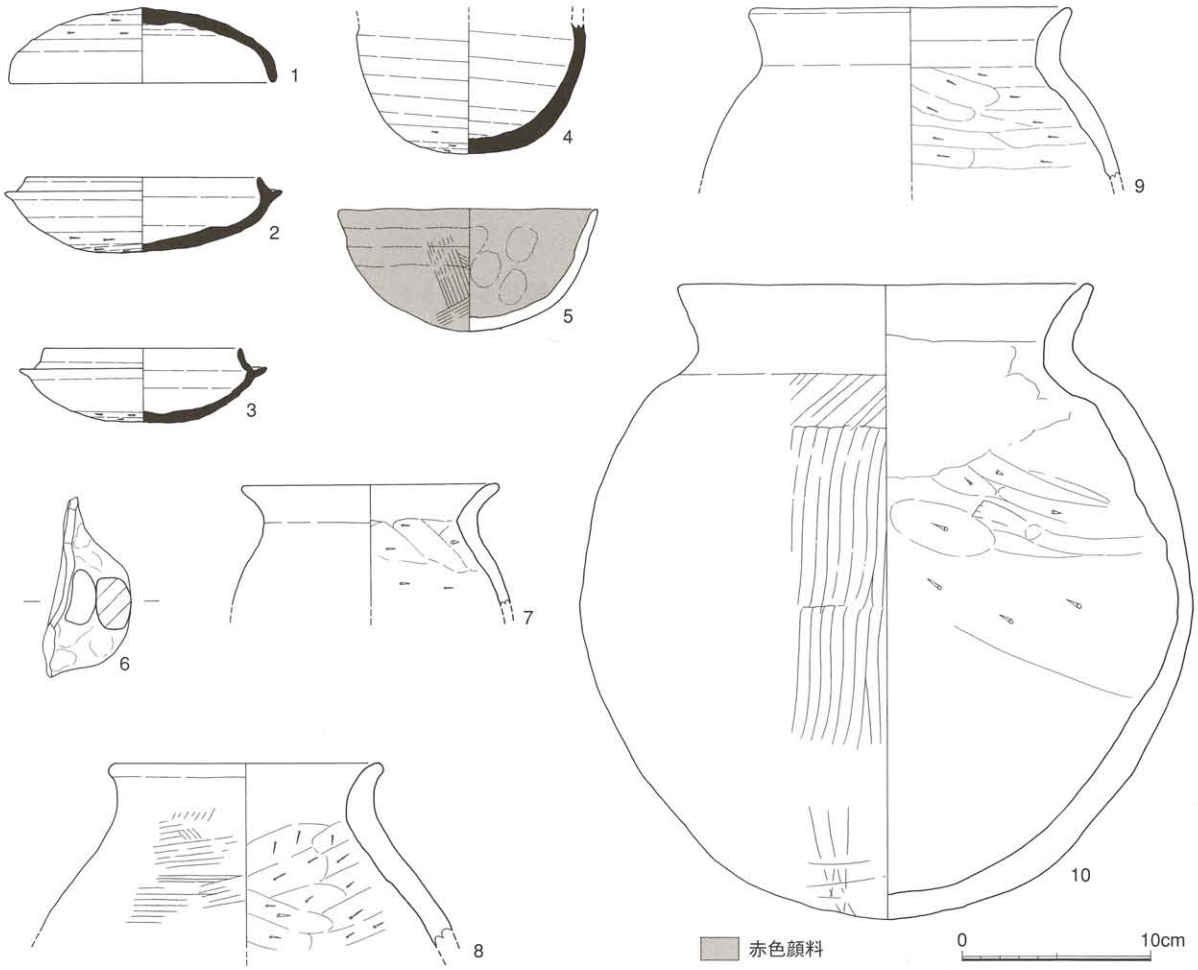


第66図　垣ノ内遺跡加工段３（CKDD２）実測図（S=1/80）

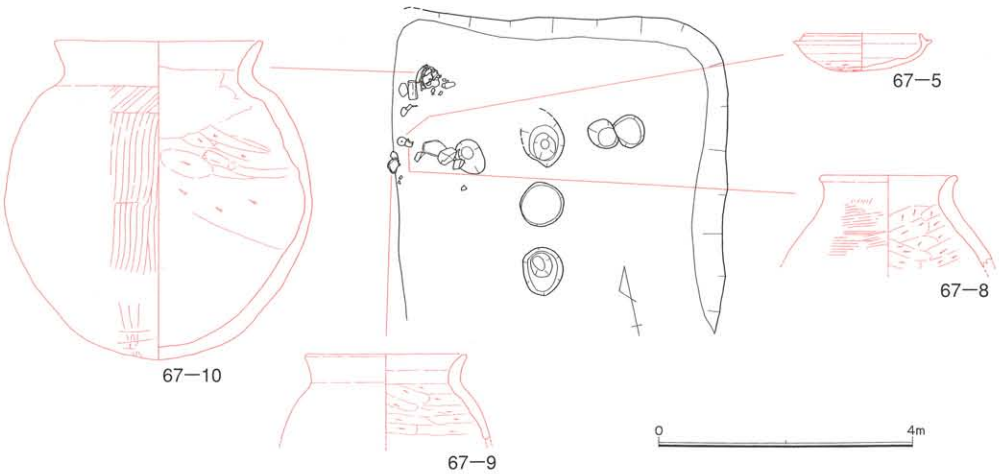
B. 古墳時代の遺構

加工段３（第66～68図、図版52・53）

Ｂ区とＣ区にまたがって検出した竪穴状の加工段である。縄文時代の包含層を削り込んで構築される加工段で、北辺と東辺は竪穴壁面がはっきりしているものの、西辺は残りが悪い。ピットはＰ１～Ｐ５を確認したが、柱の配置は定かでない。Ｐ１、Ｐ２は段の付くピットで、対応する柱穴であろう。Ｐ５は浅く、中央穴のような性格かもしれない。遺物は第66図のように床面上には皆無で、西辺側に集中した土器群のレベルは高かった。あるいは古い竪穴を、後世再利用したものかも



第67図　垣ノ内遺跡加工段３（CKDD２）出土遺物（S＝1/4）

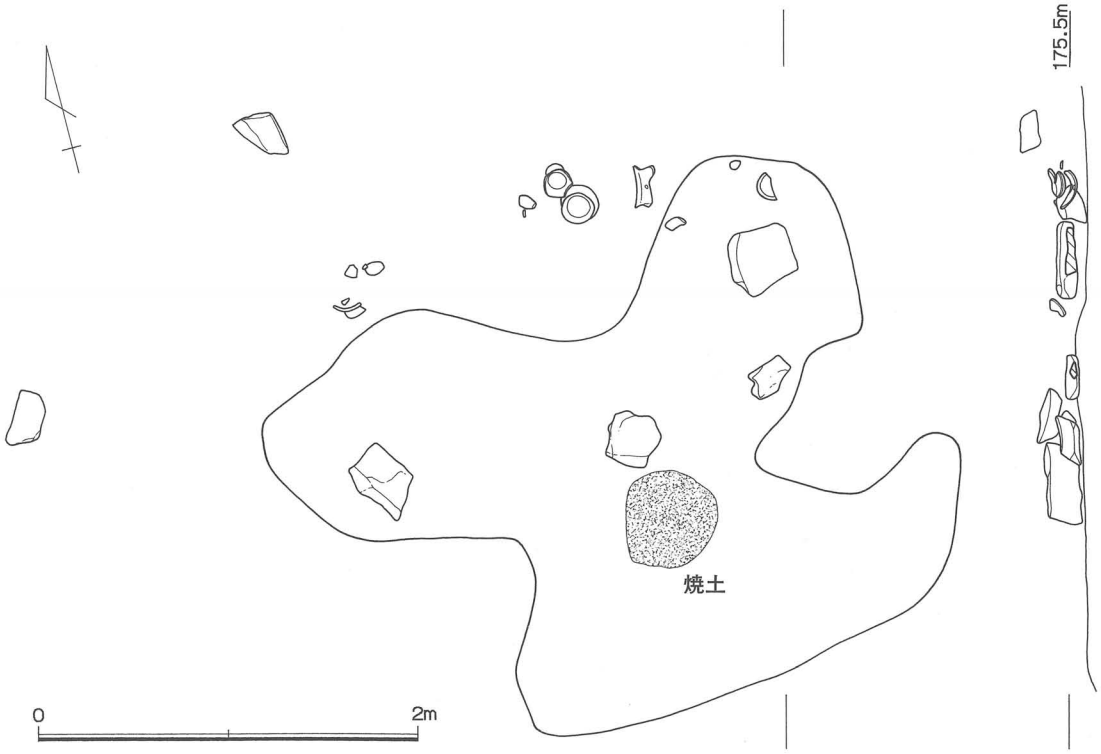


第68図　垣ノ内遺跡加工段３（CKDD２）遺物出土状況図

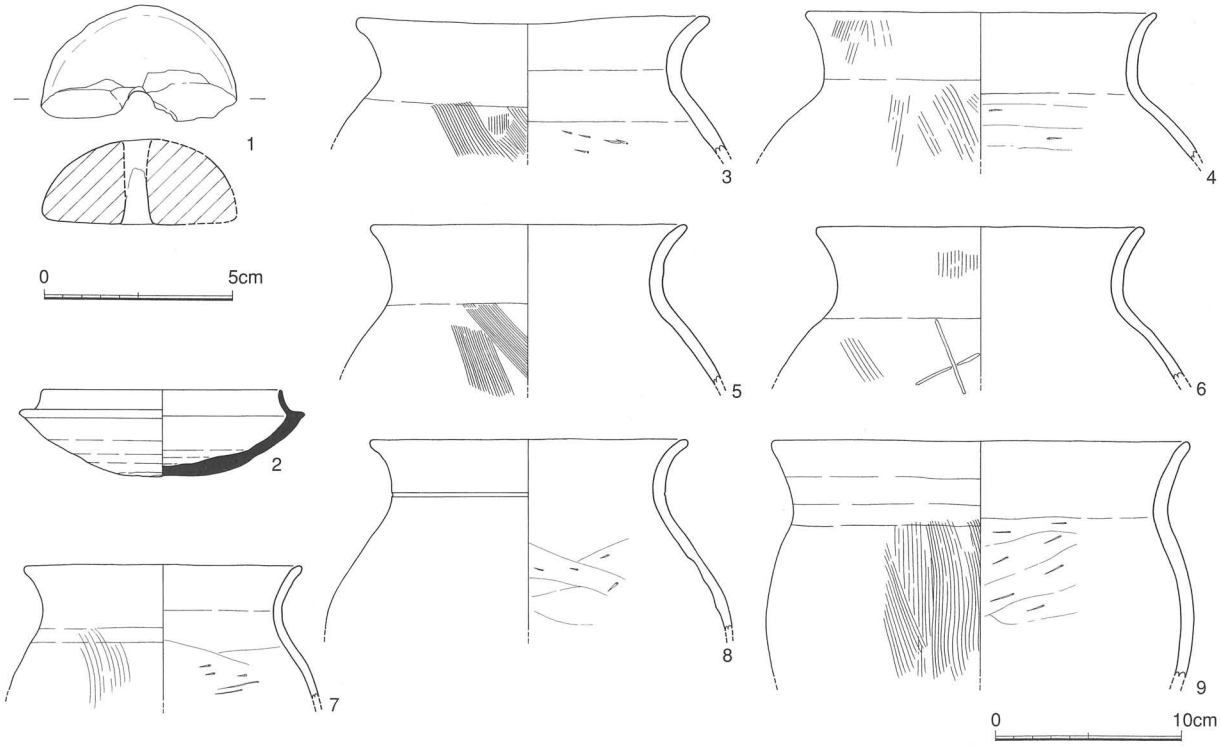
しれない。土器群には須恵器の蓋坏と壷、土師器の甕があるが、蓋坏はケズリが浅く粗雑なもので、出雲４期に位置づけられる。甕は内面にしっかりと深いケズリを入れるもので、外面は特徴的な荒い刷毛目を施す。

硬化面１（第69～71図、図版54・55）

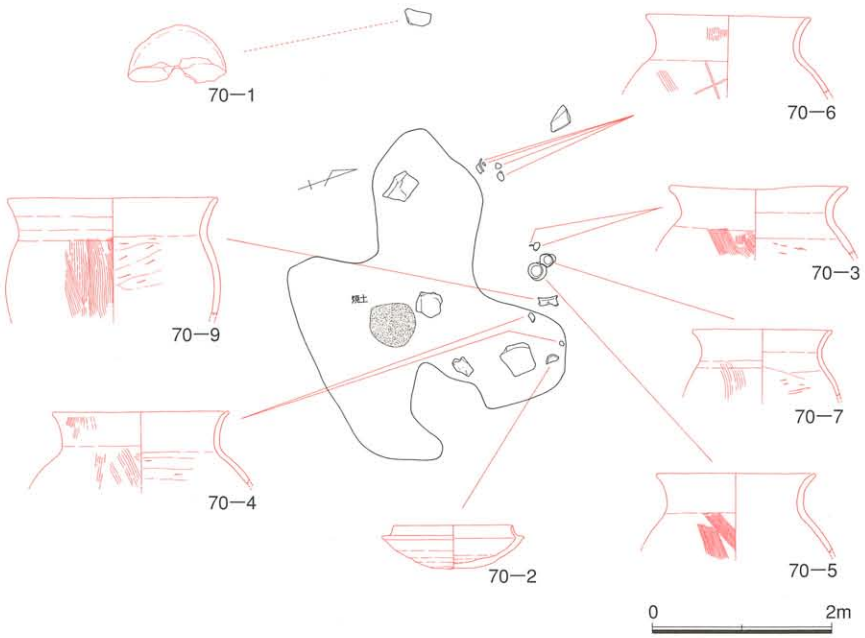
Ａ区川側の緩斜面に検出した性格不明の硬化面である。後述する硬化面２も同様であるが、し



第69図　垣ノ内遺跡硬化面１（AKDD２）実測図（S＝1/40）



第70図　垣ノ内遺跡硬化面１（AKDD２）出土遺物（１はS＝1/2、２～９はS＝1/4）



第71図　垣ノ内遺跡硬化面１（AKDD２）遺物出土状況図

まりのある明確な面があるものの、縁辺部ではそれが不明瞭になり規模が定かでないものをここでは仮に硬化面と呼ぶ。

硬化面１は流失した部分が多く、硬化面の形状は入り組んで不明瞭である。また周囲も含めピットは全く無かった。遺構面のある縄文時代の包含層は黒褐色の砂質土で、ピット内覆土との区別が付かなかった可能性もあるが、少なくとも掘立柱建物に伴うようなサイズのピットは無いと思われる。板状の角礫が置かれ、焼土面があり、土師器甕が並べられるなど、何らかの行為が行われたことは間違いないが、詳細は不明である。焼土面自体の厚さも薄かったことから、恒常的に火を焚いたとは考えにくく、短期間使用されたもののようだ。構造物が存在したかどうかも定かでないが、あるいは簡単な上屋は存在したかもしれない。

出土遺物は土師器甕と須恵器坏身、紡錘車がある。坏身はヘラケズリの入らない出雲５期のもので、焼成が悪い。甕は内面を浅めにケズり、口縁は長く外湾するようにしっかりと横ナデ整形するものである。

この遺構の時期は、須恵器によれば７世紀前葉と考えられ、土師器甕のプロポーションも特に矛盾しない。遺構の性格については今後の課題としたい。

硬化面２（第72～74図、図版56～58）

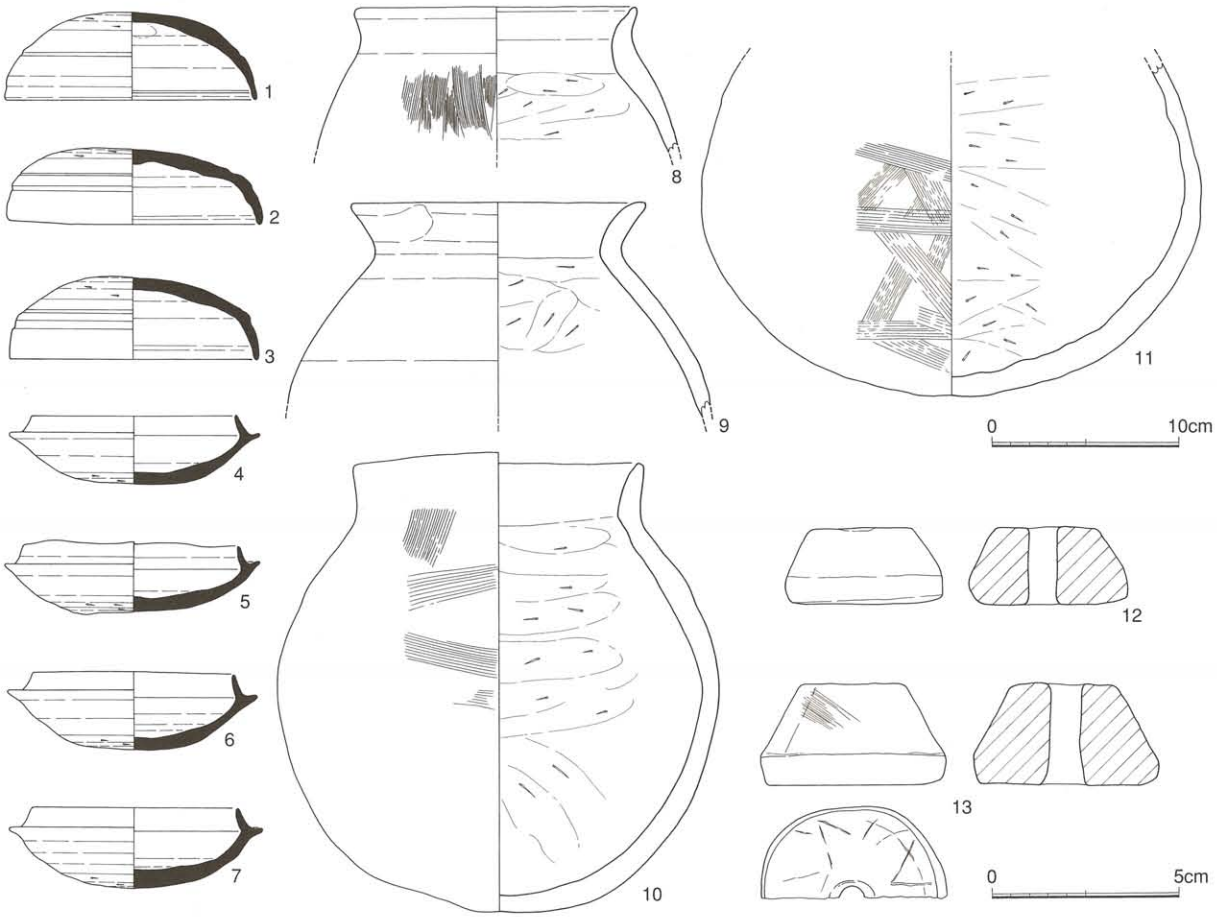
蓋坏と甕が整然と並んだ状態で検出された硬化面である。西側は範囲確認調査の段階で掘削されており、残っていない。関係の明確な柱穴はなく、斜面に対し平行に段が形成されている。上段には焼土面が広がり、下段には土器類が並ぶ。横断セクションでは、２層と３層が下段の硬化面を構成するしまりのある土層で、出土遺物はこの上面に並ぶ。８層は段に堆積した流土である。一方上段の硬化面はしまりも弱く、範囲も明確でない。この段には遺物がなく、下段との時間的な関係は定かでない。

出土遺物は蓋坏と甕、紡錘車である。蓋坏は天井部に浅いヘラケズリが荒く入るもので、いずれ

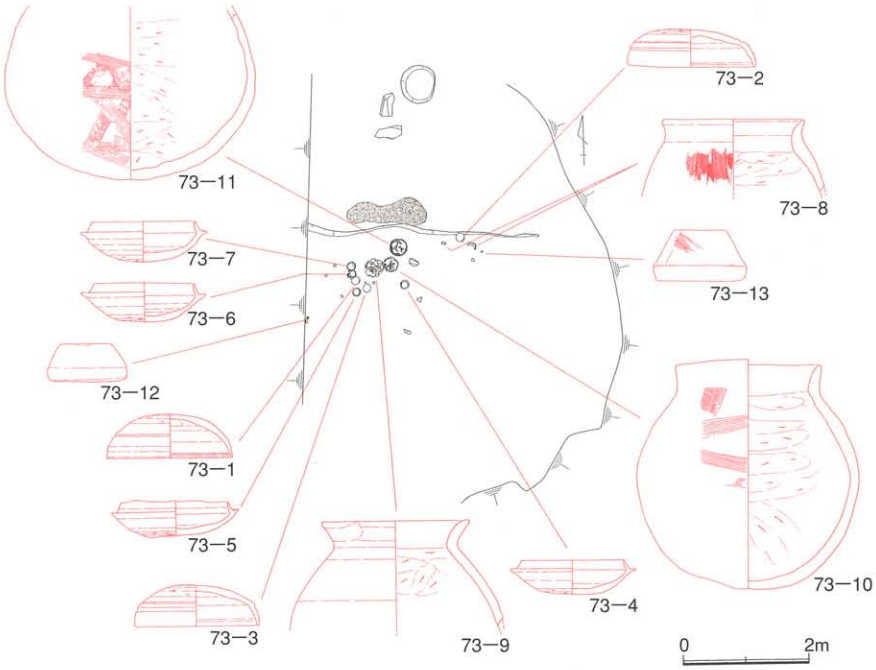
1 淡黄褐色土
2 黒褐色粘質土（1～5mm大の白色粒を含む。）
3 黒褐色粘質土
4 淡黄褐色砂質土
5 淡茶褐色砂質土
6 淡褐色砂質土
7 暗褐色土（流土）
8 黒色土
9 淡褐色粘質土
10 褐色粘質土（13層の流土）
11 暗黒褐色砂質土（1mm大の茶色土ブロックを含む。）
12 淡黒色土
13 黒褐色粘質土（流土）
14 暗黒褐色土
15 暗橙褐色土

0　2m

第72図　垣ノ内遺跡硬化面２（BKDD２）実測図（S＝1/40）

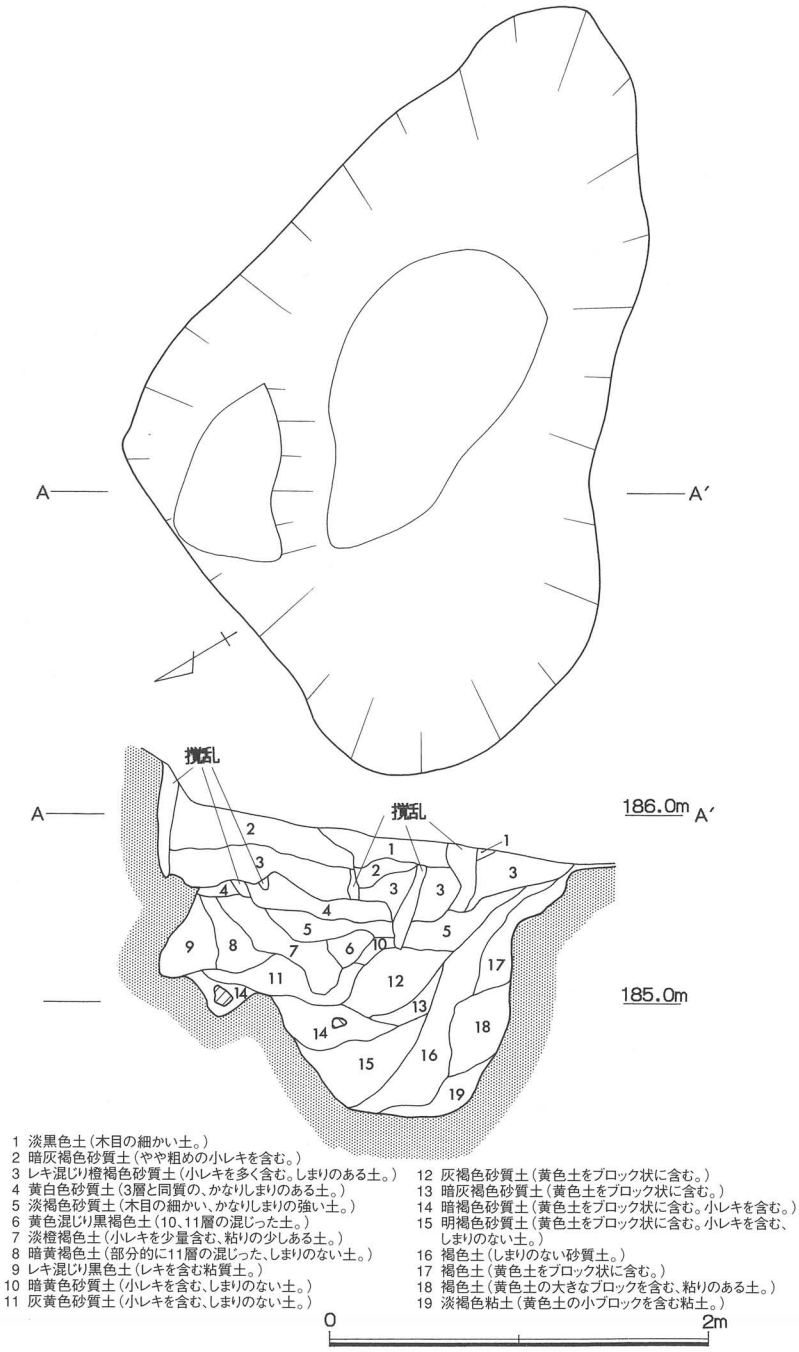


第73図　垣ノ内遺跡硬化面２（BKDD２）出土遺物（１～11はS=1/4、12・13はS=1/2）



第74図　垣ノ内遺跡硬化面２（BKDD２）遺物出土状況図

も出雲３～４期に位置づけられる。しかし蓋３身４と数が揃わず、それぞれ口径が微妙に異なりセット関係にもないため、元来何セットが用いられていたのかも明らかでない。



第75図　垣ノ内遺跡遺構１実測図（S=1/40）

C．土坑など

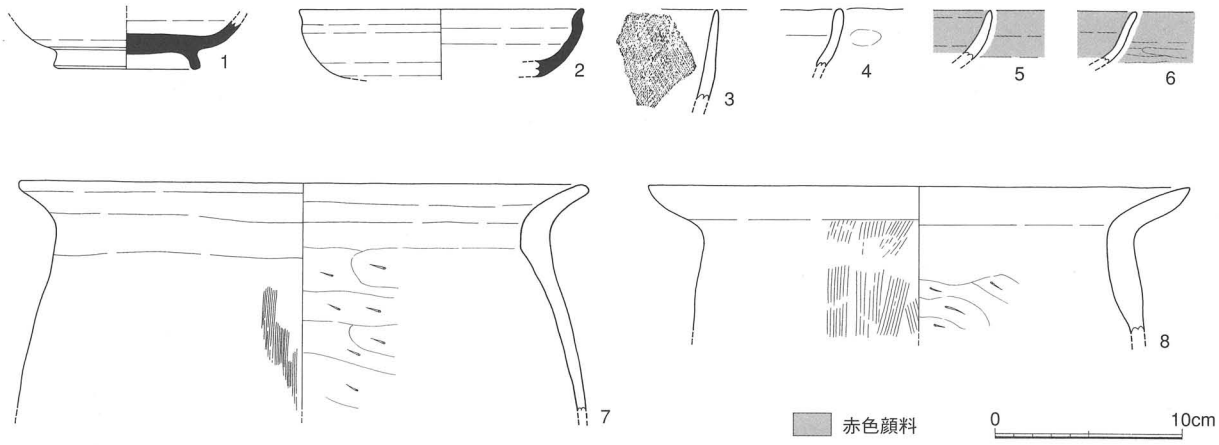
遺構１（第75～77図、図版58・59）

SB10の背後に大きく口を開けている扁平の土坑で、北側にオーバーハング気味に中段が付く。覆土の堆積状況から、この段を境に時期差がある可能性がある。下部からの出土遺物は全くなく、中段よりも上位の層から蓋坏、丹塗り土器、製塩土器、土師器甕が出土した。１、２は回転糸切りの須恵器坏で、５、６は丹塗りの坏片である。これらは７世紀末から８世紀前葉に位置づけられる。土師器甕は頸部以下に張りの少ないもので、同時期のものであろう。

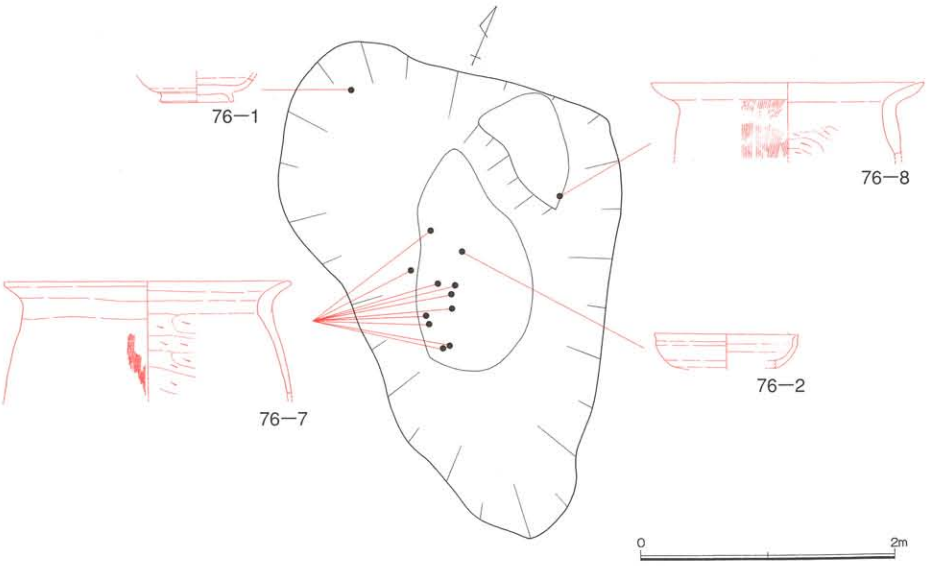
隣接するSB10との関係が注目されるが、遺物を見る限り遺構１が付帯設備となるような直接的な関係は認められない。

SK02（第78～80図、図版59下）

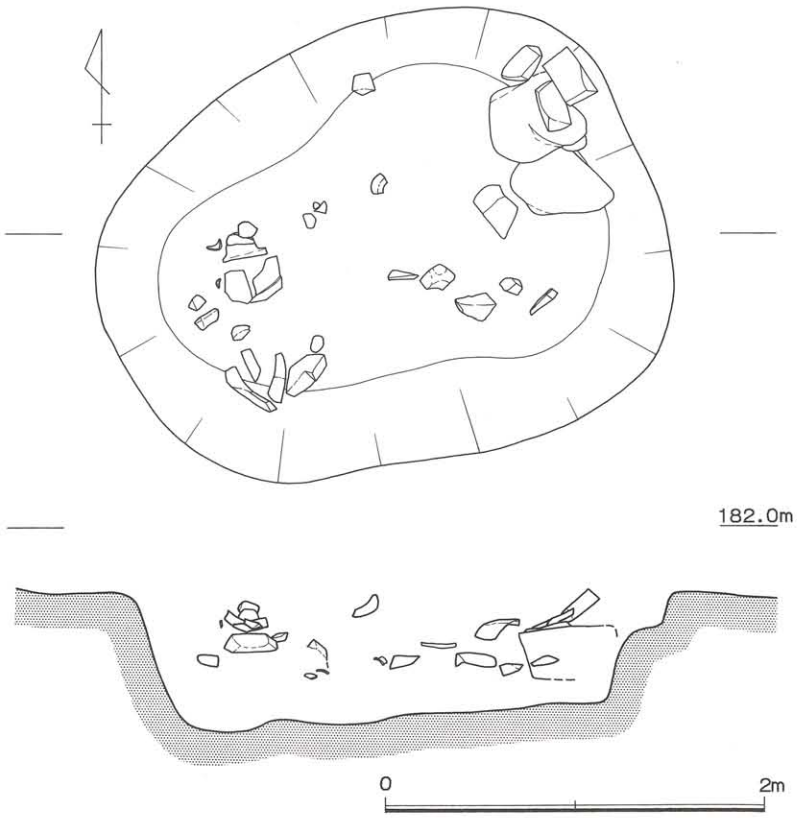
平面形が小判形の土壙で、底部はほぼ平坦である。覆土は黒褐色系の砂質土で、分層はできなかった。北東部と南西部に角礫が落ち込んでおり、これに挟まれるよう



第76図　垣ノ内遺跡遺構１出土遺物（S=1/4）



第77図　垣ノ内遺跡遺構１遺物出土状況図



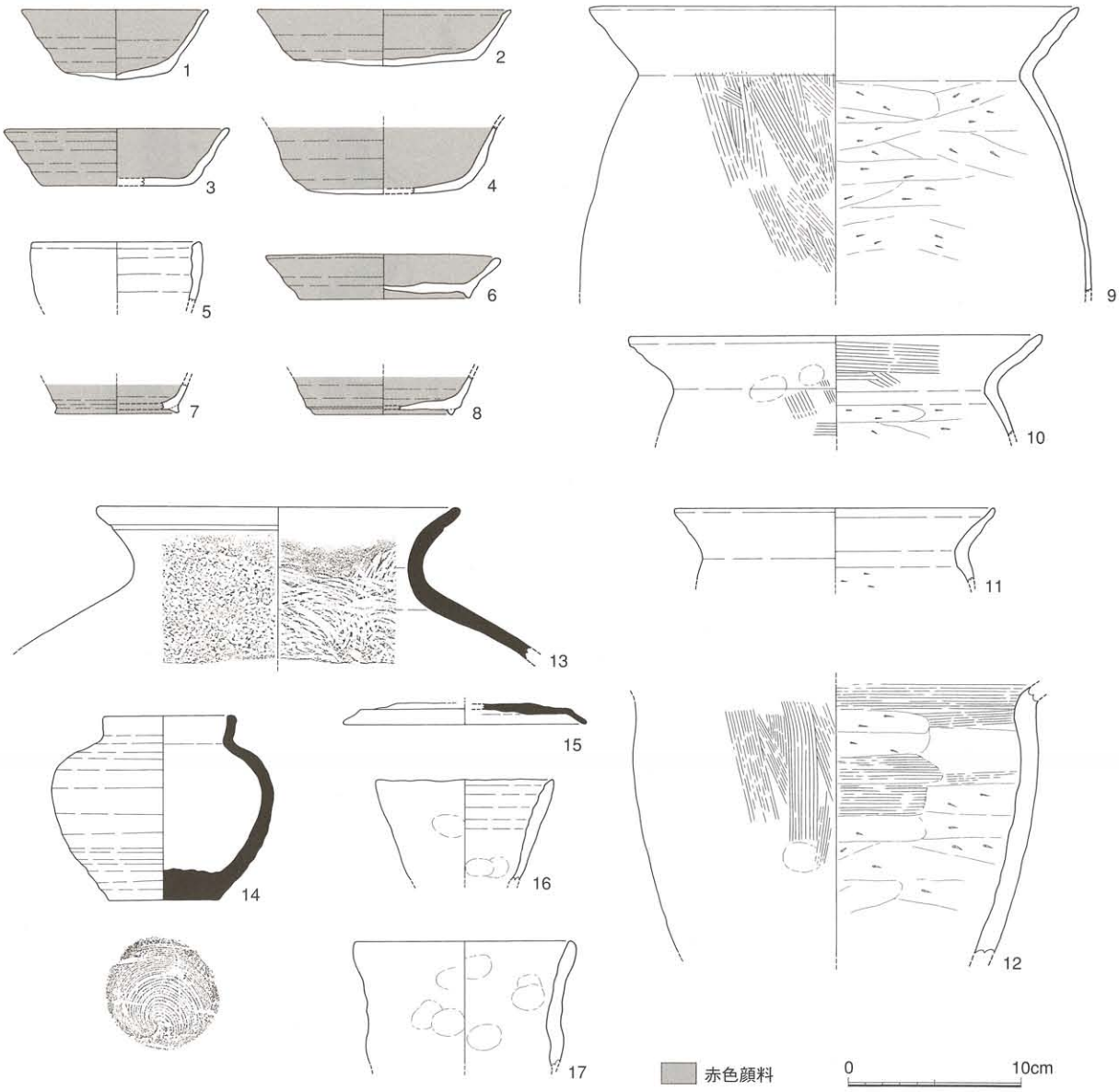
第78図　垣ノ内遺跡 SK02実測図（S=1/40）

にして須恵器、土師器、丹塗り土器、製塩土器が出土した。79－１～８は丹塗り土器で、高台の付くものと付かないものがある。底部はナデが施され、切り離し技法は不明である。９～12は土師器の甕で、口縁が直線的に開き、胴があまり張らない個体である。11～13は須恵器類で、14の底部切り離しは、回転糸切りである。５、16、17は製塩土器である。

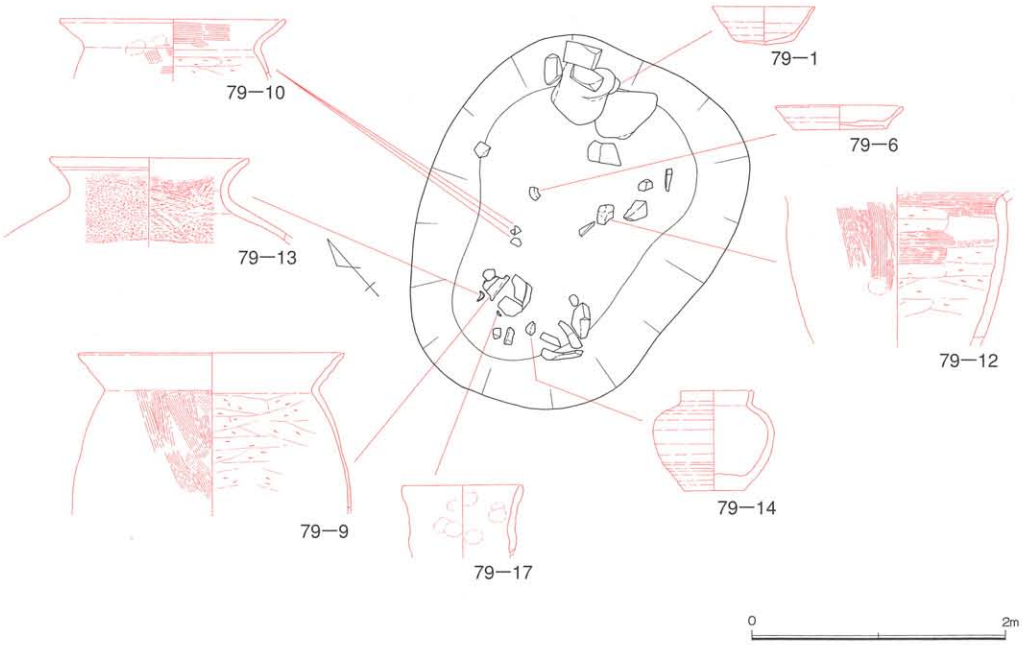
SK02の時期は、丹塗り土器や須恵器の底部切り離しが糸切り（あるいは糸切り後ナデ整形する）になる８世紀代と考えられる。遺物の出土レベルが比較的高いものが多く、覆土の分層もできないことから、一括して廃棄された可能性もある。

遺構８（第81～83図、図版61・62）

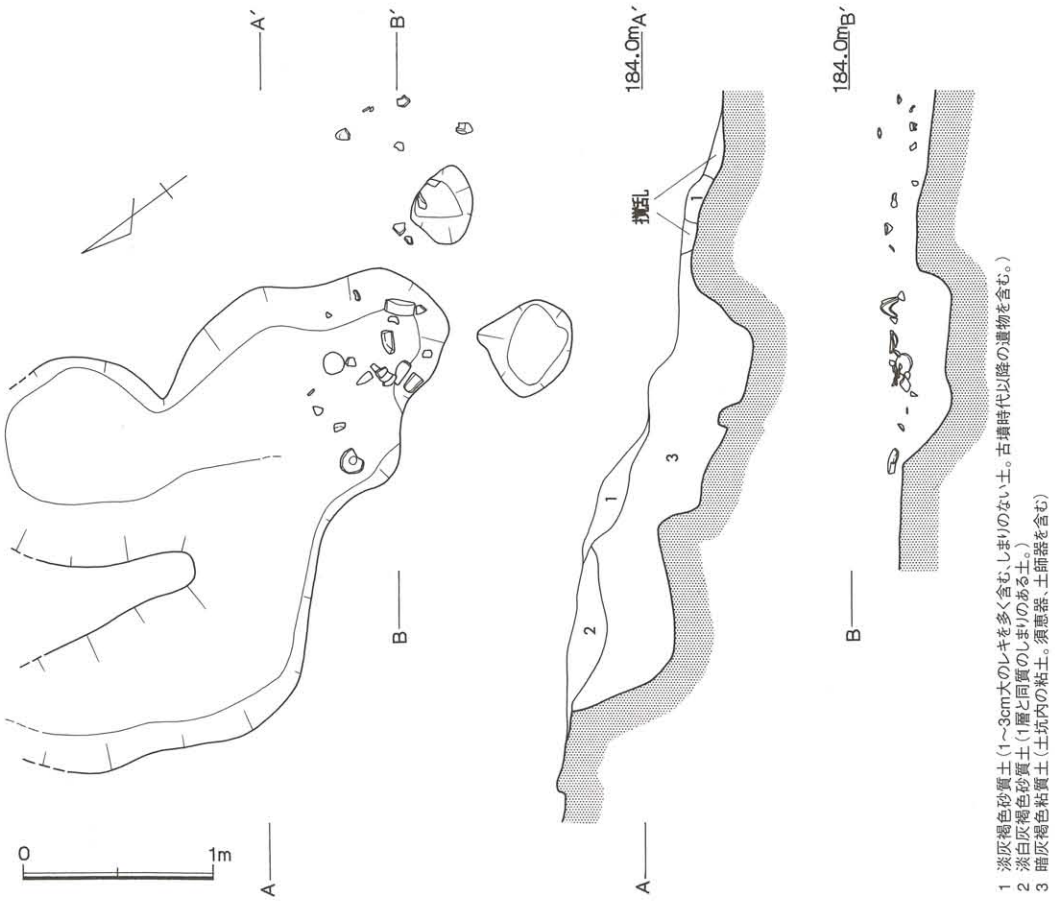
Ⅱ区とⅢ区の境界付近に検出した不整形の土坑である。上下２段に分かれる土坑だが、セクションを見る限り前後関係は認められなかった。遺物は下段の上面に集中しており、覆土上に載っているとみて良いだろう。須恵器の坏と丹塗り土器、土師器甕があるが、坏類はほぼ完形の状態で並んで出土した。須恵器の坏は回転糸切りのものが１個体あるが、丹塗り土器も含めて切り離し後にナ



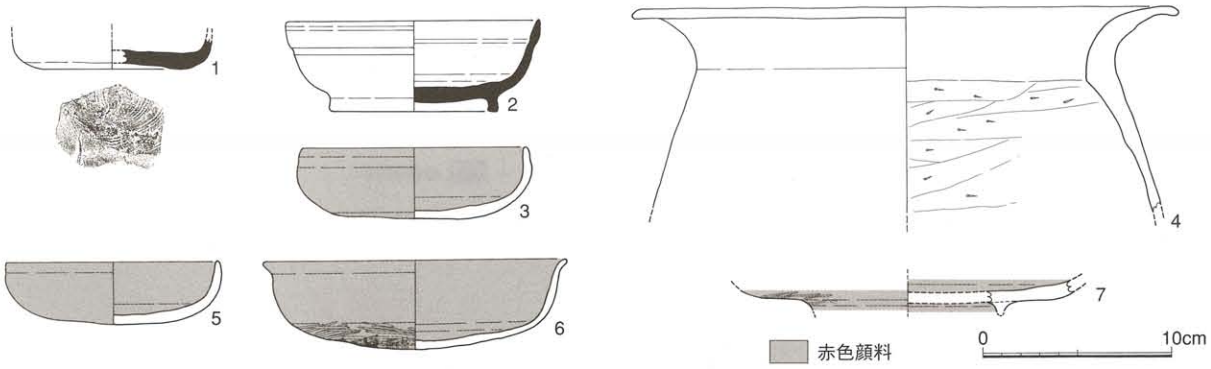
第79図　垣ノ内遺跡 SK02出土遺物（S＝1/4）



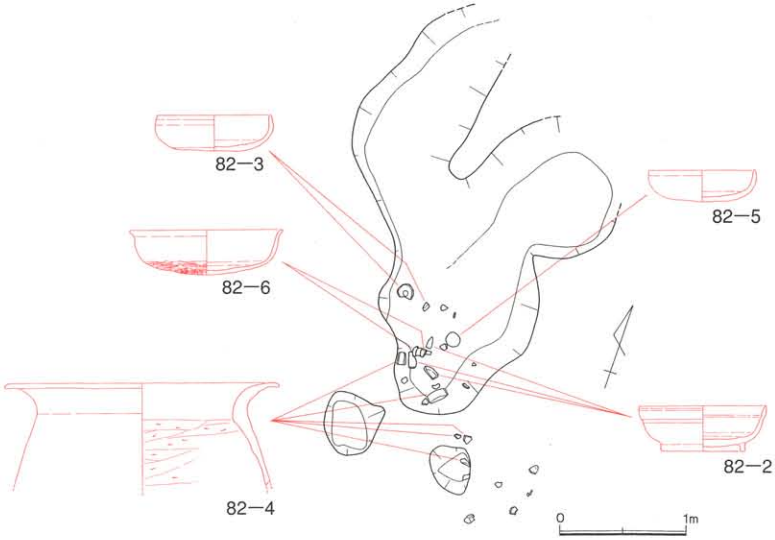
第80図　垣ノ内遺跡 SK02遺物出土状況図



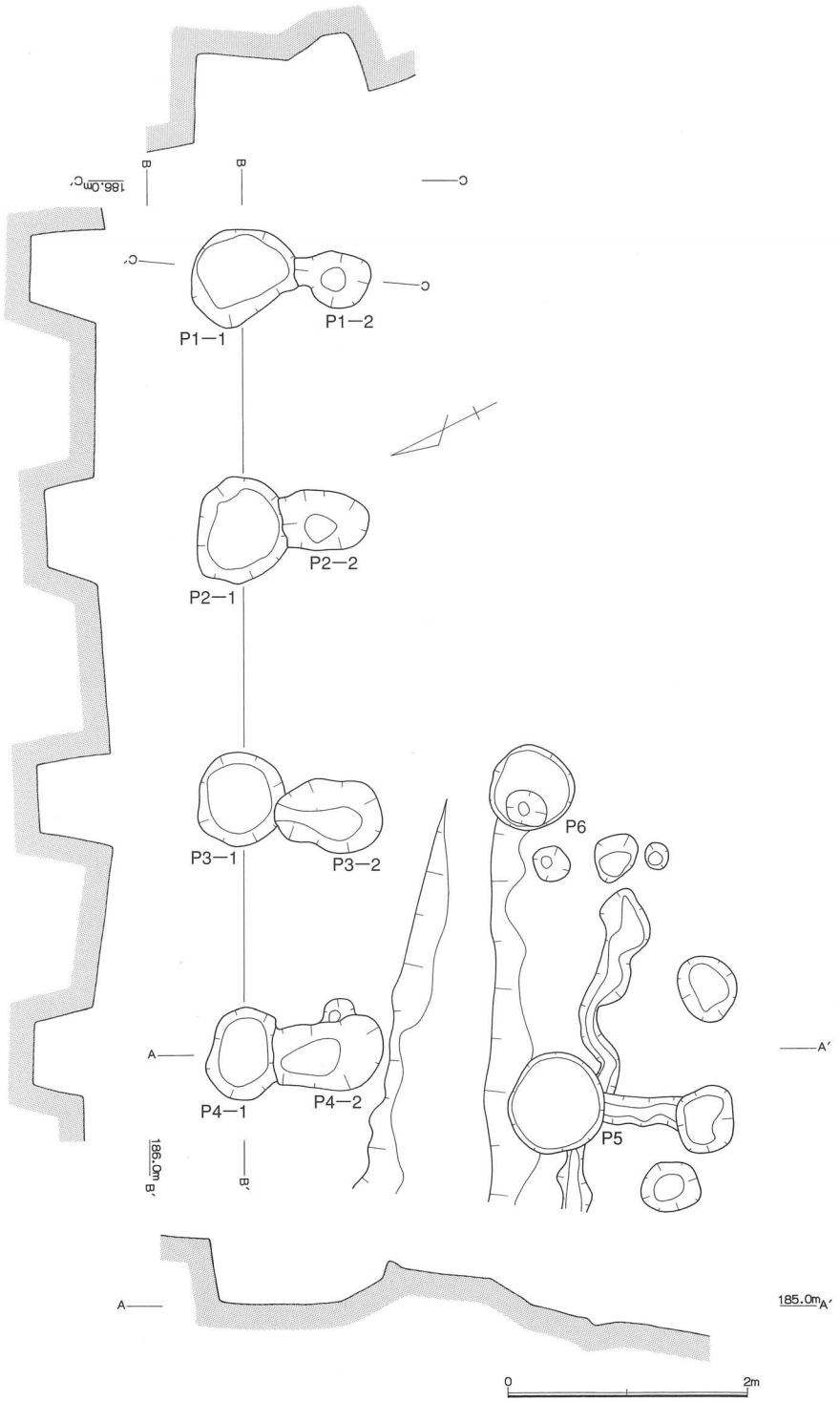
第81図　垣ノ内遺跡遺構８実測図（S＝1/40）



第82図　垣ノ内遺跡遺構８出土遺物（S＝1/4）



第83図
垣ノ内遺跡遺構８遺物出土状況図



第84図　垣ノ内遺跡 SB09実測図（S＝1/60）

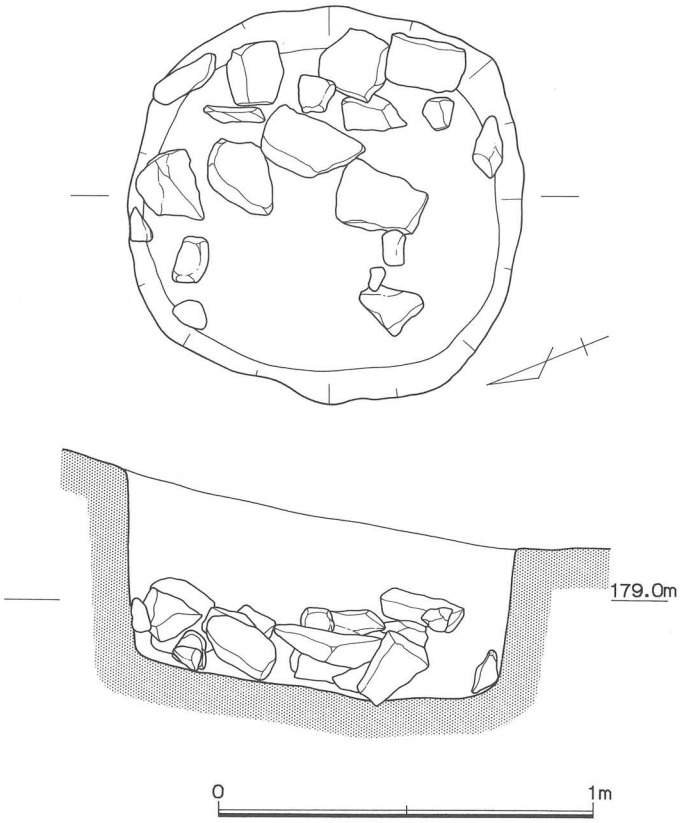
デ調整を施すものが多数である。

遺構の時期は８世紀前葉から中葉と考えられるが、性格は不明である。出土遺物は覆土上に並ぶのみで、土坑内からは時期の判断できる土器は出土していない。

SB10（第84図、図版62）

Ⅰ区に検出した掘立柱建物である。Ｐ１～Ｐ４の柱列からなる３間の建物で、遺構２と切り合うＰ５、Ｐ６もこの遺構に伴うものだろう。遺構２よりも南側（川側）は急激に傾斜がきつくなり、遺構の残りが悪い場所であることから、不足する柱穴は流失した可能性が高い。建物の規模は定かでないが、付近の傾斜を考慮すると３×１間が妥当と思われる。Ｐ１～Ｐ４の柱穴には、平面が長方

形のピットがそれぞれ付属する。隣接する両者は底面のレベルがほぼ同じで、境界部が壁状に盛り上がるという特徴がある。覆土では－２→－１の切り合いが認められるが、これが時期的な差を示すかどうか定かでない。近世の出土例では、柱穴に対して支柱用の小型の柱穴が付属する例がある[註8]。ピット内出土遺物が須恵器坏と土師器甕の小片で、時期を決定することはできないが、奈良時代まで溯る可能性はある。



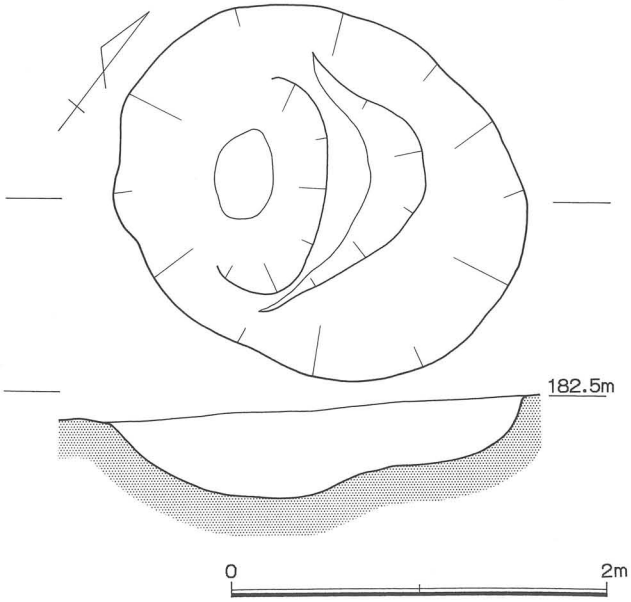
第85図　垣ノ内遺跡 SK10実測図（S＝1/20）

SK10（第85図）

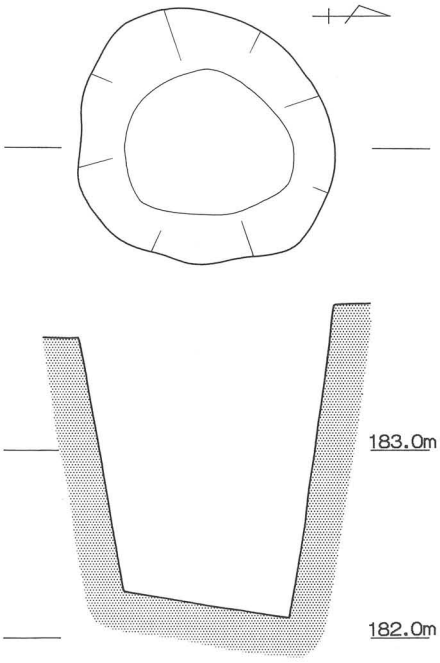
Ｄ区に検出した径約１ｍ、深さ約50cmの土坑で、大小の角礫が落ち込んでいる。地山層に直に掘り込まれており、覆土の分層もできない。出土遺物が皆無であることから、時期、性格とも不明である。

SK20（第86図）

Ｉ区の地山層に掘り込まれた、陥し穴様の土坑である。垂直断面形は僅かに逆台形になるが、実見すると垂直に掘り込まれたかのような感覚を受ける。径約1.4m、深さ約1.6mで、底部は山側に若干傾斜している。覆土の中層部から弥生土器と思われる小片が出土したが、底部付近では出土遺物が皆無である。遺構２よりも下層にあたり、弥生時代中期以前の遺構と思われる。



第87図　垣ノ内遺跡 SK01実測図（S＝1/40）



第86図　垣ノ内遺跡 SK20実測図（S＝1/40）

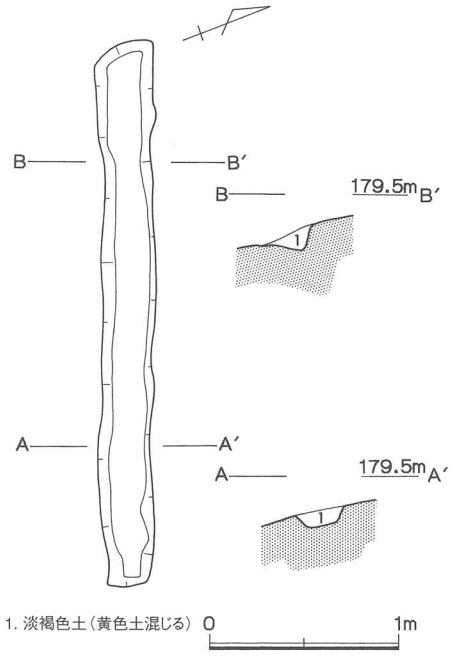
0　1m

SK01（第87図）

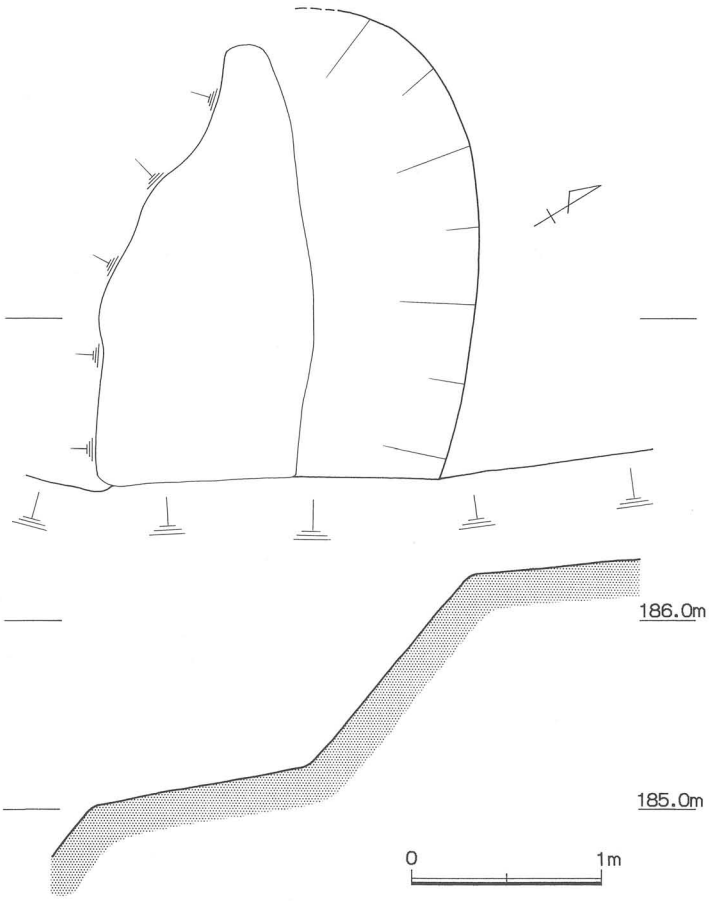
Ｃ区とⅡ区の境界上に検出した、傾斜のなだらかな窪み状の土坑である。明確でないが、北東側に中段が付く。平面形は最大径約2.2mの楕円形で、深さは最大約40cmである。出土遺物は全くないが、地山面に直に掘られており、SI02やSI10と同一面にあたることから、弥生時代中期から後期の遺構である可能性が高い。

SD01・02（第88.89図）

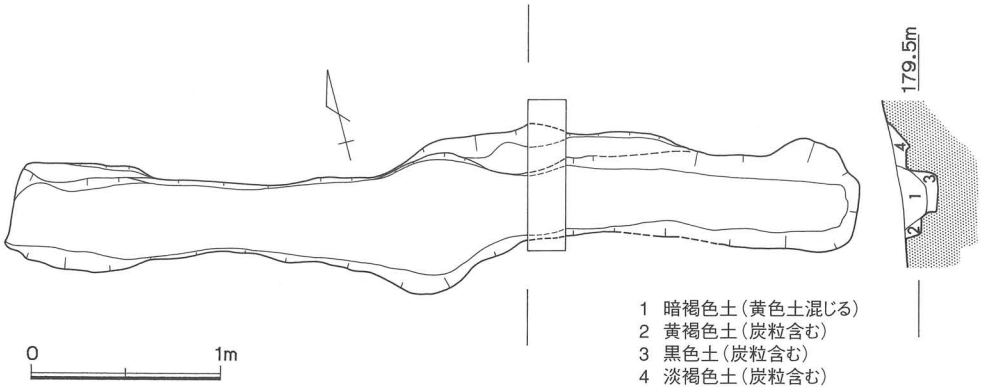
Ｃ区に検出した性格不明の溝状遺構である。SD01は全長約2.8m、幅35～40cmの溝で、深さは最大25cmである。断面形は逆台形状であるが、西側に行くほど谷側が削れて三角形状に近づく。土器の小片が数点出土したが、時期は明らかでない。SD01はSB01を切って掘り込まれており、弥生時代後期以降に位置づけられる。



第88図　垣ノ内遺跡 SD01実測図（S=1/40）



第90図　垣ノ内遺跡加工段４実測図（S=1/40）



第89図　垣ノ内遺跡 SD02実測図（S=1/40）

SD02は長さ約4.6m、幅45～60cmの溝である。一部に段が付くが不明瞭である。セクションでは、段状の覆土は炭化物が多く、溝部分の覆土と異なっている。

加工段４（第90図）

Ⅰ区最東端に検出した加工段で、出土遺物は皆無である。後述の土器溜り12よりも下層から検出しており、弥生時代中期以前の遺構と考えられるが、詳細は不明である。

埋桶遺構１・２・３（第91・92図、図版63・64）

第92、93図は埋桶遺構を掲載した。これらの遺構は直径約110cm（約３尺）の桶の周囲を粘土で固めたものである。こうした遺構は、粘土貼土坑や単に土坑として報告されているものが県内でも数例確認できた[註9]。下山遺跡では埋桶のタガまでがはっきりと残るものと、底のみ粘土を貼るものの２種類があるとされているが、ここでは桶の痕跡が３遺構ともはっきりと残っている。

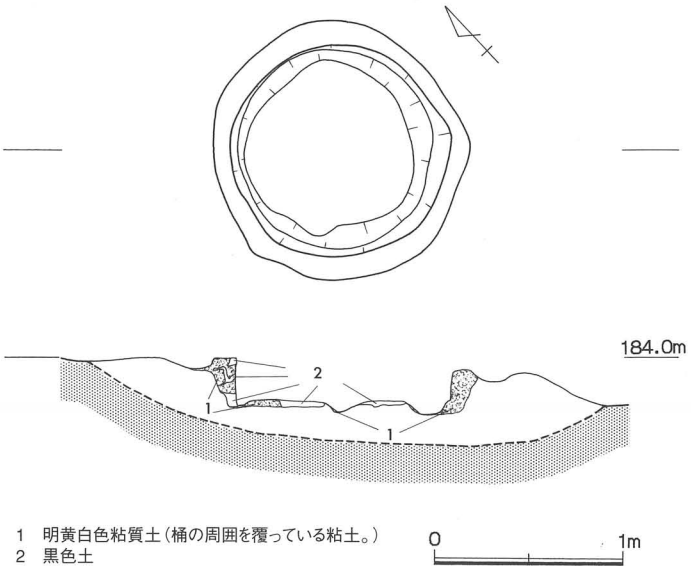
埋桶遺構１はⅡ区に単独で検出したものである。直径約110cmのほぼ円形の土坑で、周囲には粘土が貼られている。土坑の底は外周部が一段深くなっており、上げ底の桶が填っていたことが分かる。粘土の厚さは桶の周囲が10～15cm、底部は２～３cmである。残存部の深さは約25cmであるが、表土直下で検出したことを考えると、上部は後に削られた可能性が高い。またこの土坑で特筆すべきは、内容物と腐食した桶が全く残っておらず、土坑内一杯に砂が詰まっていたことである。この砂は粒子が揃った混入物の少ない白砂で、遺跡周辺では川原以外に見られないものである。桶を引き抜いた後、何らかの意図を持って砂を入れたと考えざるを得ない。

埋桶遺構２、３はⅢ区に並んで検出した。２つの土坑の間には平面形が不整形の土坑があり、これに長方形の溝状の掘込みが付随している。埋桶遺構３のすぐ東隣にも溝が掘り込まれている。また小型ながら柱穴が１穴隣接しており、何らかの上屋の存在が想定される。埋桶遺構２は直径約110cmで、南側は削られて残っていない。桶のタガ跡が明確に残るが、周囲には粘土を貼らず、黄褐色の地山土をそのまま利用している。埋桶遺構３も同様に地山土を掘り下げてそのまま桶を填めている。タガ跡は最下部に３条、上部に１条確認した。この遺構のみ、桶の底材と考えられる10cm大ほどの板片が残っていたが、腐食が激しく取り上げることができなかった。

SK12・13・14（第93図、図版65・66）

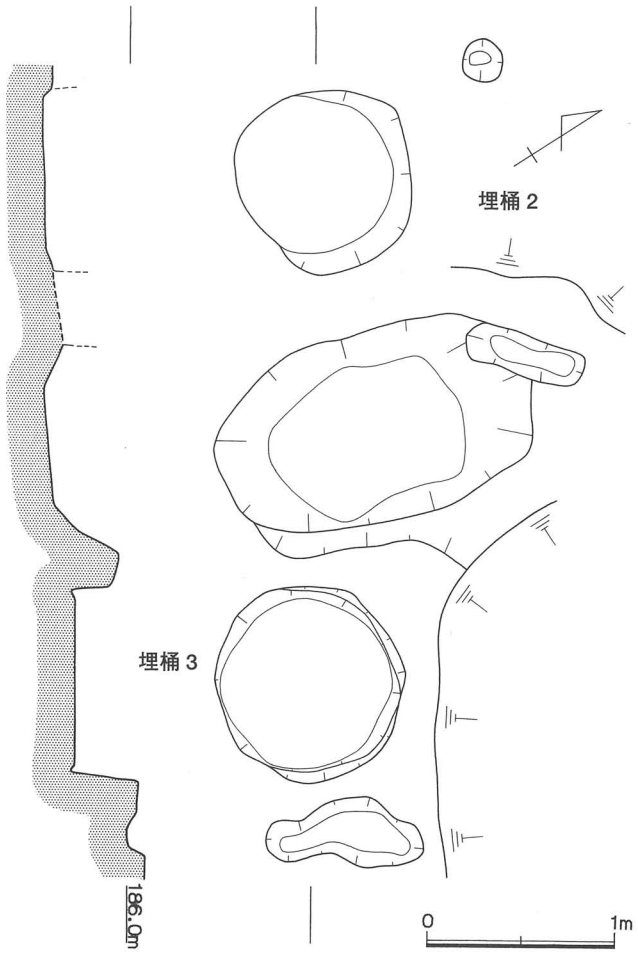
SK12、13、14はⅡ区とⅢ区で検出した性格不明の土坑である。検出した層位は前記の埋桶遺構１と同様で、同時期の可能性が高い。平面形は1.2m×2.0m前後のいびつな長方形で、SK14は他に比べて若干小型である。長辺に突き出るようにして突起があるのが特徴で、この突起部は溝状に土坑を縦断している。SK13は隣接する埋桶遺構１と同様上部の大部分が残っていない。またSK12は覆土に多量の炭を含み、表面に焼土面があることから、土坑内で火を燃やしたようである。焼土は最大で約２cmの厚さがあり、長時間あるいは断続的に一定期間火を焚いたのであろう。SK13では僅かに焼土面が確認できたが、SK14ではその痕跡はなかった。

こうした平面形の土坑の例は隠岐郡西郷町の尼寺原遺跡にある[註10]。尼寺原遺跡は掘立柱建物が多数検出された遺跡だが、同様の突起を持った土坑が数基出土している（SX04・05・06・12・15）。SX15では箱状に組まれた板材が残っていた。長辺が３m近くあること、土坑によっては突起

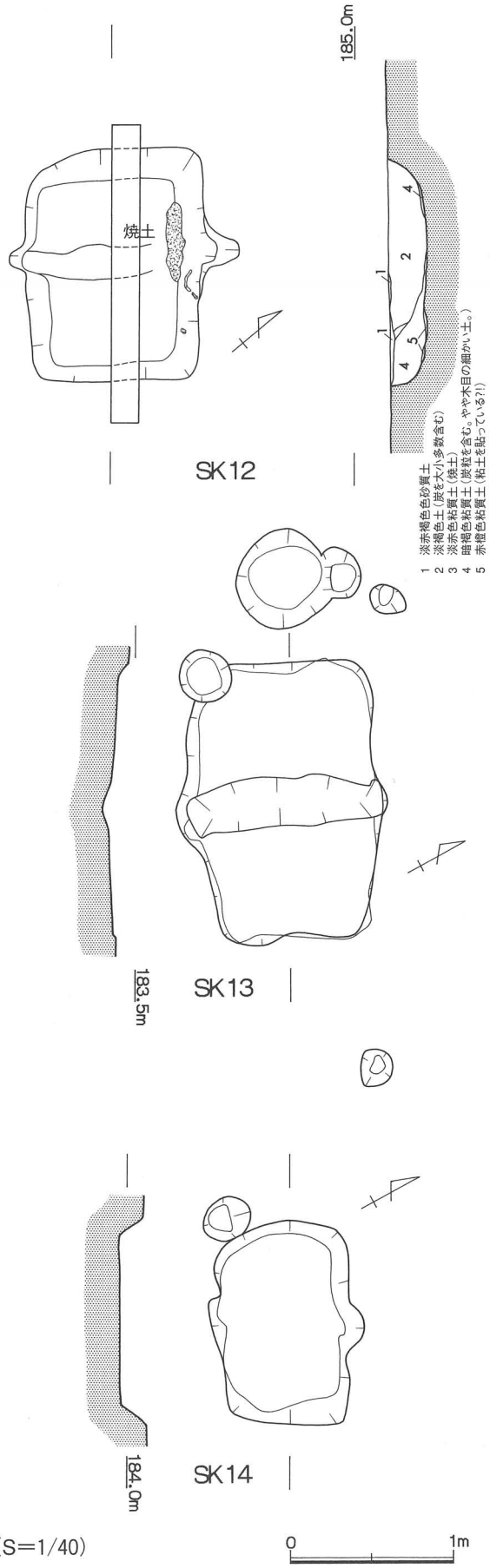


1　明黄白色粘質土（桶の周囲を覆っている粘土。）
2　黒色土

第91図　垣ノ内遺跡埋桶遺構１実測図（S＝1/40）



第92図　垣ノ内遺跡埋桶遺構２・３実測図（S＝1/40）



1　淡赤褐色砂質土
2　淡褐色土（炭を大小多数含む）
3　淡赤色粘質土（焼土）
4　暗褐色粘質土（炭粒を含む。やや木目の細かい土。）
5　赤橙色粘質土（粘土を貼っている?!）

第93図　垣ノ内遺跡 SK12・13・14実測図（S＝1/40）

第94図　垣ノ内遺跡土器溜り位置図（S=1/600）

が片側のみ付くこと、箱状に組まれた板材が残るものはあるものの、炭化物が検出されていない等、相違点も多い。今後の類例増加を期待したい。

（3）土器溜り

垣ノ内遺跡は検出遺構もさることながら、包含層中の遺物量が多く、調査中はこれらの取り扱いが問題であった。遺跡は基本的に南向きの傾斜地であるが、堆積土は複雑に入り組んでおり、各包含層の厚さは場所により大きな差があった。このため遺跡全体で統一した基本層位毎に、正確に遺物を取り上げることは困難であった。そこで、同一層位内である程度一括性が保たれていると判断される遺物群については「土器溜り」として一括して取り上げる方法を採った。したがって以下に挙げる「土器溜り」は、必ずしも遺構に伴う一括遺物ではなく、限定された範囲内で同一層位中に含まれる比較的一括性が高いと考えられる土器群を指す。こうした判断は現場で調査員が下したものであり、遺物間に時期幅の認められる「土器溜り」もあるので、遺構に伴う一括遺物と同等に扱うことはできないことをお断りしておきたい。なお、個々の「土器溜り」の名称は調査時のものを可能な限りそのまま用いることとした。欠番が多いが、御容赦いただきたい。

AYD 1（第95～97図、図版67～72）

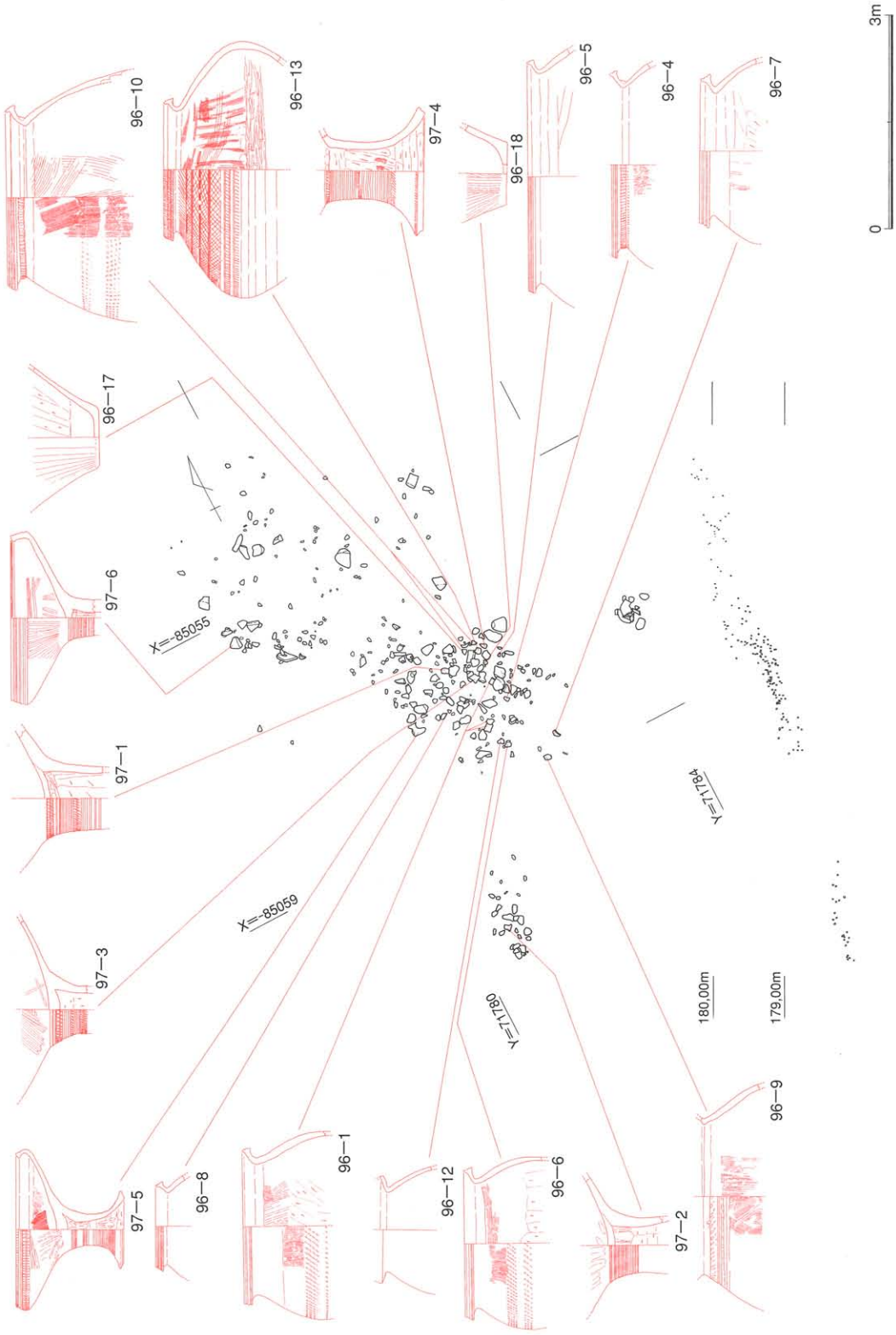
A区上部の傾斜が急激に緩くなる部分に堆積する弥生時代中期後半（Ⅳ－2）の土器溜りである。直上に6世紀後半から7世紀の土器溜り（AKDD）がある。甕、広口壷、高坏など総点数約300点からなり、若干ではあるが後期の破片も混じる。甕は外面頸部下を刷毛目調整、胴の下半部に縦方向のミガキを入れるもので、胴部に刺突列点文帯を2本入れるものが多い。内面は頸部下を刷毛目もしくはナデ調整し、胴の下半部は縦方向のケズリである。頸部の貼付突帯に刻みを入れる個体があるが、割合は約25％である。96－3は頸部に凹線文と刻目文を入れる塩町式土器である。13は台付壷の可能性がある個体で、刻目文と斜格子文、円形浮文を組み合わせており、塩町式土器の影響を伺わせる。15は全面にミガキを入れる蓋、16は広口壷の頸部である。

第97図には高坏を並べた。1～4、7は口径約30cmに達すると思われる大型の個体で、脚柱部内側は幅約2cmのヘラを用いて削り込む。坏部底の円盤を充填した後に削るため、円盤裏側にヘラの刺し跡が残る。（図版72）5、6は口径約20cmの高坏である。

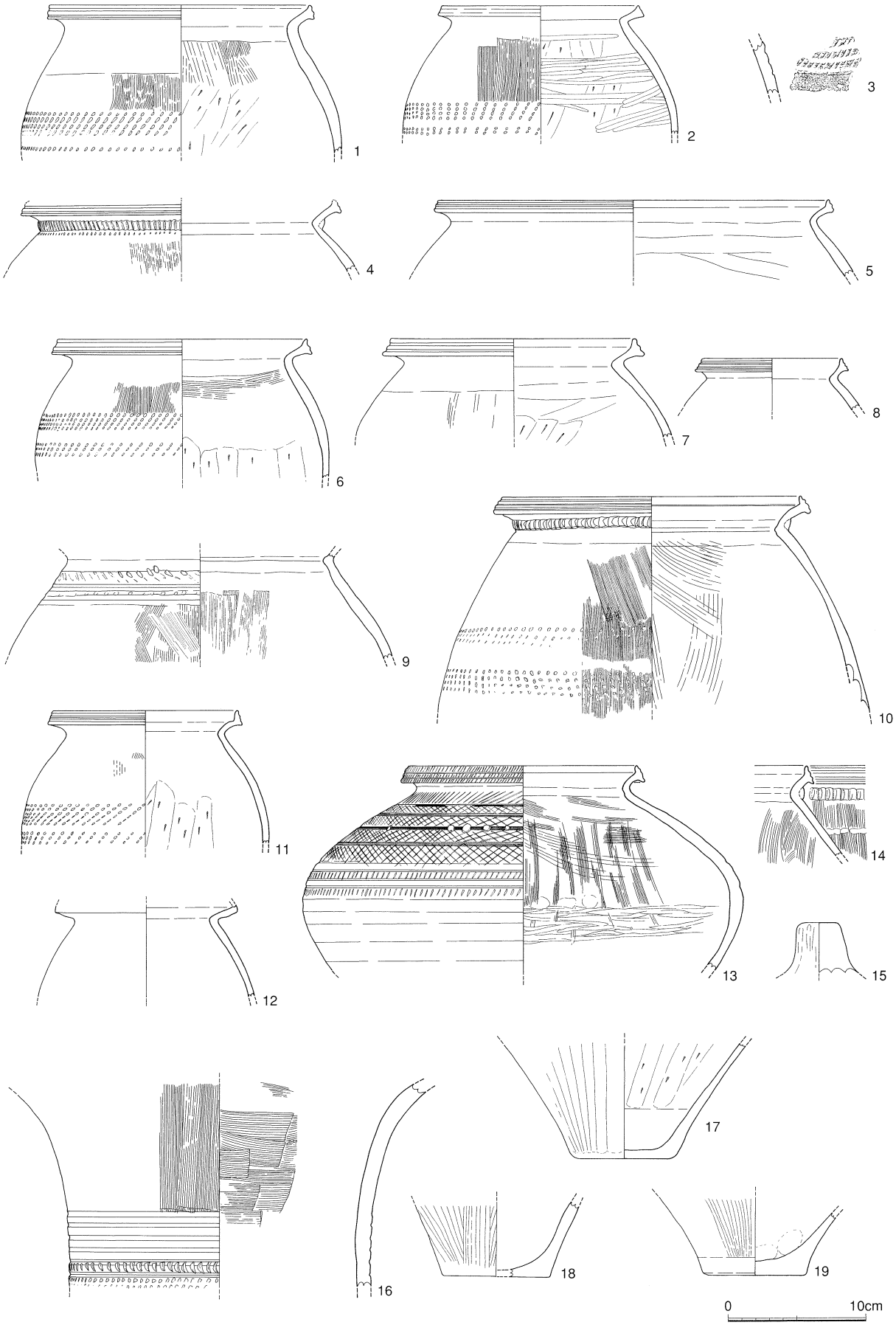
土器溜り11（第98・99図、図版73・74）

Ⅰ区最上段に位置する弥生時代中期後半（Ⅳ－2）を中心とする土器溜りである。甕、広口壷、高坏があるが、調査後の整理によれば土師器甕の混入量も多い。包含層自体が薄い場所であったために、上層の混入物を判別できなかったと考えられる。

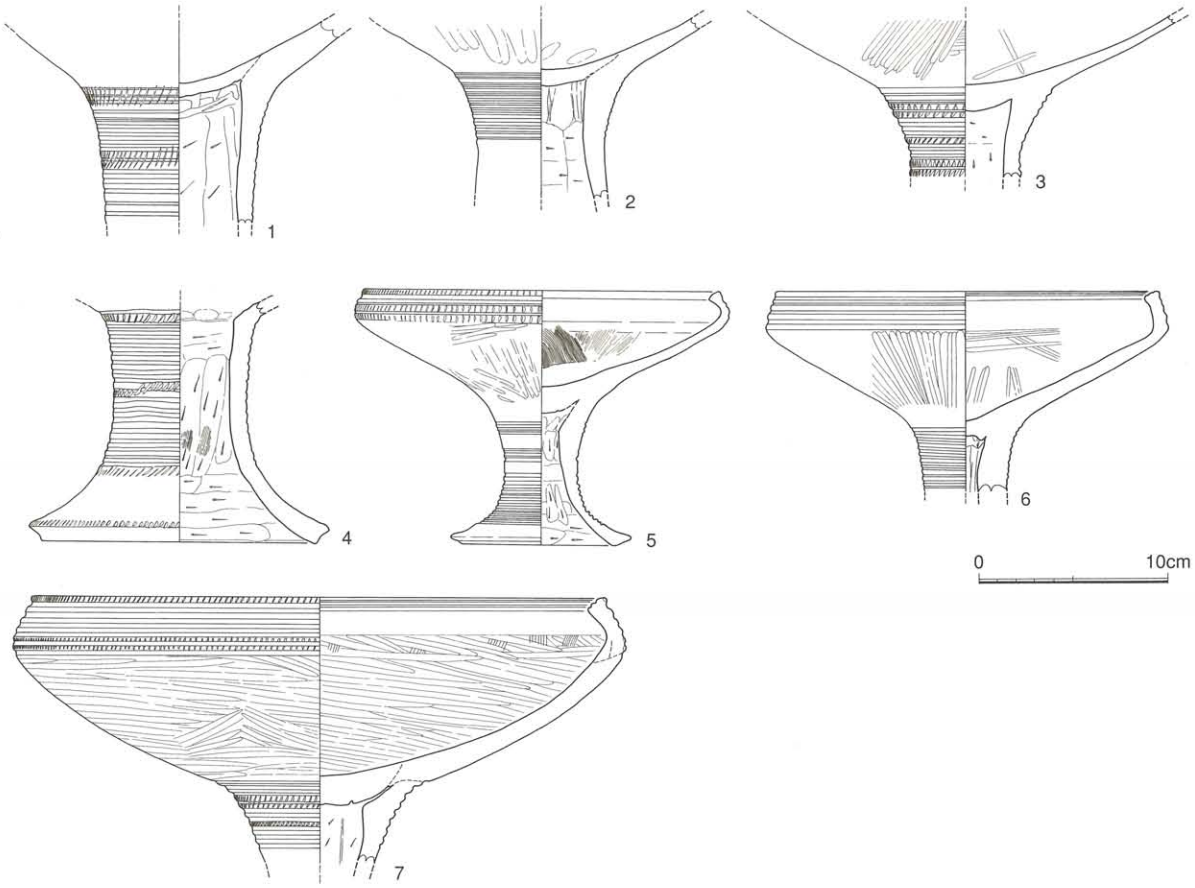
99－1～16は中期後半に位置づけられる遺物である。3、4は塩町式の甕で、10、11は広口壷である。14は底径の大きな脚部で、台付壷等の脚かもしれない。17、18は後期後半（Ⅴ－3）の甕で、他の遺物と時期的に隔たりがある。19は碗状に内湾する器種不明の破片で、外面を丁寧にミガき、内面をケズる個体である。蓋あるいは脚部であろうか。



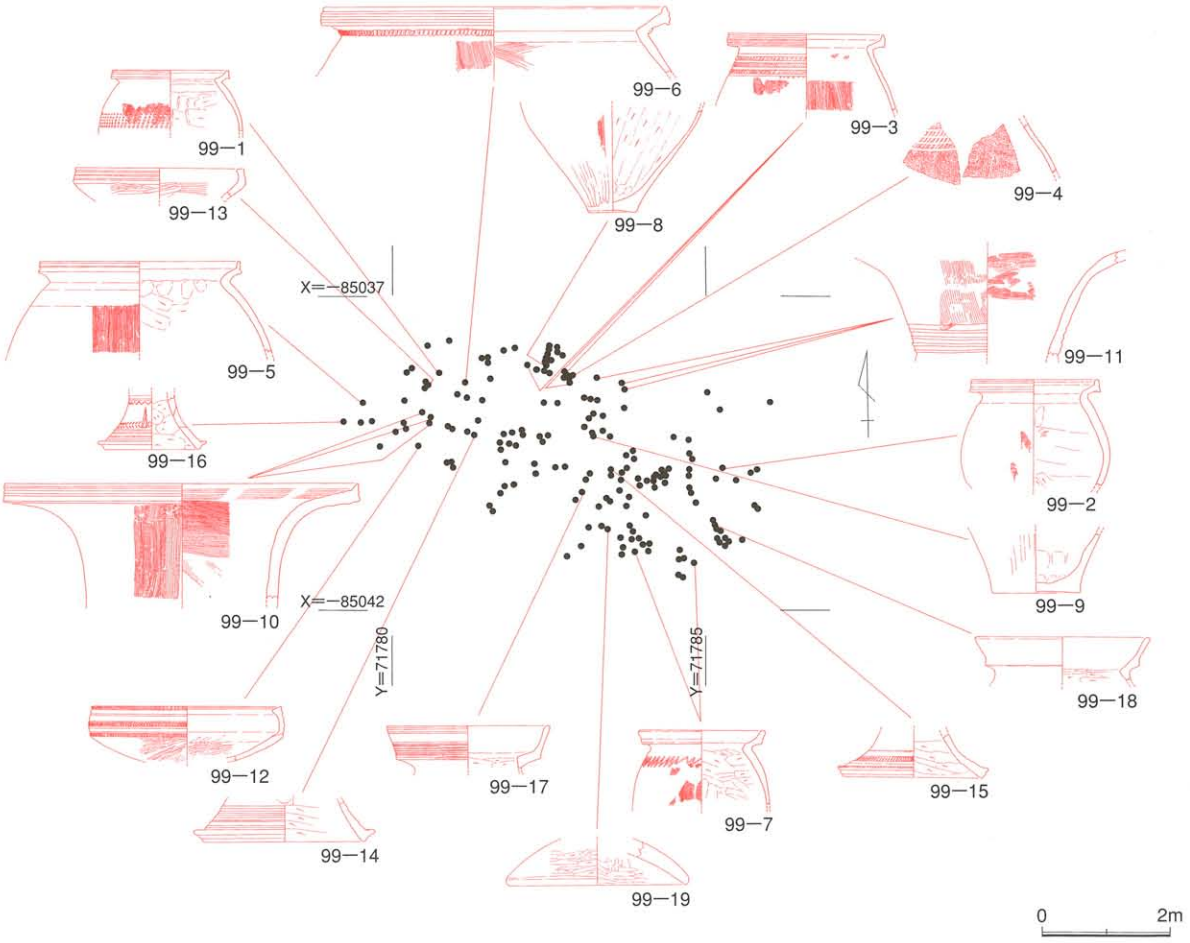
第95図　垣ノ内遺跡土器溜り AYD 1（AYDD）遺物出土状況図



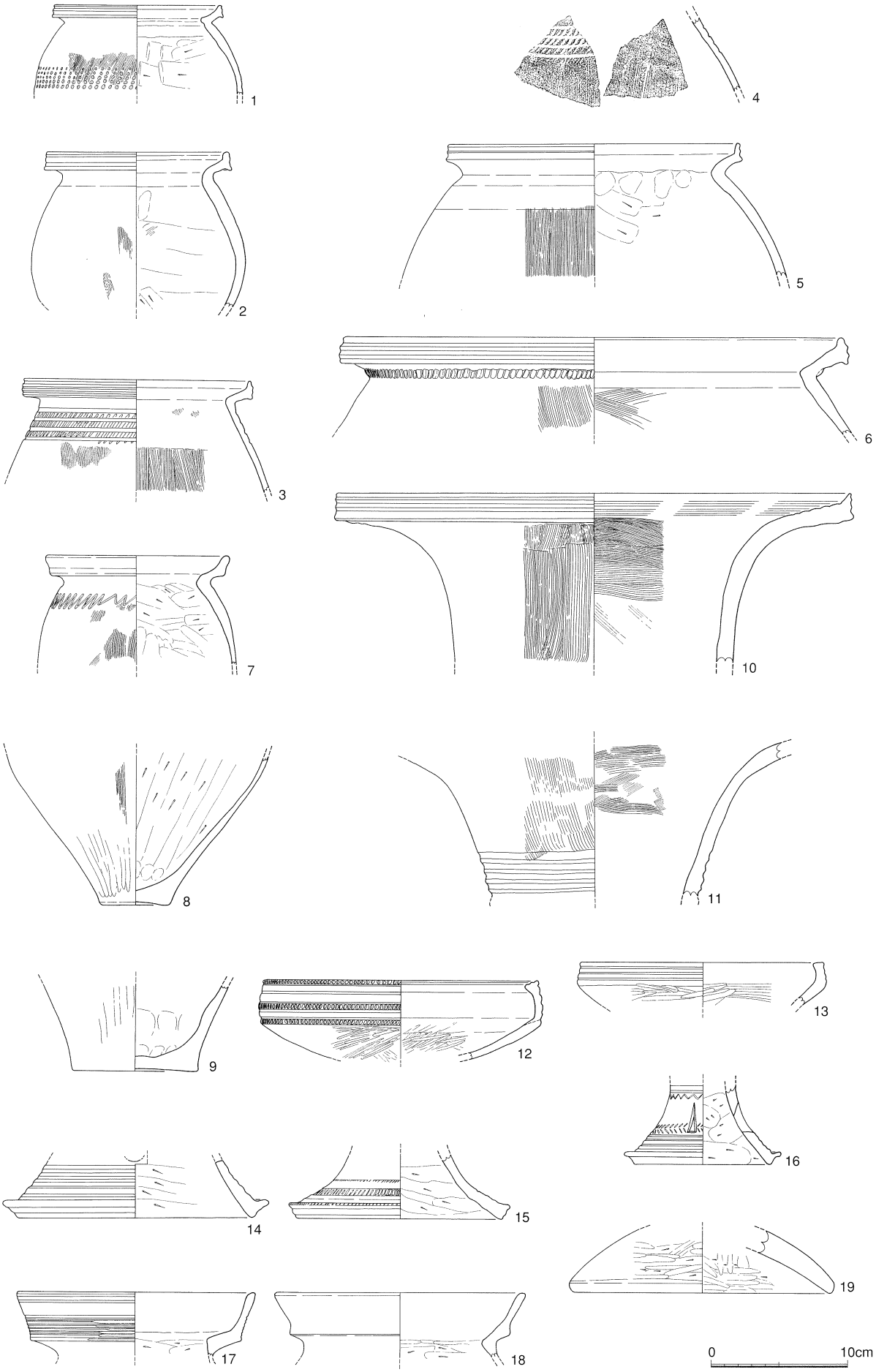
第96図　垣ノ内遺跡土器溜り AYD１（AYDD）出土遺物１（S=1/4）



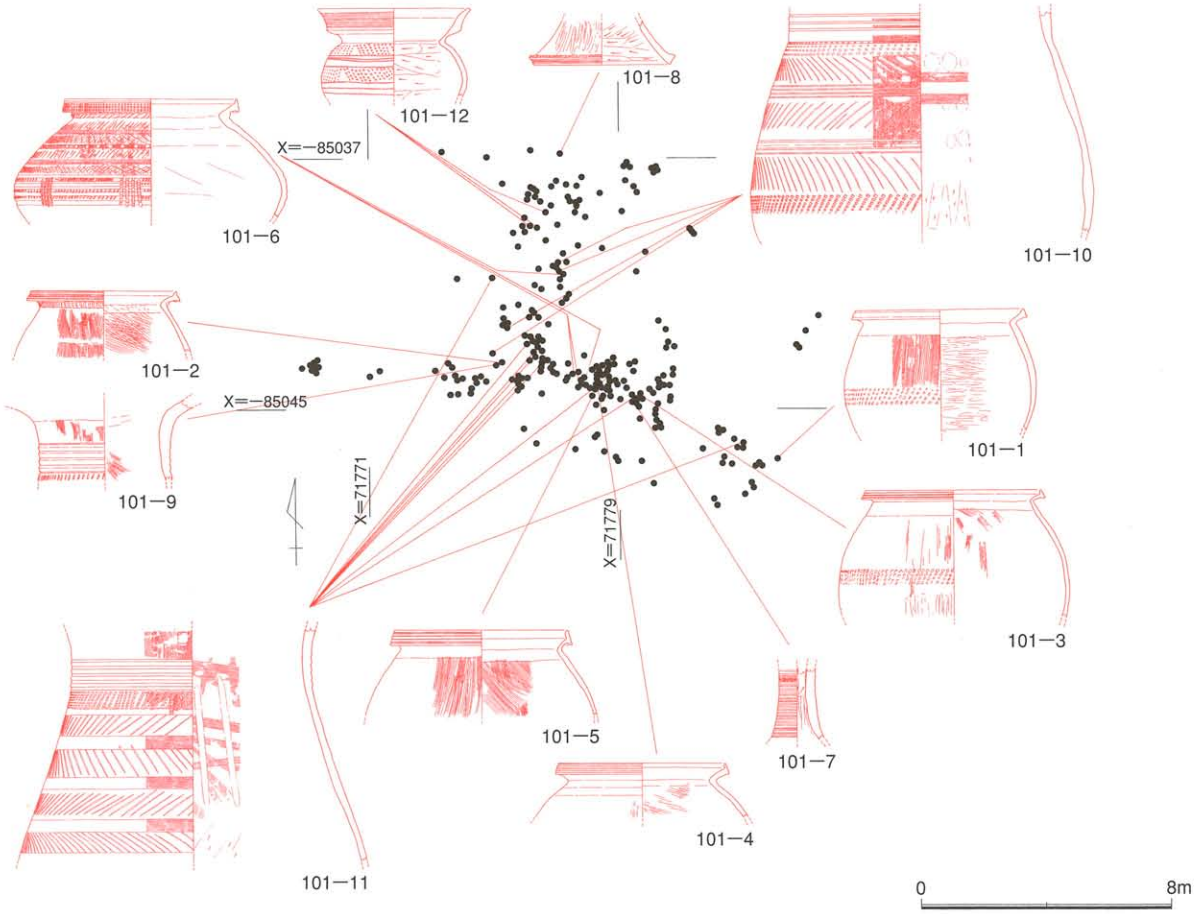
第97図　垣ノ内遺跡土器溜り AYD 1 （AYDD）出土遺物 2 （S=1/4）



第98図　垣ノ内遺跡土器溜り11遺物出土状況図



第99図　垣ノ内遺跡土器溜り11出土遺物（S＝1/4）



第100図　垣ノ内遺跡土器溜り12遺物出土状況図

土器溜り12（第100・101図、図版75～77）

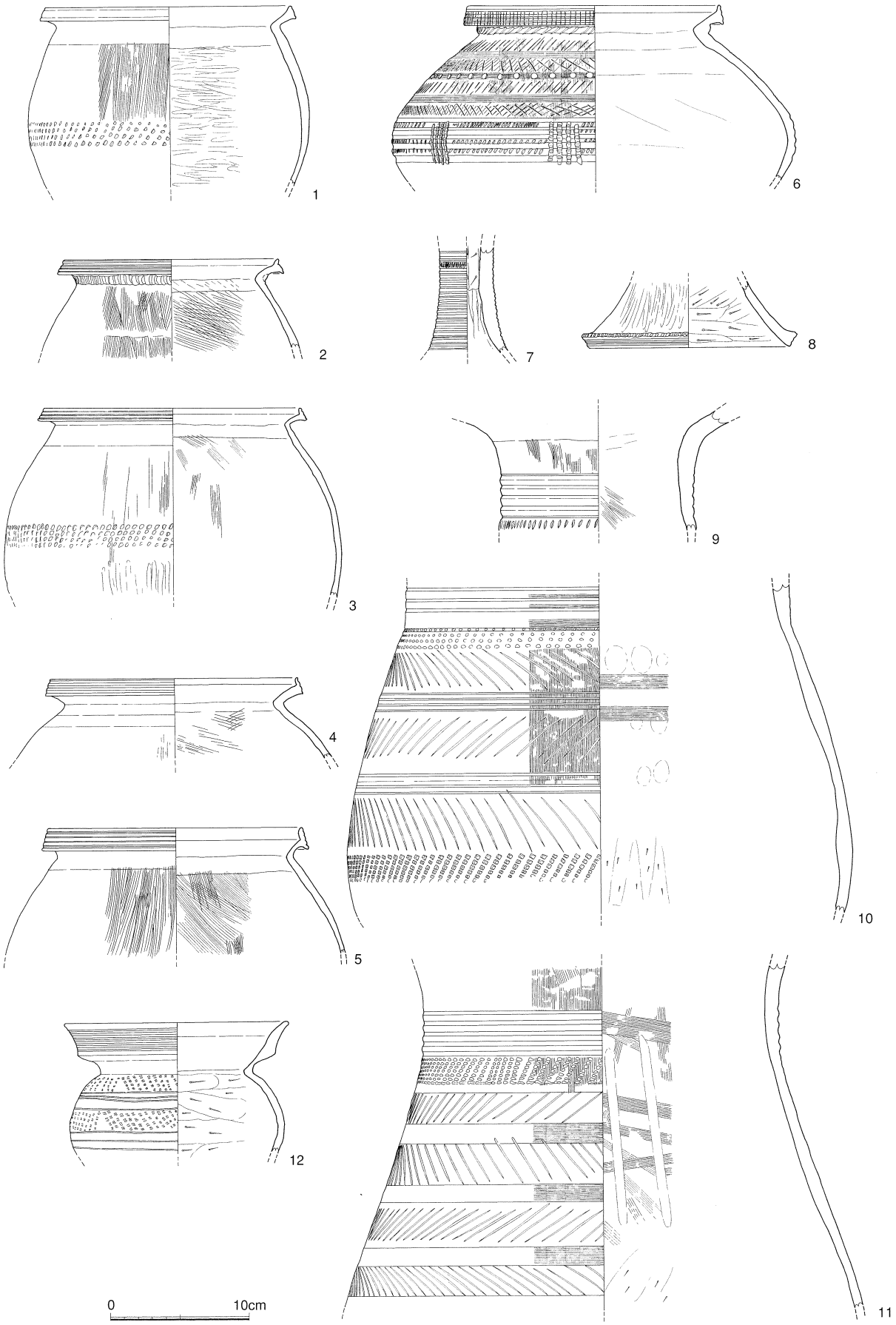
Ⅰ区に位置する土器溜りで、前記の土器溜り11、AYD１と同一層にあたる。弥生時代中期後半（Ⅳ－２）を中心とする土器溜りで、この部分は比較的包含層の厚さがあることから他時期の混入は少ない。

６は凹線文に刻目文、斜格子文、円形浮文などを組み合わせる装飾性の高い壷で、台付壷の可能性がある。塩町式土器そのものではないが、その影響が垣間見られる個体である。９～11は広口壷で、刺突列点文と綾杉文を入れる。12は複合口縁を持つ後期の壷で、刺突列点文と凹線を組み合わせた文様帯が入る。

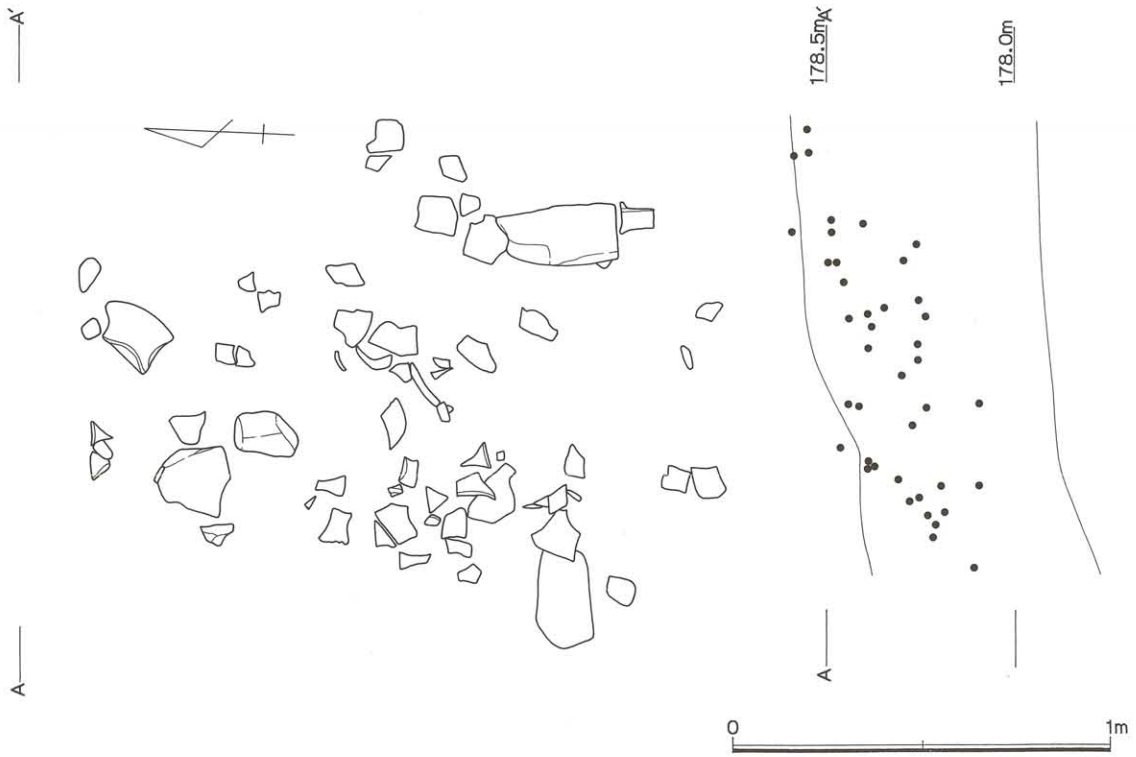
DYD１（第102～105、図版78～80）

調査区最西端のＤ区隅に検出した土器溜りで、弥生時代中期後半（Ⅳ－２）を中心に約40個体からなる。遺物は大小の角礫とともに堆積しており、この場に一括廃棄されたものの可能性は薄い。地形的な理由などで、包含層の中でも遺物密度の濃い場所と考えられる。

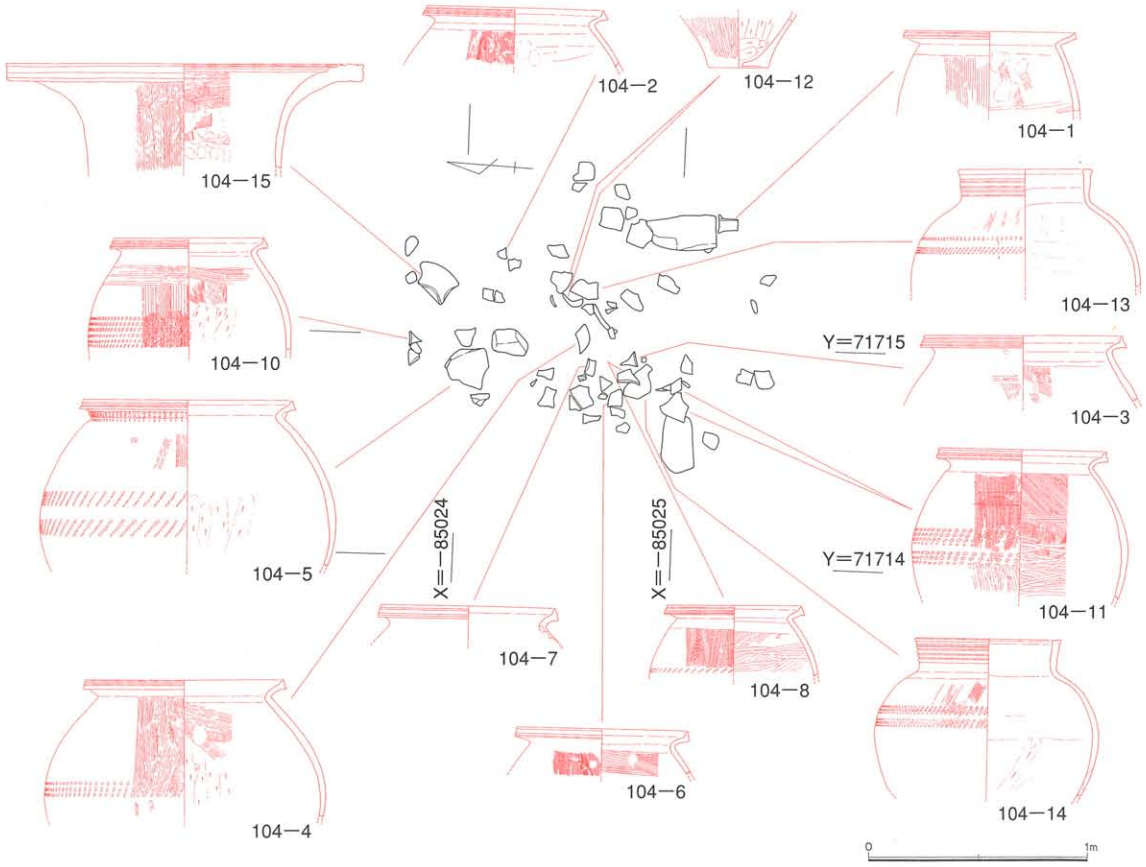
104－１～15は甕、壷類である。この遺跡で出土する典型的な中期後半の遺物であるが、高坏は全く出土していない。９は塩町式の影響を受けた個体である。13、14のような直口壷もこの時期に見られるもので、口縁の形状は高坏に似る。105－１～３は後期（Ⅴ－２～３）に位置づけられる個体で、この時期の遺物は７点である。



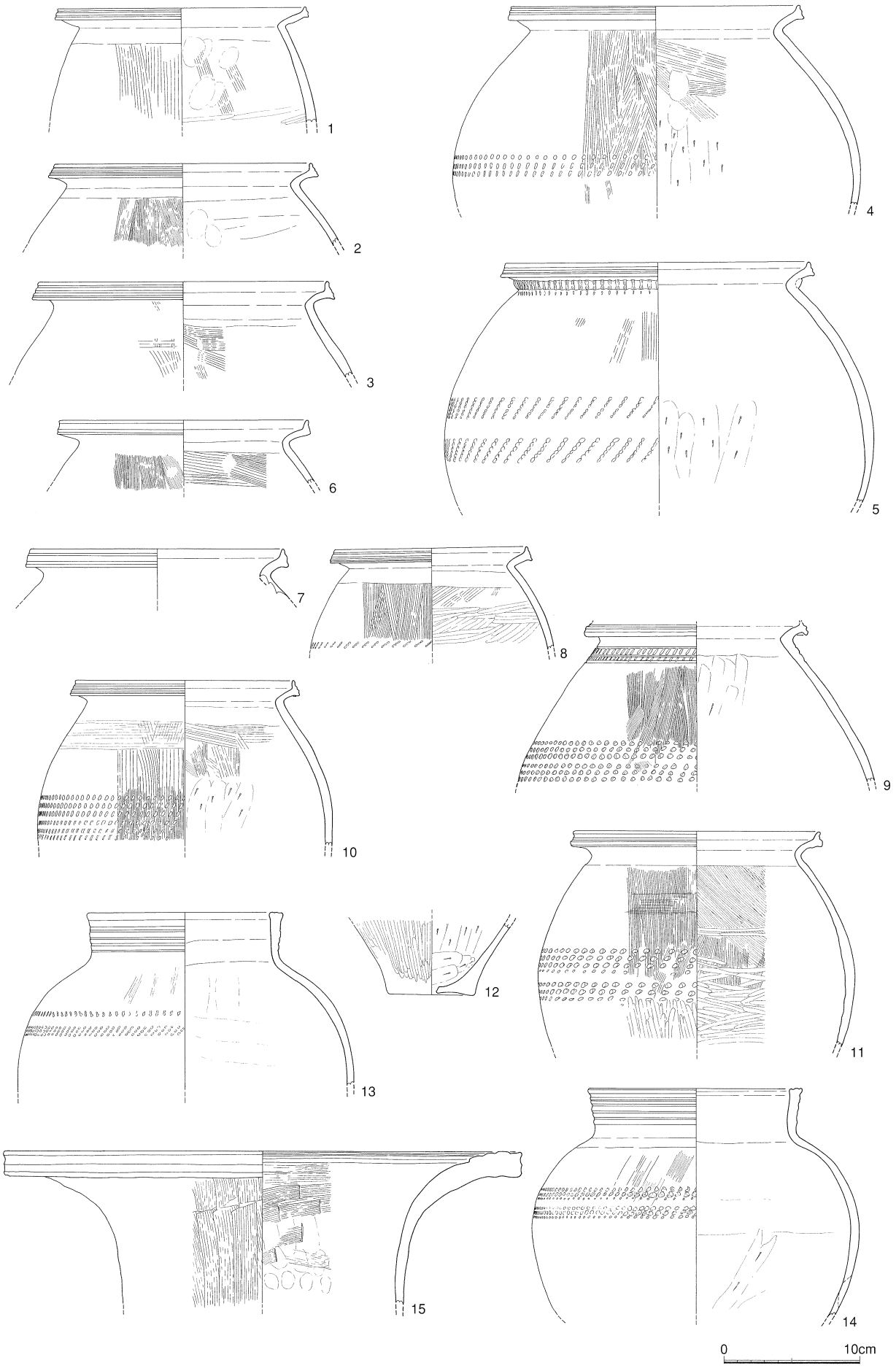
第101図　垣ノ内遺跡土器溜り12出土遺物（S＝1/4）



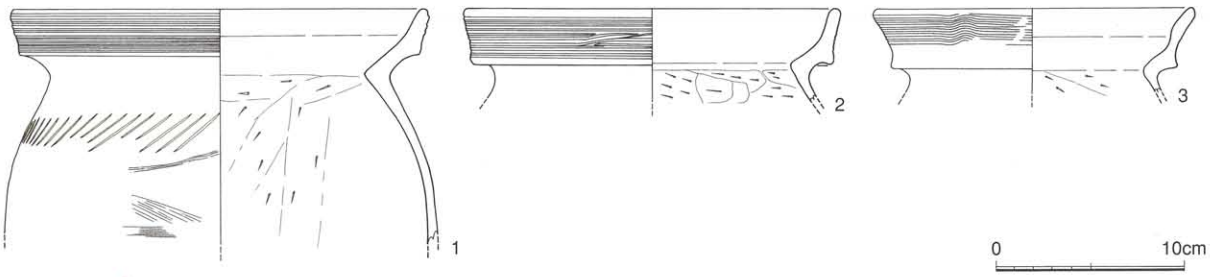
第102図　垣ノ内遺跡 DYD 1（DYDD）実測図（S=1/20）



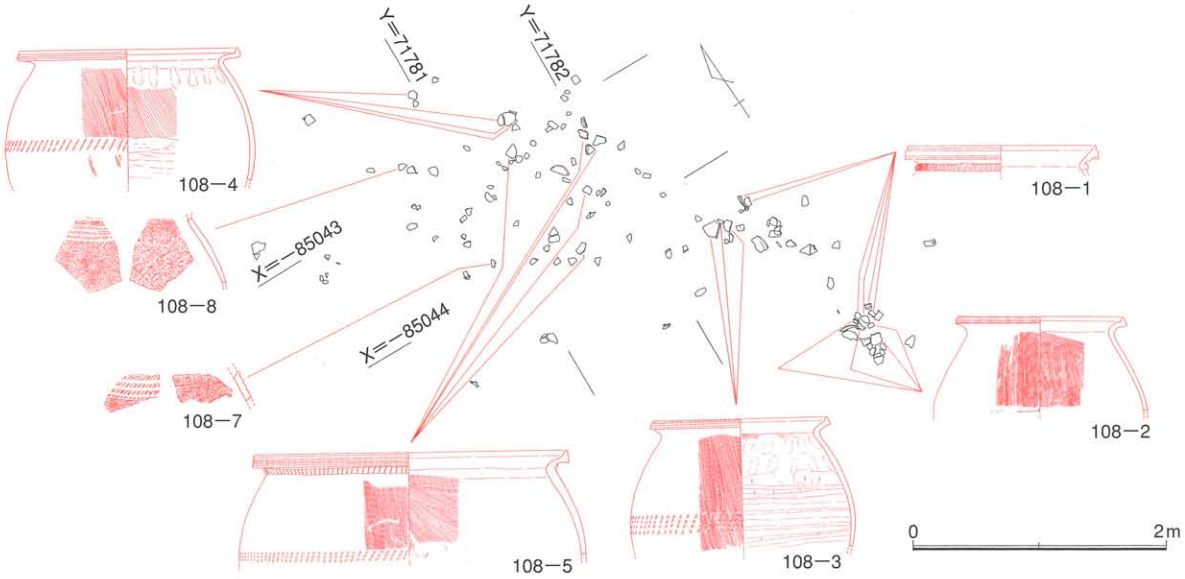
第103図　垣ノ内遺跡 DYD 1（DYDD）遺物出土状況図



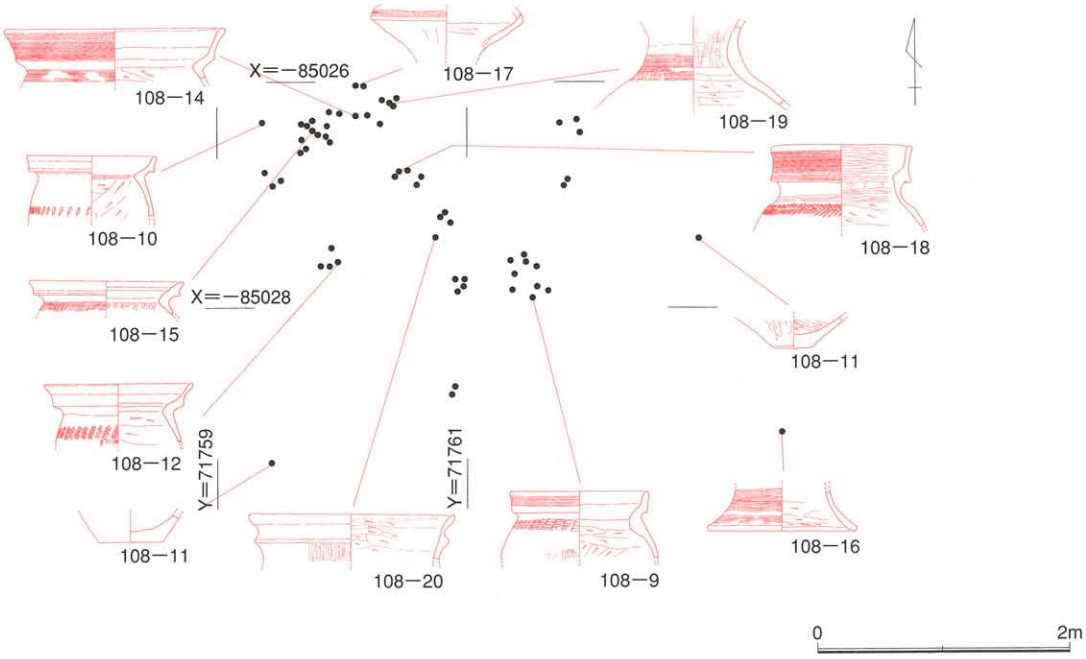
第104図　垣ノ内遺跡 DYD 1（DYDD）出土遺物 1（S＝1/4）



第105図　垣ノ内遺跡 DYD 1（DYDD）出土遺物 2（S=1/4）



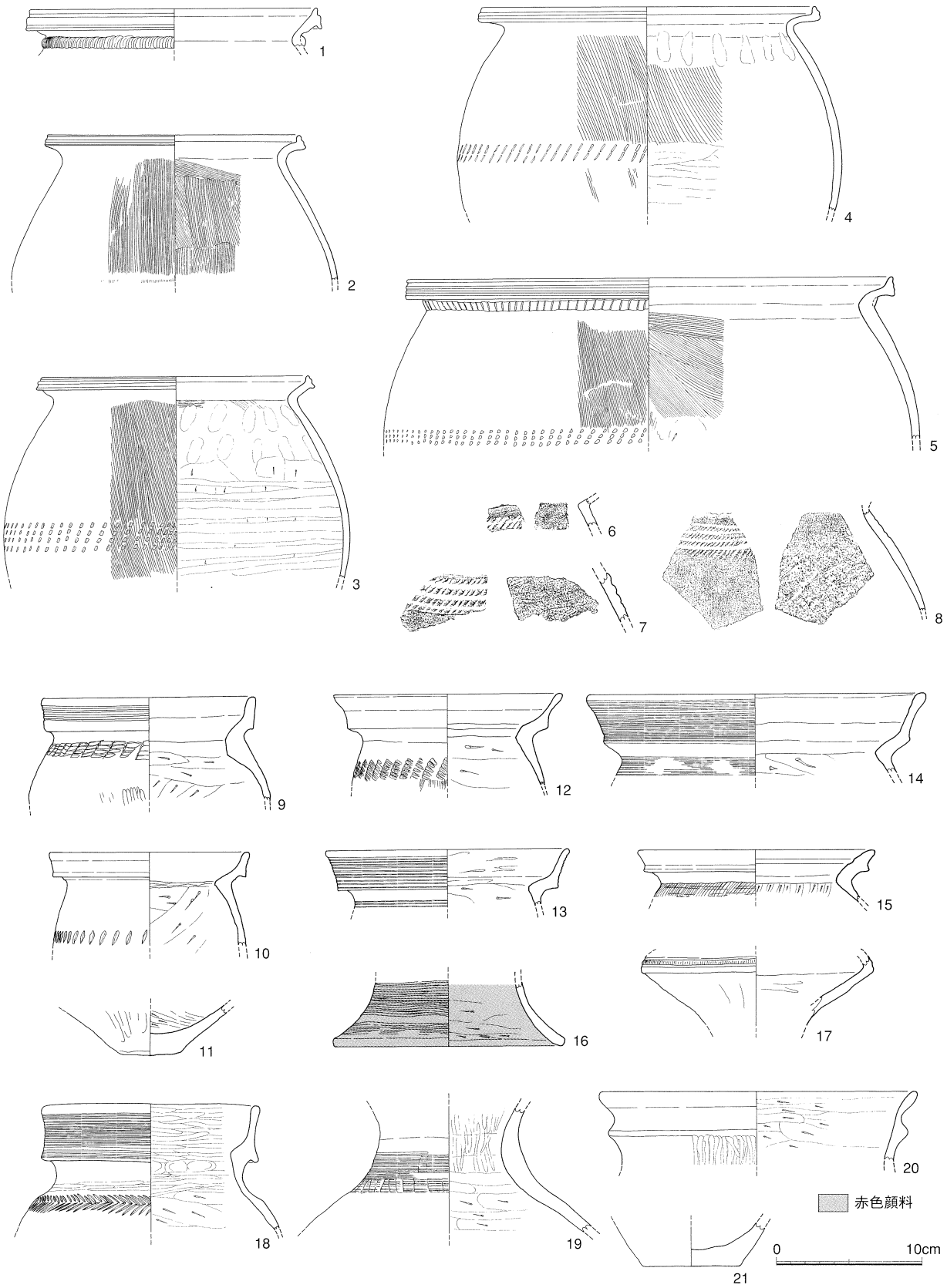
第106図　垣ノ内遺跡土器溜り 9 遺物出土状況図



第107図　垣ノ内遺跡土器溜り10遺物出土状況図

土器溜り 9（第106・108図、図版80・81）

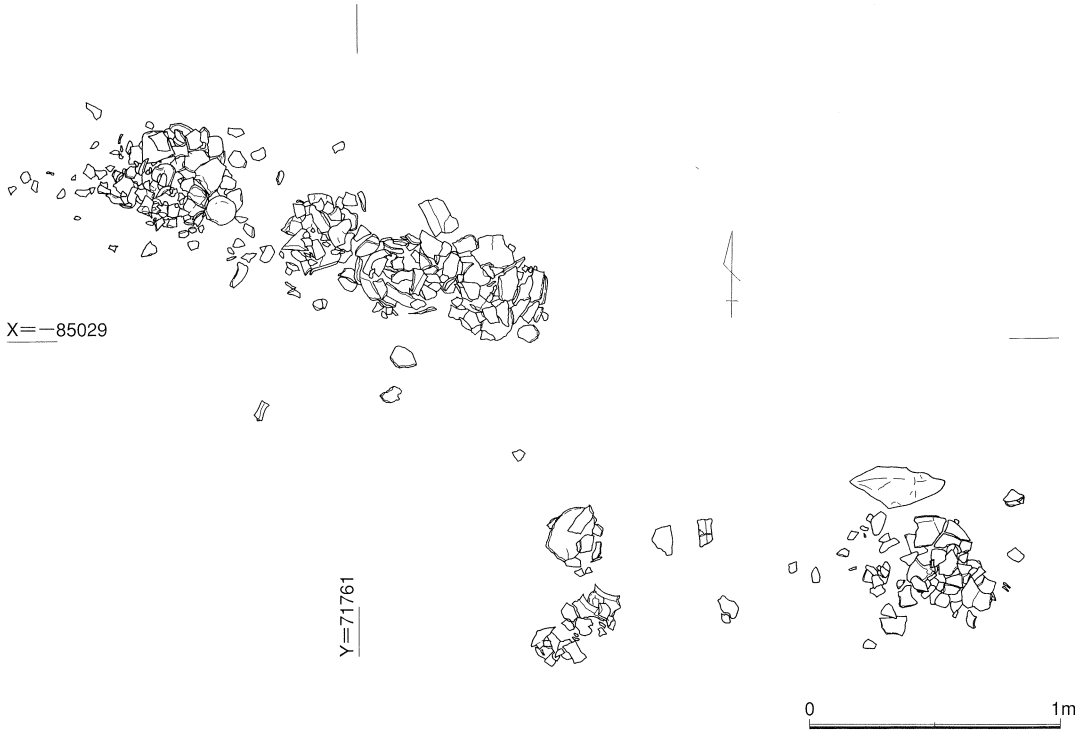
Ⅰ区東端に集中して検出した土器群で、一括性が高い遺物と考えている。層位はⅠ区からＡ区にかけて散在する弥生時代中期後半の土器溜りと同一である。出土遺物（108－１～８）は甕が大部分で、高坏は小片があるのみである。６、７、８は塩町式の甕片であるが、全て別個体である。



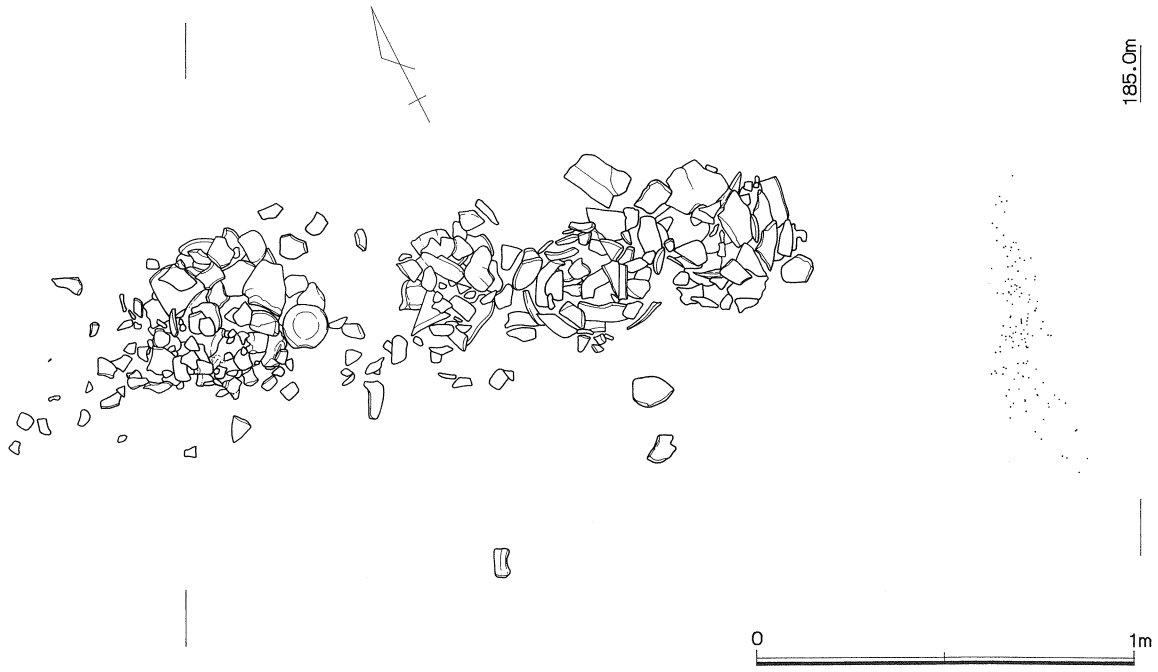
第108図　垣ノ内遺跡土器溜り９・10出土遺物（S＝1/4）

土器溜り10（第107・108図、図版80～82）

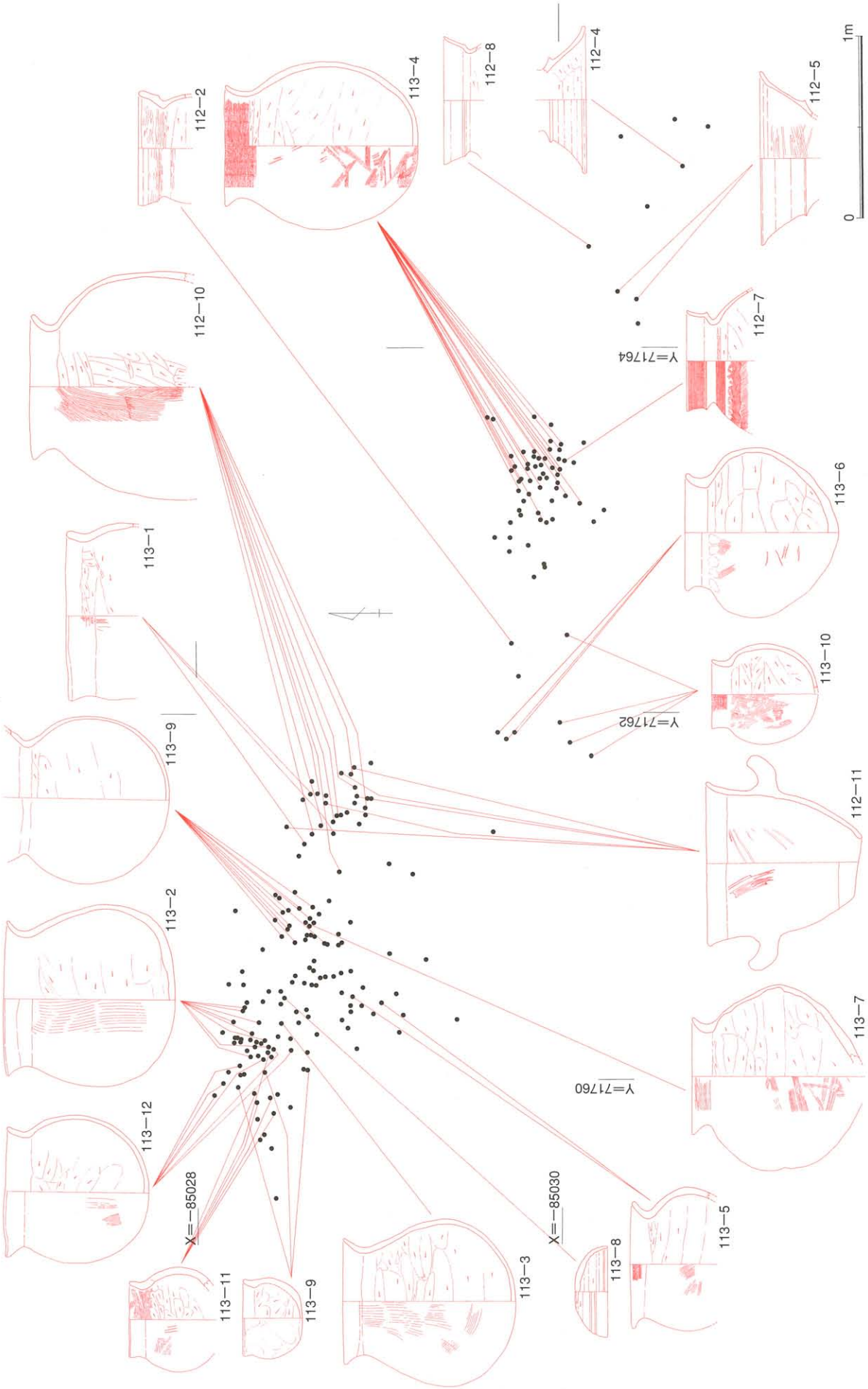
Ⅱ区の山側に検出した土器群で、弥生時代後期後葉（Ⅴ－３）を中心とする土器溜りである。層位は隣接する加工段１、遺構２の覆土と同様と考えられる。中期後半から後期初頭の出土量も無視できない数であるが、図化できる大きさの破片は皆無である。垣ノ内遺跡でこの時期の遺物が集中して出土した場所は、他にない。複合口縁に貝殻を用いた擬凹線を施す甕を主体とし、外面に赤色顔料を塗布する鼓形器台（16）、壷が混じる。甕の頸部直下に押し引き気味の刺突列点文や擬凹線文を入れる個体も多い。20は外面に丁寧なミガキ、内面にケズリを入れる個体で、何らかの脚部である可能性も考えられる。



第109図　垣ノ内遺跡土器溜り１・２・３実測図（S=1/30）



第110図　垣ノ内遺跡土器溜り３遺物出土状況図

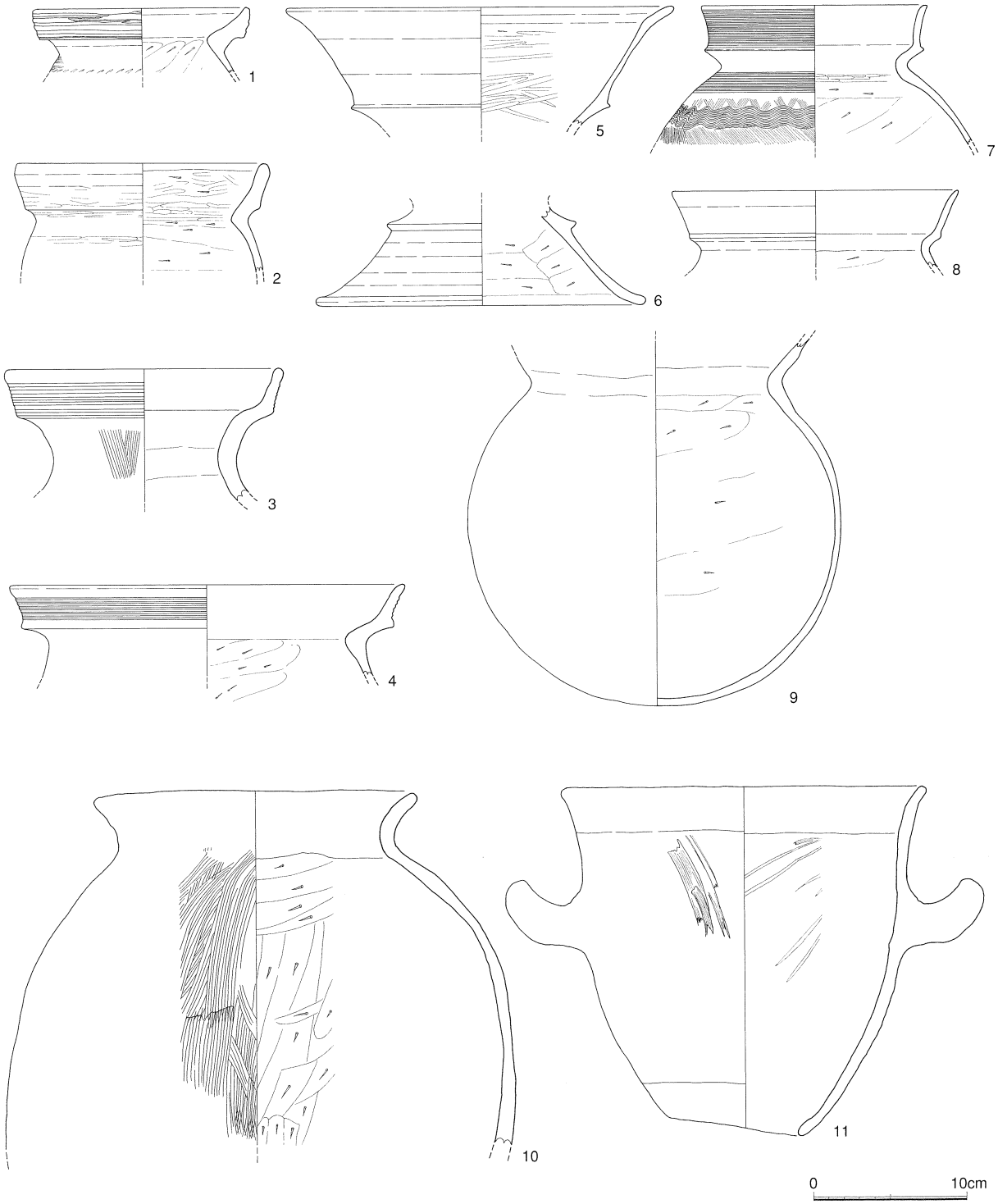


第111図　垣ノ内遺跡土器溜り１・２・３遺物出土状況図

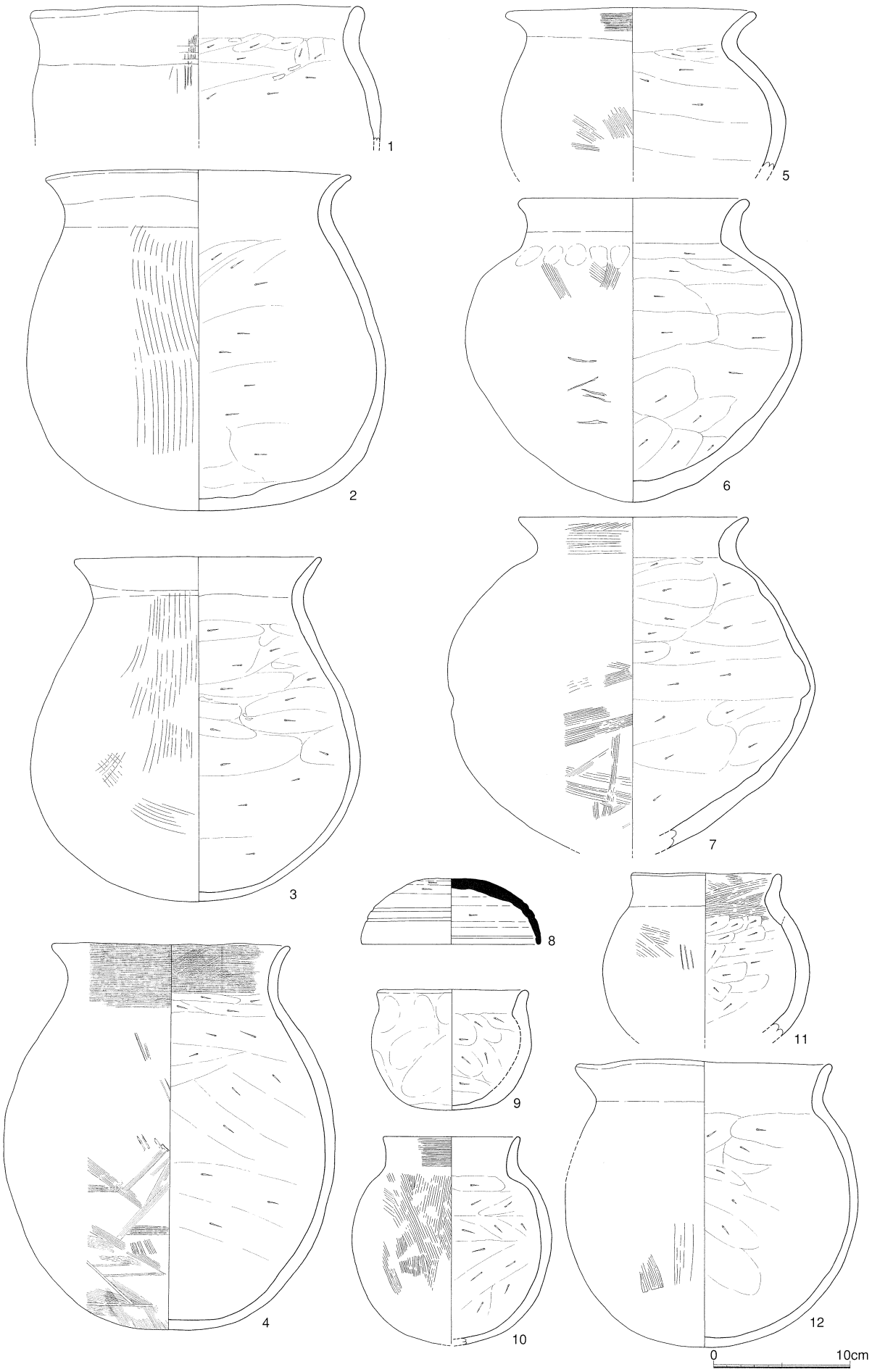
土器溜り１・２・３（第109～113図、図版82～87）

Ⅱ区の加工段１付近で検出した土器群である。調査の進行上３群に分けて取り上げたが、層位的にはむしろ２群に分かれる可能性が高い。弥生時代の甕、鼓形器台を含む一群と、須恵器、土師器からなる６世紀後葉から７世紀初頭の一群である。基本的に土器溜り１は前者の一群、２・３は後者の土器群であるが、調査段階では層位的な差を掴めないままに一括取り上げをしたため、土器溜り１にも６世紀後葉に位置づけられる土器が混入している。

土器溜り１は弥生時代後期から後期末を中心とする土器溜りである。前記の通り土師器甕が混じ



第112図　垣ノ内遺跡土器溜り１・２・３出土遺物１（S=1/4）



第113図　垣ノ内遺跡土器溜り１・２・３出土遺物２（S=1/4）

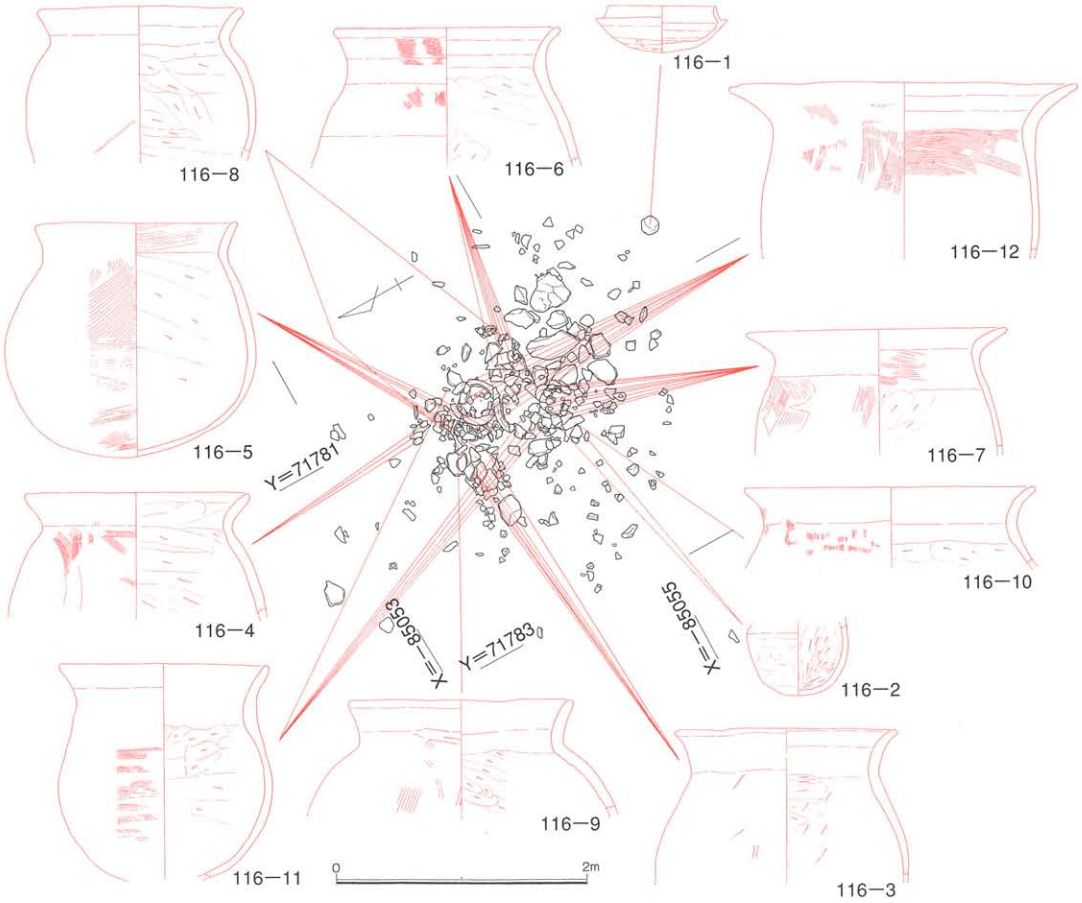
るが、第111図のように113－５、６、10は弥生土器群から離れて出土しており、層位を誤って取り上げたと考えられる。

土器溜り２・３は須恵器坏蓋と土師器甕、甑からなる土器群である。113－８は天井周辺に荒いケズリを施す坏蓋で、６世紀後葉に位置づけられる。土師器甕は113－７のような肩部の張るものと、113－２、３のように胴体下部が張る個体がある。これらも６世紀後葉から７世紀初頭の土師器と考えられる。

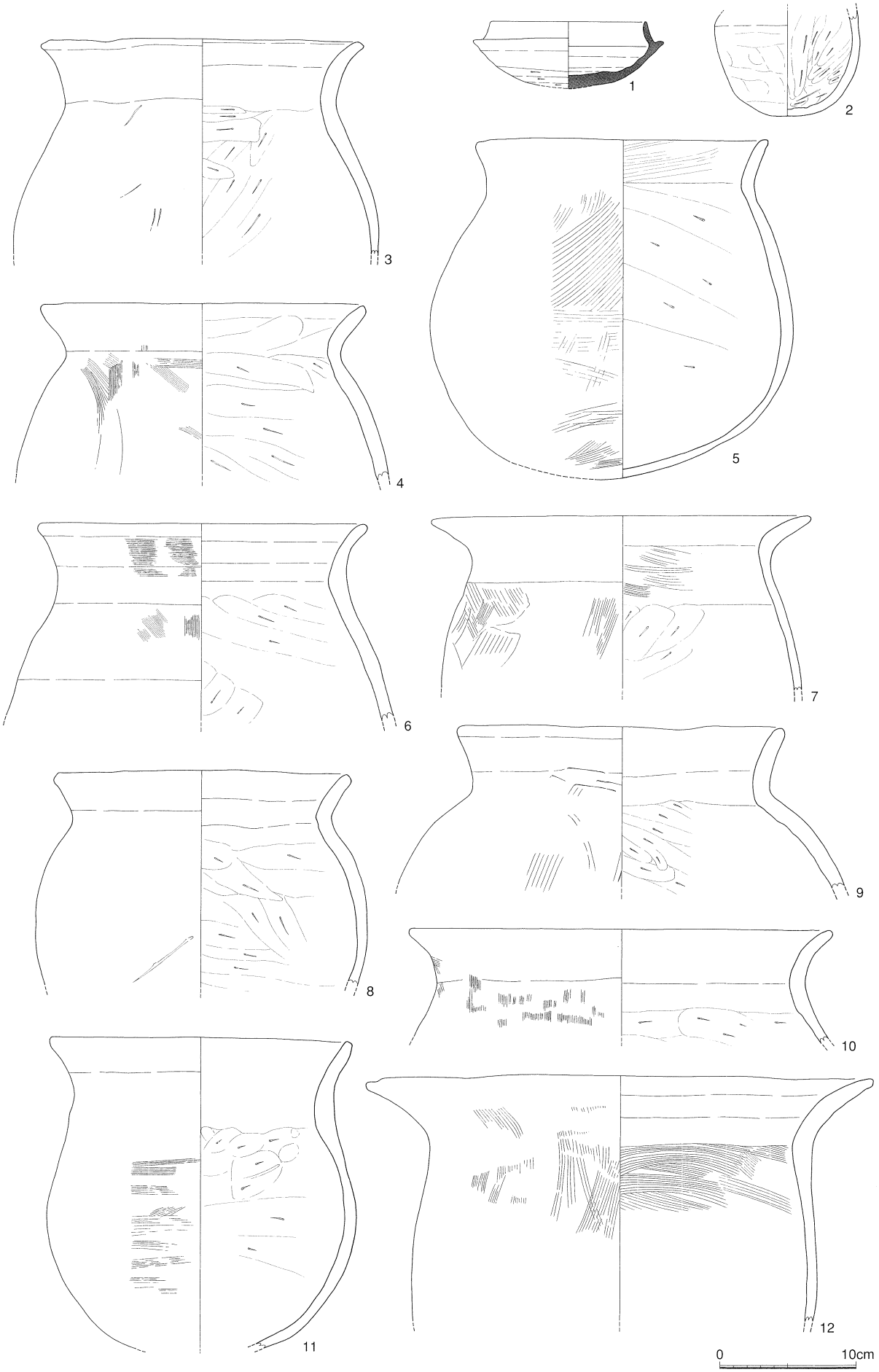
AKDD（第114～116図、図版87～89）

土師器甕を主体とする土器溜りで、AYD１の直上に位置する。10点ほどの角礫が上面をほぼ水平になるようにして並んでおり、甕類はその上に集積していた。しかしこの場所

第114図　垣ノ内遺跡 AKDD 実測図（S＝1/40）　0　2m



第115図　垣ノ内遺跡 AKDD 遺物出土状況図



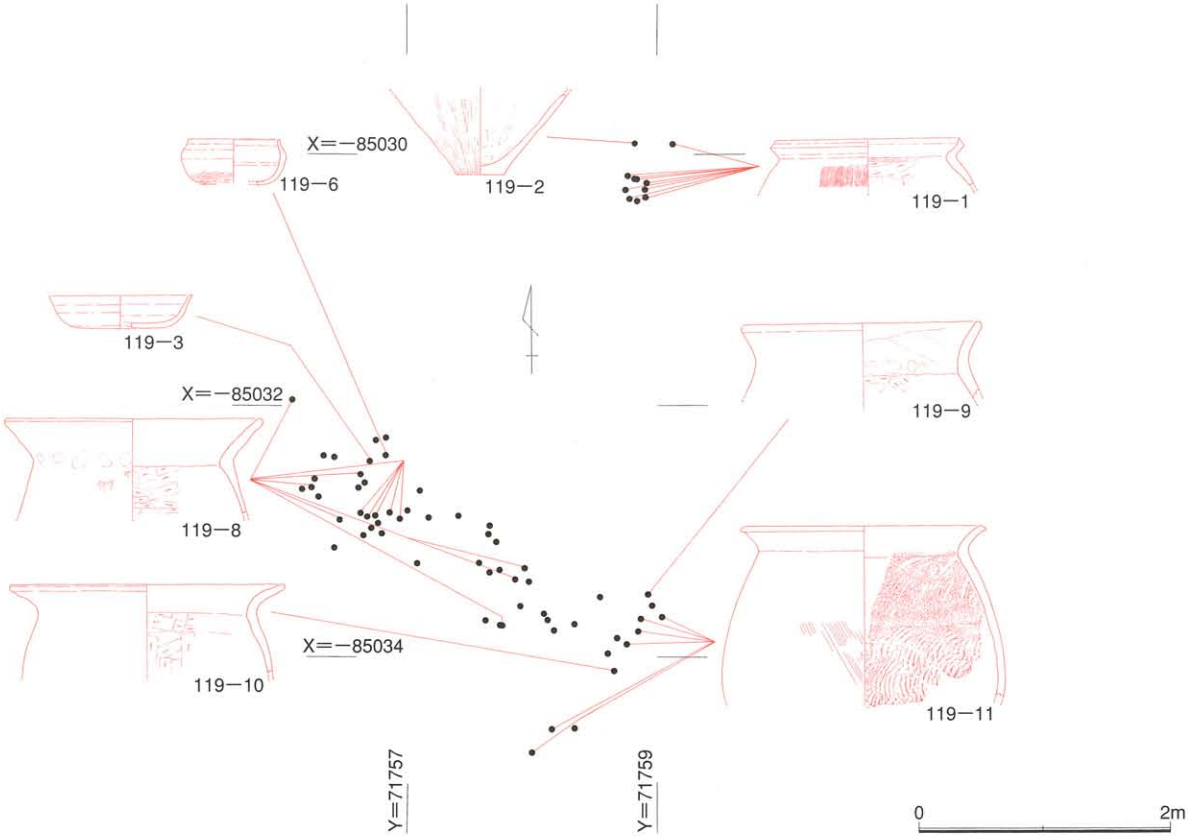
第116図　垣ノ内遺跡 AKDD 出土遺物（S=1/4）

のセクションでは、礫群はどの層位の面にも対応しておらず、掘り方も検出できなかった。そのためこの礫群が人為的なものとは判断できない。確実なのは、土器群と礫群がほぼ同時もしくはごく短期間に集積したことである。

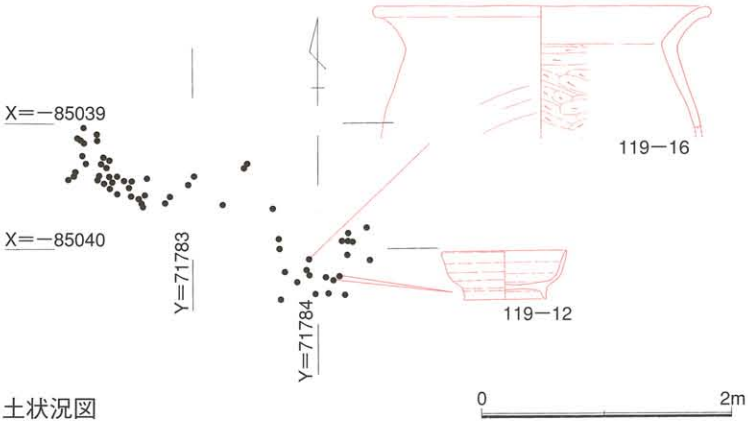
出土遺物は須恵器では坏身、土師器壷、甕があり、甕は口縁を下にして潰れている個体（5、12など）があった。1は焼成の悪い坏身で、表面の剥離が多く見られる。2は外面に赤色顔料を塗布する壷である。甕は口縁が直線的に開く胴の張らない個体（3、6、7、11）と口縁が緩く弧を描いて外反する個体（4、5、8、9、10）がある。6世紀後半から7世紀にかけての土器群といえる。

土器溜り4（第117・119図、図版89～91）

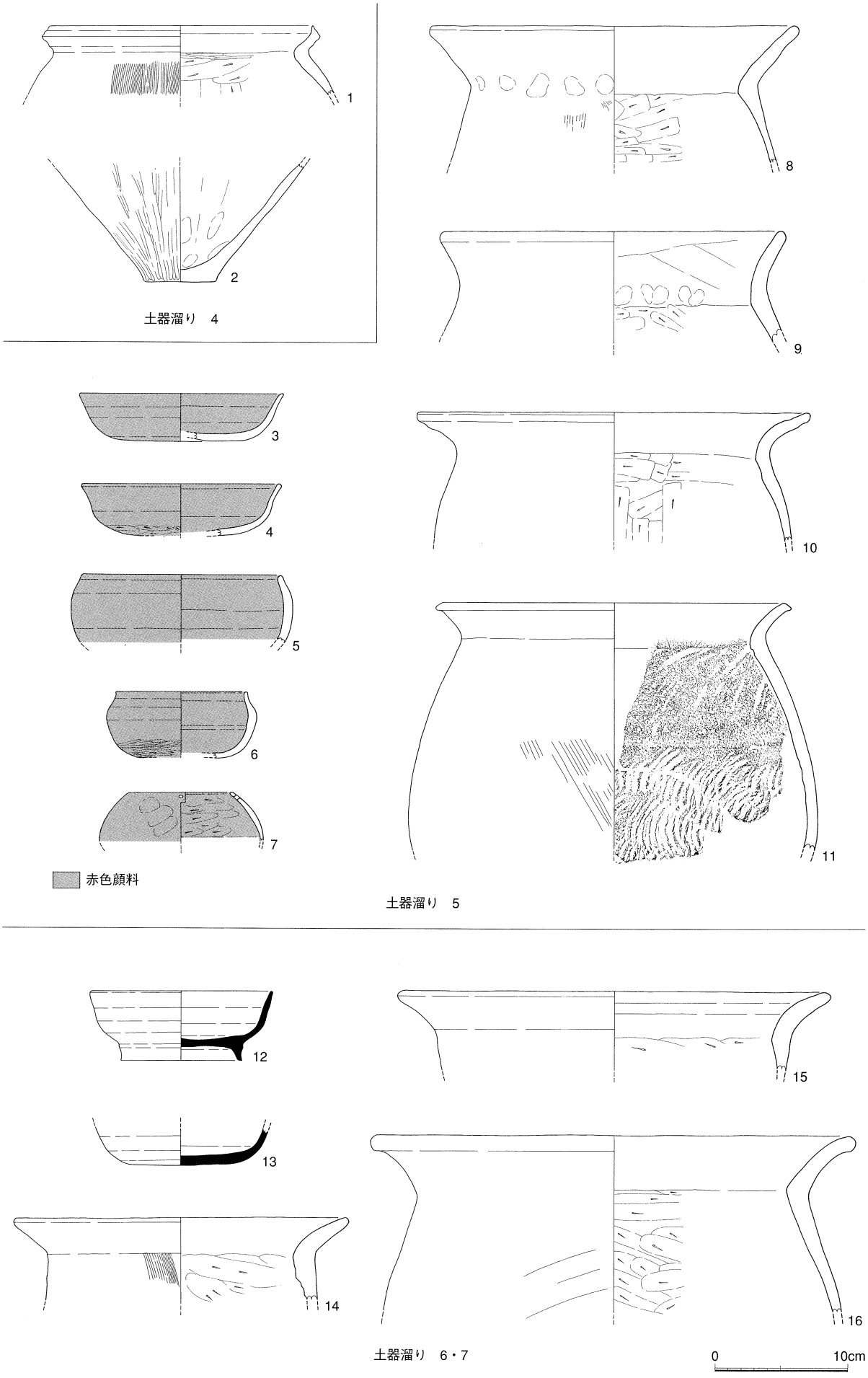
弥生土器からなる土器溜りで、接合したところ僅か2点に収まってしまった。1は頸部から口縁にかけてくびれが入る特徴的な甕である。内面は頸部下までケズリ、外面には刷毛目を入れる。後期初頭（V－1）頃と考えられる。



第117図　垣ノ内遺跡土器溜り4・5・6遺物出土状況図



第118図　垣ノ内遺跡土器溜り7遺物出土状況図



第119図　垣ノ内遺跡土器溜り４・５・６・７出土遺物（S＝1/4）

土器溜り５（第117・119図、図版89～91）

Ⅱ区に検出した丹塗り土器と土師器甕を主体とする土器溜りである。119－３～５は丹塗りの坏である。ヘラ切りあるいは糸切りの後、ケズリやナデ、不定方向のミガキを入れて底部を整形するものである。焼成後、全面に赤色顔料が塗布される。口縁部外面が横方向の丁寧な塗りであるのに対し、内面や底部は一定方向に勢いよく塗り上げる。こうした特徴は垣ノ内遺跡出土の丹塗り土器全般に見られるものである。これらの土器は、７世紀後葉から８世紀代に位置づけられる。７は口縁が内傾する壷であろうか。内面には丁寧なケズリが入り、口縁には補修孔が開く。

土師器甕は、口縁が直線的に開く胴の張らない個体で占められる。10は口縁こそ外反する形状であるが、胴部があまり張らないまま伸びる兆候が見られる。11では内面に同心円状のあて具痕が残る甕で、こうした個体は包含層も含め２個体確認されている。

土器溜り６（第117・119図、図版89～91）

Ⅱ区に検出した土器溜まりで、層位的には土器溜り５と同一である。個体数は５、６点で、図化できる遺物は３点（13～15）でしかない。13は底部回転糸切りの須恵器坏で８世紀中葉以降に位置づけられる。土師器甕は、口縁部が直線的に外へ開くもので、おそらくは胴部があまり張らずにバケツ状に下に伸びるものであろう。

土器溜り７（第118・119図、図版91）

Ⅰ区に検出した土器溜りで、須恵器の坏と土師器甕からなる。個体数は７、８点で、図化できる遺物は２点（12、16）であった。12は高台の付く坏で、回転糸切りの後、高台を貼り付けて軽くナデ調整を行うもので、８世紀中葉以降に位置づけられる。16はやや径の大きい甕で、口縁は直線的に開いた後、端部を玉縁状に丸く整形する。

第４節　包含層出土遺物

包含層の遺物は計400箱に及んだが、時間と労力の関係でこれらを細片にいたるまで分類整理することは難しかった。そのため時期と部位の判別可能な遺物をできうる限り摘出し、整理対象を約150箱まで圧縮した。これらを分類・集計した上で、代表的なもの、特徴的なものに限って掲載している。非掲載の遺物も分類した上で、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターで保管している。掲載遺物共々、今後の活用を期待したい。

縄文土器（第120～123図、図版92～98）

縄文土器は計約4,500点出土した。出土位置の分布では下布施川に近い低地部分（Ｂ区、Ｃ区）が圧倒的に多く、山側のⅠ～Ⅲ区では散漫であった。縄文時代の遺構は検出されず、出土遺物の時期幅は広いものの層位も細分できなかった。そのため遺物は分類の上で原則古いものから掲載している。

中期の土器は船元２式から里木２式の土器が出土している。総点数は約3,300点である。約3,150点が里木２式に区分される撚り糸の入る土器で、残りの約100点が縄文地の船元２式から４式である[註11]。撚り糸地の土器は、撚りの大小や施文方向の違いで細分可能であったが、今回は一括している。

後期では中津２式から崎ヶ鼻式までが出土している。中津式の土器は約10点、福田Ｋ２式から崎ヶ鼻式の土器が10点程度確認できた。この他に、時期不明の刺突と凹線を用いる無地文の土器が10点ほどあり、これらは船元３式の可能性もある。晩期では篠原式、谷尻式にあたる孔列土器と、突帯文土器が出土しているが、数点に過ぎない。

このように里木２式の土器量が突出しており、その前後に位置する船元式と後期前半の土器を合わせてひとつのピークが想定される。また後期後半の空白期を挟んで、晩期前半からは数こそ少ないものの土器が出土していることが分かる。粗製土器は後期から晩期のものが出土している。

第120、121図には中期の土器を掲載した。１～５、７は縄文地のキャリパー口縁を持つ深鉢で、１では口縁外面に半裁竹管による凹線が入る。２では凹線は曖昧だが端部にしっかりとしたナデを行っている。３、４は同一個体と考えられ、外面に縄文を施すもので、端部には横方向に縄文を入れている。５も同様に端部に縄文が入るが、縄目は不定方向にはいる。７は外面に指頭圧痕を連続して付けるもので、同じ場所に凹線が入るものと同系統の土器であろう。これらの土器は船元３式である。

６は粘土帯を外面に貼り付けて肥大させるもので、外面にヘラ状工具による刻み目が入り、端部と内面に縄文をいれる。この個体は船元２式と考えられるが、山陰特有のいわゆる波子式[註12]の範疇にはいるかもしれない。

８、14は半裁竹管による２条凹線を口縁に入れ、ナデ上げる個体だが、８では縦方向の凹線区画が加わり、14では凹線に押し引き気味の刺突を加えて変化を持たせている。船元３式Ｅ類にあたるだろう。10～12は半裁竹管による凹線が頸部に入る深鉢で同一個体と考えられる。大振りながら不鮮明な縄文が入る。船元３式Ｂ類である。９、13、15は特徴的な縄目の大きな縄文地を持つものである。口縁部と頸部には半裁竹管を用いた弧状のモチーフが連続して入る。船元３式Ｂ類である。

16は半裁竹管文や縄文の特徴から船元式の範疇に含めたが、口縁の肥大具合から見て後期の縁帯文土器になるかもしれない。17は繊細な縄文と半裁竹管の波状文が特徴である。船元３式から４式である。18は内外面とも縄文の波状口縁で、半裁竹管とヘラ状工具による多条の凹線が入る。船元３式Ｄ類である。19は縄文の入らない船元３式Ｅ類である。凹線と連続する刺突を入れる。20も同様に刺突が入るが、地文に１条おきに太さの異なる縄文が入る。船元４式に相当し、撚り糸地の里木２式への過渡期であろう。

21～24、第121図１～20は撚り糸地文の土器で里木２式にあたる。21～24はキャリパー口縁で、半裁竹管による波状文と連弧文が入る。口縁端部はナデ調整である。第121図１、２、５は交互刺突による特徴的な波状文が施される土器で、口縁の作りはやや薄い。３はＹ字形の粘土帯を貼り付ける。

６～11、20は波状文の入らないキャリパー口縁で、半裁竹管で横方向の凹線を入れるもの（６、９、11）と口縁外面をしっかり撫でるもの（７、８、10）がある。９、11は口縁外側を肥大させ、半裁竹管を用いて区画する。20は凹線区画内に刺突を施す。

12は縄文地に貼り付けた突帯上をさらに交互に刺突するもので、船元２式の範疇であろうか。

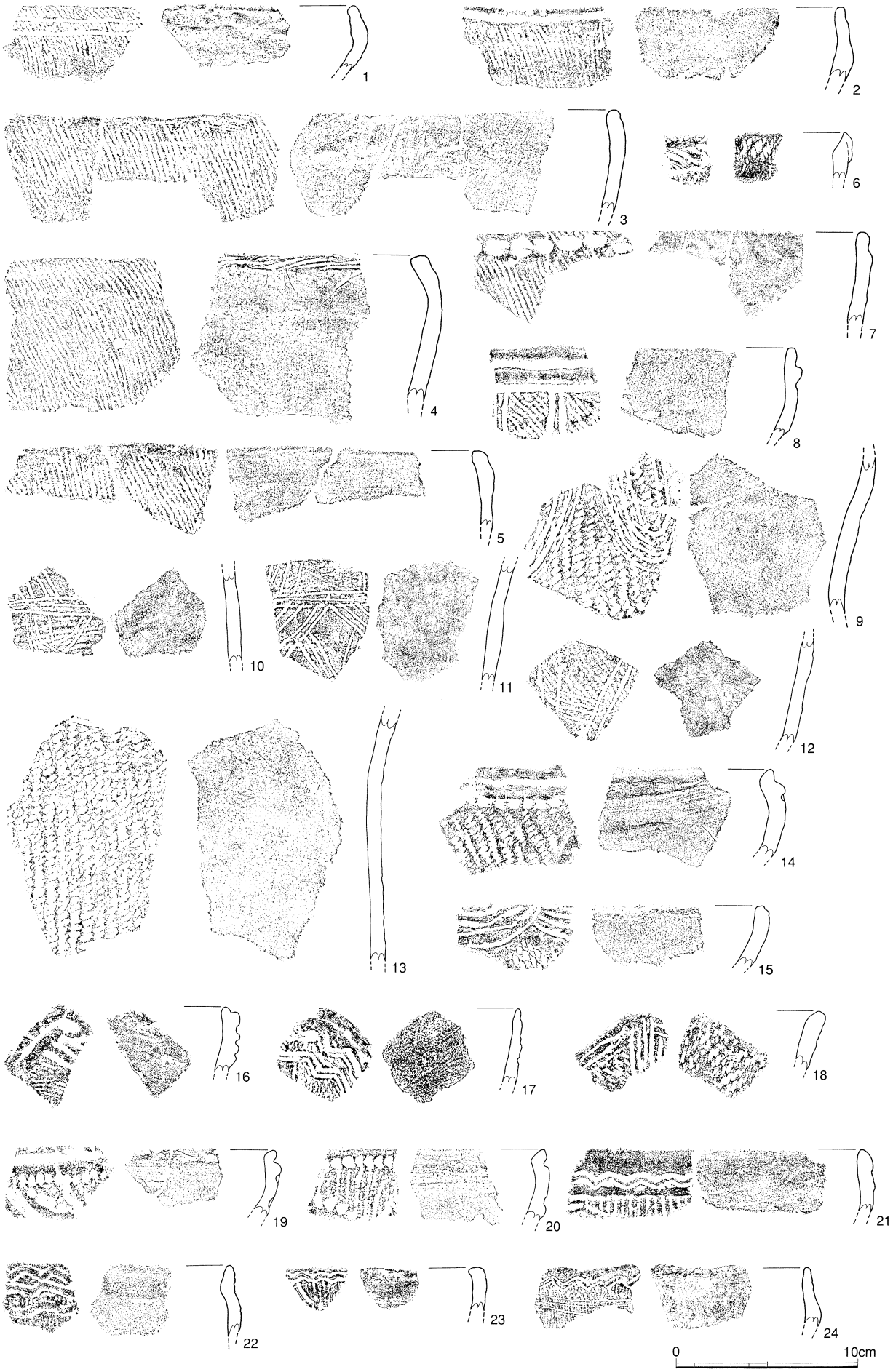
４、13～19は深鉢の頸部で、半裁竹管による連弧文が入る。18は他と撚り糸が異なるが、同様の連弧文を持つ。19は頸部に引いた連弧文の中のみ撚り糸地が残るもので、下位はナデ消している。

21～25は縄文時代後期前半の土器で、磨消し縄文を持つ中津式である。21、22は波状口縁の深鉢で、23～25はその胴部である。

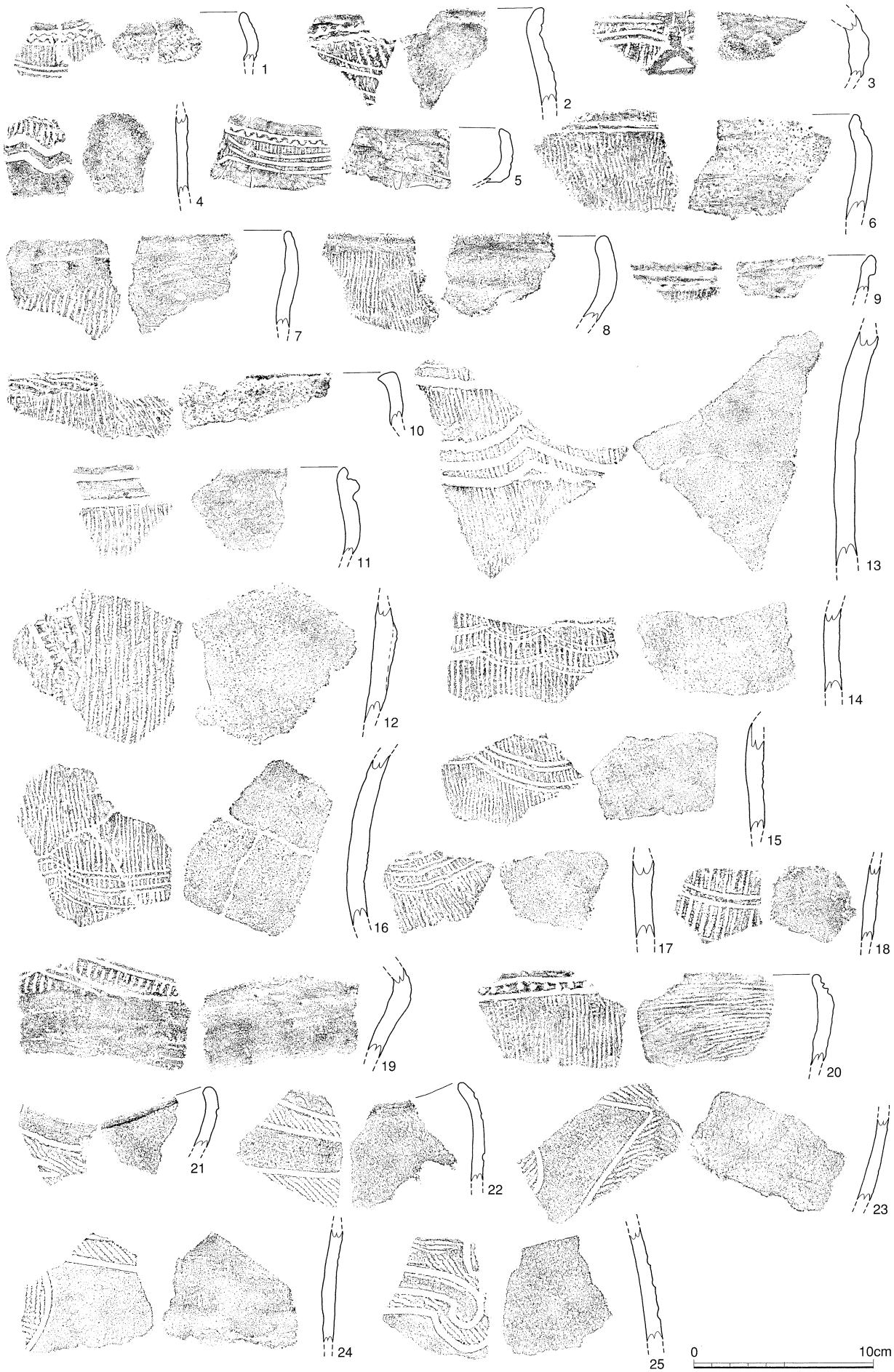
第122図１は頸部が大きく屈曲する鉢である。口縁内面はミガキ調整で、端部のみ刻み様に縄文が僅かに入る。頸部外面は丁寧に横方向のミガキをほどこし、縄文地の胴部とは明確に区別される。２は口縁が上方にせり上がる鉢で、外面に縄文を施す。崎ヶ鼻式の土器である。

３は縁帯文土器の波状口縁部で２条凹線を主体とする区画と渦巻き文が入る。凹線との関係が明確でないが部分的に縄文が入る。渦巻きの中心と口縁最下部に孔が貫通する。福田Ｋ２式並行の土器だろう。４は底部以外完全に復元できる個体である。２条凹線を用いたＧ字形と逆Ｇ字形モチーフが交互に並ぶ。それぞれのモチーフは上下で橋状に渡された文様帯で繋がり、蕨手状もしくは三角形状のアクセントが入る。（第122図展開図）頸部は胴部の磨消しと同様横方向の丁寧なミガキである。口縁端部はくの字形に肥大させ、外端部に二条の凹線を入れて、縄文を充填する。口縁には２か所の突起が付くが、一方は三角形状に大きく穴を開けて把手風に仕上げ、他方はやや小さく穿孔する。内面はナデとミガキである。口縁の断面形は福田Ｋ２式から布勢式への過渡的な形状であるが、頸部が無文化し、口縁部と胴部が完全に区分けされるなど、より布勢式に近い段階に位置づけられるだろう。

５～９は横方向の凹線を基本とする土器である。５、６は縄文地で太くしっかりとした凹線が３、４条入る。６では口縁内側に回り込んで縄文を入れる。これらは縄文地であるから、崎ヶ鼻式の土器であろう。７、８は凹線を四角もしくは長楕円にめぐらすもので、全面ナデ調整である。小破片のため形状は分からないが、丸く碗状に成形される精製浅鉢の可能性が高い。９は浅い沈線が４条横方向に入る浅鉢で、丁寧なナデを施す。晩期初頭の土器である。10はヘラ状工具もしくは小型の半裁竹管を用いた凹線と、円形の刺突が頂点に入るもので、口縁に段の付く晩期の浅鉢であろう。11、12、13は谷尻式の深鉢である。11は口縁外面に環状の突起を貼り付け、下に向かって浅い



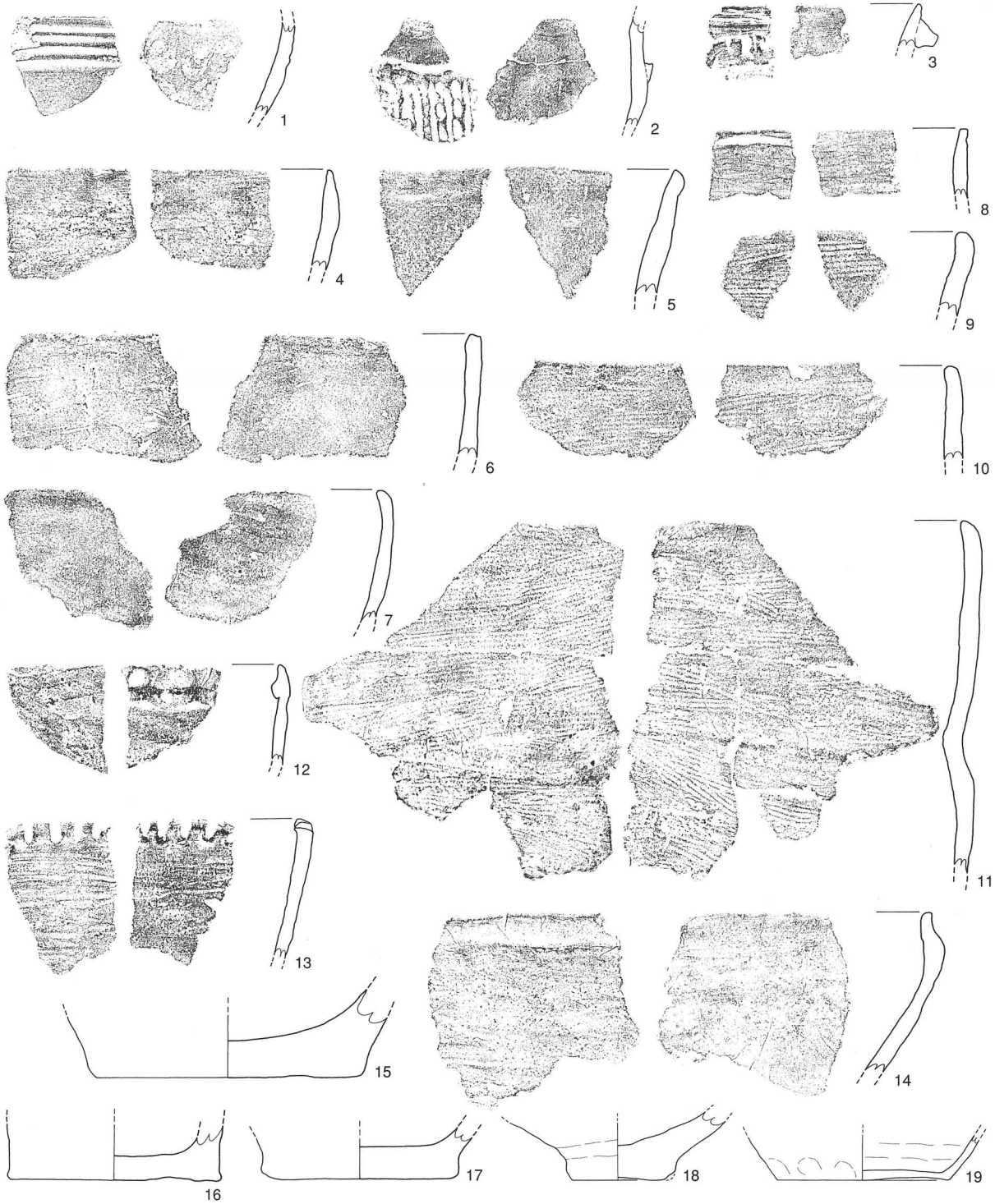
第120図　垣ノ内遺跡出土縄文土器１（S＝1/3）



第121図　垣ノ内遺跡出土縄文土器２（S＝1/3）

第122図　垣ノ内遺跡出土縄文土器３（S=1/3）

線刻を施す。口縁端部は稜をなで上げて溝状に凹ませる。12は貫通しない円形断面の刺突を口縁内側に入れる孔列土器である。13は口縁端部に方形断面の刺突を入れるもので、口縁外面に円形の突起を付ける。第123図１は外面に横方向の凹線を入れてから丁寧にミガキをする個体で、晩期の浅鉢のようである。２は時期不明の土器で、貼り付け突帯を境として縦方向のモチーフが入る。地文は無く、太めの凹線と刺突を組み合わせている。色調も他の土器とは全く異なり暗紅褐色で、胎土も含有物が少なく特徴的である。形態的には地文を持たず、凹線と刺突を多用する船元３式Ｅ類の深鉢に類似するものがあるが、可能性を指摘するにとどめたい。３は断面が台形状の突帯に刻み目を入れる突帯文土器である。



第123図　垣ノ内遺跡出土縄文土器４（S=1/3）　0　10cm

4～12は粗製の深鉢で、4～8は両面ナデ調整、9～11は貝殻条痕の調整である。条痕の入るものは晩期の深鉢であろうか。12は口縁の内側を肥大させて指頭圧痕を連続して入れる個体である。13は口縁端部に荒い刻み目を入れる深鉢で、晩期初頭のものである。14は粗製の浅鉢である。晩期初頭であろうか。

15～19は底部を集めた。15は撚り糸が入る里木2式の深鉢の底部である。16、17は貝殻条痕の入る晩期の深鉢の底部であろう。18は僅かに上げ底となるもので、外面は丁寧なナデが施されている。19は厚さの非常に薄い上げ底である。

弥生土器（第124～130図、図版98～111）

弥生時代の土器は中期後半（Ⅳ－2）以降の各時期の土器が出土している。この時期は、本遺跡において竪穴住居が構築され始める時期と合致する。また複合口縁の甕を主体とする古式土師器に入るものも出土しているので、ここでは弥生時代中期後半から一括して取り上げる。表11－1のように遺物量では中期後半の遺物が突出する傾向が強く、結果としてこの時期に多い高坏と広口壷の出土量が目立っている。

中期の土器（第124～129図、図版98～109）

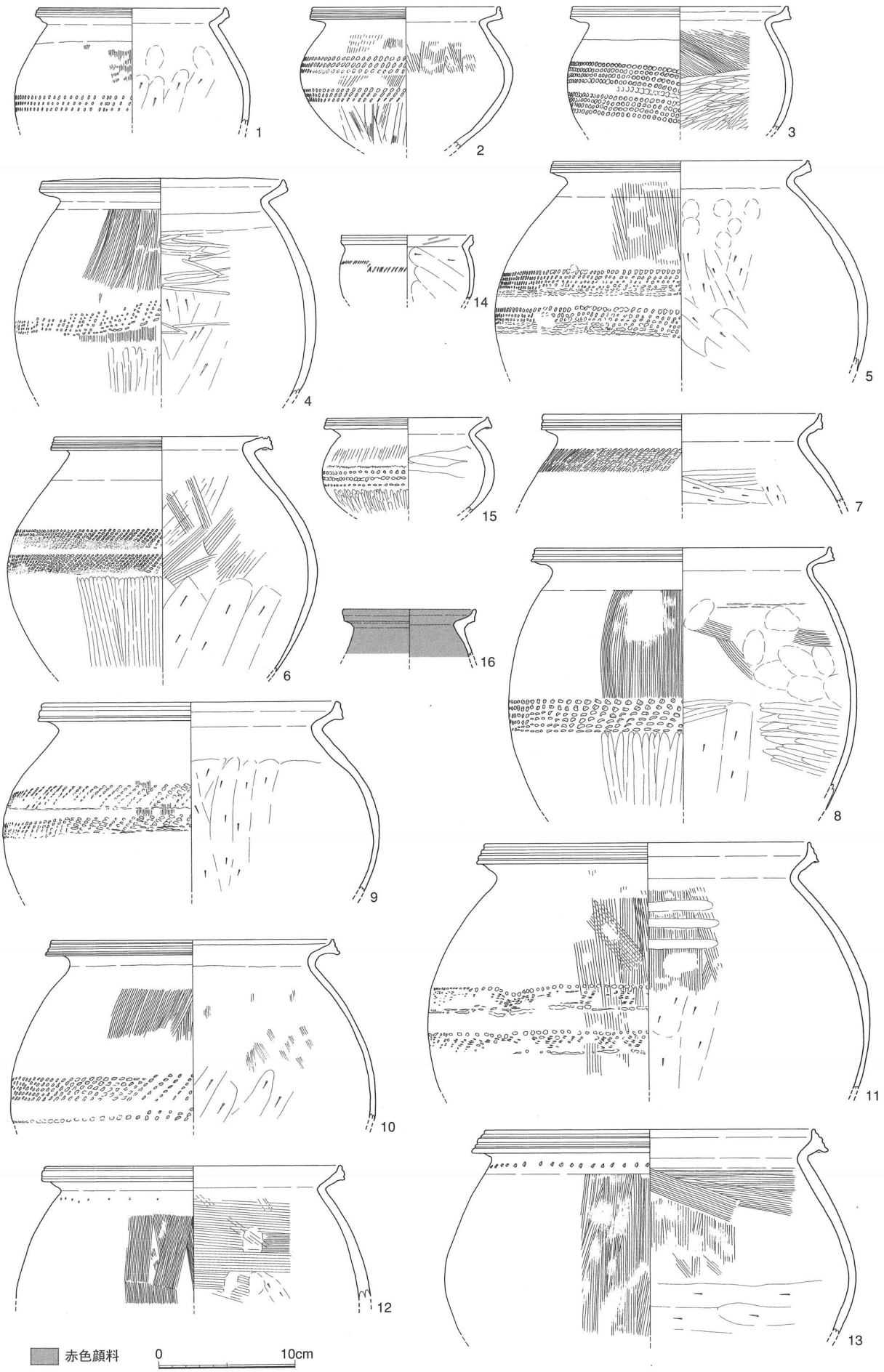
124－1～125－9には、中期後半の甕・壷類を挙げた。口縁端部には、凹線が2～3本入る程度の幅の狭い平坦面を作り出すが、上下あるいは上のみに僅かに拡張させる場合もある。胴部外面は頸部から胴部最大径付近までが刷毛目、以下底部まで縦方向のミガキを施す。胴部最大径付近には刺突列点文を2段入れる個体が多い。内面は胴部最大径以下に縦方向のケズリを残し、頸部までは刷毛目やミガキを施すが、最終仕上げにこれをナデ消す場合もある。最後に頸部直下を横にひとナデするのも特徴である。また、口径が10cm前後、15～18cm、21cm以上の3サイズに大別される。

125－1～9は頸部の貼付突帯に刻みを入れる個体である。ヘラ状工具で刺突するもの（1～3）、押し引き気味に刻むもの（4、5）櫛状工具を用いるもの（6、8）、断面長方形の工具で捻りながら刺突するもの（9）などのバリエーションがある。7は板材を斜め方向に連続して押し引きするもので、胴部の刷毛目と同じ工具を用いているようだ。

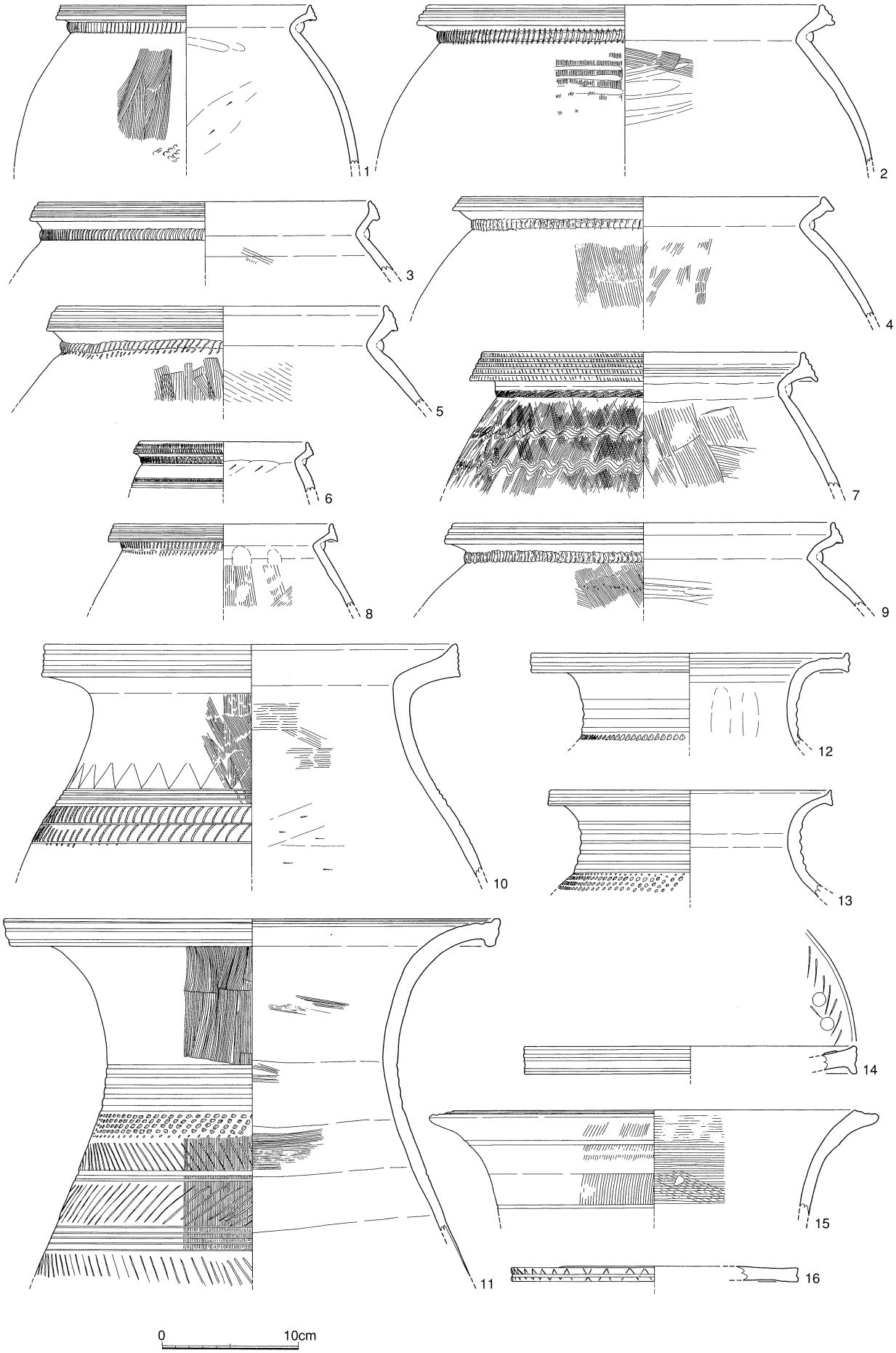
125－10～126－8は広口壷である。口径が30cmを越え、頸部を太く長く採るものが主体で、口径20cm前後の短頸のもの（125－12、13）が少数ある。口縁端部は垂直あるいはやや外傾させて凹線2～4条が入る。頸部内外面は刷毛目調整で、下部には多条の凹線を廻らして胴部と区分するものが多い。胴部文様には多条の凹線、貝殻刺突文、刺突列点文、羽状文、綾杉文を組み合わせている。125－14は口縁部内面に施文するもの、16は口縁端部にヘラ描きのX模様を施文するもので各1個体のみ出土している。

126－9～11は小型の壷類で、11は全面に赤色顔料を塗布している。12は中央に孔を貫通させる蓋、15～18は台付壷と低脚坏の脚部で、脚部外面に丁寧なミガキが入る。17、18は外面ナデ調整で、後期に位置づけられる可能性がある。20は注口土器片、21は甕片を用いた紡錘車である。22、23は用途不明の土製品で、22は土器片をオセロ駒状に整形した土製円盤、23は土製小玉である。

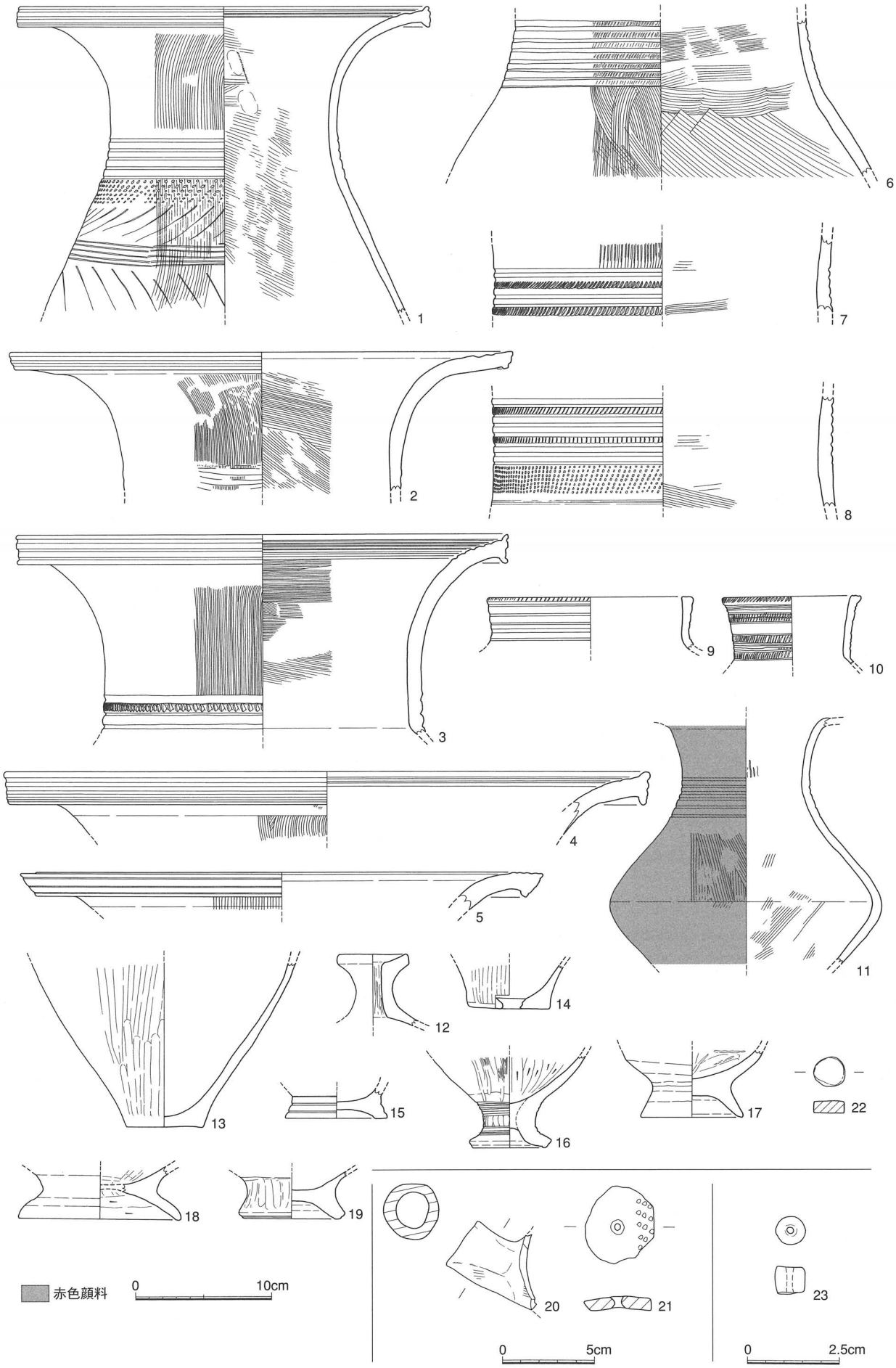
中期後半の土器で特徴的なのは、塩町式土器の影響を受けた個体（以下、ここでは塩町系土器・塩町系と記す。詳細は第5節を参照されたい。）が一定数見られることである。甕・壷類では約100



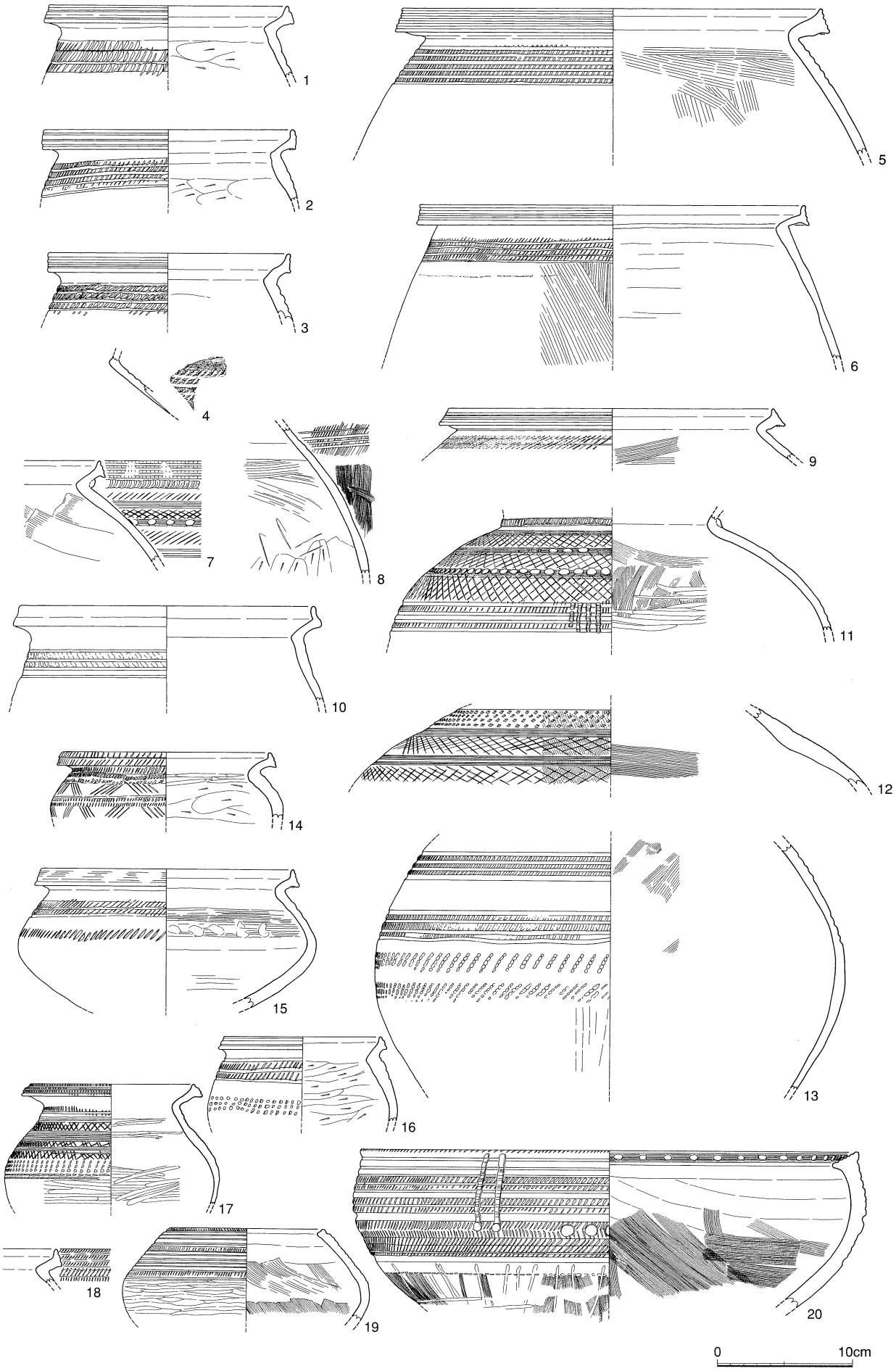
第124図　垣ノ内遺跡出土弥生土器（中期）1（S=1/4）



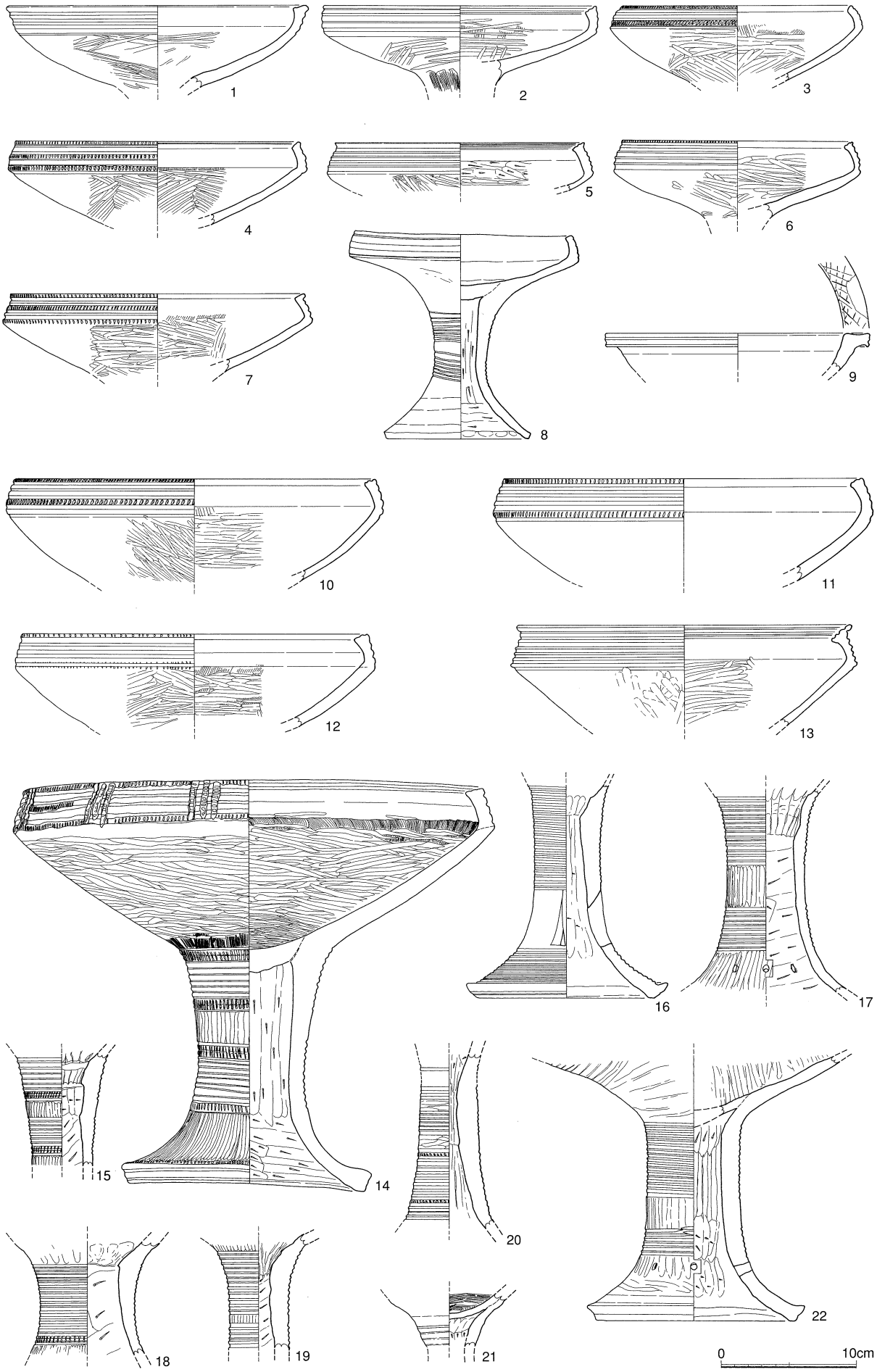
第125図　垣ノ内遺跡出土弥生土器（中期）2（S=1/4）



第126図　垣ノ内遺跡出土弥生土器（中期）３（１～19・22は S=1/4、20・21は S=1/3、23は S=2/3）



第127図　垣ノ内遺跡出土弥生土器（塩町系）4（S=1/4）



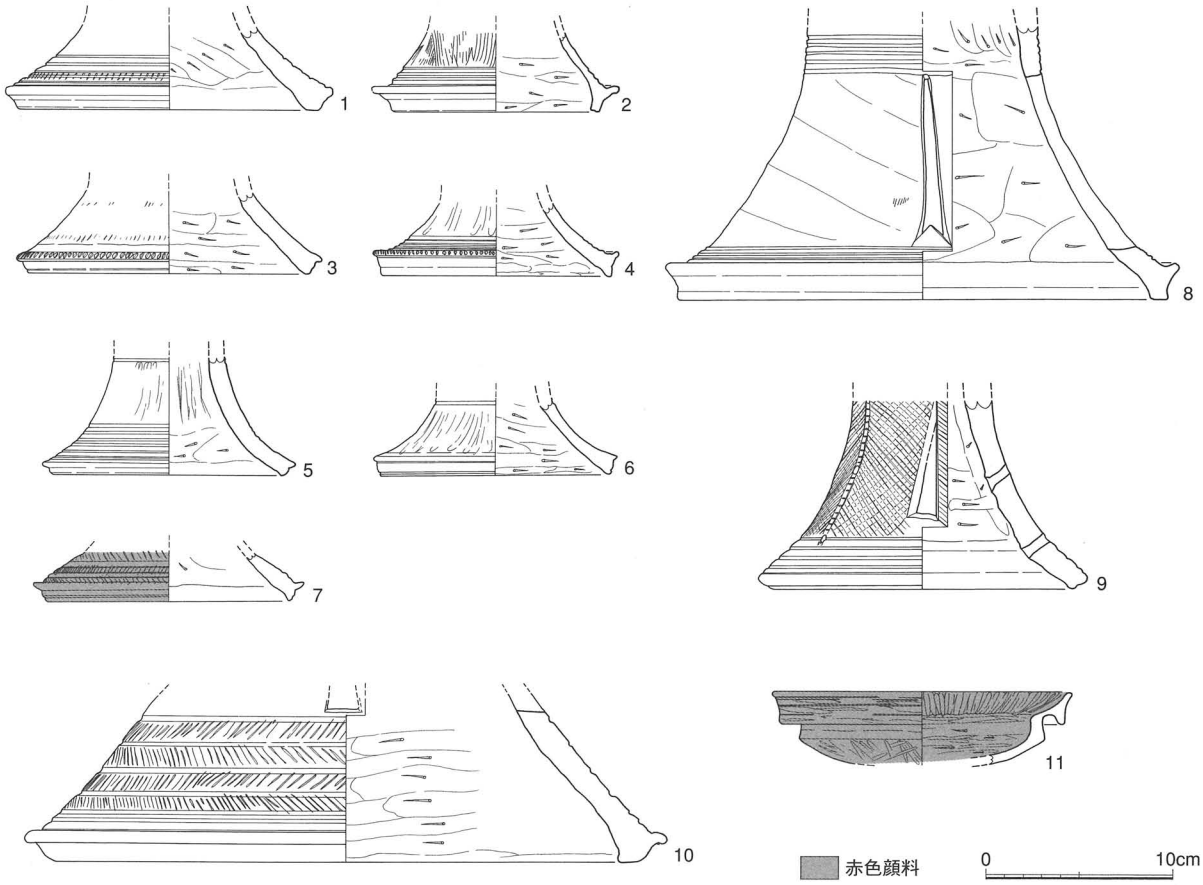
第128図　垣ノ内遺跡出土弥生土器（中期）5（S=1/4）

点が該当し、この時期の甕類の約1/5を占める。127には塩町系の甕、壷、鉢を並べた。最も一般的な甕は、頸部から肩にかけて多条の凹線と刻目文を入れるもので（１～６）、縦方向の刺突（もしくはヘラ描き沈線）を入れた後に、横方向の凹線を施す。縦方向の刺突は右上がりに傾斜するが、10のみ左上がりである。13は２段にわたって施文するもので、塩町遺跡出土の土器にも同様の個体がある。９は縦方向の刺突が倒れ、横方向の凹線も浅く施すものである。こうした塩町式土器を意識しながらも、他の工具を刺突に用いるもの、浅い凹線を２・３条入れるものなど形骸化した個体も多く見られる。円形浮文や棒状浮文、斜格子文などを組み合わせた個体は壷・鉢に多く、８、11では頸部にも貼付突帯を付加している。20は大型の鉢で、下部は出土していないが脚台が付くかもしれない。14、17、18は塩町式土器とは異なる加飾性の高い壷だが、刻目文や斜格子文を多用するなど塩町式土器の影響が垣間見られるものである。

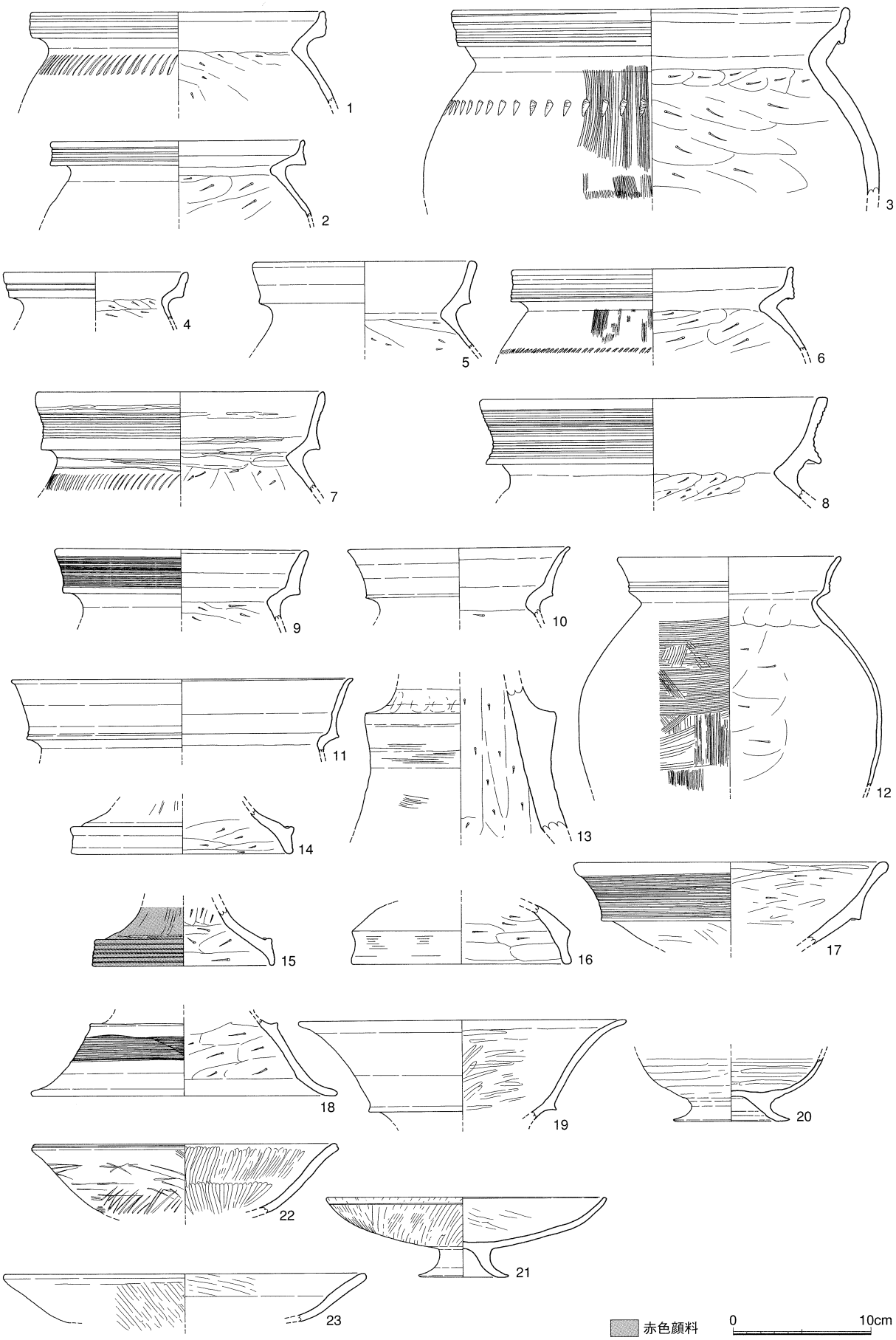
128～129はに高坏を挙げている。接合により全容の判明する遺物が少ないため、坏部、脚柱部、脚部でそれぞれ分類した。

坏部（１～13）は漏斗形に底を深くとるものが多く、口縁部はしっかりと内湾する。口縁部外面は全面に凹線を入れるが、さらに刻目を施す場合もある。刻目を施す位置や数には顕著な傾向が見られない（表11－１）。口径は16～20cmと、23～26cmの個体、30cmを超える個体がある。

14はほぼ関係に復元できる大型の高坏で、全面に丁寧なミガキを施す。坏部と脚部の接合の後、円盤で底に蓋をしてから脚部内面をケズる。（図版72参照）このサイズの高坏は、脚柱部のみの個体も含めて９個体（97－１～４、７など）出土している。９は口縁端部を横に引き伸ばす個体で、内面に斜格子文を入れている。形態から見て、やや古手かもしれない。



第129図　垣ノ内遺跡出土弥生土器（中期）６（S=1/4）



第130図　垣ノ内遺跡出土弥生土器（後期～古墳初）７（S＝1/4）

脚柱部（16～22）は多条の凹線を２群に分けて施文するのが特徴で、全面に凹線を入れる個体はない。空白部にはミガキを施すが、ここに刺突孔や透かしを入れる（16、17、22）ことも多い。口縁部と同様に刻目を施す個体もあるが、14、15、18のように２条を一括して刺突する場合もある。この刺突法は脚柱部にのみ見られる。

脚部（129－１～10）は、底径10～13cmと15cm前後のものがある。凹線と刻目を組み合わせて施文する。８～10は、サイズから見て台付壷や台付鉢、注口土器の脚台部である可能性が高い。８は矢羽根形の透かしが入る個体で、外面は赤色顔料を塗布している。９は斜格子文と円形・三角形の透かし孔を組み合わせるもので、内面には丁寧なケズリが施されている。10は底径30cmを超える大型の脚部で、綾杉文様の文様帯が描かれる。上段には三角形の透かしが入る。

後期以降の土器（第130図、図版109～111）

130には後期以降の土器を挙げた。１～９はV－１～３様式の甕・壷類である。この時期の土器は中期に引き続き比較的多く、壷・甕類で約150点ある。10～12は草田５～６期に相当する土器で、遺跡全体では約100点出土している。13～19は器台である。13は異様に厚さのある個体で、外面は刷毛目調整の後ナデを施す。内面のケズリは幅約2.1cmのしっかりとしたケズリである。形態的には器台に近いが、他に出土例が無く、用途不明である。16は口縁部のみ出土で、蓋の可能性がある。20～23は高坏および低脚坏で、草田６期に位置づけられる。

須恵器（第131～133図、図版112～118）

須恵器は６世紀後半から９世紀初めのものが出土している。分類および数量は表11－２を参照されたい。蓋坏、高坏、各種壷、瓶、甕などが出土している。

蓋坏、坏（第131図、図版112～114）

131には坏身、坏蓋を並べている。１～23は出雲３～５期の蓋坏で、14は天井部にヘラ描きの×印が付く。６世紀後半から７世紀前葉に位置づけられる。なお、７世紀代の主流である蓋にかえりが付くものは小片が多く、図化できたのは46のみである。扁平な輪状つまみを持つ蓋で、７世紀後半のものであろうか。タガ状の突帯が付く47とセットになる可能性がある。

24～47は７世紀末から９世紀初頭の坏である。蓋は輪状つまみと擬宝珠つまみのものがあり、口辺端部を下方に屈曲させるものである。坏は口縁が緩やかに内湾する個体（33、39～42）と、口縁端部が僅かにくびれる個体（32、34～38）、高台の付く個体（43～45）に分類される。底部の切り離しは、静止糸切りと回転糸切りがあるが、回転糸切りが多数を占める。切り離し後丁寧にナデ整形するため、判別できない個体も多い。

皿は高台の有無と、口縁の形態で分類される。口縁の形態は、やや外反するもの（132－１～３）と内湾するもの（２、６）に大別される。底部切り離しは糸切りを用い、大部分が回転糸切りである。８世紀中葉から９世紀に位置づけられるだろう。

８～10は出雲４～５期の低脚無蓋高坏で、以下瓶、提瓶、横瓶も同様の時期に位置づけられる。18～21は直口壷である。この器種は今のところ編年が明確になっていないため、位置づけが難しい。高台の付く17はやや後出であろう。

７は棒状に引き伸ばされた粘土の塊で、一端に環状に破断面が残ることから、皿もしくは鍋の脚部である可能性が高い。

鉢・甕（第132・133図、図版115～118）

132－22、23は鉢あるいは鍋であろうか。復元口径はそれぞれ32cm、36cmであるが、口縁が歪んでいることもあり、多少大きくなるかもしれない。全面に丁寧なタタキを施し、口縁端部はしっかりと横ナデを行う。砲球形で丸底の器形は類例が見つからないが、松江市連行遺跡のSD－06から同様に丸底半球形のものが出土している[註13]。鉢として掲載されているこの須恵器は、垣ノ内のものよりも底が浅く、２本の把手が付く。一般的な頸部を絞る甕と使い分けられており、その使用法も含めて今後の課題としたい。

132－23、24は甕の口縁で櫛描波状文が入る。このような長く伸びる大型の口縁を持つ破片は少なく、計３個体程度と思われる。133－１、２は最大径が60cm前後の甕である。３は加工段２の上層部から出土した個体だが、加工段を認識する以前に取り上げてしまったため、遺構との関係が明確でない。大甕の胴から底部で、上半部は全く出土していないが、132－23と同一個体かもしれない。

土師器（第134～137図、図版119～124）

包含層出土の甕、甑は非常に多く、胴部片なども含めると全体の約1/3を占める。甕類の口縁部数は152点、甑33点である。甑は把手数を集計しており、個体数はこれよりかなり少なくなる。土製支脚片は65点、竈片75点であるが、胎土などで分類すると個体数はそれぞれ約20個体、４～５個体と考えられる。

甕類、甑（第134図～135図、図版119～121）

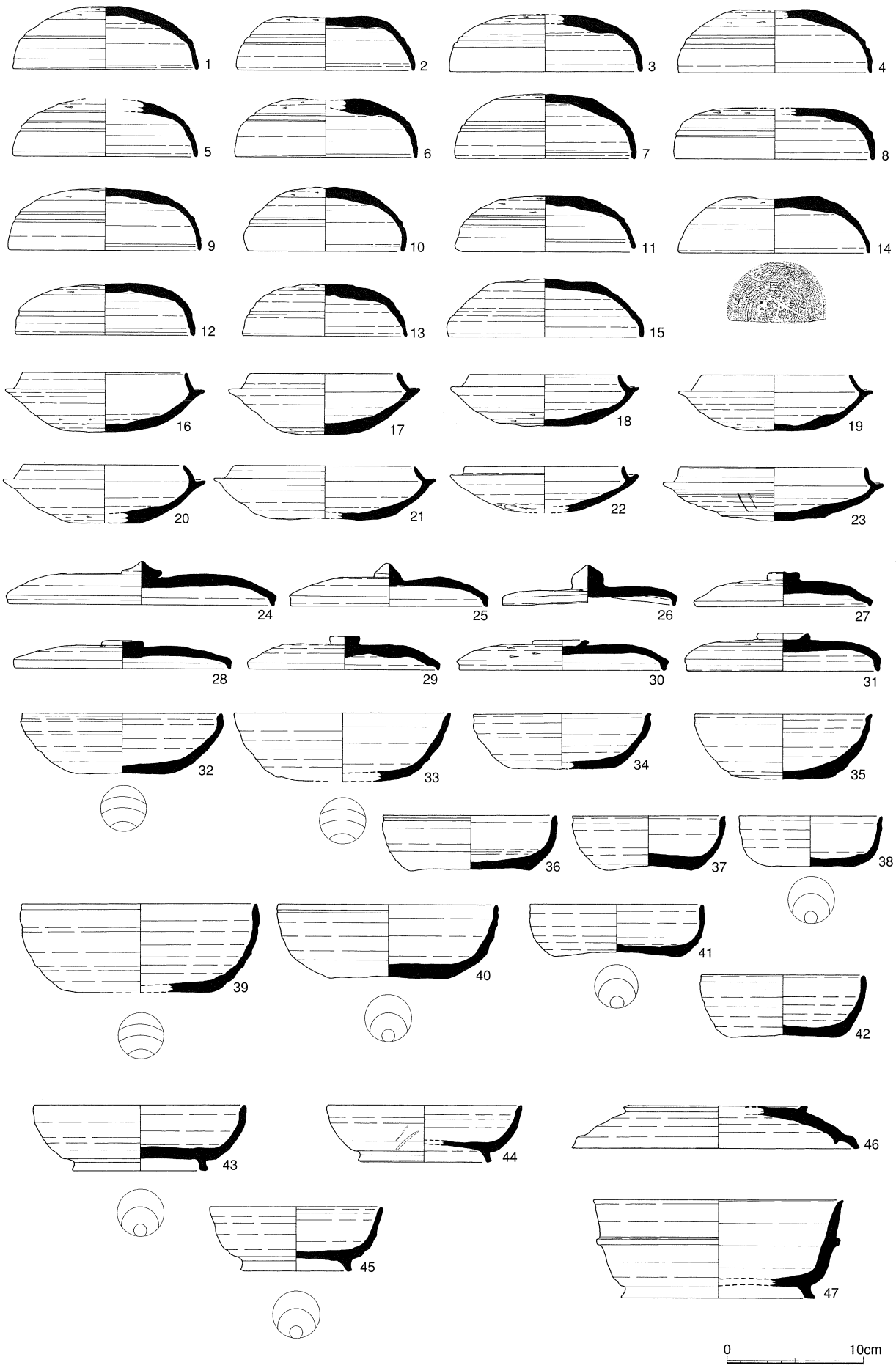
134－１～８、135－１は口縁が緩くカーブを描いて外反する甕である。胴部はしっかり張るものが多い。外面は口縁部を横ナデ、頸部以下に刷毛目を入れる。内面は口縁部を横ナデし、頸部以下をケズる。頸部直下まで深くケズることで口縁と明確に区別する個体（１、８）と、境界をナデて角を取る個体（２～７）がある。

134－９～12は口縁が角度を付けて屈曲する個体である。胴部はあまり張らず、内面のケズリを深く取り、胴部の厚さは薄手である。外面の調整は刷毛目だが、ナデが全面に及ぶため、大部分が消えている。

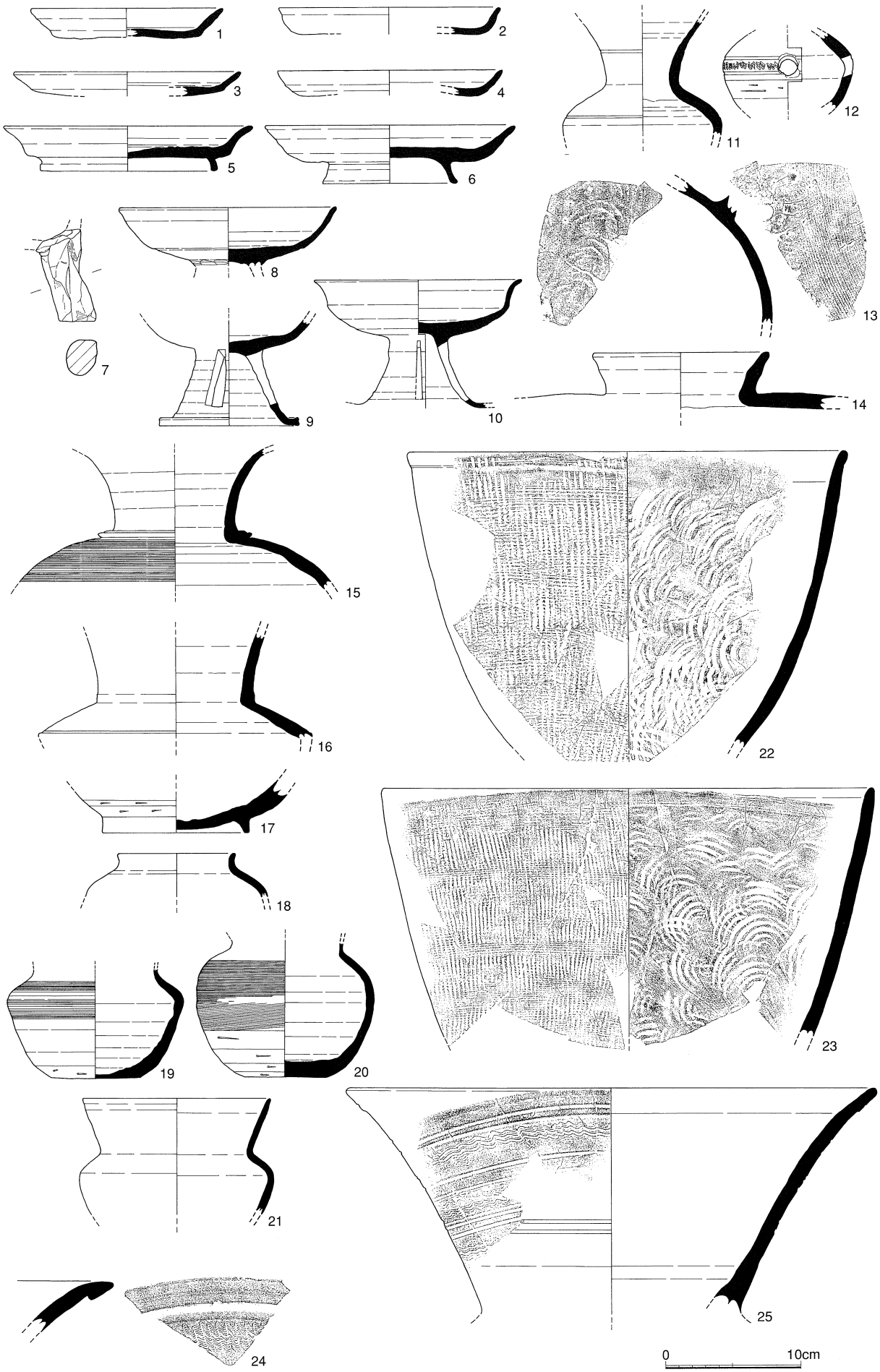
134－13は口縁があまり外反せず、胴も張らない甕である。内面のケズリも頸部まで上がらず、荒いナデで成形している。

135－２～５は小型の甕類である。口縁は外反するもの（２、４）と直口のもの（３、５）があるため口径は約12cm～20cmとばらつきがあるが、高さは20cm程度のものが多い。外面調整の基本はナデで、荒い刷毛目が入るものもある。内面は掘りの深いケズリで、厚さは薄い。

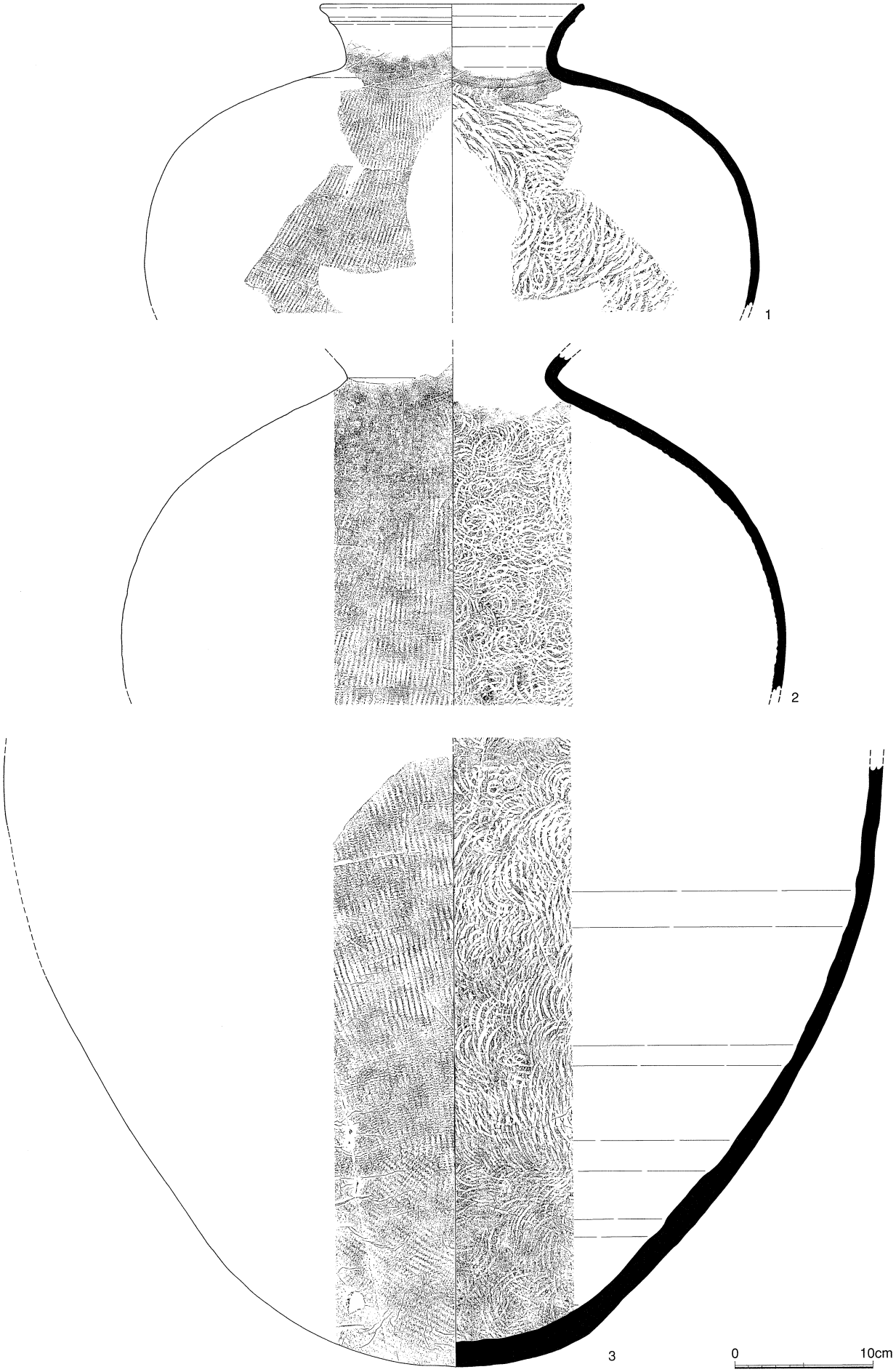
135－６～９は甑である。下部が直線的にすぼまる漏斗形の個体（８）と、胴部が張り気味の個体（６、７、９）がある。口径は22cm～26cmで、内面はケズリ、口縁はナデ調整である。加工段３出土の環状把手を除けば、出土した全てが突起形の握手を持っていた。



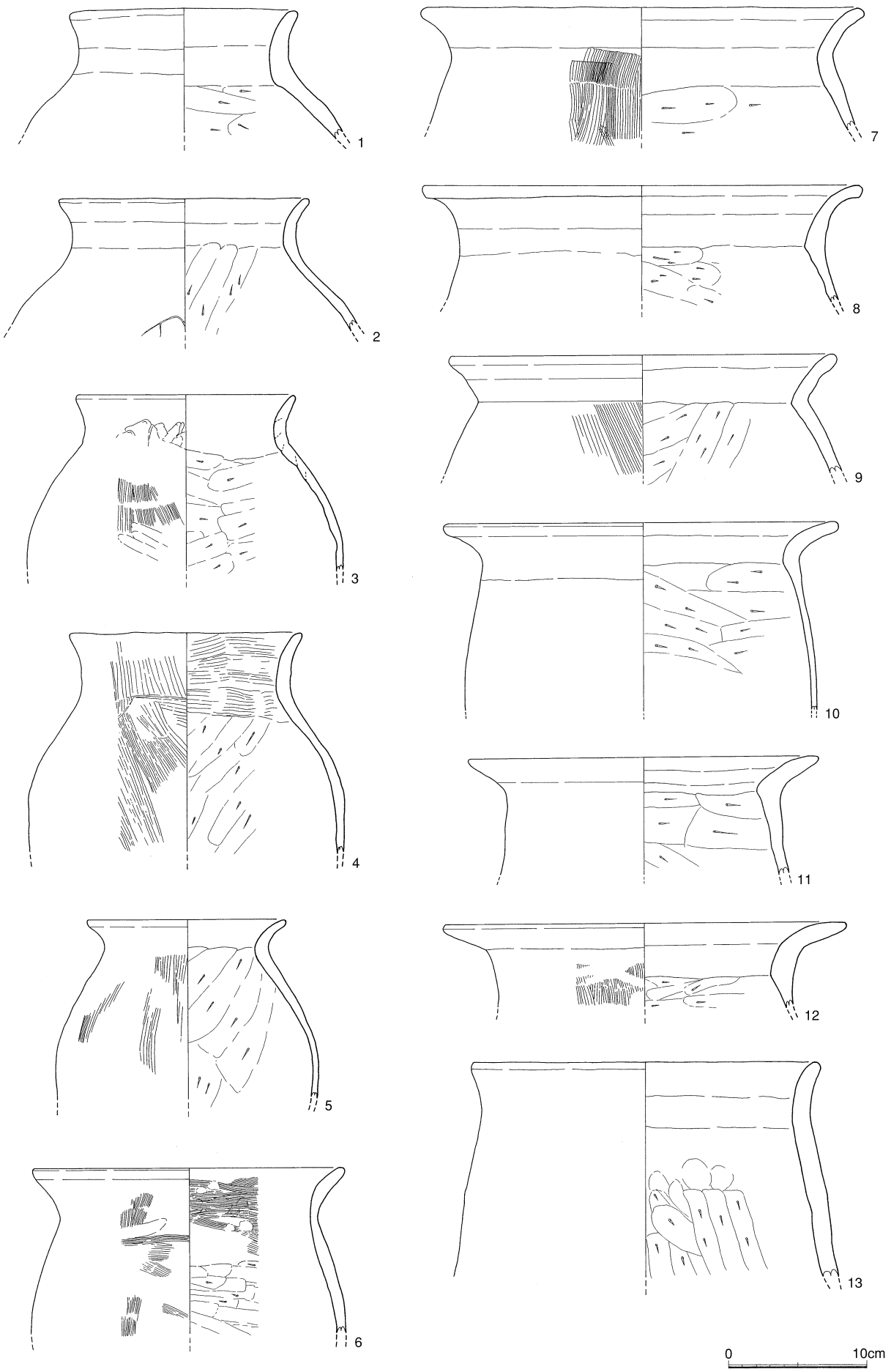
第131図　垣ノ内遺跡出土須恵器１（S＝1/4）



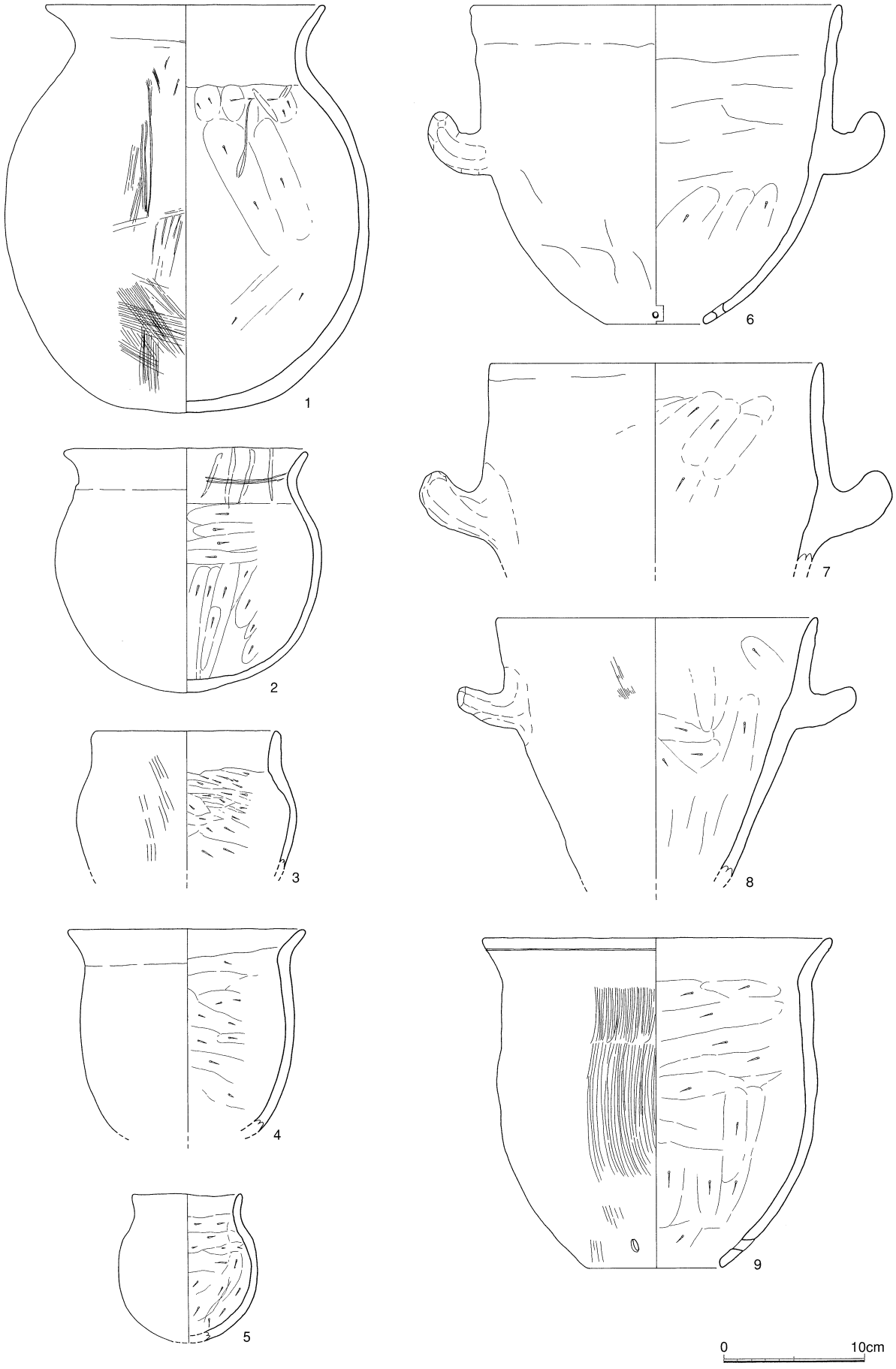
第132図　垣ノ内遺跡出土須恵器２（S＝1/4）



第133図　垣ノ内遺跡出土須恵器３（S＝1/4）



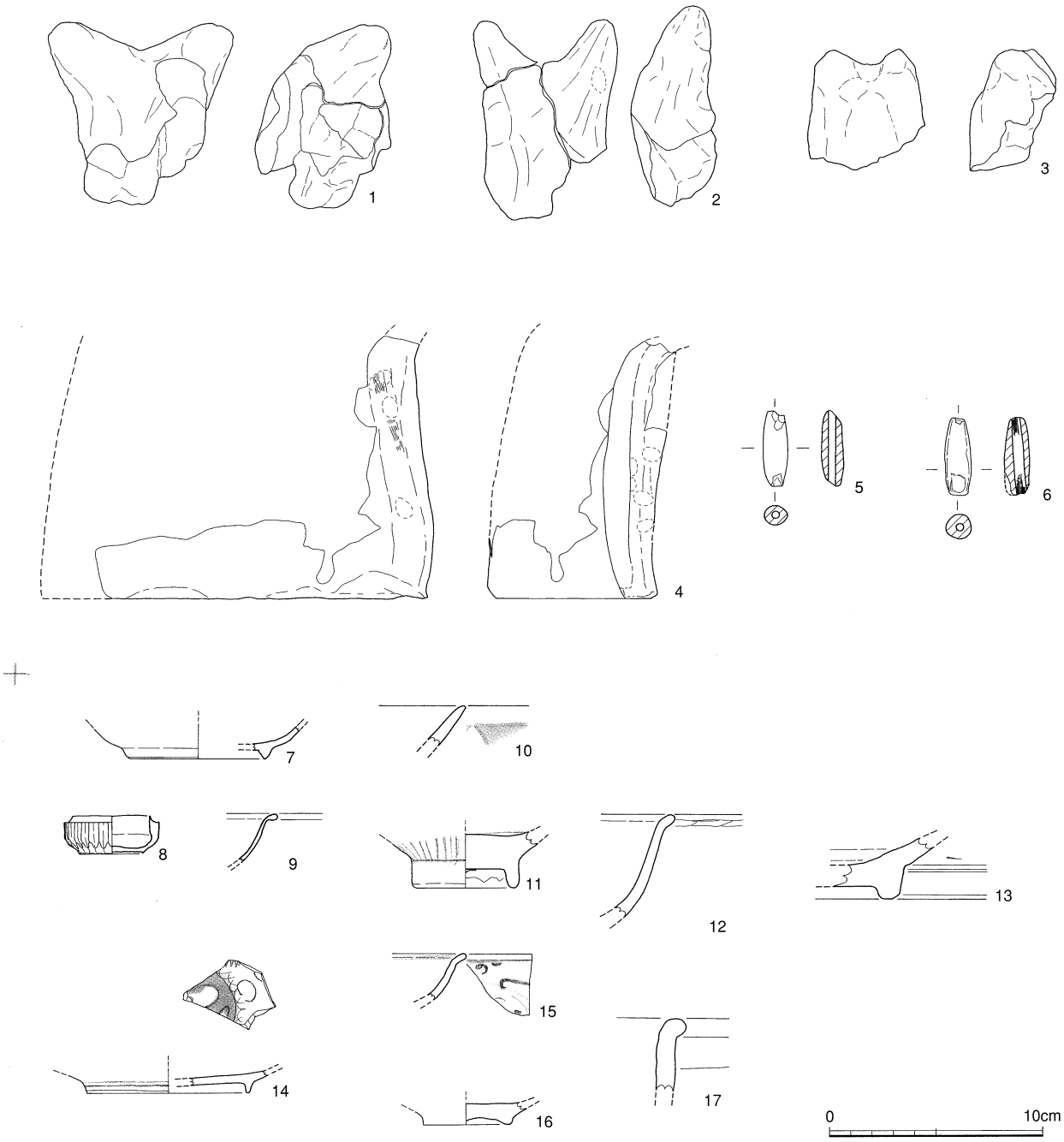
第134図　垣ノ内遺跡出土土師器１（S＝1/4）



第135図　垣ノ内遺跡出土土師器２（S＝1/4）

土製支脚（第136図、図版122）

136－１～３は土製支脚である。土製支脚は計65片出土したが、粉々に割れているものが多く、復元のできるものは僅かであった。個体数は胎土差や突起の数から20点前後と考えられる。復元できた個体はいずれも２本突起の支脚で、胴部は細めず、太く張っている。二本の突起は太く短いのが特徴で、３に至っては棒状の工具を用いて凹みを付けたに過ぎない。この形状では本来の２本突起の役割を果たし得ないと思われる。あるいは三脚を一組として使用したのかもしれない。背側に穿孔する個体もあるが、貫通はしていない。



第136図　垣ノ内遺跡出土土師器３・白磁・青花等（S＝1/3）

竈（第136図、図版122）

竈は少なくとも４個体確認できる。いずれも軒庇が付くもので、粘土帯を積み上げて成形し、内面をケズる。重量があるため、底部が潰れて肥大したり、歪んでいるものが多い。136－４はかろうじて復元できた個体で、軒庇は別付けである。

以上の土師器類は、６世紀後半から８世紀代にかけてのものと考えられる。加工段２の出土遺物を参考にすれば、胴の張る甕類と甑は６世紀後半から７世紀にあたるだろう。胴の張らない甕と漏斗形の甑は後出と考えられ、７世紀から８世紀代に位置づけられる。土製支脚、移動式竈は出土状況が散漫で、遺構出土の遺物が少ないため、甕、甑との対応関係は不明である。しかし土製支脚の突起が徐々に退化する傾向が見られることから、今後決定の目安になる可能性があるだろう。

土錘（第136図、図版123）

土錘は棒状のものが２点出土した。時期は不明である。

陶磁器類（第136図、図版127）

陶磁器類は総計コンテナ２箱ほど出土した。これらのうち18世紀以降の在地系陶器、石見、肥前系陶磁器が７割以上、備前が約１割である。17世紀代の肥前系陶磁器は１割弱で、砂目積のものは20点ほどである。16世紀までの遺物は24点ある。貿易陶磁器では13世紀頃と考えられる青白磁合子１個体、14世紀以降では白磁端反皿２点、龍泉窯系の青磁碗10点、青花端反皿・碗６点、李朝皿１点である。国産陶磁器等では、15世紀の備前壷１点、瓦質土器甕１点、美濃系天目碗１点がある。

136－７、９はＥ１類の白磁端反皿、10、12は14～15世紀の龍泉窯系の青磁碗で、10は連弁文が入る。11は15～16世紀の印花文の碗である。13は17世紀の唐津皿である。14、15は16～17世紀の青花碗、16は李朝皿の底部である。17は室町時代の備前壷の口縁である。

手づくね土器（第137図、図版122～124）

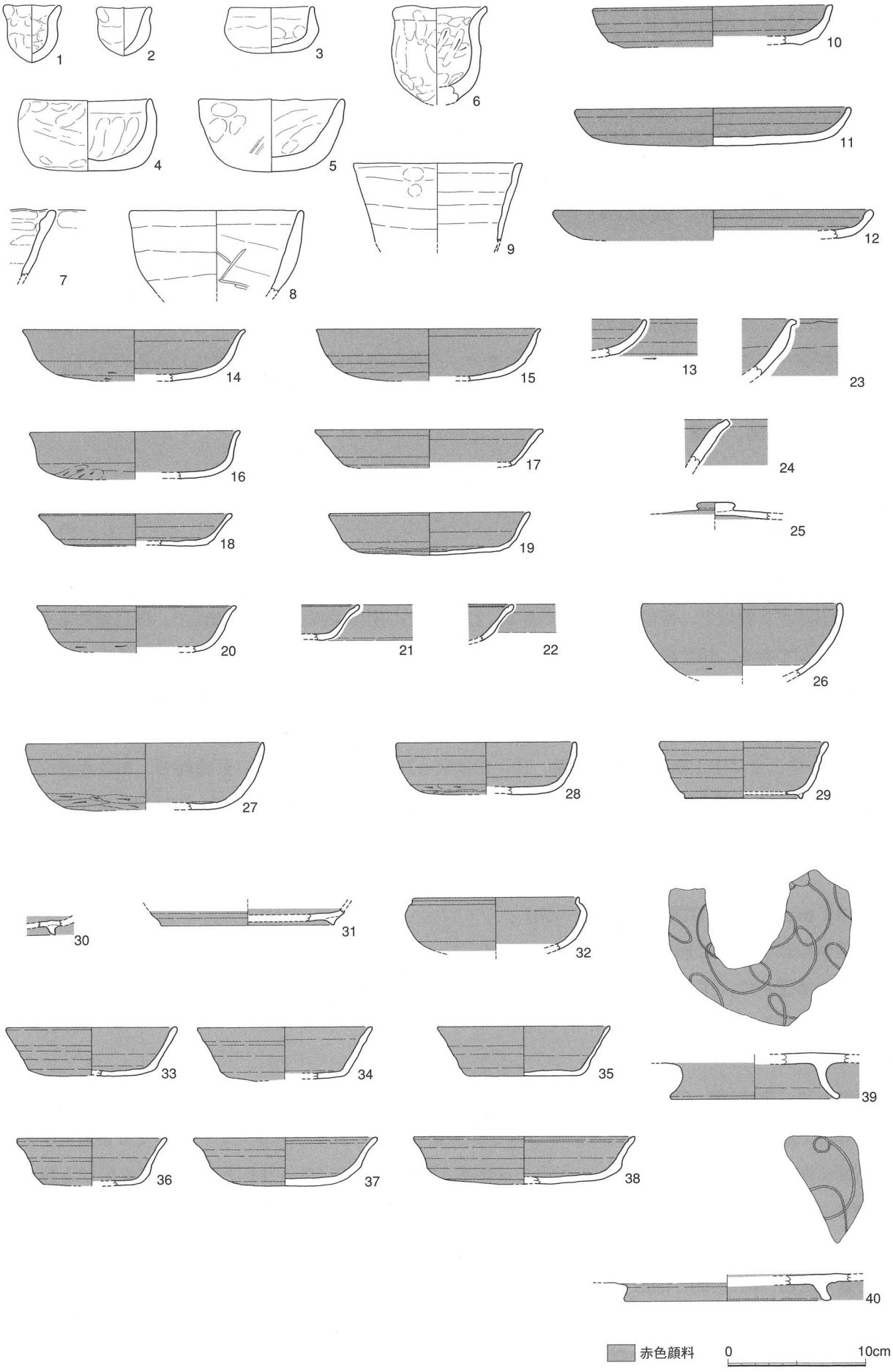
手づくね土器は二形態に分けられる。137－１、２、６は丸底で口縁が外側に開くものである。内容積は僅かで、作りも簡素かつ粗雑である。４、５は坏形のてづくね土器で、外面の調整は粗雑なナデを行う。これらの時期は不明である。

製塩土器（第137図、図版123）

製塩土器は計30点ほど出土している。非常に緻密な胎土で成形されるため、小片でも容易に区別が付くが、個体数はずっと少ないと考えられる。筒状の個体（７、９）とやや丸みを帯びる個体（８）がある。

丹塗り土器（第137図、図版123・124）

赤色顔料を塗布する土師器で、皿と坏が出土している。坏には碗状に口縁が長く立ち上がるものもあるが、坏と碗の形態差が明確でないため今回は坏として一括した。塗布する順序や、塗料の発色にも違いがあるようだが、今回は分類できなかった。出土数は口縁部や底部など識別可能な破片



第137図　垣ノ内遺跡出土手づくね・製塩土器・丹塗土器（S=1/4）

数を表11－２に挙げたので参照されたい。

皿（10～13）は復元口径17cmから25cmのものがあり、口縁は緩く内湾しながら立ち上がるものが多い。底部はヘラ切りの後ケズリやナデを施すものと、糸切り後ナデるものがある。出土したものはいずれも内外面に赤色顔料を塗布している。高台の付く皿（39、40）は、底部を一旦調整した後、坏に比べて高めの高台を付ける。内面には螺旋状の暗文が入る。

14～40は坏類である。坏類は高台の有無で２種類に分類し、さらに形態により幾つかに細分した。

高台のない坏は４種に細分される。

14～16、23、32は口縁が内傾気味に立ち上がり、端部に外向きのアクセントが付くものである。これらは底部縁辺にケズリを施した後ナデるものが多い。17～22、24は口縁が直線的に立ち上がるもので、底部は丁寧にナデる。20～22は口縁端部内側に沈線が入り、やや外傾気味に成形される。24では棒状の工具を用いて口縁内面を凹ませている。

26～28は碗状に口縁を内湾させるもので、底部は立ち上がり部を中心に丹念にケズリを施した後、ナデる。底部外面のみ赤色顔料を塗布しないものがある。

33～38は底部縁辺を押し出すように成形し、底部と口縁部が明確に区別される坏である。ロクロから切り離した後に底部を成形したようで、ナデ調整が念入りに施される。口縁外面にロクロ成形時の凹凸が明瞭に残るものが多い。復元口径は約11cm～13cmである。25は扁平なつまみの付く蓋で、出土した蓋は全てこの形のつまみが付く。

29、30、31は高台付の坏で、ロクロから切り離した後、高台を付けるとともに底部をナデる。

これらの丹塗り土器は三刀屋町馬場遺跡[註14]出雲市三田谷Ⅰ遺跡[註15]、松江市出雲国庁跡などで比較的まとまって出土している。時期は７世紀後半から８世紀代と考えられ、糸切りの底部を持つ個体は８世紀中葉以降に位置づけられる。

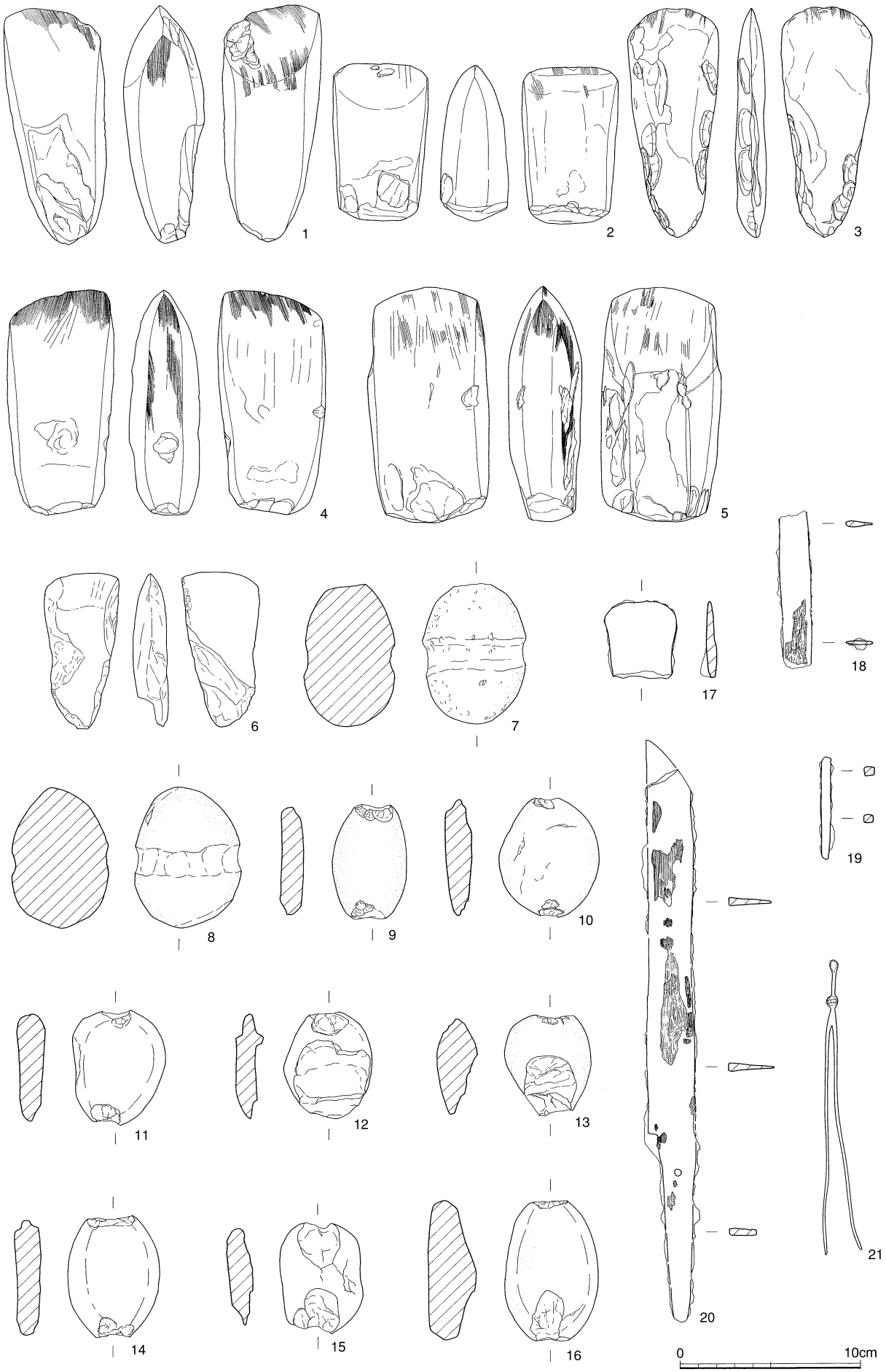
石器類（第138・139図、図版125～127）

石器類は表14～19、21に計測表を挙げた。縄文から弥生時代の石斧、石錘、石鏃、抉状耳飾り、スクレイパー、石匙、石包丁などがある。

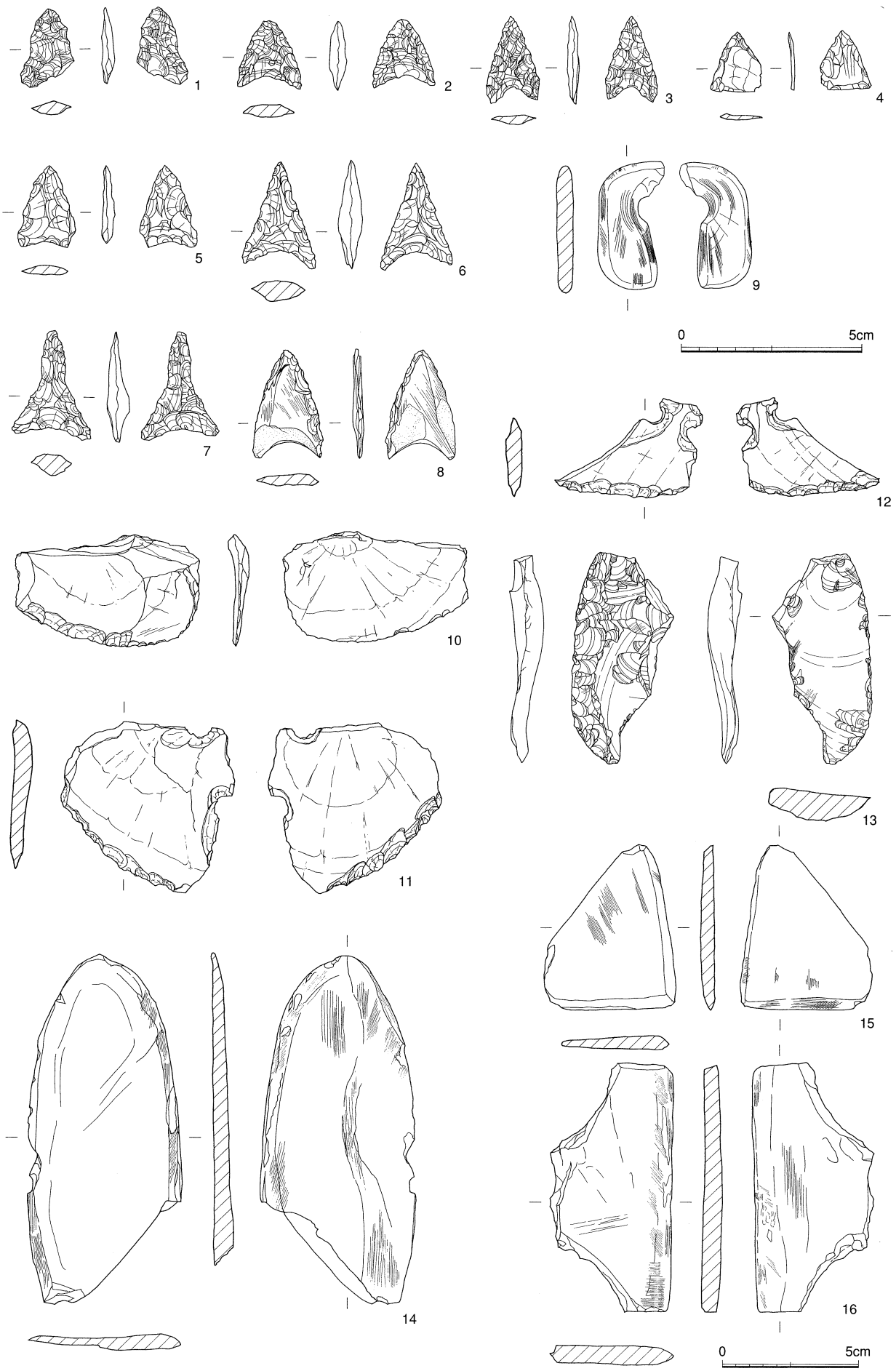
石斧類は11点出土している。乳棒状石斧、定角式石斧、太形蛤刃石斧があるが、138－２は破損後、楔に転用されたようだ。７～16は石錘で、129点出土している。有溝石錘と切目石錘があるが、全石錘の観察表は表19に、形態別割合はグラフ３に、重量別分布表はグラフ４に掲載している。有溝石錘は横方向に溝が廻るもので、弥生時代中期中葉以降に位置づけられる[註16]。

139－１～８は各種石鏃、10～13はスクレイパーと石匙である。石鏃は総数29点で、黒曜石製約45％、安山岩製約52％である。無茎凹基式と平基式があり、７は唯一チャート製である。８は両面に荒い磨きが入る磨製石鏃である。スクレイパーは３点で、黒曜石製と安山岩製がある。

９は抉状耳飾り片で、両側から穿孔ののち、丁寧に面取りしている。石材の詳細は不明であるが変成岩系の石を用いており、遺跡周辺では見られないものである。島根・鳥取両県での抉状耳飾り出土例は、同じの縦形のものが佐太講武貝塚出土のものがある。この他、サルガ鼻洞窟、佐太講武貝塚、目久美遺跡、岩泉遺跡などで横形のものが出土している[註17]。なお垣ノ内遺跡周辺では、平成14年度の調査で家の後Ⅱ遺跡から２点出土している。



第138図　垣ノ内遺跡出土石器１・鉄器（S＝1/3）



第139図　垣ノ内遺跡出土石器２（１～９はS=2/3、10～16はS=1/2）

第140図　垣ノ内遺跡出土銭（S=1/1）

14～16は板状の磨製石器で、石包丁であろうか。14は柳葉状の磨製石器で、刃部を除き片面の磨きが無いため未製品かもしれない。15は２辺に刃部を持つもので、刃部再生品の可能性がある。16は粘板岩系の石材を用いる両刃の刃器で、刃部は摩滅している。

金属製品（第138図、図版126）

金属製品はSI13出土の鋳造鉄斧をはじめ、刀子、短刀などが出土した。

17は板状の鉄製品で、断面が三角形に整形される。刃部の有無ははっきりしないが板状鉄斧の可能性がある。18は刀子と考えられ、両面に木質が良く残っている。19は断面長方形の棒状鉄製品で、両端が欠損するため全容は不明である。鉄釘もしくは鎹であろうか。これらの遺物は明確の時期は不明であるものの、層位的には中世以前に位置づけられるものである。

20は平作り、平棟の直刀で、加工段２の覆土最上面から出土した。切先を欠くが、残存長は30.2cmで、刀身部残存長は19.8cmである。片関と考えられるが、関付近に欠損があるため、両関の可能性もある。刀身部、茎部とも木質が良く残っている。こうした刀身長１尺以下で平作りの短刀は、平安時代以降に多く作られたとされる[註18]。

21は玉簪に分類される簪で、真鍮製である。簡素な作りであるが、二葉の松葉をモチーフにしており、小型の玉が付けられる。一端はこの種の簪に多く見られる耳掻き状に整形している。玉簪は江戸時代後半以降盛んに作られたが、こうした簡素なものは時期を判断することが困難である。

出土銭（第140図）

表20のように銅製寛永通寶が２点で、新寛永である[註19]。

第５節　まとめ

垣ノ内遺跡の調査結果は以上であるが、最後に時代ごとの成果をまとめつつ、若干の考察をしてみたい。

縄文時代の垣ノ内遺跡

第３節冒頭で記したように、縄文時代の遺構は全くなかったものの、包含層出土の土器は4,500点を上回った。大部分を占める中期の土器は、船元２式から里木２式に至る約3,300点である。このうち縄文地の土器は100点程度であり、後に続く後期前葉の磨消し縄文の土器が計10点程度であるから、撚り糸地の里木２式が圧倒的に多いことが分かる。遺構面を明確にし得なかったため不明な部分は多いが、遺物量を見る限り、少なくともこの時期に付近に集落が営まれていたことは間違いない。この地域の遺跡では、近年まで斐伊川支流の阿井川上流に位置する下鴨倉遺跡が唯一、中期の土器がまとまって出土した遺跡であり、里木貝塚と酷似するとされるその土器群は、この地域

が山陽と同じ文化圏にあたることを示す資料として紹介されてきた[註20]。近年の調査では垣ノ内遺跡をはじめ、木次町川平Ⅰ遺跡（第２図１）、家の後Ⅰ・Ⅱ遺跡（同図７、12）、仁多町前田遺跡（同図15）などから中期の遺物が出土しており、これらを踏まえた上であらためてこの地域の中期の様相を検討する時期に来ているだろう。

家の後Ⅰ・Ⅱ遺跡、原田遺跡、暮地遺跡は斐伊川本流の河岸段丘上に位置する遺跡で、後期以降でこそ竪穴住居や埋甕を伴う集落が確立するものの、中期の遺構は皆無である。下鴨倉遺跡、垣ノ内遺跡は斐伊川支流沿いの緩傾斜地に営まれているが、同様に遺物は多いものの中期の明確な遺構に欠ける。一方、谷の最深部や尾根上では、まとまった出土遺物はなく、集落を想定しうる遺跡は皆無である[註21]。このように中期の集落が想定される遺跡は、河岸の平坦地や緩傾斜地に立地し、後期以降も断続的に営まれるにもかかわらず、一定期間の定住を示す遺構に乏しいという傾向が読み取れる。中国山地では総じて中期の遺跡が少なく、前後の時期に比して低調傾向にある事を考慮しても、この時期に通年的な定住集落を求めることは難しいと考えられる。しかし出土遺物量を考慮すれば、各遺跡に人々がある程度の期間留まっていたこともまた明らかであり、季節ごとあるいは河川の出水にあわせて往来回帰する生活を想定できるかもしれない[註22]。

垣ノ内遺跡の弥生時代

垣ノ内遺跡では中期後半（Ⅳ－１）までの遺構・遺物はほとんど出土していない。約6,200㎡の調査で出土した前期の土器が４点という状況は、この地が完全に日常の生活圏から外れていたことを示している。平成14年度の調査で、北原本郷遺跡（第２図13）から弥生時代前期から後期に至る竪穴住居群が検出され、少なくとも斐伊川本流沿いにはこの時期の集落が存在する事が明らかになりつつあるが、現状ではその数は限られている。一方で平田遺跡（同図21）[註23]、暮地遺跡（同図17）[註24]横田町中山国竹遺跡[註25]などに見られるように、中期から後期にかけて遺跡が急速に増大することは明らかで、こうした集落の増加、居住域拡大の中で、斐伊川の一支流沿いに過ぎないこの地に新たに集落が誕生したと考えられる。

垣ノ内の集落は中期後半（Ⅳ－２）に興り、弥生時代後期末までに15棟の竪穴住居と１棟の小型竪穴建物、いくつかの掘立柱建物が次々に建てられる。時期を把握できる建物に限れば、同時に存在した建物数は最大でも５棟程度（中期後半）で、後期の大部分は数棟程度の規模に過ぎないが、弥生時代後期末に至るまで連綿と集落が継続したと考えられる。それぞれの配置について見ると、後期後半に位置づけられる竪穴住居は比較的標高の高い緩傾斜面に構築され、掘立柱建物群が下段に構築されるのに対し、中期に位置づけられる竪穴住居は、小型竪穴建物を含めて比較的標高の低い川寄りに建てられる傾向が見て取れる。SI13は中期の竪穴住居としては唯一山寄りに位置するが、推定復元される規模は他の住居に比べ大型で、鋳造鉄斧が出土するなど、集落の中でも中心的な位置を占める建物であったと考えられる。

塩町式土器について

垣ノ内遺跡の弥生土器で注目されるのは、塩町式土器と呼ばれる加飾性の強い土器が、比較的まとまって出土したことである。塩町式土器は潮見浩氏によって1964年に設定された土器である[註26]。広島県三次市塩町遺跡の土坑出土一括資料をもって設定されたもので、第Ⅳ様式の土器として位置

づけられている。近年では1992年に妹尾周三氏が細分案を示した[註27]ほか、伊藤実氏の精力的な研究がある。塩町式土器は壷、甕、台付鉢（注口を持つものを含む）、高坏など多彩で、文様は凹線文と刻目文を多層に組み合わせた文様[註28]を主体とし、円形浮文、棒状浮文、綾杉文、斜格子文を多用するなど、同時期の土器と比べ独自色の強いものである。

塩町式土器が出土した遺跡は、備後北部三次盆地を中心に出雲、石見、伯耆西部、安芸の69か所に及んでいる[註29]。北側では、江の川、神戸川、斐伊川流域に分布し、石見では鳥井南遺跡[註30]、古八幡付近遺跡[註31]、伊甘神社脇遺跡[註32]など日本海沿岸部で、出雲では古志本郷遺跡[註33]、下古志遺跡[註34]など出雲平野部に分布する。東部の松江・安来地域はタテチョウ遺跡[註35]が挙げられる程度で分布域からはやや外れるようである。山陰地域の東限は日野川上流の鳥取県日南町丸山大洞遺跡である。一方南側では、備後南部には皆無で、むしろ広島市周辺の安芸に出土例がある。岡山県哲西町の山根屋遺跡[註36]が東限で、高梁川上流域までが範囲である。このように塩町式土器は主として水系をたどって山間部から下流域に向かって広がっており、こうした水系を介した相互交流が想定される。

垣ノ内遺跡出土の塩町式土器は、壷、甕、鉢、高坏である。45－１、127－１～６などの甕類、127－20の鉢はこの遺跡を代表する塩町式土器といってもよい。これらの土器に共通する特徴として挙げられるのは、胎土・焼成を観察する限り、特徴的な文様以外は同時期の土器と何ら差がないという点である[註37]。分類整理時に比較を試みたが、在地と考えられる土器[註38]とは各部の調整法も含め、何ら特筆すべき相違点を見いだすことができなかった。

一方で、塩町遺跡出土土器自体の胎土が多様であることも指摘しておかねばならない。筆者が実見したものは広島県立歴史民俗資料館蔵の土器のみであるが[註39]、少なくとも３種類以上が存在するように思われた。その中には垣ノ内遺跡で出土した土器と胎土が酷似するものもあり、備後北部からの搬入品が存在する可能性も十分考えられる。今後胎土分析など多角的な分析が必要だが、現時点では垣ノ内遺跡の塩町式土器が在地のものであるか、搬入品であるかを目視で明らかにすることは難しいといえる[註40]。

今ひとつ塩町式土器について課題を挙げるとすれば、第４節でも仮に「塩町系土器」として取り上げたように、現段階では塩町式土器と「塩町式土器の影響を受けた土器」あるいは「塩町式土器の前後に位置する土器」を整理し切れていないことである。甕についていえば、貼付突帯を刻む文様帯から「重層刻み目文」への変化と、同時期の一般的な甕と同様に内面のケズリが頸部まで徐々に上がってくるというおおまかな変遷が捉えられているに過ぎない。その系譜については、Ⅲ～Ⅳ－１様式の壷・鉢の加飾性が目立つことから、その影響が指摘されている[註41]。ただ出雲地域についてみると、塩町式と同時期の広口壷ではそれ以前に比べ明らかに文様の簡素化を指向しており、塩町式で代表的な甕類は総じて加飾性が低い点からみて、塩町式土器と直接的に系譜を繋げることは難しいと考える。127－９の甕の肩部文様は、ごく浅い縦方向の刺突に横方向の沈線を組み合わせるものである。縦方向の刺突は木口を軽く押しつけたもののようで、向きも完全に右に倒れてしまっている。こうした施文が稚拙な模倣なのか、退化形態なのかを判断することは現状では困難である。

また垣ノ内遺跡で出土数が目立つ高坏の取り扱いも問題である。備後北部の塩町式土器では、高坏の脚柱部を細く長く採り、透かしの入る部分を除いて全面に凹線を廻らす傾向がある[註42]。また坏部口縁に凹線を入れるものの、それを刻むことにはそれほど固執していない。対して垣ノ内遺跡の

高坏は、脚柱部を比較的太く短く採り、坏部に対して脚部がアンバランスに小さいものが多い。脚部には透かしが入るものもあるが、128－14、15、17～22のように模様の充填されない空白帯が入ることも特徴である。こうした特徴は、むしろ出雲平野部の高坏に近いもので、この地域の土器がそのベースになっていると考えられる。また脚柱部には２条の凹線をまとめて刻む方法が多用されるが、他地域では見られない比較的独自色の強い施文法である[註43]。このように垣ノ内遺跡の高坏は、出雲平野部の土器を基本としながらも塩町式土器の要素を併せ持つという点で、塩町式土器そのものに分類することには躊躇せざるを得ない。

以上のように、垣ノ内遺跡の「塩町系土器」は斐伊川水系を介した備後北部地域との交流の一端をかいま見せると同時に、この地の人々がその中で得たものを如何にして受容していったのかを示す資料といえる。塩町式土器は資料整理されはじめて日が浅いこともあり、今後の調査で資料は確実に増えていくと思われる。相前後して流域に築造が始まる四隅突出型墳丘墓、中山国竹遺跡に次ぐ出土となった舶載鉄製品[註44]との関係も含めて、今後の研究課題といえよう。

垣ノ内遺跡の古墳時代から平安時代

古墳時代に入ると、集落は一旦断絶する。遺物が増加してくるのは出雲３期からで、９世紀初頭まで継続する。遺物量のピークは須恵器坏のケズリが簡略化されていく６世紀後半～７世紀初頭と、須恵器・土師器に糸切り底が主流となる８世紀中葉以降が挙げられる。

注目されるのは、７世紀初頭には甑、移動式竈、甕をセットとする煮炊具が成立している点である。出雲平野部では、６世紀後半～７世紀初頭になると土製支脚、甑、移動式竈、甕のセットが定着すると考えられている[註45]。一方山間部では、三瓶山周辺の神戸川上流域において、造り付け竈を主体とする煮炊法が確立するのに対し、斐伊川中上流域では移動式竈を使用する煮炊具が採用されたとされる。斐伊川中上流域の調査例は少ないが、出雲平野部とほぼ時を同じくして同様のセットが成立したようだ[註46]。垣ノ内遺跡においても、加工段２の東群に見られるように甑、移動式竈、甕が組み合わせられていることが分かる。土製支脚が出土していないが、包含層でまとまった量出土していることから、これが含まれた可能性が高い。平成14年度に調査が行われた仁多町円満寺遺跡でも、土坑内から甕に混じって土製支脚が出土しており[註47]、二本の突起は徐々に短小化し、ついには一本の突起に退化している。こうした退化傾向の見られる土製支脚は、垣ノ内遺跡のそれにも見受けられる。今回は時期毎のセット関係を把握するには至らなかったが、今後資料増加によってはこの地域の煮炊具の変遷が把握できるかもしれない。

第２には８世紀代を中心とする坏（碗）、皿が多く出土していることが挙げられる。須恵器とともに丹塗り土器も多く、当時の様相を知るうえでも重要と考えられる。現状ではこの時期の土器について細かい編年は確立していないが、糸切り底が導入される８世紀中葉以降に、遺跡が再び盛行したことが分かる。

この時期、下布施川流域で注目されるのは装飾大刀を副葬した下布施横穴墓群が築かれていることである[註48]。６世紀後半～７世紀中葉にかけて営まれたとされるこの横穴墓群は、谷筋の最奥に位置し、現状では被葬者を頂点とする集団が何処に生活基盤をおいていたのか不明なままである。周辺には茶屋の廻遺跡、北原Ｉ遺跡などの小規模な散布地はあるものの出土遺物は僅かである。翻って垣ノ内遺跡を見れば、遺物量は他を圧倒している。加工段や硬化面など実体が掴みがたい遺構が

多く、集落の様相は判然としないが、少なくともこの地が恒常的に生活の場となっており、6世紀後半～9世紀に至るまで脈々と営まれ続けたことは明らかであり、下布施横穴の被葬者と密接な関係にあった可能性が高い。流域で野だたらが盛んに行われるのは中世以降であるが、坂本諭司氏が指摘するように、この時期既に鉄生産地としての下地が整っていた事は十分に考えられる[註49]。集落の社会的、経済的バックボーンとして、鉄生産の占める地位は高かったのではないだろうか。

垣ノ内遺跡の中世以降

中世以降になると、出土遺物が目立って減少する。鎌倉時代の青白磁合子、室町時代の備前壷が1点あるが、10～14世紀までの期間はおよそ人々の生活の香りがしない時期といえる。垣ノ内遺跡の集落は、流域で野だたらが盛行するに合わせて、流域内での中心的役割を終えてしまったのである。14世紀以降では若干の貿易陶磁器が出土している。近年の調査では三刀屋町馬場遺跡[註50]をはじめ、雲南地域でも掘立柱建物とともに貿易陶磁器が確認されはじめているが、垣ノ内遺跡の場合この時期に該当する遺構に欠けるため、当時の様相を復元することは難しい。

遺物が多くなるのは18世紀からである。布志名焼など在地系陶器が多く、石見焼大甕類（ハンド）、備前焼、肥前系の日常雑器類が混じっている。愛宕講に用いられたのか、燭台も出土している。18世紀以降近年に至るまでこの地が生活の舞台であったことが分かる。

埋桶遺構について

今回の調査では、タガの痕跡が残る埋桶遺構が3基検出された。この種の遺構は、板屋Ⅲ遺跡などの調査例では水を溜めたものと想定されている。周囲を粘土（垣ノ内遺跡の地山土も粘土質で、十分その役目を果たしたと思われる）で覆うことで、内部の水分が浸み出るのを防いだことは間違いないだろう。用途として考えられるのは、貯水用の桶と厠用の溜め桶である。どちらも常滑焼（この地域では石見焼も多い）の大甕（ハンド）が普及する明治時代には全国的に使用例が減ってくるが[註51]、この地域では家によっては昭和初期まで残っていたそうである。また厠を作り替える際に、役目を終えた溜め桶に砂を入れて清める儀式があったとの証言も得た[註52]。肥溜めの可能性も否定できないが、肥溜め自体を屋敷の周辺に造ることは少なく、多くは畑周辺に設置する。また、肥溜めの埋桶はあくまで肥やしを作るための施設であるから、粘土を貼り付けてまで漏水対策をすることは考えにくいとのことである。

図版17のように、Ⅰ区からⅢ区にかけては近年まで家屋（母屋と納屋の2棟）が建てられており、それらに付帯する設備と考えるのが妥当と思われる。近年ダム建設工事に伴って尾原地域の民俗調査が行われており[註53]、報告書で『木次63家』にあたるこの家屋は明治25年建築とある。また明治34年の家相図が掲載されており、当時の間取りはおおよそ確認できる。母屋と納屋の距離感が正しく表現されておらず、図上での埋桶遺構2、3の位置は明確でないが、炊事場付近もしくは母屋と納屋の間にあたるだろう。家相図では納屋と母屋の間に淡く丸印が描かれており、これが桶そのものかもしれない。埋桶遺構1は石垣との関係を考慮すると、家相図上の私道に位置することになる。私道は民俗調査時まで現役であったから、少なくとも明治34年以前、おそらくは明治25年にこの家屋を建てる以前の施設と考えられる。

おわりに

以上のように、垣ノ内遺跡は縄文時代中期から近年に至るまで、消長を繰り返しながら営まれてきたことが明らかになった。垣ノ内遺跡のある下布施川流域は、近年の調査で古代以降近世までの製鉄関連遺跡が次々と調査されてはいるものの、縄文時代から弥生時代に位置づけられる集落遺跡は垣ノ内のみであり、この流域で中心的な役割を担ってきた集落といえる。垣ノ内の集落は時代の変化に合わせて徐々にその性格を変えながら、脈々と営まれてきたのであろう。

今回の調査では当初の予想を超える遺構・遺物が出土し、それらを分類し、把握する作業で精一杯であった。各遺構の評価や遺跡の位置づけについて未消化な部分が多いことは否めないが、少なくとも遺跡の全容が把握しうるだけのデータは掲載したと考えている。掲載・非掲載を問わず、分類した遺物、図面・写真類は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターで収蔵・保管しているので、今後の幅広い活用を期待したい。

註1　島根県教育委員会　1996『尾原の民俗』尾原ダム民俗文化財調査報告書

註2　愛宕講の実際は以下の写真集に掲載されているので、参照されたい。(田部写真館編　1997『懐』－我が故郷よ永久に－尾原ダムふるさと写真集)

註3　杉原清一氏の御教示による。

註4　高尾浩司　2000「鳥取県における弥生時代鉄器の様相」『月刊考古学ジャーナル』467
池渕俊一　2001「日本海沿岸地域における弥生時代鉄器の普及－山陰地方を中心に『日本海（東海）がつなぐ鉄の文化』日韓合同鉄器文化シンポジウム

註5　島根県教育委員会　1988『西川津遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
川越哲志編　2000『弥生時代鉄器総覧（東アジアの出土鉄器地名表Ⅱ）』広島大学考古学研究室

註6　田中義昭・石田為成　2000「島根県国竹中山遺跡について」『島県考古学会誌』第17集　島根考古学会

註7　門遺跡で検出されたSI04、SI36がこれにあたる。(島根県教育委員会　1996『門遺跡』)

註8　島根県教育委員会　2000『神原Ⅰ遺跡・神原Ⅱ遺跡』

註9　頓原町板屋Ⅲ遺跡、下山遺跡、神原Ⅰ遺跡、出雲市三田谷Ⅰ遺跡などで同様の遺構が検出されている。

註10　調査にあたった古代文化センター松本岩雄の助言をもとに、当時の実測図を確認、検討した。記述内容は筆者の判断による。(松本岩雄　2002『尼寺原遺跡の調査』島根県埋蔵文化財調査センター研修資料)

註11　いずれ細分類を行う機会を持ちたいが、現状では数字自体よりも、この遺跡では中期の土器の撚り糸地文の土器が卓越するという事実を重視したい。

註12　山本　清　1962「西山陰の縄文式文化」『島根大学山陰文化研究所紀要』第1号
宍道正年　1974『島根県縄文式土器集成Ⅰ』

註13　島根県教育委員会　2002『馬場遺跡・杉ヶ撓・客山古墳群・連行遺跡』

註14　島根県教育委員会　2001『島根県飯石郡三刀屋町　馬場遺跡発掘調査報告書』

註15　島根県教育委員会　2000『三田谷Ⅰ遺跡（Vol.2)』

註16　中四国の有溝石錘については下條伸行氏、真鍋篤行氏の論考があるが、近年では乗松真也氏が出土資料を整理している。垣ノ内遺跡の有溝石錘はともに6類にあたり、山陰東部沿岸地域で多く見られる形態である。時期判断できる資料は少ないが、中期後葉には出現するようである。(乗松真也　2000「中国・四国地方における有溝石錘の地域差」『研究紀要Ⅷ』財団法人香川県埋蔵文化財調査センター)

註17　会下和宏　2000「宍道湖・中海周辺の縄文遺跡」『山陰の縄文時代遺跡』第28回山陰考古学研究集会

註18　得能一男　1988『入門日本刀図鑑』工芸出版

註19　永井久美夫編　1998『近世の出土銭Ⅱ』兵庫埋蔵銭調査会

註20　杉原清一　1981『下鴨倉遺跡緊急発掘調査報告』仁多町教育委員会

註21　丘陵上あるいは谷の最深部については、陥し穴状の土坑を検出した槙ヶ垰遺跡（第2図6）などがあるが、現段階では集落を想定しうる遺跡はない。

註22　山田康弘氏は中国地方の縄文集落について整理し、集落構造や居住形態、集落構成員等について興味深い見解を示している。(山田康弘　2002「中国地方の縄文時代集落」『島根考古学会誌』第19集　島根考古学会）当時の居住形態は、「集落を移動させることをベース」とし「周辺の自然的・社会的環境や集団内の社会的状況」により「集落規模や居住期間が融通無碍に変化する」という見解は、本遺跡のような明確な遺構を伴わない

遺跡の位置づけについて、新たな視点を提示するものと考える。

註23　坂本諭司ほか　1997『平田遺跡』木次町文化財調査報告書　第4集　木次町教育委員会

註24　平成13年度仁多町教育委員会発掘調査

註25　吾郷和宏ほか　1992『島根県仁多郡横田町町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ』横田地区　横田町教育委員会

註26　潮見　浩　1964「山陽地方Ⅰ」『弥生式土器集成本編1』東京堂出版

註27　妹尾周三　1992「注口付きの脚台付鉢形土器について」『古代吉備』14

註28　塩町式土器の施文は、①突帯上に刻目を入れるもの、②多条の凹線文に後から刻目を加えるもの、③ヘラ描き文あるいは刺突文の上に凹線を重ねて刻目を表現するものるもの、の3形態がある。現状ではこの文様の呼称は定まっていないが、伊藤実氏は「重層刻目（刺突）文」を提唱している。

註29　石田爲成氏の御教示による。内訳は墳墓8か所、集落遺跡等61か所である。

註30　平成9年度大田市教育委員会発掘調査

註31　島根県教育委員会　2000『神主城跡・室崎商店裏遺跡・古八幡付近遺跡・横路古墓』

註32　榊原博英　2000『川向遺跡』浜田市教育委員会

註33　松山智弘　1999『古志本郷遺跡第6次発掘調査報告書』出雲市教育委員会
島根県教育委員会　1999『古志本郷遺跡Ⅰ』

註34　米田恵美子ほか　2001『下古志遺跡』出雲市教育委員会

註35　島根県教育委員会　1990『朝酌川河川改修工事に伴うタテチョウ遺跡発掘調査報告書Ⅲ』

註36　竹田　勝ほか　1977『山根屋遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告22　岡山県教育委員会

註37　垣ノ内遺跡は水捌けが良好で堆積土が厚かったこともあって、土器の残りがよく、表面や胎土の観察が容易である。

註38　ここでは、この時期出雲地域に一般的に見られる土器で、遺跡周辺で作られた可能性が高い土器を在地と表記する。垣ノ内遺跡で一般的な土器胎土は、色調・含有物などからは、出雲平野部、松江・安来周辺、神戸川上流域、江の川流域のいずれの土器とも判断できない。

註39　塩町遺跡は旧塩町高校のグランド造成に伴って発見され、当初の調査は高校の教師と生徒が行い、後に広島大学が加わった。出土土器の大部分は広島大学に保管されているが、一部が高校に残され、現在は広島県立歴史民俗資料館に保管されている。塩町式土器の設定にあたって用いられた土坑出土一括資料は、広島大学で保管されている。

註40　近年、三辻利一氏らにより塩町遺跡を含む備後北部の弥生土器の蛍光X線分析が行われ、胎土比較の面から搬入出関係を明らかにするための基礎データの収集が進められている。

註41　米田美江子氏は塩町式土器のルーツについて、Ⅱ様式以降出現する貼付突帯などで装飾する広口壷との関係を指摘している。（米田美江子　2002「搬入系遺物」『下古志遺跡－考察編－』出雲市教育委員会）

註42　伊藤実氏の御教示による。
伊藤　実　1992「備後地域」『弥生土器の様式と編年　山陽・山陰編』木耳社
1997「広島県の弥生土器について－中期後半から後期の地域的特徴と分布－」㈶広島県埋蔵文化財調査センター研修資料
1997「弥生土器からみた安芸と備後」『研究紀要』第1集　広島県立歴史民俗資料館

註43　脱稿直前、平成14年度島根県教育委員会調査の平田市青木遺跡出土土器に、同様の施文を行う高坏脚部片を確認したが、僅かな量の土器を実見したに過ぎず、どの程度の割合で含まれるのか不明である。

註44　板状鉄斧を調査した大澤正己氏は、炒鋼産物の貼鋼技術にもとづく「合わせ鍛え」製品の可能性が大きく、島根県内で弥生時代の羽口を持つ鍛冶遺構が確認できていない以上、国内加工説は保留せざるを得ないと述べている。（大澤正己　2000「島根県国竹遺跡出土板状鉄斧の金属学的調査」『島根考古学会誌』第17集）

註45　木次町家の上遺跡から甑、土製支脚、甕などが出土している。（坂本諭司　1998『家の上遺跡・石壷遺跡』木次町教育委員会）

註46　古代文化センター岩橋孝典の教示による。

註47　杉原清一　1988『角田遺跡・又下遺跡　付大東高校グラウンド遺跡他資料』大東町教育委員会

註48　坂本諭司　2002『下布施横穴墓群　安久寺遺跡』尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財調査報告書4　木次町教育委員会

註49　坂本諭司氏のご教示では、寺田Ⅰ遺跡（平成14年度調査）で出土した鍛冶遺構は、古代まで遡る可能性があるという。

註50　島根県教育委員会　2001『島根県飯石郡三刀屋町　馬場遺跡発掘調査報告書』

註51　寺島孝一　2001『図説　江戸考古学事典』江戸考古学研究会

註52　これらの証言は大原郡、仁多郡に在住する調査作業員の皆さんから得たものである。この他にも日々の調査の中で調査地周辺の歴史、雲南地方の習慣、伝承などについて多くの御教示をいただいた。記して感謝の意を表したい。

註53　島根県教育委員会　1996『尾原の民俗』尾原ダム民俗文化財調査報告書

表９　垣ノ内遺跡出土竪穴住居計測表

SI01

形態		円形				後期後葉（草田５～７期）		
最大長×最大幅×竪穴高(m)		6.6×6.36×0.6				柱数		5
柱穴	番号	P3−2	P4	P6	P7	P8	P3−2	
	上面径(cm)	60×56	68×56	72×68	86×60	48×42	36×36	
	底の標高(m)	182.41	182.28	182.29	182.3	182.31	182.04	
柱間距離（m）		P3−2～P4	P4～P6	P6～P7	P7～P8	P8～P3−2		
		1.74	1.53	1.71	1.62	1.59		
方位		N14°E	N51°W	N40°E	N17°W	N０°		

SI07

形態		隅丸方形				後期前葉（Ⅴ−１）		
最大長×最大幅×竪穴高(m)		4.59×4.59×0.12				柱数		4
柱穴	番号	P1	P3−1	P4	P2			
	上面径(cm)	45×39	51×36	42×39	39×33			
	底の標高(m)	182.53	184,44	182.28	182.51			
柱間距離（m）		P1～P3−1	P3−1～P4	P4～P2	P2～P1			
		2.01	1.38	1.77	1.65			
方位		N79°W	N15°E	N70°W	N22°E			

SI02

形態		円形				後期後葉		
最大長×最大幅×竪穴高(m)		(7.7)×(3.25)×(0.28)				柱数		(5)
柱穴	番号	P3	P4	P5	P6	P7		
	上面径(cm)	35×34	36×31	41×35	49×44	64×55		
	底の標高(m)		181.76	181.75	181.85	182		
柱間距離（m）		P3～P4	P4～P5	P5～P6	P6～P7			
		1.44	2.26	1.68	2.3			
方位		N85°E	N77°W	N37°W	N５°E			

SI04

形態		円形？				SI02以前		
最大長×最大幅×竪穴高(m)		(4.4)×(1.51)×(不明)				柱数		(2)
柱穴	番号	P1	P2					
	上面径(cm)	43×38	32×25					
	底の標高(m)	181.8	182					
柱間距離（m）		P1～P2						
		2.42						
方位		N54°W						

SI03

形態		円形				後期中葉～後葉		
最大長×最大幅×竪穴高(m)		4.46×(2.94)×(0.29)				柱数		(3)
柱穴	番号	P1	P2	P3				
	上面径(cm)	22×21	17×15	27×24				
	底の標高(m)	180.6	180.58	180.16				
柱間距離（m）		P1～P2	P2～P3					
		1.3	1.76					
方位		N56°E	N60°W					

SI05

形態		円形				中期後半（Ⅳ−２）		
最大長×最大幅×竪穴高(m)		5.92×5.15×0.72				柱数		4
柱穴	番号	P1	P2	P4−1	P3			
	上面径(cm)	79×74	62×60	60×58	90×59			
	底の標高(m)	178.65	178.88	178.98	179			
柱間距離（m）		P1～P2	P2～P4−1	P4−1～P3	P3～P1			
		2.89	2.98	2.98	2.37			
方位		N70°W	N26°E	N58°W	N26°E			

SI08

形　　態		円形				中期後半（Ⅳ－２）		
最大長×最大幅×竪穴高(m)		6.35×5.45×(不明)				柱　数		4
柱　穴	番　号	P1	P2	P4－2	P3			
	上面径(cm)	79×54	62×60	50×42	90×59			
	底の標高(m)	178.65	178.88	178.8	179			
柱間距離（m）		P1～P2	P2～P4－2	P4－2～P3	P3～P1			
		2.89	3.3	2.74	2.37			
方　位		N70°W	N30°E	N50°W	N26°E			

SI06

形　　態		隅丸方形				中期後半（Ⅳ－２）		
最大長×最大幅×竪穴高(m)		5.52×(3.22)×(0.36)				柱　数		2
柱　穴	番　号	P1	P2					
	上面径(cm)	36×34	44×38					
	底の標高(m)	176.58	176.36					
柱間距離（m）		P1～P2						
		1.24						
方　位		N63°W						

SI09

形　　態		不明				中期後半～後期初頭（Ⅳ－２～Ⅳ－１）		
最大長×最大幅×竪穴高(m)		(4.15)×(2.8)×(0.25)				柱　数		2
柱　穴	番　号	P1	P2					
	上面径(cm)	59×57	52×48					
	底の標高(m)	178.12	177.96					
柱間距離（m）		P1～P2						
		3.17						
方　位		N63°E						

SI10

形　　態		隅丸方形				不明		
最大長×最大幅×竪穴高(m)		(2.92)×(1.94)×(不明)				柱　数		(2)
柱　穴	番　号	P1	P2					
	上面径(cm)	56×54	54×46					
	底の標高(m)	182.42	182.26					
柱間距離（m）		P1～P2						
		1.9						
方　位		N65°W						

SI11

形　　態		隅丸方形				不明		
最大長×最大幅×竪穴高(m)		(3.04)×(2.9)×(不明)				柱　数		(2)
柱　穴	番　号	P1－2	P2					
	上面径(cm)	28×26	48×42					
	底の標高(m)	182.42	182.34					
柱間距離（m）		P1－2～P2						
		1.2						
方　位		N69°W						

SI12

形　　態		円形 or 六角形				不明		
最大長×最大幅×竪穴高(m)		6.1×(2.5)×(不明)				柱　数		(3)
柱　穴	番　号	P1	P2	P3				
	上面径(cm)	55×30	50×26	65×40				
	底の標高(m)	182.7	182.58	182.59				
柱間距離（m）		P1～P2	P2～P3					
		2	2.04					
方　位		N22°W	N29°E					

SI13

形　　態		円形				中期後半（Ⅳ－２）		
最大長×最大幅×竪穴高(m)		(4.64)×(3.12)×(0.2)				柱　　数		(3)
柱　穴	番　　号	P1	P2	P3				
	上面径(cm)	43×34	36×34	39×39				
	底の標高(m)		184.35	184.31				
柱間距離（m）		P1～P2	P2～P3					
		2.24	2.36					
方　　位		N55°E	N65°W					

SI14

形　　態		不明				不明		
最大長×最大幅×竪穴高(m)		(2.9)×(0.36)×(0.28)				柱　　数		(0)
柱　穴	番　　号							
	上面径(cm)							
	底の標高(m)							
柱間距離（m）								
方　　位								

SI15

形　　態		不明				不明		
最大長×最大幅×竪穴高(m)		(3.96)×(0.86)×(不明)				柱　　数		(2)
柱　穴	番　　号	P1	P2					
	上面径(cm)	30×28	58×46					
	底の標高(m)	182.64	182.44					
柱間距離（m）		P1～P2						
		1.7						
方　　位		N67°W						

SI16

形　　態		方形				中期後半（Ⅳ－２）		
最大長×最大幅×竪穴高(m)		2.39×1.96×(0.12)				柱　　数		(0)
柱　穴	番　　号	P1	P2					
	上面径(cm)	29×29	23×19					
	底の標高(m)	176.23	176.21					
柱間距離（m）								
方　　位								

表10　垣ノ内遺跡出土掘立柱建物計測表

SB01

規模		梁行き				桁行き			
		2間（3.3m）				1間（1.3m）			
SB01－1	主軸	N90°E							
柱穴	番号	P1－1	P2－1	P3	P4	P6			
	上面径(cm)	48×(32)	30×(20)	95×(20)	47×38	38×(15)			
	底の標高(m)	179.46	179.44	179.4	179.22	179.2			
柱間距離(m)		P1－1～P2－1	P2－1～P3	P3～P4	P6～P1－1				
		0.59	1.7	1.34	1.5				
SB02－2	主軸	N88°E							
柱穴	番号	P1－2	P2－2	P3	P4	P5	P6		
	上面径(cm)	57×40	59×(30)	95×(20)	47×38	51×49	38×(15)		
	底の標高(m)	179.47	179.42	179.4	179.22	179.42	179.2		
柱間距離(m)		P1－2～P2－2	P2－2～P3	P3～P4	P4～P5	P5～P6	P6～P1－2		
		1.6	1.7	1.34	1.58	1.7	1.7		

SB02

規模		梁行き				桁行き			
		2間（2.6m）				1間（1.2m）			
SB02－1	主軸	N87°W							
柱穴	番号	P7	P8－1	P9	P10－1	P11	P12		
	上面径(cm)	87×55	47×36	79×69	42×(28)	81×60	65×53		
	底の標高(m)	179.24	179.34	179.21	179.1	179.17	179.21		
柱間距離(m)		P7～P8－1	P8－1～P9	P9～P10－1	P10－1～P11	P11～P12			
		1.16	1.52	1.2	0.72	1.68			
SB02－2	主軸	N85°W							
柱穴	番号	P7	P8－2	P9	P10－2	P11	P12		
	上面径(cm)	87×55	64×(36)	79×69	56×(28)	81×60	65×53		
	底の標高(m)	179.24	179.21	179.2	179.04	179.17	179.21		
柱間距離(m)		P7～P8－2	P8－2～P9	P9～P10－2	P10－2～P11	P11～P12			
		1.48	1.12	1.24	1.08	1.68			

SB03

規模		梁行き				桁行き			
		2間以上				2間（3.4m）			
主軸		N75°E							
柱穴	番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	
	上面径(cm)	82×72	108×86	100×76	80×74	84×60	94×64	72×64	
	底の標高(m)	177.38	177.32	177.56	177.18	176.92	176.92	176.8	
柱間距離(m)		P1～P2	P2～P3	P3～P4	P4～P5	P5～P6	P6～P7		
		2.4	2.52	2.48	2.4	2.2	2.2		

SB05

規模		梁行き				桁行き			
		3間（3.52m）				1間（1.9m）			
SB05－1	主軸	N69°W							
柱穴	番号	P1	P2	P3－1	P4－1	P5－1			
	上面径(cm)	68×56	108×92	60×(52)	60×(52)	72×(40)			
	底の標高(m)	180.75	180.14	181.08	181.14	1981.18			
柱間距離(m)		P1～P2	P2～P3－1	P3－1～P4－1	P4－1～P5－1				
		1.88	1.4	1.92	1.6				
SB05－2	主軸	N70°W							
柱穴	番号	P1	P2	P3－2	P4－2	P5－2			
	上面径(cm)	68×56	108×92	56×(20)	56×(16)	64×(32)			
	底の標高(m)	180.75	180.14	181	181.05	181.22			
柱間距離(m)		P1～P2	P2～P3－2	P3－2～P4－2	P4－2～P5－2				
		1.88	2.2	2.12	1.6				

SB05－3主軸		N70°W							
柱穴	番号	P1	P2	P3－3	P4－3	P5－3			
	上面径(cm)	68×56	108×92	92×84	92×64	88×84			
	底の標高(m)	180.75	180.14	180.88	180.78	180.9			
柱間距離(m)		P1～P2	P2～P3－3	P3－3～P4－3	P4－3～P5－3				
		1.88	1.72	1.92	1.48				

SB06

規模		梁行き				桁行き			
		2間（4.0m）				1間（2.12m）			
主軸		N75°W							
柱穴	番号	P6	P7	P8	P9				
	上面径(cm)	60×56	68×56	72×68	86×60				
	底の標高(m)	180.6	180.58	180.16	181.18				
柱間距離(m)		P6～P7	P7～P8	P8～P9					
		2	2	2.12					

SB07

規模		梁行き				桁行き			
		3間（3.76m）				1間（2.16m）			
SB07－1主軸		N77°W							
柱穴	番号	P10	P11－1	P12－1	P13－1	P14－1	P15		
	上面径(cm)	88×56	36×(24)	56×54	52×44	(56×62)	70×60		
	底の標高(m)	180.9	180.92	180.89	180.88	180.92	180.76		
柱間距離(m)		P10～P11－1	P11－1～P12－1	P12－1～P13－1	P13－1～P14－1	P14－1～P15			
		1.68	2.06	1.76	1.52	2.12			
SB07－2主軸		N75°W							
柱穴	番号	P10	P11－2	P12－2	P13－2	P14－2	P15		
	上面径(cm)	88×56	72×60	60×58	58×54	60×52	70×60		
	底の標高(m)	180.9	180.9	180.92	180.86	180.9	180.76		
柱間距離(m)		P10～P11－2	P11－2～P12－2	P12－2～P13－2	P13－2～P14－2	P14－2～P15			
		2.16	1.64	1.8	1.8	2.2			

SB09

規模		梁行き				桁行き			
		3間（4.0m）				?			
主軸		N63°W							
柱穴	番号	P1－1	P1－2	P2－1	P2－2	P3－1	P3－2	P4－1	P4－2
	上面径(cm)	46×36	30×24	46×36	36×26	40×32	44×28	40×28	46×28
	底の標高(m)	185	184.77	185.14	184.85	185.07	185.04	185.03	185.02
柱穴	番号	P5	P6						
	上面径(cm)	42×40	36×36						
	底の標高(m)	184.89	185.14						
柱間距離(m)		P1－1～P2－1	P2－1～P3－1	P3－1～P4－1					
		2.22	2.28	2.22					

表11－1　垣ノ内遺跡出土遺物総覧１（遺構・土器溜出土遺物は復元後の個体数）

種別	器種	分類 1	分類 2	分類 3	時期	A区	B区	C区	D区	I区	II区	III区	他	遺構	土器溜	計
縄文土器		縄文地	口縁		縄文時代中期～	1	29	6	13	1	1		68			109
		撚り糸地			縄文時代中期～	3	1654	337	156	30	4		975			3159
		粗製			縄文時代後期～	64	261	192	260	20	35		360			1192
	底部				縄文時代中期～	1	14	8	12	3			3			41
弥生土器	甕	くの字口縁			弥生時代前期				1	2	1					4
	壷	算盤玉形胴体	口縁部外反		弥生時代前期？				1							1
	甕	口縁端部拡張小	頸部下内面ナデ or 刷毛目	頸部ヨコナデ	弥生中期後半(Ⅳ－1、2)	47	1	8	4	9	20		16	9	13	127
				頸部貼付突帯を刻む		13	1		3	1	5	1	10		3	37
		口縁端部を僅かに拡張	頸部下内面ナデ or 刷毛目	頸部ヨコナデ	弥生中期後半後(Ⅳ－2)	48	7	3	9	4	6		9	14	14	114
				頸部貼付突帯を刻む		12	1		1	2	1		6	2	3	28
				頸部突帯に木口で刻み		1										1
		口縁端部を拡張		頸部貼付突帯を刻む	弥生中期後半末(Ⅳ－2)	1	2							1	2	6
		頸部片	頸部下内面ナデ or 刷毛目	頸部貼付突帯を刻む	時期不詳	1			1		2					4
	塩町系	口縁端部拡張小	頸部下内面ナデ or 刷毛目	肩部重層刻み目文	弥生中期後半(Ⅳ－2)	1	2	1	1	1	1			2		9
				口縁端部を縦に刻む	弥生中期後半(Ⅳ－2)					3	2					5
		口縁端部を僅かに拡張	頸部下内面ナデ or 刷毛目	肩部重層刻み目文	弥生中期後半(Ⅳ－2)	19	6	2	1	15	14		7	2	2	68
				重層刻み目文・斜格子文・円形浮文	弥生中期後半(Ⅳ－2)					3	2		1	1	2	9
		肩部小片	頸部下内面ナデ or 刷毛目	肩部重層刻み目文	弥生中期後半(Ⅳ－2)									1	6	7
	壷	直口壷	頸部下内面ナデ or 刷毛目	重層刻み目文・斜格子文など	弥生中期後半(Ⅳ－2)	2	1	1		29	19	1	6			59
		口縁が外反する	頸部下内面ナデ or 刷毛目	重層刻み目文風の刻み	弥生中期後半(Ⅳ－2)						1					1
		小型	頸部下内面ナデ or 刷毛目		弥生中期後半(Ⅳ－2)	3					1		1	2		7
	鉢		頸部下内面ナデ or 刷毛目	重層刻み目文・斜格子文・円形浮文	弥生中期後半(Ⅳ－2)					1						1
	壷	直口壷	頸部下内面ナデ or 刷毛目	口縁部外面凹線	弥生中期後半(Ⅳ－2)	1									2	3
	壷・甕	底部			弥生中期後半(Ⅳ－2)	28	3	5	7				20	12	7	82
		底部小片			時期不詳	4		1		28	19	1	5	5	3	66
	高坏	脚柱部	凹線２本を一度に刻む		弥生中期後半(Ⅳ－2)	3	7	4	1				8		3	26
			１本ずつ数か所刻む		弥生中期後半(Ⅳ－2)	2							1			3
			刻み目なし		弥生中期後半(Ⅳ－2)	28	13	11	1				16		1	70
		坏部	口縁部外面凹線あり	凹線を刻まない	弥生中期後半(Ⅳ－2)	18	12	8	6				13		2	59
				１本のみ刻む	弥生中期後半(Ⅳ－2)	5	1	6	2				7	1		22
				２本刻む	弥生中期後半(Ⅳ－2)	12	1	2	3				6		2	26
				３本刻む	弥生中期後半(Ⅳ－2)	8	7	2	4	5			11		1	38
				棒状浮文・円形浮文など	弥生中期後半(Ⅳ－2)	2		3	2				1			8
		坏部小片			弥生中期後半(Ⅳ－2)								45	1		46
		脚部	文様無し		弥生中期後半(Ⅳ－2)	14	2	5	2				3	3	1	30
			三角形透かし		弥生中期後半(Ⅳ－2)											0
			凹線文のみ	凹線を刻まない	弥生中期後半(Ⅳ－2)	10	7	4	1		10		4	1		37
				１本のみ刻む	弥生中期後半(Ⅳ－2)	3	2	1							2	8
				２本刻む	弥生中期後半(Ⅳ－2)	2	2		1				3		1	9
				脚端部に文様無し	弥生中期後半(Ⅳ－2)	12		2	3		4		3	2	1	27
				脚端部に凹線あり	弥生中期後半(Ⅳ－2)	5	1									6
		坏部との接合部			弥生中期後半(Ⅳ－2)								52			52
		充填円盤			弥生中期後半(Ⅳ－2)								15			15
		大型脚	矢羽根形透かし		弥生中期後半(Ⅳ－2)	1										1
			三角透かし		弥生中期後半(Ⅳ－2)								2			2
	注口土器	注口部			弥生中期後半(Ⅳ－2)					2						2
		把手			弥生中期後半(Ⅳ－2)	1							4			5
	蓋				弥生中期後半？			1							2	3
	甕	口縁部拡張	口縁部を上に拡張	口縁部外面凹線 or ナデ	弥生後期前半(Ⅴ－1)	10	3	6	12	7	20		17	7	7	89
			口縁部外反し、長く取る	口縁部外面擬凹線 or 凹線	弥生後期後半(Ⅴ－2、3)	3	8	2	16	1	10		18	10	12	80
			口縁部外反し端部細める	口縁部外面ナデ	弥生後期後半(Ⅴ－2、3)	3	3	6	5	7	20		15	9	9	77
			口縁部ナデ	端部に外向きアクセント	弥生後期末(Ⅴ－4～6)	4	2	7	5		1		21	1	1	42
			口縁部小片		弥生後期末(Ⅴ－4～6)	5	4	3	2				7			21
	器台				弥生時代後期		1		2	1	2		8	1		15
			口縁部を長く拡張		弥生後期末(Ⅴ－4～6)			1			1		6	3	3	14
	低脚坏	脚部	内面ケズリ		弥生後期後半		2	1	1				2			6
			内面ケズリ後ナデ		弥生後期後半	1	1	1	1							4
			ナデのみ		弥生後期後半	2								1		3
		坏部小片			弥生後期後半	1	1	1						1		4
		脚部小片			弥生後期末(Ⅴ－4～6)	1		1	1					1		4
	高坏	坏部			弥生後期末(Ⅴ－4～6)		1	1		1	3		2	5	1	14
		脚部			弥生後期末(Ⅴ－4～6)	1					3			1		5
	甕	複合口縁の名残												1	1	1
土師器	甑				６世紀後半～	4	5	8	2	4	3	1	6	4	1	38
	甕	口縁部	口縁が外反		６世紀後半～	27	9	9	8	5	20		17	35	20	150
			口縁がくの字に屈曲		７世紀代～	12	3	6	3	5	7		11	12	3	62
	壷	口縁部			６世紀後半～	1				1			3		1	5
	壷・甕	口縁部小片			６世紀後半～						15				1	15
		胴部に敲き								2	26		4		1	33
	土製支脚	突起二本	背後穴非完通		７世紀初頭～	24	4	7	1	7	3		19			65
	竈	復元可能個体			７世紀初頭～									2		2
		小片				19	22	10	10	1			10	2	5	79
その他	手づくね	坏形			古墳時代後期	7	3	2					1			13
		猪口形			古墳時代後期	2	3	1			2		1			9
	製塩土器	破片				3	2			1	14		7		4	31
	土錘					1							1			2

表11－2　垣ノ内遺跡出土遺物総覧２（遺構・土器溜出土遺物は復元後の個体数）

種別	器種	分類 1	分類 2	分類 3	分類 4	時期	A区	B区	C区	D区	I区	II区	III区	他	遺構・土器溜	合計
須恵器	坏身	高台付	切方不明、ナデ調整			7～8世紀中葉	7	9	1	11	2	3		7	1	41
			底部糸切			8世紀中葉～	7	9		6				7	2	31
				タガ状突帯が付く								1				1
			切方不明の小片			不明	5	20	4	21		2		10	2	64
		高台無	底部ヘラ切り	ヘラ切り後浅いケズリ		出雲3～4期	9	7	10	10	1	2		16	33	88
				ヘラ切り後粗雑なケズリ		出雲4期	2	2						2	5	11
				ヘラ切り後ナデ		出雲5期	4		2					2	6	14
				ヘラ切り後未調整		出雲5期～									3	3
			底部糸切	静止糸切	底部のみ	7世紀代	8	4	3	4	1			11	1	32
				回転糸切	口縁が緩やかに広がる	8世紀～	4	2			1	4	1	5	1	18
					口縁端でくびれる	8世紀中葉～	7	2		3	1	1		1	8	23
					底部のみ	8世紀中葉～	63	117	30	53	1	11		79	27	381
			切方不明の小片	立ち上がり有	受部普通	～出雲4期	19	221	20	10		1		24	28	323
					受部短い	出雲5期	6	4	1			1		4	2	18
					端部欠損	不明	20	21	25	24				43	1	134
				立ち上がり無	口縁が緩やかに広がる	7世紀代？	8	6	1	2	2	9	11			39
					口縁端でくびれる	8世紀中葉～	66	55	23	45	7	7		65	2	270
	坏蓋	つまみ無	ヘラ切り後浅いケズリ			～出雲4期	19	31	27	17	2			22	26	144
			ヘラ切り後粗雑なケズリ			出雲4期	62	97	59	66	3	5		65	3	360
			ヘラ切り後天井部周辺ケズリ			出雲4期	9	10	12	6				3		40
			ケズリ後、ナデで整形			出雲5期	2	2	2	1					1	8
			ケズリ省略			出雲5期	12	8	3	4		1		4		32
		つまみ付	擬宝珠			7世紀～	2	3	4		2			5	1	17
			輪状			7世紀～	8	15	2	3	1	3	3	9		44
			円盤状			8世紀～？	2	2	2	1	2	2		5	1	17
			つまみ形状不明小片			7世紀以降	24	41	7	15	5	2		52	1	147
				かえり付口縁		7世紀～7世紀末	2	6	3	7	2	1		19	3	43
		口縁のみの細片	口縁外側に沈線							1						1
			口縁端部内側にアクセント			出雲4期	15	28	16	7		4		27	25	122
			口縁内部に沈線			出雲4期	11	9	3	8		1		10	1	43
			口縁端部肥大			出雲4期～	11	19	8	9	1			6	17	71
			口縁端部が普通におさまる			時期不明	37	31	16	23		1		81	4	193
	鉢？	砲弾形				7世紀代？	2							1		3
	甕	口縁が広がる					9	10	2	1	2			7	1	32
		口縁欠損					2	5	1	4		3		4		19
		底部					2							2		4
	大甕							1							1	2
	壷	直口壷					10	11	7	13		2		34	1	78
		口縁が広がる					1					1				2
		長頸壺					1	4						1		6
		胴から底					2	1		2		1		2	2	10
	高坏		透かし			出雲4～5期	5	2	2	1	1			3	1	15
	鼓					出雲4期～	1	7	3	4		2		3	2	22
	瓶	提瓶					1									1
		横瓶						1								1
		瓶破片					23	23	3	7		1		9		66
						合計	510	846	302	389	37	72	15	650	213	3034
丹塗り土器	坏(碗)	高台付	低い高台				5	7	1		1			7	2	23
			高い高台					3	1	3	1	2		5		15
			底と一体化				1	2	1	1				3	1	9
		高台無	底部縁辺が屈曲する	口縁が外反する			20	3	1	1				14	1	40
				口縁が直線的			13	7	4	11	1	1		56	4	97
				口縁のナデあとが著しい			1	1	1	12				21	2	38
				底部をケズる							1					1
			口縁と底が一体	口縁が丸く立ち上がる			9	13	2		1	2		22	4	53
				口縁が外反する			19	7	1	3	5	1		41	3	80
		底部	ナデ調整				3							2		5
		口縁のみの細片	口縁端部に平坦面				1	2				2		3	1	9
			口縁端部内側に沈線				11	2						7		20
			口縁端部がくびれる				1	1						2	2	6
			口縁小片													1袋
	壷甕類	胴部					14	2	1					6	2	25
	蓋	つまみが付く	円盤状							1				1		2
	皿	口縁部	口縁端が細まる				3	1	2		2			5		13
			口縁端が肥大				2	1	1					2		6
			口縁端部に平坦面					2								2
			口縁端を僅かにつまみ上げる				3				1	1				5
						合計	106	54	16	32	13	9	0	197	22	449
弥生土器	広口壷	口縁	外面に凹線	口縁の稜が上下に伸びる		中期後半	12	13	12	6	14	11		9	3	80
					口縁内面に格子模様	中期後半	1					1				2
					口径の小さいもの	中期後半	1					1				2
				口縁の稜が上だけ伸びる		中期後半	12	9	5	3	3	4		6	1	43
			凹線無し（ナデのみ）			中期後半					1			1	1	3
				口縁部外面に××模様		中期後半						1				1
				口縁部が肥大しない		中期後半				1						1
		頚部	外面に凹線	施文後ナデ		中期後半	16	9	12	7	9	4		7	2	66
					頚部の細いもの	中期後半					1				1	2
				ナデ調整しない		中期後半		1	2		2					5
				凹線内に刻目		中期後半		3	1	1				1		6
		胴部	列点文と羽状文			中期後半	48	20	24	8	56	19	2	28	2	207
				粘土円盤貼付		中期後半								1		1
			格子模様			中期後半						1				1
		底				中古後半					1				1	2
						合計	90	55	56	26	87	42	2	53	11	422

表12　垣ノ内遺跡遺構別出土遺物数量表

時　　期	器　　種	SI01・07	SI02・04	SI03	SI05・08	SI06	SI09	SI10	SI11	SI12	SI13	SI14	SI15	SI16	遺構2・加工段1	SB0102	SB03	加工段2	加工段3	硬化面1	硬化面2	遺構1	SK02	遺構8
弥生時代中期後半	甕・壷		2		3	4	2				6			1	12			138	19	3	41			1
	甕・壷(ネクタイ)										2				12			5	5		8			
	甕・壷(塩町系)			1	1	1					2				1									
	台付壷																							
	高坏										2				13				2	4	1			
	広口壷		1								2				2									
	蓋																							
弥生時代後期初頭	甕					1					3				35									
弥生時代後期前半	甕	2	2												6			1						
	高坏																							
弥生時代後期後半	甕・壷	1	4			2									17			8	3		6			
	高坏																							
	低脚坏																							
弥生時代後期末	甕・壷	4		2											14			6	4					
	高坏	5																						
弥生時代後期末	低脚坏	1				1									1									
弥生時代後期末	器台	2																						
弥生時代後期	甕・壷																							1
	蓋																							
弥生時代	甕・壷					1												1	11					
	底部		1	1	4	1	1				6				39			17	3		12			1
	高坏														2									1
	把手																	4			1			
須恵器(出雲3～4期)	坏身																	23	8	3	8			
	坏蓋																	43	1		12			
(出雲5期～)	坏身														1			2			1			
	坏蓋														1				4	3	7			
	高坏																	1						
																		1	2					
(7世紀代)	坏蓋																							
	坏身																							
(8世紀代)	坏身																	3			1	2	1	2
土師器	甕・壷					1						5			23			176	4	7	23	2	3	1
	甑																	4	1					
	移動式竈																	5						
丹塗り	坏・碗・皿														65			3	1			3	7	8
その他	紡錘車		1															2		1	2			
	土製支脚														(1)									
	製塩土器																					1	3	

時　　期	器　　種	SB09	SK10	SK20	SK01	SD01	SD02	加工段4	AYD1	土器溜り11	土器溜り12	DYD1	土器溜り9	土器溜り10	土器溜り1	土器溜り2	土器溜り3	AKDD	土器溜り4	土器溜り5	土器溜り6	土器溜り7
弥生時代中期後半	甕・壷								72	20	18	26	12	5	9	5	3		1	1		
	甕・壷(ネクタイ)								19	4	1	4	4	2	2					1		
	甕・壷(塩町系)								1	2	1	1	2	1								
	台付壷														1							
	高坏								7	5	2		6		3							
	広口壷								1	13	3	1										
	蓋								1													
弥生時代後期初頭	甕									1	6			13			1					
弥生時代後期前半	甕											3		4	2	1						
	高坏																					
弥生時代後期後半	甕・壷								1	7	1	1	2	19								
	高坏													1								
	低脚坏									1												
弥生時代後期末	甕・壷								6	2					14	9	1					
	高坏																					
弥生時代後期末	低脚坏																					
弥生時代後期末	器台														2							
弥生時代後期	甕・壷														12	5	6					
	蓋									1												
弥生時代	甕・壷								5													
	底部								32	8		6	11	2	1				1			
	高坏								3	1	4											
	把手																					
須恵器(出雲3～4期)	坏身																1	4				
	坏蓋																1					
(出雲5期～)	坏身								1													
	坏蓋																					
	高坏																					
(7世紀代)	坏蓋													2								
	坏身																1					
(8世紀代)	坏身																	1		2	2	2
土師器	甕・壷										3	3					1	10		5	1	2
	甑																					
	移動式竈																					
丹塗り	坏・碗・皿										1									7	76	
その他	紡錘車																					
	土製支脚																					
	製塩土器																					

表13　垣ノ内遺跡出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	出土位置	種類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備　考
26	1	20	D区	SI01・07	弥生	甕	(24.6)	－	－	全面：乳白色	ヨコナデ	ヨコナデ		
26	2	20	D区	SI01・07	弥生	甕	16.2	－	－	全面：淡黒褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ		
26	3	20	D区	SI01・07	弥生	甕	(19.8)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	擬凹線、板状工具による刺突	
26	4	20	D区	SI01・07	弥生	甕	(19.6)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ		
26	5	20	D区	SI01・07	弥生	甕	(16.2)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ		
26	6	20	D区	SI01・07	弥生	甕	(17.4)	－	－	全面：淡黄褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	櫛描き波状文	
26	7	20	D区	SI01・07	弥生	甕	15.0	－	－	全面：淡黒褐色	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ		
26	8	－	D区	SI01・07	弥生	高坏	22.4	6.5	－	全面：淡紅褐色	ヨコナデ後縦のミガキ	ヨコナデ後ミガキ、ハケメ後ミガキ		
26	9	－	D区	SI01・07	弥生	高坏	22.7	－	－	外：褐色 内：赤褐色	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ後ミガキ、ハケメ残る		
26	10	20	D区	SI01・07	弥生	高坏	－	－	－	外：淡黄褐色 内：淡褐色	ヨコナデ後、縦のミガキ	ヨコナデ		
26	11	20	D区	SI01・07	弥生	高坏	20.4	6.0	－	外：黄褐色、一部赤色顔料 内：黄褐色	ナデ後ミガキ、ハケ後ミガキ	ナデ後ミガキ、ハケ後ミガキ	補修孔	12と同一個体か？
26	12	20	D区	SI01・07	弥生	高坏	－	6.6	14.9	全面：黄褐色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ、ミガキ		
26	13	20	D区	SI01・07	弥生	高坏	(19.6)	－	－	全面：淡赤褐色	ミガキ	ミガキ		
26	14	20	D区	SI01・07	弥生	器台	－	－	－	全面：淡褐色	ミガキ	ヨコナデ	貝殻による刺突	
26	15	20	D区	SI01・07	弥生	器台	－	－	－	全面：赤色顔料塗布	ミガキ	ナデ、ケズリ、ミガキ	同心円状スタンプ文	
26	16	20	D区	SI01・07	弥生	低脚坏	－	－	5.0		ナデ	ナデ、ヨコナデ		
28	1	22	C区	SI02・04	弥生	広口壷	(42.2)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ	ナデ		
28	2	23	C区	SI02・04	弥生	広口壷	－	－	7.8	外：赤褐色 内：淡赤褐色	ケズリ後ナデ、指頭圧痕	ヨコナデ、ミガキ		
28	3	22	C区	SI02・04	弥生	甕	(19.8)	－	－	外：淡黒褐色 内：黄褐色	ケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ	板状工具による刺突文	
28	4	22	C区	SI02・04	弥生	甕	28.2	－	－	外：黄褐色 内：褐色	ケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に凹線文	
28	5	22	C区	SI02・04	弥生	甕	(15.8)	－	－	全面：淡褐色	ケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に凹線文	
28	6	22	C区	SI02・04	弥生	甕	(20.4)	－	－	外：赤褐色 内：淡褐色	ケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に凹線文	
28	7	22	C区	SI02・04	弥生	甕	(19.0)	－	－	外：褐色 内：乳褐色	ケズリ、ヨコナデ	ヨコナデ、ハケメ後ナデ	口縁部に凹線文	
28	8	22	C区	SI02・04	弥生	甕	(22.6)	－	－	外：黒褐色 内：乳白色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に凹線文	
28	9	22	C区	SI02・04	弥生	甕	－	－	－	全面：淡赤褐色	ケズリ	ハケメ後ナデ	板状工具による刺突文	丹塗り
28	10	22	C区	SI02・04	弥生	紡錘車	－	－	－	外：黒褐色 内：乳褐色	－	－	土器片の再利用	
31	1	23	C区	SI03	弥生	甕	(25.6)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に凹線文	
31	2	23	C区	SI03	弥生	甕	(24.8)	－	－	全面：淡黒褐色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	不鮮明な凹線文	
31	3	23	C区	SI03	弥生	底部	－	－	(8.8)	外：黒褐色 内：乳白色	ケズリ、指頭圧痕	ヨコナデ、ミガキ		
34	1	25	B区	SI05・08	弥生	甕	(20.2)	－	－	外：淡褐色 内：黒褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケ	口縁部に凹線文3条、胴部に板状工具による刺突文2列	
34	2	25	B区	SI05・08	弥生	甕	(16.2)	－	－	全面：乳白色	ヨコナデ		口縁部に凹線文3条	
34	3	25	B区	SI05・08	弥生	甕	－	－	－	外：淡褐色 内：乳褐色	ナデ	ナデ	塩町式	
34	4	25	B区	SI05・08	弥生	甕	(25.2)	－	－	全面：淡褐色	ナデ	ナデ	口縁部に凹線文3条	
34	5	25	B区	SI05・08	弥生	底部	－	－	(5.8)	外：淡褐色 内：黒褐色	ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ミガキ、指頭圧痕		
34	6	25	B区	SI05・08	弥生	底部	－	－	(6.4)	全面：赤褐色	ナデ	ナデ、ミガキ		
34	7	25	B区	SI05・08	弥生	底部	－	－	5.4	外：淡黄褐色 内：黒褐色	ケズリ、指頭圧痕	ヨコナデ、ミガキ、指頭圧痕		
34	8	25	B区	SI05・08	弥生	底部	－	－	(4.6)	全面：黒褐色	ナデ	ヨコナデ、ミガキ		
37	1	26	C区	SI06	弥生	甕	(17.6)	－	－	全面：乳褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に凹線文3条	
37	2	26	C区	SI06	弥生	甕	(22.6)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に凹線文3条	
37	3	26	C区	SI06	弥生	甕	(12.0)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ、指頭圧痕		
37	4	26	C区	SI06	弥生	甕	(18.0)	－	－	外：淡褐色 内：乳褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に凹線文3条	
37	5	26	C区	SI06	弥生	甕	(14.6)	－	－	全面：乳褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に凹線文3条	
37	6	26	C区	SI06	弥生	甕	(13.0)	－	－	外：淡赤褐色 内：乳褐色	ナデ、ケズリ	ヨコナデ	口縁部に凹線文3条	
37	7	26	C区	SI06	弥生	甕	22.2	－	－	全面：淡黒褐色	ヨコナデ	ヨコナデ		
37	8	26	C区	SI06	弥生	甕	－	－	－	全面：淡褐色	ナデ	ナデ	塩町式	
37	9	26	C区	SI06	弥生	底部	－	－	7.2	全面：淡褐色	ナデ	ナデ		
37	10	26	C区	SI06	弥生	低脚坏	－	－	4.8	全面：乳褐色	ナデ	ナデ		
37	11	27	C区	SI06	土師器	甕	－	－	－	外：淡黄褐色 内：黒褐色	ケズリ	ハケ後ナデ、指頭圧痕		
40	1	27	B区	SI09	弥生	甕	(22.0)	－	－	外：黒褐色 内：褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に凹線文2条	
40	2	27	B区	SI09	弥生	甕	(14.8)	－	－	全面：乳褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に凹線文2条	
40	3	27	B区	SI09	弥生	底部	－	－	(9.8)	外：淡黒褐色 内：黒褐色	ケズリ	ヨコナデ、ナデ		
45	1	32	Ⅱ区	SI13（遺構11）	弥生	甕	(12.8)	－	－	外：淡黒褐色 内：淡赤褐色	ヨコナデ、ヘラケズリ後ナデ	ヨコナデ	塩町式4条の凹線に刻目文、刺突文	外面に煤付着

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	出土位置	種類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備　考
45	2	32	Ⅱ区	SI13（遺構11）	弥生	甕	14.2	－	－	外：淡褐色 内：淡黒褐色	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ	櫛状工具による刺突列点文	
45	3	32	Ⅱ区	SI13（遺構11）	弥生	甕	(22.8)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部凹線文３条、頸部に刻目のある貼付突帯	
45	4	32	Ⅱ区	SI13（遺構11）	弥生	甕	14.8	－	－	外：淡黒褐色 内：淡黄褐色	ヨコナデ、ヘラケズリ後ミガキ	ヨコナデ、ハケメ	塩町式（１条の凹線に刻目文）、口縁部凹線文３条	
45	5	32	Ⅱ区	SI13（遺構11）	弥生	底部	－	－	(5.0)	全面：淡褐色	ケズリ	ヨコナデ、ミガキ、ナデ		
45	6	32	Ⅱ区	SI13（遺構11）	弥生	脚部	－	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	脚部に凹線文３条	
45	7	32	Ⅱ区	SI13（遺構11）	弥生	脚部	－	－	－	全面：淡黒褐色	ケズリ	丁寧なミガキ	凹線文１条、刺突列点文	
50	1	34	B区	SI16（遺構９）	弥生	甕	20.0	－	－	全面：褐色	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	刺突列点文	
53	1	37	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(16.4)	－	－	全面：乳褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に凹線文	
53	2	37	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(14.0)	－	－	外：乳褐色 内：褐色	ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に凹線、刺突列点文	
53	3	37	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(16.0)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に凹線文２条	
53	4	37	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(14.0)	－	－	外：褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ナデ、ケズリ後ナデ	ヨコナデ、ナデ	口縁部に凹線文２条、刺突文	
53	5	37	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(21.0)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に凹線文	
53	6	37	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(15.0)	－	－	全面：乳褐色	ヨコナデ、ナデ、ケズリ後ミガキ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に凹線文３条	
53	7	37	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(23.0)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ、指頭圧痕	ヨコナデ、ハケメ		
53	8	37	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(28.0)	－	－	全面：乳白色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に凹線文３条	
53	9	37	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	23.2	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ハケメ、ハケ後ケズリ	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	刺突列点文	
53	10	37	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	21.6	－	－	全面：淡黒褐色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	貝殻腹縁刺突による刻目文後に凹線文	
53	11	37	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(15.0)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ、指頭圧痕	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に凹線文２条	
53	12	37	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(20.0)	－	－	外：乳褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、指頭圧痕、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ	刺突列点文	
53	13	37	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(28.0)	－	－	全面：乳褐色	ヨコナデ、ハケ後ナデ、指頭圧痕	ヨコナデ、ナデ	口縁部に凹線文４条	
53	14	37	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(25.6)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に凹線文３条、頸部に刻目のある貼付突帯	
53	15	37	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(18.6)	－	－	外：黄褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に凹線文２条、頸部に刻目のある貼付突帯	
53	16	37	Ⅰ区	遺構２	弥生	高坏	(16.4)	－	－	全面：褐色	ヨコナデ、ミガキ	ケズリ、ミガキ	口縁部に凹線文	
53	17	37	Ⅰ区	遺構２	弥生	高坏	(17.0)	－	－	外：褐色 内：淡褐色	ケズリ	丁寧なミガキ	脚端部に刻目文	脚部
53	18	37	Ⅰ区	遺構２	弥生	広口壷	－	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ、ハケ後凹線文	頸部に凹線文	
53	19	39	Ⅰ区	遺構２	弥生	広口壷	－	－	10.7	外：暗褐色 内：淡褐色	ケズリ？	ナデ、ミガキ		底部
54	1	38	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(19.6)	－	－	外：乳褐色 内：乳白色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	口縁部に凹線文２条	
54	2	38	Ⅰ区	遺構２	弥生	壷	(17.0)	－	－	外：褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	口縁部に波打った凹線文３条、貝殻腹縁刺突	
54	3	38	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(20.0)	－	－	全面：乳褐色	ヨコナデ、ミガキ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に凹線文２条	
54	4	38	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(17.0)	－	－	外：黒褐色 内：淡黒褐色	丁寧なミガキ、ケズリ	丁寧なミガキ、ヨコナデ		
54	5	38	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(18.4)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	口縁部に凹線文	
54	6	38	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(29.6)	－	－	外：暗褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ、ケズリ後ナデ	ヨコナデ	口縁部に凹線文	
54	7	38	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(20.8)	－	－	全面：乳褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	口縁部に凹線文	
54	8	38	Ⅰ区	遺構２	弥生	底部	－	－	6.8	全面：褐色	ナデ、ケズリ	ミガキ、ナデ		
54	9	38	Ⅰ区	遺構２	弥生	底部	－	－	(4.6)	全面：淡褐色	ケズリ	ミガキ、ナデ		
54	10	38	Ⅰ区	遺構２	弥生	底部	－	－	(5.8)	外：暗褐色 内：淡褐色	ケズリ後ナデ	ミガキ、ナデ		
54	11	38	Ⅰ区	遺構２	弥生	底部	－	－	(8.6)	外：淡褐色 内：赤褐色	ナデ、指頭圧痕	ミガキ、ナデ		
54	12	38	Ⅰ区	遺構２	弥生	底部	－	－	5.4	外：褐色 内：淡褐色	ケズリ	ミガキ、ヨコナデ		
54	13	38	Ⅰ区	遺構２	弥生	底部	－	－	(5.0)	全面：暗黒褐色	ミガキ	ミガキ、ヨコナデ		
54	14	38	Ⅰ区	遺構２	弥生	底部	－	－	(5.8)	全面：淡褐色	ケズリ、指頭圧痕	ミガキ、ナデ		
54	15	38	Ⅰ区	遺構２	弥生	底部	－	－	(5.4)	外：橙褐色 内：褐色	ミガキ	ミガキ		
54	16	38	Ⅰ区	遺構２	弥生	底部	－	－	2.7	全面：暗褐色	ナデ、指頭圧痕	ミガキ、ナデ		
54	17	38	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(18.8)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ		
54	18	38	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(18.0)	－	－	外：褐色 内：黄褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ		
54	19	38	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(16.6)	－	－	全面：乳褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に板状工具による擬凹線	
54	20	39	Ⅰ区	遺構２	弥生	甕	(37.6)	－	－	外：乳褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ		
54	21	38	Ⅰ区	遺構２	弥生	器台	－	－	－	全面：淡褐色	ミガキ	ヨコナデ		
54	22	39	Ⅰ区	遺構２	弥生	低脚坏	18.5	8.3	10.0	全面：淡褐色	荒いミガキ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ後荒いミガキ		脚部内面上部は荒いケズリ、全面に煤付着
54	23	38	Ⅰ区	遺構２		不明土製品	－	－	(15.8)	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ			基部片

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	出土位置	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備考
54	24	39	I区	遺構2	土師器	甕	14.8	−	−	全面：淡赤褐色	ヨコナデ、ミガキ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ後ミガキ		外面肩部より下、内面底部付近に煤付着
61	1	46	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	須恵器	坏蓋	12.3	4.3	−	外：青灰色 内：灰色	回転ナデ	回転ナデ、粗雑な回転ヘラケズリ		
61	2	46	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	須恵器	坏蓋	12.6	3.9	−	全面：青灰白色	回転ナデ	回転ナデ、粗雑な回転ヘラケズリ		
61	3	46	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	須恵器	坏身	10.8	4.5	−	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ		
61	4	46	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	須恵器	坏身	11.1	4.5	−	外：青灰色 内：灰色	回転ナデ	回転ナデ、粗雑な回転ヘラケズリ		
61	5	46	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	小壷	5.4	6.1	−	全面：淡褐色	ナデ、底ヘラケズリ	ナデ、指頭圧痕		
61	6	46	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	小壷	10.4	11.8	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ヨコナデ、丁寧なナデ		
61	7	46	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	小壷	(9.2)	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		
61	8	46	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	(12.6)	−	−	全面：暗褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ後ナデ		一部に煤
61	9	46	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	(16.0)	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		一部に煤
61	10	46	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	15.7	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		
61	11	49	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	(16.0)	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	ヘラ描文？	
61	12	−	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	13.7	−	−	全面：褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ		
61	13	47	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	19.0	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ		
61	14	47	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	16.2	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ		一部に煤
61	15	47	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	(17.0)	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ		一部に煤
61	16	47	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	18.8	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ		
61	17	47	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	12.0	12.4	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ		
62	1	47	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	(16.0)	−	−	全面：淡紅褐色	ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ		
62	2	47	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	(18.0)	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
62	3	47	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	22.4	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
62	4	48	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	17.2	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		内側1/4に炭化物
62	5	48	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	底部	−	−	−	外：淡褐色 内：褐色	ケズリ	ナデ		
62	6	48	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	14.6	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		一部に煤
62	7	48	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	20.8	27.8	−	全面：褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ	焼成後側面に5cm×0.5cmの穿孔	一部に煤
62	8	48・49	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甑	(25.8)	−	−	外：淡褐色 内：淡黄褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
62	9	49	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甑	23.6	27.2	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ナデ	底部付近に穿孔	
62	10	49	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甑	20.0	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ、ケズリ後ナデ	ヨコナデ、ハケメ後ナデ		
63	1	49	B区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	移動式竈	25.2	34.5	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		
63	2	49	B区	加工段2(BKDD、CKDD)		紡錘車	(2.8)	2.5	4.8	全面：乳白色			表面に鋸歯文	
64	1	50	C区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	15.8	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ		
64	2	50	C区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	24.8	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ		
64	3	50	C区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	13.8	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ		一部に煤
64	4	50	C区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	15.0	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ		
64	5	50	C区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	21.4	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ		
64	6	50	C区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	15.2	−	−	外：淡赤褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ		一部に煤
64	7	50	C区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	28.4	−	−	外：淡褐色 内：淡黒褐色	ヨコナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ、指頭圧痕		
64	8	50	C区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甕	34.0	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
64	9	50	C区	加工段2(BKDD、CKDD)	土師器	甑	22.5	−	7.5	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、指頭圧痕		底部付近に穿孔
64	10	49	C区	加工段2(BKDD、CKDD)		紡錘車	4.9	2.0	−	全面：淡褐色			鋸歯文	
67	1	53	C区	加工段3(CKDD2)	須恵器	坏蓋	13.8	4.0	−	全面：青灰色	回転ナデ	回転ナデ、粗雑な回転ヘラケズリ		
67	2	53	C区	加工段3(CKDD2)	須恵器	坏身	12.2	4.0	−	外：淡青灰色 内：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、粗雑な回転ヘラケズリ		
67	3	53	C区	加工段3(CKDD2)	須恵器	坏身	10.4	3.9	−	外：青灰色 内：淡青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、粗雑な回転ヘラケズリ		
67	4	53	C区	加工段3(CKDD2)	須恵器	底部	−	−	6.3	外：淡茶灰色 内：青灰色	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
67	5	53	C区	加工段3(CKDD2)	丹塗り	碗	13.4	6.5	−	全面：赤色顔料	ヨコナデ、指頭圧痕	ヨコナデ、ハケメ後ナデ	口縁部が歪んでいる	
67	6	53	C区	加工段3(CKDD2)	土師器	甑把手	−	−	−	全面：淡褐色		指頭圧痕		

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	出土位置	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備考
67	7	53	C区	加工段3(CKDD2)	土師器	甕	13.4	−	−	外：淡黄褐色 内：淡灰褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		
67	8	53	C区	加工段3(CKDD2)	土師器	壷	14.2	−	−	全面：淡乳褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
67	9	53	C区	加工段3(CKDD2)	土師器	甕	16.5	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ		
67	10	53	C区	加工段3(CKDD2)	土師器	甕	21.4	33.7	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		外面一部に煤
70	1	55	A区	硬化面1(AKDD2)		紡錘車	−	2.2	5.1	全面：淡紅白色				全面風化
70	2	55	A区	硬化面1(AKDD2)	須恵器	坏身	12.7	4.5	−	全面：灰白色	回転ナデ	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ		
70	3	55	A区	硬化面1(AKDD2)	土師器	甕	18.4	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ後ナデ	ナデ、ハケメ		
70	4	55	A区	硬化面1(AKDD2)	土師器	甕	18.3	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ後ナデ	ナデ、ハケメ		
70	5	55	A区	硬化面1(AKDD2)	土師器	甕	16.4	−	−	全面：淡褐色	ナデ	ナデ、ハケメ		
70	6	55	A区	硬化面1(AKDD2)	土師器	甕	17.2	−	−	全面：淡褐色	ナデ	ハケメ		
70	7	55	A区	硬化面1(AKDD2)	土師器	甕	14.4	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		全体に煤
70	8	55	A区	硬化面1(AKDD2)	土師器	甕	16.6	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ後ナデ	ナデ		一部に煤
70	9	−	A区	硬化面1(AKDD2)	土師器	甕	21.8	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
73	1	57	B区	硬化面2(BKDD2)	須恵器	坏蓋	13.2	4.6	−	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
73	2	57	B区	硬化面2(BKDD2)	須恵器	坏蓋	13.4	4.0	−	全面：青灰色	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
73	3	57	B区	硬化面2(BKDD2)	須恵器	坏蓋	13.0	4.3	−	全面：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
73	4	57	B区	硬化面2(BKDD2)	須恵器	坏身	10.8	3.6	−	全面：青灰色	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
73	5	57	B区	硬化面2(BKDD2)	須恵器	坏身	11.4	3.7	−	全面：淡灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		外面の1/3に自然釉
73	6	57	B区	硬化面2(BKDD2)	須恵器	坏身	10.6	4.1	−	全面：淡灰色	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		外面に自然釉多い
73	7	57	B区	硬化面2(BKDD2)	須恵器	坏身	10.8	4.3	−	全面：淡灰色	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
73	8	57	B区	硬化面2(BKDD2)	土師器	甕	14.6	−	−	外：乳褐色 内：乳白色	ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ		
73	9	57	B区	硬化面2(BKDD2)	土師器	甕	(15.6)	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		
73	10	57	B区	硬化面2(BKDD2)	土師器	甕	(15.0)	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
73	11	58	B区	硬化面2(BKDD2)	土師器	甕	−	−	−	全面：乳褐色	ケズリ	ナデ、ハケメ		
73	12	58	B区	硬化面2(BKDD2)		紡錘車	2.6	2.0	4.2	全面：乳白色				風化
73	13	58	B区	硬化面2(BKDD2)		紡錘車	2.8	2.7	4.5	全面：乳白色			鋸歯文	
76	1	58	I区	遺構1	須恵器	坏	−	−	7.6	全面：青灰色	回転ナデ	ヨコナデ、回転ナデ、ヘラ起こし後ナデ		
76	2	58	I区	遺構1	須恵器	坏	25.0	−	−	全面：暗赤灰色	ヨコ回転ナデ	回転ナデ		
76	3	58	I区	遺構1	製塩土器		−	−	−	全面：淡紅褐色	布目	ナデ		
76	4	58	I区	遺構1	製塩土器		−	−	−	全面：淡紅褐色	ヨコナデ、ナデ	指頭圧痕		
76	5	58	I区	遺構1	丹塗り	坏	−	−	−	全面：丹塗り	ナデ	ナデ		
76	6	58	I区	遺構1	丹塗り	坏	−	−	−	全面：丹塗り	ナデ	ナデ、ミガキ		
76	7	58	I区	遺構1	土師器	甕	30.0	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		一部に煤
76	8	58	I区	遺構1	土師器	甕	28.4	−	−	全面：褐色	ヨコナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		口縁部に煤
79	1	60	D区	SK02	丹塗り	坏	(10.1)	4.1	−	丹塗り	ヨコナデ	ヨコナデ、底部はヘラで起こしてからナデ		底は塗らない、焼け跡有り
79	2	61	D区	SK02	丹塗り	坏	14.5	3.3	10.5	全面：丹塗り	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		底は塗らない
79	3	60	D区	SK02	丹塗り	坏	(12.8)	3.3	(8.8)	全面：丹塗り	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		
79	4	60	D区	SK02	丹塗り	坏	−	−	8.9	全面：丹塗り	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		底は塗らない
79	5	60	D区	SK02	製塩土器		(9.8)	−	−	外：淡褐色 内：淡灰褐色	荒いナデ	荒いナデ		
79	6	61	D区	SK02	丹塗り	坏	13.5	2.6	9.8	全面：丹塗り	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、指頭圧痕		
79	7	60	D区	SK02	丹塗り	坏	−	−	7.1	全面：丹塗り	ヨコナデ	ヨコナデ		高台内面は塗らない
79	8	60	D区	SK02	丹塗り	坏	−	−	8.0	全面：丹塗り	ヨコナデ	ヨコナデ		底は塗らない
79	9	61	D区	SK02	土師器	甕	(28.0)	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ後ナデ		
79	10	60	D区	SK02	土師器	甕	(23.6)	−	−	外：淡黒褐色 内：淡褐色	ハケメ後ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ後ナデ、指頭圧痕		
79	11	60	D区	SK02	土師器	甕	(18.2)	−	−	外：黒褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ		
79	12	60	D区	SK02	土師器	甑	−	−	−	全面：淡赤褐色	ハケメ、ケズリ	ハケメ後ナデ、ハケメ、指頭圧痕		
79	13	61	D区	SK02	須恵器	甕	(20.8)	−	−	外：暗青灰色 内：青灰色	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、タタキ	同心円状あて具痕	
79	14	61	D区	SK02	須恵器	直口壷	8.1	11.7	6.5	全面：灰色	回転ナデ	回転ナデ	底部回転糸切り	
79	15	60	D区	SK02	須恵器	蓋	(13.8)	−	−	全面：青灰色	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
79	16	60	D区	SK02	製塩土器		(10.4)	−	−	全面：乳褐色	ヨコナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕		
79	17	60	D区	SK02	製塩土器		(12.2)	−	−	外：淡黄褐色 内：淡褐色	ナデ、指頭圧痕	ナデ、指頭圧痕		
82	1	62	D区	遺構8	須恵器	底部	−	−	7.0	全面：淡灰色	回転ナデ	回転ナデ	底部回転糸切り	
82	2	62	D区	遺構8	須恵器	坏	13.3	4.8	9.0	全面：暗灰色	回転ナデ	ナデ、ヘラ切り後ナデ		
82	3	62	D区	遺構8	丹塗り	坏	11.9	3.8	6.5	全面：丹塗り	回転ナデ	回転ナデ、ナデ		
82	4	62	D区	遺構8	土師器	甕	29.0	−	−	外：黒褐色 内：乳褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ		
82	5	62	D区	遺構8	丹塗り	坏	13.0	3.3	−	外：淡褐色 内：丹塗り	回転ナデ	回転ナデ、ナデ		外面の一部に丹が残る

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	出土位置	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備考
82	6	62	D区	遺構8	丹塗り	坏	(16.0)	4.7	−	全面：丹塗り	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ミガキ、ハケメ		
82	7	62	D区	遺構8	丹塗り	皿	−	−	(10.0)	全面：丹塗り	ナデ	ナデ後ミガキ		高台の内側も丹塗り
96	1	71	A区	AYD1(AYDD)	弥生	甕	(18.6)	−	−	全面：乳褐色	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部凹線文2条、刺突列点文2列	
96	2	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	甕	(14.0)	−	−	外：暗褐色 内：乳褐色	ヨコナデ、ミガキ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部凹線文2条、刺突列点文2列	
96	3	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	甕	−	−	−	全面：淡褐色	ナデ		塩町式	
96	4	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	甕	(22.4)	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ナデ	ハケメ	口縁部凹線文2条、頸部に刻目のある貼付突帯	口縁端部なし
96	5	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	甕	(28.0)	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	口縁部凹線文2条	
96	6	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	甕	(18.0)	−	−	外：暗褐色 内：乳褐色	ヨコナデ、ナデ、ケズリ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部凹線文2条、刺突列点文	
96	7	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	甕	(17.6)	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部凹線文2条	
96	8	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	甕	(10.0)	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	口縁部凹線文3条	
96	9	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	壺	−	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	頸部に凹線文2条、板状工具を用いたアバウトな刺突	煤付着
96	10	71	A区	AYD1(AYDD)	弥生	甕	21.8	−	−	全面：淡紅褐色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	口縁部凹線文3条、頸部に刻目のある貼付突帯、刺突列点文2列	
96	11	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	甕	(13.2)	−	−	外：乳褐色 内：乳白色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ後ナデ	口縁部凹線、刺突列点文2列	
96	12	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	甕	−	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		
96	13	71	A区	AYD1(AYDD)	弥生	壺(脚付？)	16.5	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ハケメ、ミガキ	ナデ？	口縁部凹線文2条後キザミ、斜格子（凹線5条、円形浮文）ヘラによる刺突列点文2列	表面の風化激しい
96	14	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	甕	−	−	−	外：灰黒色 内：灰褐色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ、ミガキ	口縁部凹線3条、頸部に刻目のある貼付突帯	
96	15	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	蓋	−	−	−	外：灰黒色 内：黒褐色		ミガキ		
96	16	70	A区	AYD1(AYDD)	弥生	広口壺	−	−	−	全面：暗褐色	ナデ、ハケメ	ナデ後凹線文、ハケメ	爪形の刺突列点文	
96	17	71	A区	AYD1(AYDD)	弥生	底部	−	−	7.6	外：黒褐色 内：乳褐色	ナデ、ヘラケズリ	ミガキ、ナデ		
96	18	71	A区	AYD1(AYDD)	弥生	底部	−	−	7.8	外：乳褐色 内：黒褐色	ナデ	ミガキ、ナデ		
96	19	71	A区	AYD1(AYDD)	弥生	底部	−	−	7.4	全面：乳褐色	ナデ、指頭圧痕	ミガキ、ナデ		
97	1	72	A区	AYD1(AYDD)	弥生	高坏	−	−	−	外：乳褐色 内：乳白色	ミガキ、ケズリ		凹線の後、刻目文2列	脚柱部
97	2	72	A区	AYD1(AYDD)	弥生	高坏	−	−	−	全面：暗褐色	ミガキ、ケズリ	ミガキ	凹線	脚柱部
97	3	72	A区	AYD1(AYDD)	弥生	高坏	−	−	−	全面：淡褐色	丁寧なミガキ、ケズリ	ミガキ、ナデ	刻目文3列後、凹線	軸～坏部
97	4	72	A区	AYD1(AYDD)	弥生	高坏	−	−	15.8	外：淡赤褐色 内：淡黄褐色	ケズリ後ナデ、ヨコヘラケズリ、ケズリ	ナデ	凹線の後、刻目文3列、脚端部にも刻目文	脚～脚柱部
97	5	72	A区	AYD1(AYDD)	弥生	高坏	19.0	−	9.5	全面：淡白褐色	ハケメ、ナデ、ヨコヘラケズリ、ケズリ	ミガキ	口縁部凹線3条、刻目文3列、脚柱部凹線文	
97	6	72	A区	AYD1(AYDD)	弥生	高坏	(20.4)	−	−	全面：乳褐色	ヨコナデ、ミガキ、指頭圧痕	ミガキ、ナデ	口縁端部の平坦面に凹線、脚柱部凹線文	軸～坏部
97	7	72	A区	AYD1(AYDD)	弥生	高坏	30.6	−	−	外：暗褐色 内：淡黄褐色	接合部ハケのちミガキ、ヨコナデ	ミガキ	口縁端部の平坦面に凹線2条、口縁部凹線6条、1・5・6段目刻目文、脚柱部凹線文、刻目文	
99	1	73	I区	土器溜り11	弥生	甕	12.2	−	−	外：淡紅褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に凹線文2条、刺突列点文	外面煤有り
99	2	73	I区	土器溜り11	弥生	甕	13.0	−	−	外：淡黄褐色 内：褐色	ヨコナデ、ナデ、ケズリ、指頭圧痕	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に凹線文	外面煤有り
99	3	74	I区	土器溜り11	弥生	甕	16.2	−	−	外：淡黒褐色 内：乳褐色	ヨコナデ、ハケメ、ハケ後ナデ	ヨコナデ、ハケメ	塩町式、口縁部に凹線文3条	
99	4	73	I区	土器溜り11	弥生	甕	−	−	−	外：淡黄褐色 内：暗黄褐色	ハケ後ナデ	ハケメ	塩町式	
99	5	73	I区	土器溜り11	弥生	甕	21.0	−	−	外：淡黒褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、指頭圧痕、ケズリ後ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ハケ後ナデ	口縁部に凹線文2条	内外面煤有り
99	6	73	I区	土器溜り11	弥生	甕	36.0	−	−	全面：黄褐色	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に凹線文3条、貼付突帯	
99	7	73	I区	土器溜り11	弥生	甕	(13.2)	−	−	外：淡黒褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	山形の沈線文	外面煤有り
99	8	74	I区	土器溜り11	弥生	底部	−	−	4.8	全面：淡黒褐色	ケズリ、指頭圧痕	ヨコナデ、ナデ、指頭圧痕、ミガキ、ハケメ		
99	9	74	I区	土器溜り11	弥生	底部	−	−	8.8	全面：淡褐色	ケズリ、指頭圧痕	ナデ、、ミガキ		
99	10	74	I区	土器溜り11	弥生	広口壺	37.4	−	−	全面：淡褐色	凹線後ナデ、ハケメ、ハケ後ナデ	ナデ、ハケメ	口縁部に凹線文3条、口縁内側に凹線文6条	
99	11	74	I区	土器溜り11	弥生	広口壺	−	−	−	全面：淡赤褐色	ハケメ、ハケ後ナデ	ハケメ	4条以上（？）の凹線文	胴部
99	12	74	I区	土器溜り11	弥生	高坏	20.0	−	−	外：淡赤褐色 内：淡黒褐色	ナデ、ミガキ	ミガキ	外面に5条の凹線文、刻目文3条	坏部
99	13	74	I区	土器溜り11	弥生	高坏	17.6	−	−	全面：乳褐色	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	外面に3条の凹線文	坏部
99	14	74	I区	土器溜り11	弥生	高坏	−	−	17.0	全面：淡褐色	ケズリ	ナデ	外面に4条の凹線文、透かしの一部	脚部

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	出土位置	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備考
99	15	74	I区	土器溜り11	弥生	高坏	－	－	15.0	外：淡褐色 内：暗褐色	ケズリ、ナデ	ミガキ	刻目文3条、内1条は凹線文の中にキザミ	
99	16	74	I区	土器溜り11	弥生	高坏	－	－	10.0	全面：淡黒褐色	ケズリ	ナデ	脚柱部には凹線、脚の外面に4条の凹線文、三角状透かし、透かしを挟んで羽状文、山形文	
99	17	74	I区	土器溜り11	弥生	壷	17.2	－	－	全面：橙黄褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ	口縁部に擬凹線文(上半分はナデ消す？)	
99	18	74	I区	土器溜り11	弥生	甕	(18.0)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ後ナデ	ヨコナデ、ナデ		
99	19	74	I区	土器溜り11		蓋？	(18.6)	－	－	全面：淡褐色	ミガキ	ヨコナデ、ミガキ		
101	1	76	I区	土器溜り12	弥生	甕	17.6	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ミガキ	ナデ、ハケメ	口縁部に擬凹線文、刺突列点文	
101	2	76	I区	土器溜り12	弥生	甕	15.3	－	－	外：淡紅褐色 内：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ	口縁部に凹線文3条、頸部に刻目のある貼付突帯	
101	3	76	I区	土器溜り12	弥生	甕	(18.3)	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ、ミガキ	口縁部に凹線文3条、刺突列点文	胴部下に煤
101	4	76	I区	土器溜り12	弥生	甕	17.8	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ハケメ	ナデ	口縁部に凹線文3条	風化が激しい
101	5	76	I区	土器溜り12	弥生	甕	(18.3)	－	－	外：淡黄褐色 内：淡紅褐色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	口縁部に凹線文4条	
101	6	77	I区	土器溜り12	弥生	甕	18.2	－	－	全面：淡褐色	ナデ	ハケメ	口縁部に凹線文3条後縦にキザミ、胴部上部には斜格子文、細い凹線文（5条、4条、5条）束3列、中段の凹線文上に円形浮文、胴部中段に凹線文5条後縦の棒状浮き文4本を1組にして貼り付ける。頸部に刻目のある貼付突帯	塩町式
101	7	77	I区	土器溜り12	弥生	高坏	－	－	－	外：淡褐色 内：淡紅褐色	ケズリ、シボリ		脚柱部に凹線文、刻目文1条	軸部
101	8	76	I区	土器溜り12	弥生	高坏	－	－	14.6	外：淡紅色 内：淡褐色	ケズリ	ミガキ	脚端部の平坦面に2条の凹線文、刻目文	脚部
101	9	77	I区	土器溜り12	弥生	広口壷	－	－	－	全面：淡褐色	ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	5条の凹線文を入れ、ナデ、列点文	頸部
101	10	77	I区	土器溜り12	弥生	広口壷	－	－	－	外：乳褐色 内：褐色	ハケメ、指頭圧痕、ケズリ	ハケメ	頸部に凹線文3条、刺突文2列の間に綾杉文	頸部～胴部
101	11	77	I区	土器溜り12	弥生	広口壷	－	－	－	全面：乳褐色	ナデ、ケズリ、ハケメ、ミガキ？	ハケメ	頸部に凹線文5条、刺突文、その下に綾杉文2組	頸部～胴部
101	12	77	I区	土器溜り12	弥生	壷	16.0	－	－	外：暗褐色 内：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	口縁部に擬凹線文、胴部に櫛状工具による刺突列点文2列、ヘラがき凹線文	
104	1	78	D区	DYD1(DYDD)	弥生	甕	(18.0)	－	－	外：黒褐色 内：暗褐色	ヨコナデ、ハケメ後指頭圧痕、ハケメ後ミガキ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	口縁部に2条の凹線文	
104	2	78	D区	DYD1(DYDD)	弥生	甕	(18.6)	－	－	全面：暗褐色	ヨコナデ、ナデ指頭圧痕	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に3条の凹線文	
104	3	78	D区	DYD1(DYDD)	弥生	甕	(21.0)	－	－	全面：乳褐色	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に3条の凹線文	
104	4	78	D区	DYD1(DYDD)	弥生	甕	(20.8)	－	－	外：乳褐色 内：暗褐色	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ、指頭圧痕	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に2条の凹線文、塩町式（3条の凹線に刻目文）刺突列点文2列	一部に煤
104	5	78	D区	DYD1(DYDD)	弥生	甕	(24.0)	－	－	全面：乳褐色	ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ後ナデ、ミガキ	口縁部に凹線文、刺突列点文2列、頸部に刻目のある貼付突帯	
104	6	78	D区	DYD1(DYDD)	弥生	甕	(18.0)	－	－	外：黒褐色 内：褐色	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に凹線文	
104	7	79	D区	DYD1(DYDD)	弥生	甕	(20.4)	－	－	外：黒褐色 内：暗褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に凹線文	
104	8	79	D区	DYD1(DYDD)	弥生	甕	(14.0)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ハケメ後ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に凹線文、刺突列点文	
104	9	79	D区	DYD1(DYDD)	弥生	甕	(17.0)	－	－	外：淡黒褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ナデ、ケズリ後ナデ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に2条の凹線文、塩町式（3条の凹線に刻目文）、刺突列点文2列	内外面大部分に煤付着
104	10	79	D区	DYD1(DYDD)	弥生	甕	(16.0)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に3条の凹線文、刺突列点文	
104	11	79	D区	DYD1(DYDD)	弥生	甕	(17.6)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	口縁部に凹線文	
104	12	79	D区	DYD1(DYDD)	弥生	底部	－	－	6.4	全面：淡黒褐色	ケズリ	ナデ、ミガキ	底部中央に焼成後穿孔	
104	13	79	D区	DYD1(DYDD)	弥生	壷	(14.2)	－	－	外：黒褐色 内：乳褐色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ	刺突列点文2列、頸部に凹線文	一部に煤
104	14	79	D区	DYD1(DYDD)	弥生	壷	15.4	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ？	刺突列点文2列	一部に煤
104	15	80	D区	DYD1(DYDD)	弥生	広口壷	36.8	－	－	全面：淡黒褐色	タテハケメ、ハケメ	ナデ、ヨコハケメ、指頭圧痕	口縁端部の平坦面に凹線	
105	1	80	D区	DYD1(DYDD)	弥生	甕	(21.8)	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ後ナデ	口縁部凹線文、板状工具による刺突文	
105	2	80	D区	DYD1(DYDD)	弥生	甕	(19.6)	－	－	全面：淡赤褐色	ヨコナデ、ケズリ後ナデ	ヨコナデ	口縁部擬凹線	一部に煤
105	3	80	D区	DYD1(DYDD)	弥生	甕	(17.0)	－	－	外：褐色 内：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	口縁部擬凹線	

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	出土位置	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備考
108	1	80	Ⅰ区	土器溜り9	弥生	甕	(19.6)	−	−	全面：乳褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に明確な段、凹線文2条、頸部に刻目のある貼付突帯	
108	2	81	Ⅰ区	土器溜り9	弥生	甕	(17.3)	−	−	全面：黄褐色	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に凹線文2条	
108	3	80	Ⅰ区	土器溜り9	弥生	甕	20.0	−	−	全面：淡黒褐色	ヨコナデ、ケズリ、ハケメ、指頭圧痕	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に凹線文2条、刺突列点文	外面煤有り
108	4	80	Ⅰ区	土器溜り9	弥生	甕	23.0	−	−	全面：淡黒褐色	ヨコナデ、ハケメ、指頭圧痕	ヨコナデ、ハケメ、ハケ後ナデ	口縁部に凹線文、刺突列点文	
108	5	80	Ⅰ区	土器溜り9	弥生	甕	(33.0)	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ハケメ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	刺突文、口縁部に凹線文、貼付突帯	
108	6	80	Ⅰ区	土器溜り9	弥生	甕	−	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	塩町式、破片	
108	7	80	Ⅰ区	土器溜り9	弥生	甕	−	−	−	全面：暗黄褐色	ナデ	ヘラキザミ	塩町式、破片	
108	8	80	Ⅰ区	土器溜り9	弥生	甕	−	−	−	全面：淡黒褐色	ナデ、ミガキ	ナデ、ハケ、ミガキ	塩町式、破片	
108	9	81	Ⅱ区	土器溜り10	弥生	甕	14.6	−	−	全面：淡黒褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケ、ミガキ	口縁部に擬凹線文、板状工具による連続刺突文	内面煤有り
108	10	81	Ⅱ区	土器溜り10	弥生	壷	8.6	−	−	外：褐色 内：淡赤褐色	ナデ、ミガキ、ケズリ	凹線後ナデ、ナデ	刺突文	
108	11	81	Ⅱ区	土器溜り10	弥生	底部	−	−	4.2	外：淡黒褐色 内：淡褐色	ケズリ	ミガキ		底もミガキ
108	12	81	Ⅱ区	土器溜り10	弥生	壷	15.8	−	−	全面：淡赤褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	木口を回しながらあてた文様	
108	13	81	Ⅱ区	土器溜り10	弥生	壷	16.8	−	−	全面：淡赤褐色	ミガキ、ケズリ	ナデ	口縁部、頸部に擬凹線文	外面煤有り
108	14	81	Ⅱ区	土器溜り10	弥生	甕	23.3	−	−	全面：淡黄褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	口縁部、頸部に擬凹線文	
108	15	81	Ⅱ区	土器溜り10	弥生	壷	16.4	−	−	外：淡黒褐色 内：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	貝殻による押引き文	
108	16	81	Ⅱ区	土器溜り10	弥生	器台	−	−	15.8	全面：赤色顔料	ナデ、ケズリ	擬凹線文後ナデ	擬凹線文	脚台部
108	17	81	Ⅱ区	土器溜り10	弥生	高坏	−	−	−	全面：灰白色	ナデ、ミガキ	ミガキ	凹線文2条の間に刻目文	焼成不良
108	18	81	Ⅱ区	土器溜り10	弥生	壷	15.0	−	−	全面：淡褐色	ミガキ、ケズリ	ナデ、ミガキ	口縁部に擬凹線文、肩部に貝殻刺突文	
108	19	81	Ⅱ区	土器溜り10	弥生	壷	−	−	−	外：淡褐色 内：淡黒褐色	ミガキ、ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ	板状工具による押引き文	
108	20	81	Ⅱ区	土器溜り10	弥生	甕	22.8	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ミガキ		口縁部に煤付着
108	21	81	Ⅱ区	土器溜り10	弥生	壷	−	−	6.8	外：暗褐色 内：淡褐色	ケズリ	ミガキ		底部
112	1	85	Ⅱ区	土器溜り3	弥生	壷	(13.6)	−	−	全面：淡黒褐色	ナデ、ケズリ	ヨコナデ	口縁部にいびつな凹線文3条、貝殻腹縁刺突？	外面に煤付着
112	2	85	Ⅱ区	土器溜り2	弥生	壷	(16.0)	−	−	外：淡黒褐色 内：黒褐色	ミガキ、ケズリ後ミガキ、ケズリ	ミガキ、ケズリ後ミガキ		かなり異色な土器
112	3	85	Ⅱ区	土器溜り1	弥生	壷	(17.6)	−	−	全面：淡黄褐色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に凹線文	
112	4	85	Ⅱ区	土器溜り1	弥生	甕	(25.4)	−	−	全面：淡赤褐色	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ	口縁部に擬凹線文	
112	5	85	Ⅱ区	土器溜り1	弥生	器台	(24.8)	−	−	全面：淡黒褐色	ヨコナデ、ケズリ後ミガキ	ヨコナデ		受部
112	6	85	Ⅱ区	土器溜り1	弥生	器台	−	−	(19.6)	外：淡赤褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ		脚台部
112	7	85	Ⅱ区	土器溜り2	弥生	甕	(14.6)	−	−	外：暗紅褐色 内：紅褐色	ナデ、ケズリ、ミガキ	ナデ、ハケメ	口縁部に擬凹線文、胴部に波状文	
112	8	85	Ⅱ区	土器溜り1	弥生	甕	18.4	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		
112	9	85	Ⅱ区	土器溜り3	土師器	甕	−	−	−	全面：褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		外面は全体に風化が激しい
112	10	85	Ⅱ区	土器溜り3	土師器	甕	21.2	−	−	全面：褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
112	11	85	Ⅱ区	土器溜り3	土師器	甑	23.7	22.6	8.9	全面：黒褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
113	1	86	Ⅱ区	土器溜り3	土師器	甕	23.3	−	−	全面：褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		
113	2	86	Ⅱ区	土器溜り3	土師器	甕	22.2	25.0	−	全面：褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ		内面炭化物有り、内外面煤多し
113	3	86	Ⅱ区	土器溜り3	土師器	甕	18.0	25.2	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
113	4	86	Ⅱ区	土器溜り2	土師器	甕	17.6	28.0	−	外：淡黒褐色 内：暗褐色	ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ		外面煤有り
113	5	86	Ⅱ区	土器溜り1	土師器	甕	18.3	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ、ケズリ後ナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ		外面煤有り
113	6	86	Ⅱ区	土器溜り1	土師器	甕	17.0	22.2	−	外：暗褐色 内：淡黄褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ後ナデ、指頭圧痕		外面煤有り
113	7	86	Ⅱ区	土器溜り3	土師器	甕	16.8	−	−	全面：褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		外面煤有り
113	8	87	Ⅱ区	土器溜り3	須恵器	蓋	13.0	4.8	−	全面：灰色	回転ナデ	回転ナデ、外縁回転ヘラケズリ	口縁部内側に沈線	
113	9	87	Ⅱ区	土器溜り3	土師器	小壷	10.5	8.8	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		外面煤多し
113	10	87	Ⅱ区	土器溜り1	土師器	小壷	10.0	(15.2)	−	外：暗褐色 内：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		外面全体に煤有り
113	11	87	Ⅱ区	土器溜り1、3	土師器	小壷	10.8	−	−	外：淡黒褐色 内：淡赤褐色	ヨコナデ、ハケメ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケメ		
113	12	86	Ⅱ区	土器溜り3	土師器	甕	18.4	21.0	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
116	1	88	A区	AKDD	須恵器	坏	11.5	−	−	全面：灰白色	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
116	2	88	A区	AKDD	土師器	壷	−	−	−	全面：淡褐色	ケズリ	ナデ		
116	3	88	A区	AKDD	土師器	甕	22.8	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		
116	4	88	A区	AKDD	土師器	甕	23.2	−	−	外：淡黒褐色 内：淡赤褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
116	5	88	A区	AKDD	土師器	甕	21.1	−	−	外：褐色一部紅色 内：紅褐色	ハケメ、ケズリ	ハケメ		
116	6	88	A区	AKDD	土師器	甕	23.6	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	出土位置	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備考
116	7	88	A区	AKDD	土師器	甕	26.2	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ハケメ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
116	8	88	A区	AKDD	土師器	甕	21.2	−	−	全面：淡赤褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		
116	9	88	A区	AKDD	土師器	甕	21.6	−	−	全面：褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
116	10	89	A区	AKDD	土師器	甕	(30.8)	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
116	11	89	A区	AKDD	土師器	甕	21.5	−	−	全面：褐色	ナデ、ヘラケズリ	ナデ		
116	12	89	A区	AKDD	土師器	甕	36.8	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ハケメ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
119	1	91	Ⅱ区	土器溜り4	弥生	甕	19.4	−	−	外：褐色 内：黒褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
119	2	91	Ⅱ区	土器溜り4	弥生	底部	−	−	5.2	外：淡暗黒褐色 内：淡暗褐色	ケズリ、指頭圧痕	ナデ、ミガキ		
119	3	91	Ⅱ区	土器溜り5	丹塗り	坏	14.7	3.5	−	全面：丹塗り	ヨコナデ	ヨコナデ		
119	4	90	Ⅱ区	土器溜り5	丹塗り	坏	14.6	(3.8)	(7.0)	全面：丹塗り	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ		
119	5	90	Ⅱ区	土器溜り5	丹塗り	坏	(14.5)	−	−	全面：丹塗り	ヨコナデ	ヨコナデ		表面の摩耗が激しい
119	6	90	Ⅱ区	土器溜り5	丹塗り	坏	(9.6)	(4.8)	(6.8)	全面：丹塗り	ヨコナデ	ミガキ、ケズリ		
119	7	90	Ⅱ区	土器溜り5	丹塗り	壷	(7.6)	−	−	全面：丹塗り	ミガキ、ケズリ	ナデ、指頭圧痕		補修孔
119	8	90	Ⅱ区	土器溜り5	土師器	甕	(27.0)	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、指頭圧痕、ハケメ後ナデ		
119	9	91	Ⅱ区	土器溜り5	土師器	甕	(25.0)	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ、指頭圧痕	ヨコナデ		
119	10	91	Ⅱ区	土器溜り5	土師器	甕	28.6	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ		
119	11	91	Ⅱ区	土器溜り5	土師器	壷	(25.1)	−	−	全面：淡黒褐色	ヨコナデ、叩き痕	ヨコナデ、ハケメ		
119	12	91	Ⅰ区	土器溜り7	須恵器	坏	13.2	5.1	9.0	外：淡灰褐色 内：淡灰色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ		底部回転糸切り
119	13	91	Ⅰ区	土器溜り6	須恵器	坏	−	−	7.1	全面：淡灰褐色	回転ナデ、ハケメ	回転ナデ		底部回転糸切り
119	14	90	Ⅰ区	土器溜り6	土師器	甕	(24.2)	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ		
119	15	91	Ⅰ区	土器溜り6	土師器	甕	(31.0)	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ		
119	16	91	Ⅰ区	土器溜り7	土師器	甕	(35.0)	−	−	全面：淡赤褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ		外面の一部に煤付着
120	1	92	D区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：暗褐色 内：淡褐色	ナデ	縄文		船元3（凹線文2条）
120	2	92	Ⅰ区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：黒褐色 内：淡黄褐色	ナデ	ナデ、縄文		船元3
120	3	92	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：黒褐色 内：淡褐色	ヨコナデ	縄文		船元3
120	4	92	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：黒褐色 内：淡褐色	ナデ	縄文		船元3
120	5	92	C区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：淡褐色	ナデ	縄文		船元3
120	6	92		包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：暗褐色	ナデ、縄文	縄文		船元2（波子式？）
120	7	92	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：暗褐色 内：淡赤褐色	ナデ	縄文、指頭圧痕		船元3
120	8	92	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：淡黒褐色	ナデ	荒い縄文、凹線文とナデ	方形の区画	船元3
120	9	92	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ	荒い縄文、細かい縄文、凹線文		船元3
120	10	92	A区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：灰褐色	ナデ	縄文、凹線文		船元3
120	11	92	D区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：灰褐色	ナデ	縄文、凹線文		船元3
120	12	92	D区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：淡褐色 内：灰褐色	ナデ	縄文、凹線文		船元3
120	13	92	D区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：褐色	ナデ	太い縄文		船元3
120	14	92	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：淡橙褐色	ナデ	ナデ、縄文、刺突		船元3
120	15	92	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：褐色	ナデ	ナデ、縄文、半裁竹管文	連弧文	船元3
120	16	92	D区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：褐色	ナデ	縄文、凹線文		船元または縁帯文
120	17	92	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：暗赤褐色 内：橙褐色	ナデ	ナデ、縄文、半裁竹管文	波状文	船元3または4
120	18	92	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：紅褐色	凹線文、縄文	凹線文、縄文		船元3
120	19	93	B,C区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：淡褐色	ナデ	ナデ、刺突		船元3
120	20	93	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：乳褐色	ナデ	ナデ、斜めからの刺突、1条おきに太細の縄文		船元4
120	21	93	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：淡黒褐色 内：淡黄褐色	ナデ	半裁竹管文、撚り糸	波状文	里木2
120	22	93	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：淡黄褐色 内：暗褐色	ナデ	撚り糸、半裁竹管文	波状文	里木2
120	23	93	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：淡赤褐色 内：淡褐色	ナデ	撚り糸、半裁竹管文	波状文	里木2
120	24	93	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：黒褐色	ナデ	撚り糸、半裁竹管文	波状文	里木2
121	1	93	Ⅰ区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：淡褐色	ナデ	撚り糸、半裁竹管文		里木2
121	2	93	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：乳褐色 内：淡赤褐色	ナデ	撚り糸、半裁竹管文		里木2
121	3	93	C区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：淡黒褐色 内：淡褐色	ナデ	撚り糸、突帯		里木2
121	4	93	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：淡赤褐色 内：暗褐色	ナデ	撚り糸、凹線文		里木2
121	5	93	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：暗褐色	ナデ	撚り糸、半裁竹管文		里木2
121	6	93	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：淡褐色 内：淡赤褐色	ナデ	撚り糸、半裁竹管文		里木2
121	7	93	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：乳褐色	ナデ	撚り糸、ナデ		里木2

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	出土位置	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備考
121	8	93	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：淡褐色	ナデ	撚り糸、ナデ		里木2
121	9	93	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：淡黒褐色 内：淡褐色	ナデ	撚り糸、凹線文、ナデ	口縁肥大	里木2
121	10	93	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：淡乳褐色	ナデ	撚り糸		里木2
121	11	93	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：淡黄褐色	ナデ	撚り糸、凹線文		里木2
121	12	93	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：淡褐色	ナデ	縄文、貼付突帯にキザミ		船元2
121	13	94	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：淡黒褐色 内：淡褐色	ナデ	撚り糸、半裁竹管文	連弧文	里木2
121	14	94	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：淡黒褐色 内：淡黄褐色	ナデ	撚り糸、半裁竹管文	連弧文	里木2
121	15	94	D区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：淡黒褐色 内：乳白色	ナデ	撚り糸、半裁竹管文	連弧文	里木2
121	16	94	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：淡黒褐色 内：暗灰褐色	ナデ	撚り糸、半裁竹管文	連弧文	里木2
121	17	94	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：淡黒褐色	ナデ	撚り糸、半裁竹管文	連弧文	里木2
121	18	94	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：暗褐色	ナデ	撚り糸、半裁竹管文	連弧文	里木2
121	19	94	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：淡黒褐色 内：淡褐色	ナデ	撚り糸、凹線文、ナデ	連弧文	里木2
121	20	94	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：淡褐色	ナデ	撚り糸、凹線文、刺突文、ナデ		里木3
121	21	94	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：淡黄褐色	ナデ後ミガキ	縄文、磨り消し		中津2
121	22	94	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：淡黄褐色	ナデ、ミガキ	縄文、磨り消し		中津2
121	23	94	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：淡黄褐色	ナデ	縄文、磨り消し		中津2
121	24	94	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：淡赤褐色 内：淡褐色	ナデ	縄文、磨り消し		中津2
121	25	94	B区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	外：淡赤褐色 内：黒褐色	ナデ	縄文、磨り消し		中津2
122	1	95	B区	包含層	縄文	鉢	−	−	−	全面：乳褐色	ミガキ	縄文、ナデ、ミガキ		崎ヶ鼻(彦崎K1)
122	2	95	C区	包含層	縄文		−	−	−	外：黒褐色 内：淡褐色	ナデ	縄文、ナデ		崎ヶ鼻(彦崎K1)
122	3	95	C区	包含層	縄文		−	−	−	全面：暗褐色	ナデ	縄文、半裁竹管で描く渦巻き形		福田K2
122	4	96	B区	包含層	縄文	深鉢	22.2	21.3	−	外：乳褐色 内：暗褐色	ミガキ、ナデ	磨消縄文、ミガキ、凹線文	左右非対称の把手状突起、G字形モチーフ	布勢
122	5	95	B区	包含層	縄文		−	−	−	全面：乳白色	縄文、ナデ	縄文、太い凹線文		崎ヶ鼻
122	6	95	B区	包含層	縄文		−	−	−	全面：乳褐色	縄文、ナデ	縄文、太い凹線文		崎ヶ鼻、後期、外面に煤付着
122	7	95	B区	包含層	縄文		−	−	−	全面：淡褐色	ナデ	ナデ、凹線文	口縁端部にも凹線文1条	晩期初頭
122	8	95	B区	包含層	縄文		−	−	−	全面：淡褐色	ナデ	ナデ、凹線文		晩期初頭
122	9	95	B区	包含層	縄文		−	−	−	全面：乳褐色	ナデ	ナデ、浅い沈線文		晩期初頭
122	10	95	A区	包含層	縄文		−	−	−	外：淡褐色 内：褐色	ナデ	ナデ、刺突、半裁竹管文		滋賀里
122	11	95	B区	包含層	縄文		−	−	−	全面：灰褐色	ナデ	ナデ、凹線文	粘土帯貼付け	谷尻
122	12	95	D区	包含層	縄文		−	−	−	全面：灰褐色	ヨコナデ、刺突	ヨコナデ、指頭圧痕	口縁端部に刺突	谷尻
122	13	95	A区	包含層	縄文		−	−	−	全面：暗褐色	ナデ	ナデ	口縁端部にヘラ刺突	谷尻
123	1	97	Ⅱ区	包含層	縄文	粗製浅鉢	−	−	−	外：淡褐色 内：暗褐色	ナデ	ミガキ、ナデ、凹線文		晩期
123	2	97	B区	包含層	縄文		−	−	−	全面：暗紅褐色	ナデ	ナデ、凹線文、刺突文		船元3E?
123	3	97	Ⅱ区	包含層	縄文	深鉢	−	−	−	全面：淡褐色	ナデ	ナデ、貼付突帯にキザミ		
123	4	97	D区	包含層	縄文	粗製深鉢	−	−	−	外：淡赤褐色 内：暗褐色	ナデ	ナデ		
123	5	97	B区	包含層	縄文	粗製深鉢	−	−	−	外：暗黒褐色 内：淡乳褐色	ナデ	ナデ		
123	6	97		包含層	縄文	粗製深鉢	−	−	−	外：淡赤褐色 内：淡黄褐色	ナデ	ナデ		
123	7	97	D区	包含層	縄文	粗製浅鉢	−	−	−	外：淡黒褐色 内：淡灰褐色	ナデ	ナデ		
123	8	97	C区	包含層	縄文	粗製深鉢	−	−	−	外：淡黒褐色 内：暗乳褐色	ナデ	ナデ		
123	9	97	B区	包含層	縄文	粗製深鉢	−	−	−	外：淡黒褐色 内：褐色	ナデ	条痕、ナデ		晩期
123	10	97	B区	包含層	縄文	粗製深鉢	−	−	−	全面：淡赤褐色	ナデ	条痕、ナデ		晩期
123	11	97	B区	包含層	縄文	粗製深鉢	−	−	−	外：淡赤褐色 内：淡乳褐色	ヨコナデ	条痕、ナデ		晩期
123	12	97	A区	包含層	縄文	粗製深鉢	−	−	−	全面：淡黄褐色	ナデ、指頭圧痕	荒いナデ		晩期
123	13	97		包含層	縄文		−	−	−	全面：暗褐色	ナデ	条痕	口縁端部にキザミ	晩期
123	14	97	Ⅰ区	包含層	縄文	粗製浅鉢	−	−	−	全面：暗黄褐色	ナデ	ヨコナデ		晩期
123	15	98	Ⅱ区	包含層	縄文	底部	−	−	−	全面：褐色	ナデ、ケズリ	撚り糸、ナデ		里木2
123	16	98	B区	包含層	縄文	底部	−	−	−	外：淡褐色 内：淡紅褐色	ナデ	条痕、ナデ		晩期
123	17	98	Ⅰ区	包含層	縄文	底部	−	−	−	外：橙褐色 内：黒褐色	ナデ	条痕、ナデ		晩期
123	18	98	Ⅱ区	包含層	縄文	底部	−	−	−	外：暗褐色 内：紅褐色	ナデ	ヨコナデ、ナデ		
123	19	98	D区	包含層	縄文	底部	−	−	−	全面：淡褐色	ナデ	ナデ		
124	1	98		包含層	弥生	甕	(14.8)	−	−	全面：淡黒褐色	ヨコナデ、ケズリ、指頭圧痕	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に2条の凹線文、胴部に刺突文	
124	2	98	B区	包含層	弥生	甕	(15.6)	−	−	全面：淡褐色	ヨコナデ、ハケメ、ハケメ後ナデ	ハケメ、ハケメ後ナデ	胴部に刺突文2列	
124	3	98	A区	包含層	弥生	甕	15.7	−	−	外：黒褐色 内：褐色	ナデ、ハケメ、ミガキ	ナデ	胴部に刺突文2列	
124	4	99	A区	包含層	弥生	甕	17.4	−	−	外：淡黒褐色 内：淡褐色	ナデ、ミガキ、ケズリ	ナデ、ハケメ、ミガキ	胴部に刺突文	外面煤多し

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	出土位置	種類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備　考
124	5	98	Ⅰ区	包含層	弥生	甕	(18.4)	－	－	外：淡黄褐色 内：乳褐色	ナデ、ケズリ、指頭圧痕	ヨコナデ、ハケメ	胴部に刺突文２列	
124	6	98	A区	包含層	弥生	甕	15.4	－	－	外：黒褐色 内：淡褐色	ナデ、ハケメ、ケズリ	ナデ、ミガキ	胴部に刺突文２列	
124	7	99	A区	包含層	弥生	甕	22.2	－	－	全面：淡橙色	ナデ、ケズリ、ミガキ	ナデ	口縁部に２条の凹線文、板状工具による刺突	
124	8	99	A区	包含層	弥生	甕	21.4	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ、ミガキ、ハケメ、指頭圧痕	ナデ、ハケメ、ミガキ	胴部に刺突文	
124	9	99	D区	包含層	弥生	甕	(21.0)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	ヨコナデ	口縁部に２条の擬凹線文、胴部に刺突文２列	
124	10	99	A区	包含層	弥生	甕	24.0	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ハケメ後ナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に３条の擬凹線文、胴部に刺突文２列	
124	11	99		包含層	弥生	甕	(23.4)	－	－	全面：乳白色	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、ケズリ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に３条の擬凹線文、胴部に刺突文２列	
124	12	99	Ⅰ区	包含層	弥生	甕	(21.0)	－	－	外：乳白色 内：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ後ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に２条の凹線文	
124	13	99	A区	包含層	弥生	甕	(23.6)	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ハケメ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に３条の凹線文	
124	14	－		包含層	弥生	甕	9.6	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ		キザミ？	
124	15	－		包含層	弥生	甕	11.8	－	－	外：黒褐色 内：褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ、ミガキ	胴部に刺突文	外面煤多し
124	16	－	Ⅱ区	包含層	弥生	甕？壺？	9.6	－	－	全面：丹塗り	ヨコナデ	ヨコナデ		
125	1	100		包含層	弥生	甕	18.2	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ後ナデ	ナデ、ハケメ	口縁部に３条の擬凹線文、頸部に貼付突帯、刺突文	
125	2	100	Ⅱ区	包含層	弥生	甕	29.0	－	－	外：褐色 内：淡褐色	ナデ、ハケメ、ケズリ	ナデ、ハケメ	口縁部に３条の擬凹線文、頸部に貼付突帯	
125	3	100	B区	包含層	弥生	甕	(24.0)	－	－	外：乳褐色 内：乳白色	ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ	口縁部に３条の擬凹線文、頸部に貼付突帯	
125	4	100	A区	包含層	弥生	甕	27.2	－	－	全面：黒褐色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	口縁部に３条の擬凹線文、頸部に貼付突帯	
125	5	100		包含層	弥生	甕	23.6	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ミガキ	ナデ、ハケメ	口縁部に３条の擬凹線文、頸部に貼付突帯	
125	6	100	A区	包含層	弥生	甕	(12.0)	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ヨコナデ	口縁部に３条の凹線文後キザミ、頸部に半裁竹管状の刺突のある貼付突帯、胴部に凹線文３条１条に細かいキザミ	
125	7	100	B区	包含層	弥生	甕	23.3	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ後ハケメ	ナデ、ハケメ	口縁部に４条の凹線文後キザミ、頸部に刺突のある貼付突帯、胴部に波状文２列、口縁内側に凹線文２条	
125	8	100	B区	包含層	弥生	甕	(15.8)	－	－	全面：乳白色	ヨコナデ、ハケメ後ナデ	ヨコナデ、ナデ	口縁部に４条の凹線文、頸部に刺突のある貼付突帯	
125	9	100		包含層	弥生	甕	27.6	－	－	全面：褐色	ナデ、ハケメ後ミガキ	ナデ、ハケメ	口縁部に３条の擬凹線文、頸部に貼付突帯	
125	10	102		包含層	弥生	広口壷	30.0	－	－	全面：淡黄褐色	ナデ、ケズリ後ハケメ、ケズリ後ナデ	ヨコナデ、ハケメ	口縁部に４条の凹線文、胴部に山形文、凹線文４条、貝殻による刺突文２列	
125	11	102	A区	包含層	弥生	広口壷	36.0	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	口縁部に３条の凹線文、口縁内側に２条の凹線文、肩部に刺突文、羽状文	
125	12	100	Ⅱ区	包含層	弥生	広口壷	22.9	－	－	外：褐色 内：淡紅褐色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	口縁部に３条の凹線文、口縁内側に２条の凹線文、頸部に凹線文、肩部に刺突文	
125	13	101	A区	包含層	弥生	広口壷	20.3	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	口縁部に３条の擬凹線文、頸部に凹線文、肩部に刺突文	
125	14	101		包含層	弥生	広口壷	24.1	－	－	外：暗褐色 内：淡褐色			口縁部に４条の凹線文、口縁内側の平坦面に円形浮文、羽状文	
125	15	101	D区	包含層	弥生	広口壷	32.6	－	－	全面：褐色	ハケメ	ハケメ	口縁端部の平坦面に凹線文	
125	16	101	Ⅱ区	包含層	弥生	広口壷	20.8	－	－	全面：淡紅褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	口縁部に山形文後、凹線文１条	
126	1	102	A区	包含層	弥生	広口壷	29.6	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ハケメ、指頭圧痕	ナデ、ハケメ	口縁部に３条の凹線文、胴部に凹線文５条、刺突文、羽状文	
126	2	102	Ⅰ区	包含層	弥生	広口壷	36.5	－	－	全面：淡褐色	ハケメ	ハケメ	口縁部に２条の凹線文、口縁内側に擬凹線文	
126	3	102	Ⅰ区	包含層	弥生	広口壷	35.6	－	－	全面：淡橙褐色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	口縁部に３条の凹線文、口縁内側に凹線文６条、胴部に凹線文４条以上、キザミ	
126	4	102	C区	包含層	弥生	広口壷	46.8	－	－	全面：褐色	ナデ	ナデ、ハケメ	口縁部に４条の凹線文、口縁内側に凹線文３条	
126	5	102	Ⅰ区	包含層	弥生	広口壷	37.6	－	－	外：淡褐色 内：淡紅褐色	ヨコナデ	ハケメ	口縁部に３条の凹線文、口縁内側に擬凹線文	
126	6	102	D区	包含層	弥生	広口壷	－	－	－	外：淡紅褐色 内：淡褐色	ハケメ	ハケメ	胴部に凹線文７条	内面に煤付着

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	出土位置	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備考
126	7	102	Ⅱ区	包含層	弥生	広口壷	－	－	－	全面：褐色	ナデ、ハケメ	ハケメ、ハケメ後ナデ	胴部に凹線文4条、キザミ	
126	8	102		包含層	弥生	広口壷	－	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ハケメ	ナデ	胴部に凹線文7条、刺突文	
126	9	102	A区	包含層	弥生	壷	14.8	－	－	全面：淡褐色	ナデ	ナデ	口縁部に凹線文4条、口縁端部にキザミ	
126	10	102		包含層	弥生		(10.2)	－	－	全面：暗褐色	ミガキ、ケズリ？	ナデ、ミガキ	口縁部に凹線文5条、口縁端部にキザミ、その下にキザミ3列	
126	11	102		包含層	弥生	壷？	－	－	－	外：丹塗り 内：乳白色	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	頸部に凹線文6条	外面に煤付着
126	12	103	C区	包含層	弥生	蓋	－	－	－	全面：褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		
126	13	103		包含層	弥生	底部	－	－	5.4	外：淡褐色 内：暗褐色	ナデ	ナデ、ヨコナデ、ミガキ		外面に煤付着
126	14	103	A区	包含層	弥生	底部	－	－	5.8	外：暗褐色 内：褐色	ナデ	ナデ、ミガキ		
126	15	103	A区	包含層	弥生	脚台	－	－	7.4	全面：暗褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	凹線文2条	
126	16	103		包含層	弥生	脚台	－	－	－	全面：淡黒褐色	ケズリ	ハケメ後ミガキ、ナデ、ミガキ	脚部に凹線文	外面に煤付着
126	17	103		包含層	弥生	蓋？	－	－	13.3	全面：淡褐色	ミガキ	ナデ		全面風化
126	18	103		包含層	弥生	低脚	－	－	11.8	全面：淡褐色	ミガキ、ケズリ	ナデ		内面の一部に煤付着
126	19	103	A区	包含層	弥生	脚台	－	－	7.2	全面：淡褐色	ナデ	ミガキ		脚内側煤多い
126	20	102	B区	包含層	弥生	注口土器	－	－	－	全面：乳褐色		ハケメ、ナデ		
126	21	102		包含層	弥生	紡錘車	－	－	－	外：黒褐色 内：乳褐色	ナデ	ナデ		
126	22	102	C区	包含層		土製円盤	－	－	－	全面：橙褐色				再利用品か
126	23	102		包含層		土製小玉	－	－	－	全面：淡褐色				
127	1	103	B区	包含層	塩町式	甕	17.5	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	木口？による刺突	
127	2	103	A区	包含層	塩町式	甕	18.3	－	－	外：淡黒褐色 内：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ナデ	キザミ後凹線文	
127	3	103	Ⅰ区	包含層	塩町式	甕	17.7	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ナデ	キザミ後凹線文	
127	4	103		包含層	塩町式	甕	－	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		
127	5	103	A区	包含層	塩町式	甕	30.5	－	－	外：淡橙褐色 内：淡黄褐色	ヨコナデ、ハケメ	ナデ	口縁に4条の凹線文、頸部に6条の凹線文の後キザミ	
127	6	104	A区	包含層	塩町式	甕	28.2	－	－	外：淡黒褐色 内：淡褐色	ナデ、ケズリ後ナデ	ナデ、ハケメ	キザミ後凹線文	
127	7	104	A区	包含層	塩町式	甕	－	－	－	全面：黒褐色	ナデ、ハケメ	ナデ	口縁にキザミ後3条の凹線文、頸部に貼付突帯、胴部に斜格子文、円形浮き文	
127	8	104	B区	包含層	塩町式	甕	－	－	－	全面：淡紅褐色	ハケメ、ケズリ	ナデ、ハケメ	キザミ後凹線文4条	
127	9	104	A区	包含層	塩町式	甕	23.8	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ハケメ	ナデ	凹線文後キザミ	
127	10	104	D区	包含層	塩町式	甕	21.6	－	－	全面：淡灰褐色	ナデ	ナデ	キザミ後凹線文4条	
127	11	104	A区	包含層	塩町式	甕	16.6	－	－	外：淡黒褐色 内：淡褐色	ナデ、ハケメ、ミガキ	ナデ	頸部に貼付突帯、胴部に斜格子文、円形浮き文、棒状浮き文、凹線文4条後キザミ	
127	12	104	Ⅱ区	包含層	塩町式	甕	－	－	－	外：暗褐色 内：褐色	ハケメ	ナデ、ハケメ	胴部に斜格子文、刺突文、6条の凹線文2列	
127	13	105	A区	包含層	塩町式	甕	－	－	－	全面：乳白色	ハケメ	ナデ、ハケメ	キザミ後凹線文4条が2列、刺突文2列	
127	14	104		包含層	塩町式	壷？	15.3	－	－	外：淡褐色 内：淡灰褐色	ナデ、ミガキ、ケズリ	ナデ	口縁部に凹線文1条、キザミ、頸部、胴部にキザミ、荒い斜格子文	外面の一部に煤付着
127	15	104	A区	包含層	塩町式	鉢	18.6	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ハケメ、ミガキ、指頭圧痕	ナデ	キザミ後凹線文3条、胴部に木口をあてる	台付？
127	16	104	A区	包含層	塩町式	甕	11.6	－	－	全面：暗黒褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	口縁部に凹線文2条、胴部凹線文の後1列ずつ刺突、刺突文	
127	17	104	A区	包含層	塩町式	甕	(12.0)	－	－	全面：暗褐色	ヨコナデ、ミガキ、	ミガキ	口縁部にキザミ後凹線文3条、頸部にキザミ、胴部に凹線文、斜格子文、刺突文	
127	18	104	D区	包含層	塩町式	甕	－	－	－	全面：褐色		ナデ	口縁部に凹線文2条、キザミ、頸部にキザミ	
127	19	104	Ⅱ区	包含層	塩町式	壷	11.4	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ハケメ	ミガキ	胴部に凹線文、キザミ	台付？煤多し
127	20	105	Ⅰ区	包含層	塩町式	鉢	36.5	－	－	外：黒赤褐色 内：黒橙褐色	ナデ、ハケメ	ミガキ、ハケメ	口縁端部の平坦面に5条の凹線文と円形浮き文、胴部にキザミ後凹線文、羽状文、キザミ棒状浮き文、円形浮き文	台付？
128	1	106	C区	包含層	弥生	高坏	(21.8)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ナデミガキ	ヨコナデ、ミガキ	口縁部外面に3条の凹線文	
128	2	106	C区	包含層	弥生	高坏	20.0	－	－	全面：淡黒褐色	ナデ、ハケメ後ミガキ	ヨコナデ、ミガキ、ハケメ	口縁部外面に4条の凹線文	
128	3	106	A区	包含層	弥生	高坏	16.8	－	－	外：淡褐色 内：淡黒褐色	ナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	口縁部外面に4条の凹線文と2条の刺突文	
128	4	106	A区	包含層	弥生	高坏	(20.8)	－	－	全面：淡黒褐色	ナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	口縁部外面に4条の凹線文と3条の刺突文	
128	5	106		包含層	弥生	高坏	18.4	－	－	全面：淡赤褐色	ヨコナデ、ケズリ、ミガキ	ハケメ後ミガキ	口縁部外面に5条の凹線文、端部の平坦面に3条の凹線文	

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	出土位置	種類	器　種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色　調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備　考
128	6	106		包含層	弥生	高坏	(16.8)	－	－	外：淡褐色 内：淡黒褐色	ヨコナデ、ミガキ	荒いミガキ	口縁部外面に5条の凹線文、1条の刺突文、端部の平坦面に2条の凹線文	
128	7	106	A区	包含層	弥生	高坏	(23.6)	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ハケメ、ミガキ	ミガキ	口縁部外面に4条の凹線文、3条の刺突文	
128	8	108	A区	包含層	弥生	高坏	16.0	15.0	10.5	全面：淡褐色	ナデ、ミガキ？、ケズリ、指頭圧痕	ミガキ？ナデ	口縁部外面に浅いの凹線文	
128	9	106	D区	包含層	弥生	高坏	19.4	－	－	全面：褐色	ナデ	ナデ	口縁端部の平坦面に斜格子文、外部に2条の凹線文	
128	10	106	A区	包含層	弥生	高坏	(26.4)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ミガキ	口縁部外面に5条の凹線文、2条の刺突文、端部の平坦面に2条の凹線文	
128	11	106	A区	包含層	弥生	高坏	(26.4)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ	ミガキ？	口縁部外面に5条の凹線文、2条の刺突文、端部の平坦面に2条の凹線文	
128	12	106	A区	包含層	弥生	高坏	25.2	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ハケメ後ミガキ	ミガキ	口縁部外面に4条の凹線文、2条の刺突文、端部の平坦面に2条の凹線文	
128	13	106	B区	包含層	弥生	高坏	(24.4)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ミガキ	荒いミガキ	口縁部外面に6条の凹線文、端部の平坦面に3条の凹線文	
128	14	107	A区	包含層	弥生	高坏	34.2	29.5	－	全面：明褐色	ヨコナデ、ハケメ後ミガキ、ケズリ	ミガキ、ハケメ、ナデ	口縁部外面に4条の凹線文、3条の刺突文、棒状浮き文、端部の平坦面に2条の浅い凹線文、脚柱部凹線文後キザミ、脚部に凹線文2条	
128	15	108	A区	包含層	弥生	高坏	－	－	－	外：淡赤橙褐色 内：淡赤褐色	ケズリ、絞り	ミガキ	9条の凹線文にキザミ	
128	16	108	A区	包含層	弥生	高坏	－	－	－	全面：赤褐色	ヨコナデ、ケズリ、絞り後ケズリ、指頭圧痕	ミガキ？	脚柱部に凹線文、透かし、脚部の端部平坦面に凹線文1条	
128	17	108		包含層	弥生	高坏	－	－	－	全面：黒褐色	ケズリ、絞り	ミガキ	脚柱部に凹線文、透かし穴	
128	18	108	A区	包含層	弥生	高坏	－	－	－	全面：暗褐色	ケズリ	ミガキ	脚柱部凹線文後キザミ	
128	19	108	C区	包含層	弥生	高坏	－	－	－	全面：淡黒褐色	ケズリ、絞り	ミガキ	脚柱部凹線文	
128	20	108	A区	包含層	弥生	高坏	－	－	－	全面：淡黒褐色	ケズリ、絞り	ミガキ	脚柱部凹線文、刺突文2条	
128	21	108	A区	包含層	弥生	高坏	－	－	－	外：暗褐色 内：黄褐色	ハケ、ケズリ、指頭圧痕		脚柱部凹線文	
128	22	108	A区	包含層	弥生	高坏	－	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ、絞り、ミガキ、指頭圧痕	ミガキ	脚柱部下部に透かし穴	
129	1	109	B区	包含層	弥生	高坏	－	－	15.7	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ？	脚部の平坦面に4条の凹線文、刻目文	
129	2	109	A区	包含層	弥生	高坏	－	－	20.8	全面：淡褐色	ケズリ	ナデ、ハケメ	脚部の平坦面に3条の凹線文	
129	3	109	A区	包含層	弥生	高坏	－	－	14.8	全面：暗褐色	ケズリ	ナデ？ミガキ？	脚部の平坦面に4条の凹線文、刻目文	外面に煤付着
129	4	109		包含層	弥生	高坏	－	－	12.1	全面：淡褐色	ケズリ、ナデ	ミガキ	脚部の平坦面に4条の凹線文、刻目文	
129	5	109	A区	包含層	弥生	高坏	－	－	11.9	全面：淡褐色	ケズリ、ナデ、絞り	ミガキ？	脚部の平坦面に6条の凹線文	
129	6	109	B区	包含層	弥生	高坏	－	－	12.3	全面：淡褐色	ケズリ	ミガキ、ナデ	脚部の端部平坦面に凹線文2条	
129	7	109		包含層	弥生	高坏	－	－	13.0	外：赤色顔料塗布 内：黄褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	脚部の端部平坦面に凹線文2条、浅い凹線文3条と羽状文	
129	8	109		包含層	弥生		－	－	25.8	外：赤色・淡褐色 内：黒色	ケズリ、ナデ	ナデ	三角透かし、脚部の平坦面に3条の凹線文	
129	9	109	A区	包含層	弥生	脚台？	－	－	15.8	全面：淡褐色	ケズリ、ナデ	ナデ	三角透かし、脚部の平坦面に4条の凹線文、脚柱部にかけて斜格子文、透かし穴	
129	10	109		包含層	弥生	脚台？	－	－	30.8	全面：淡褐色	ケズリ	ナデ	三角透かし、脚部の平坦面に6条の凹線文、脚柱部にかけてヘラ刺突文	
129	11	109	B区	包含層	弥生	高坏	15.8	－	－	全面：赤色顔料塗布	ミガキ、ケズリ	ミガキ		
130	1	111		包含層	弥生	甕	20.8	－	－	全面：淡黄褐色	ヨコナデ、ケズリ	ナデ	口縁部に凹線文3条、刺突文	
130	2	111	Ⅱ区	包含層	弥生	甕	18.4	－	－	全面：淡黒褐色	ヨコナデ、ケズリ	ナデ	口縁部に凹線文3条	外面に煤多し
130	3	111		包含層	弥生	甕	28.3	－	－	全面：淡黒褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ	口縁部に凹線文5条、刺突文	外面に煤多し、焦げあり
130	4	111		包含層	弥生	甕	13.0	－	－	外：暗褐色 内：褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	口縁部に凹線文2条	
130	5	111		包含層	弥生	甕	15.6	－	－	外：淡褐色 内：淡紅褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		内外面に焦げ
130	6	110	Ⅱ区	包含層	弥生	甕	20.0	－	－	外：淡灰褐色 内：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	口縁部に凹線文後ナデ、胴部に木口？による刺突文	外面に煤多し
130	7	109	B区	包含層	弥生	甕	20.4	－	－	全面：暗褐色	ミガキ、ケズリ	ミガキ	口縁部に擬凹線文、刺突文	外面に煤多し
130	8	110	C区	包含層	弥生	甕	(25.0)	－	－	外：淡褐色 内：黒褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	口縁部に擬凹線文	
130	9	110	B区	包含層	弥生	甕	28.2	－	－	全面：淡赤褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	口縁部に擬凹線文	
130	10	110	C区	包含層	弥生	壺？	15.9	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		外面に煤多し

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	出土位置	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備考
130	11	110	D区	包含層	弥生	甕	24.4	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		外面の一部に煤
130	12	110	A区	包含層	弥生	甕	15.8	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ、指頭圧痕	ナデ、ハケメ		外面に煤多し
130	13	110		包含層	?	?	－	－	－	全面：淡赤褐色	ケズリ	指頭圧痕、ハケメ後ナデ	器台を作ろうとしたのか？	
130	14	109	Ⅰ区	包含層	弥生	器台	－	－	15.8	外：淡灰褐色 内：淡黒褐色	ケズリ	ミガキ、ナデ		
130	15	109	B区	包含層	弥生	器台	－	－	12.9	外：赤色顔料 内：暗褐色	ケズリ	ミガキ	脚端部の平坦面に5条の凹線文	
130	16	109	Ⅱ区	包含層	弥生	器台	－	－	15.6	全面：暗黒褐色	ナデ、ケズリ		脚端部の平坦面に擬凹線文	
130	17	110		包含層	弥生	器台	22.5	－	－	外：淡赤燈色 内：淡褐色	ケズリ後ミガキ	ハケメ	口縁部に擬凹線文	
130	18	109		包含層	弥生	器台	－	－	21.7	全面：淡黒褐色	ナデ、ケズリ	ナデ	脚端部の平坦面に擬凹線文	
130	19	110		包含層	弥生	器台	23.5	－	－	全面：淡褐色	ミガキ	ナデ		外面の一部に煤
130	20	111	Ⅱ区	包含層	弥生	低脚坏	－	－	8.4	外：淡褐色 内：淡紅褐色	ミガキ、ナデ	ナデ		
130	21	111	D区	包含層	弥生	低脚坏	20.1	5.8	6.4	全面：淡褐色	ミガキ	ヨコナデ、ミガキ		
130	22	110	B区	包含層	弥生	高坏	21.6	－	－	全面：橙褐色	ミガキ	ナデ、ミガキ	口縁端部に凹線文1条	
130	23	110	D区	包含層	弥生	高坏	25.8	－	－	全面：淡紅褐色	ミガキ	ミガキ		
131	1	112	Ⅰ区	包含層	須恵器	坏蓋	13.4	4.5	－	全面：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
131	2	112	B区	包含層	須恵器	坏蓋	(12.6)	3.9	－	外：青灰色 内：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	凹線2条	
131	3	112		包含層	須恵器	坏蓋	(14.0)	－	－	外：青灰色 内：灰色	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	凹線2条	
131	4	112		包含層	須恵器	坏蓋	(14.0)	4.6	－	全面：青灰色	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	凹線2条	
131	5	112	D区	包含層	須恵器	坏蓋	(13.2)	－	－	外：暗灰色 内：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	凹線3条	
131	6	112	A区	包含層	須恵器	坏蓋	(14.0)	－	－	外：灰白色 内：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	凹線1条	
131	7	112	A、C区	包含層	須恵器	坏蓋	(13.0)	4.6	－	全面：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	凹線2条、底部ヘラ切り後ナデ	
131	8	112	B区	包含層	須恵器	坏蓋	(14.2)	－	－	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	凹線2条、底部起こす	
131	9	112	A区	包含層	須恵器	坏蓋	(14.0)	4.5	－	外：青灰色 内：暗灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	凹線2条、底部起こす	
131	10	112	D区	包含層	須恵器	坏蓋	(11.1)	4.6	－	全面：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	凹線2条、底部起こす	
131	11	112		包含層	須恵器	坏蓋	13.2	4.1	－	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	凹線2条、底部起こす	
131	12	112	D区	包含層	須恵器	坏蓋	13.0	3.7	－	全面：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	凹線1条、底部起こす	
131	13	112	C区	包含層	須恵器	坏蓋	(12.6)	3.7	－	外：黒褐色 内：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	凹線1条、底部起こす	
131	14	112		包含層	須恵器	坏蓋	(13.6)	4.1	－	外：青灰色 内：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ	蓋上部に×印	
131	15	112	A区	包含層	須恵器	坏蓋	(14.0)	4.2	－	全面：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ		
131	16	112	D区	包含層	須恵器	坏身	12.0	4.3	－	全面：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
131	17	112	C区	包含層	須恵器	坏身	10.9	4.4	－	全面：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
131	18	112		包含層	須恵器	坏身	(10.8)	3.7	－	全面：灰色	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		内側全体に自然釉
131	19	112	C区	包含層	須恵器	坏身	11.0	4.0	－	全面：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
131	20	112		包含層	須恵器	坏身	11.8	－	－	全面：灰色	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ		
131	21	112	C区	包含層	須恵器	坏身	(13.0)	－	－	全面：暗灰色	回転ナデ	回転ナデ、丁寧なナデ		
131	22	112		包含層	須恵器	坏身	(13.2)	－	－	全面：淡白灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転ヘラケズリ		
131	23	112	A区	包含層	須恵器	坏身	(13.2)	4.9	－	全面：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ヘラ切り後ケズリ		外側に自然釉
131	24	113	Ⅱ区	包含層	須恵器	坏蓋	－	3.2	19.2	全面：青灰色	ナデ	ナデ、ケズリ後ナデ		
131	25	113	Ⅰ区	包含層	須恵器	坏蓋	－	3.1	14.1	全面：暗赤褐色	ヨコナデ、ナデ	ナデ、ケズリ	擬宝珠つまみ	
131	26	113	D区	包含層	須恵器	坏蓋	－	2.9	12.4	全面：淡青灰色	ヨコナデ、ナデ	ナデ、ケズリ	擬宝珠つまみ	
131	27	113	C区	包含層	須恵器	坏蓋	－	2.5	12.6	全面：淡青灰色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		
131	28	113	Ⅱ区	包含層	須恵器	坏蓋	－	2.0	15.6	全面：淡青灰色	ナデ	ナデ、ケズリ後ナデ		
131	29	113		包含層	須恵器	坏蓋	－	2.4	13.5	全面：淡青灰色	回転ナデ、ナデ	ナデ、ケズリ		
131	30	113	Ⅰ区	包含層	須恵器	坏蓋	－	2.2	14.8	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ		
131	31	113	A区	包含層	須恵器	坏蓋	－	2.8	13.8	全面：淡青灰色	回転ナデ、ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ、ケズリ		
131	32	113	A区	包含層	須恵器	坏身	(14.4)	4.4	－	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	底部静止糸切り	
131	33	113	Ⅰ区	包含層	須恵器	坏身	(15.6)	4.9	－	外：青灰色 内：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	底部静止糸切り	
131	34	113	A区	包含層	須恵器	坏身	(12.6)	4.0	－	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り後ナデ		
131	35	113	Ⅱ区	包含層	須恵器	坏身	(13.0)	4.7	(7.6)	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り		
131	36	113	A区	包含層	須恵器	坏身	12.6	3.9	8.8	外：暗灰色 内：赤褐色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り		
131	37	113		包含層	須恵器	坏身	(10.8)	3.9	6.2	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り		

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	出土位置	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備考
131	38	113	Ⅱ区	包含層	須恵器	坏身	(10.4)	3.7	6.0	全面：青灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り		
131	39	113	Ⅱ区	包含層	須恵器	坏身	17.0	6.4	－	全面：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、糸切り？		
131	40	113		包含層	須恵器	坏身	(14.6)	5.4	8.2	全面：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り		
131	41	113	D区	包含層	須恵器	坏身	(12.4)	4.8	9.0	全面：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り		
131	42	113		包含層	須恵器	坏身	(11.8)	4.5	8.0	全面：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り		
131	43	114	A区	包含層	須恵器	高台付坏	(15.2)	4.7	9.8	全面：暗灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、糸切り後ナデ		
131	44	114	Ⅰ区	包含層	須恵器	高台付坏	13.6	4.1	9.6	全面：暗灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ヘラ切り後ナデ		
131	45	114	A区	包含層	須恵器	高台付坏	(12.4)	4.7	8.0	全面：暗灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、糸切り後高台ナデつけ		
131	46	114		包含層	須恵器	蓋	－	3.1	20.7	外：淡青灰色 内：淡灰色	ナデ	ナデ、ケズリ後ナデ		
131	47	114	Ⅱ区	包含層	須恵器	高台付坏	(18.0)	7.1	(14.0)	全面：乳褐色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ケズリ後ナデ	胴部に貼付突帯	
132	1	115	B区	包含層	須恵器	皿	(14.0)	2.2	－	外：灰色 内：淡灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り		
132	2	115	Ⅰ区	包含層	須恵器	皿	(16.0)	2.0	－	全面：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り？		
132	3	115		包含層	須恵器	皿	(16.6)	－	－	全面：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り？		
132	4	115	Ⅰ区	包含層	須恵器	皿	(16.4)	－	－	全面：灰色	回転ナデ	回転ナデ、回転糸切り		
132	5	115		包含層	須恵器	高台付坏	(18.2)	－	－	全面：灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、回転糸切り		
132	6	115		包含層	須恵器	高台付坏	18.6	4.1	9.9	全面：暗灰色	回転ナデ、ナデ	回転ナデ		
132	7	115		包含層	須恵器	脚部	－	－	－	全面：淡灰色				
132	8	－	A.B区	包含層	須恵器	高坏	15.8	－	－	全面：青灰色	ナデ	ナデ	側面にヘラ痕あり	坏部
132	9	116	A区	包含層	須恵器	高坏	－	－	10.2	全面：淡青灰色	ナデ	ヨコナデ、ナデ	透かし2か所	脚部
132	10	116	A.C区	包含層	須恵器	高坏	15.0	－	－	全面：青灰色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	透かし3か所	
132	11	115	Ⅰ区	包含層	須恵器	甕	－	－	－	全面：青灰色	ナデ	ナデ		
132	12	115	B区	包含層	須恵器	甕	－	－	－	全面：淡灰色	ナデ	ナデ、ケズリ	凹線文2条、刺突文、穿孔	
132	13	115	A区	包含層	須恵器	提瓶	－	－	－	外：灰褐色 内：淡灰色	タタキ			外面に釉付着
132	14	116	B区	包含層	須恵器	横瓶	12.8	－	－	外：青灰色 内：淡青灰色	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、タタキ		
132	15	115		包含層	須恵器	壺	－	－	－	全面：青灰色	ヨコナデ	ヨコナデ		
132	16	115		包含層	須恵器	壺	－	－	－	全面：青灰色	ヨコナデ、絞り痕	ナデ		
132	17	115		包含層	須恵器	底部	－	－	10.8	外：淡青灰色 内：青灰色	タタキ	ナデ、ケズリ		壺か？
132	18	116	A区	包含層	須恵器	短口壺	8.4	－	－	全面：淡青灰色	ナデ	ナデ		
132	19	116	D区	包含層	須恵器	直口壺	－	6.4	－	全面：青灰色	ナデ	ヨコナデ		
132	20	116	C区	包含層	須恵器	短頸壺	－	6.0	－	全面：暗青灰色	ナデ	カキメ、ヘラケズリ		
132	21	116	B区	包含層	須恵器	直口壺	13.9	－	－	全面：青灰色	ナデ	ナデ		
132	22	117	A区	包含層	須恵器	甕	(32.0)	－	－	外：淡青灰色 内：暗灰色	ナデ、あて具痕	タタキ		
132	23	117	A区	包含層	須恵器	甕	(36.0)	－	－	外：淡青灰色 内：暗青灰色	ナデ、あて具痕、ハケメ	タタキ		
132	24	118	B区	包含層	須恵器	甕	－	－	－	全面：灰色	ナデ	ナデ	口縁部に波状文	
132	25	118	B区	包含層	須恵器	甕	38.4	－	－	外：淡灰褐色 内：淡茶灰色	ナデ	ナデ	口縁部に波状文、凹線文	
133	1	118	A区	包含層	須恵器	甕	18.9	－	－	全面：淡灰色	ナデ、タタキ	ナデ、タタキ	内側のあて具痕は同心円状	
133	2	118	B区	包含層	須恵器	甕	－	－	－	外：青灰色 内：灰色	ナデ、タタキ	ナデ、タタキ	内側のあて具痕は同心円状	一部自然釉
133	3	118	B区	包含層	須恵器	大甕	－	－	－	全面：青灰色	タタキ	タタキ	内側のあて具痕は同心円状	一部自然釉・加工段2付近出土
134	1	119	A区	包含層	土師器	甕	16.0	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		
134	2	119		包含層	土師器	甕	17.6	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ		
134	3	119	C区	包含層	土師器	甕	(15.6)	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ		
134	4	119	C区	包含層	土師器	甕	17.0	－	－	全面：淡赤褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ		外面に煤付着
134	5	119	A区	包含層	土師器	甕	14.3	－	－	外：淡黒褐色 内：淡黄褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ		外面に煤付着
134	6	119	A区	包含層	土師器	甕	(22.4)	－	－	全面：淡赤褐色	ナデ、ケズリ、ハケメ、指頭圧痕	ヨコナデ、ハケメ、ナデ		
134	7	119	A区	包含層	土師器	甕	31.2	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
134	8	119	A区	包含層	土師器	甕	31.6	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ		
134	9	119	A区	包含層	土師器	甕	28.0	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ後ナデ		
134	10	120	A区	包含層	土師器	甕	28.6	－	－	外：淡灰褐色 内：淡黄褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ		
134	11	120	Ⅰ区	包含層	土師器	甕	(25.2)	－	－	外：淡褐色 内：淡黄褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ナデ		外面に煤付着
134	12	120	A区	包含層	土師器	甕	29.0	－	－	全面：淡褐色	ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、ハケメ後ナデ		
134	13	120	D区	包含層	土師器	竈	25.0	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		外面に煤付着
135	1	120	D区	包含層	土師器	甕	19.8	28.7	－	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
135	2	120		包含層	土師器	甕	17.5	17.3	－	全面：褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		
135	3	121	B区	包含層	土師器	壷	12.8	－	－	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ後ナデ	ナデ、ハケメ		
135	4	121	A区	包含層	土師器	壷	16.5	－	－	外：紅褐色 内：淡紅褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		

挿図番号	遺物番号	写真図版	地区	出土位置	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	内面の調整	外面の調整	形態・文様の特徴	備考
135	5	121		包含層	土師器	壷	7.6	10.5	−	外：暗黒褐色 内：淡紅褐色	ナデ、ケズリ、ケズリ後ナデ	ナデ		
135	6	121	A区	包含層	土師器	甑	26.0	22.6	−	全面：褐色	ナデ、ケズリ、ケズリ後ナデ	ナデ		
135	7	121	A区	包含層	土師器	甑	23.4	−	−	外：黄褐色 内：褐色	ナデ、ケズリ	ナデ		
135	8	121	A区	包含層	土師器	甑	22.6	−	−	外：淡黄褐色 内：褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
135	9	121	D区	包含層	土師器	甑	24.4	23.3	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
136	1	122		包含層	土師器	土製支脚	−	−	−	全面：淡赤褐色				
136	2	122	A区	包含層	土師器	土製支脚	−	−	−	全面：淡赤褐色				
136	3	122		包含層	土師器	土製支脚	−	−	−	全面：淡赤褐色				
136	4	122	D区	包含層	土師器	竈	−	−	−	全面：淡褐色	ナデ、ケズリ	ナデ、ハケメ		
136	5	123		包含層		土錘	−	−	−	全面：淡褐色				
136	6	123	Ⅱ区	包含層		土錘	−	−	−	全面：淡褐色				
136	7	127	D区	包含層	白磁	皿	−	−	−	全面：乳白色				端反皿
136	8	127		包含層	青白磁	合子	3.6	1.8	2.9	全面：淡青白色				鎌倉時代
136	9	127		包含層	白磁	皿	−	−	−	全面：乳白色				端反皿
136	10	127	A区	包含層	青磁	碗	−	−	−	全面：暗黄緑色			蓮弁文	14～15C
136	11	127		包含層	青磁	碗底部	−	−	4.6	全面：暗黄緑色			印花文	15～16C
136	12	127		包含層	青磁	碗	−	−	−	全面：暗黄緑色				14～15C
136	13	127	B区	包含層	唐津	皿底部	−	−	−	全面：暗黄緑色				17C
136	14	127	D区	包含層	青花		−	−	7.6	全面：乳白色				16～17C
136	15	127		包含層	青花		−	−	−	全面：乳白色・青				16～17C
136	16	127	D区	包含層	李朝	皿底部	−	−	−	全面：暗灰色				雑釉皿
136	17	127		包含層	備前	壷	−	−	−	外：暗灰褐色 内：自然釉				小片
137	1	123	A区	包含層	手づくね土器		(4.0)	4.2	−	外：淡黒褐色 内：淡褐色	指頭圧痕、シボリ	指頭圧痕		
137	2	124		包含層	手づくね土器		4.0	3.6	−	全面：淡褐色	ナデ	指頭圧痕、ナデ		
137	3	124		包含層	手づくね土器		6.1	3.4	−	全面：淡灰黒色	指頭圧痕、ナデ	ナデ		
137	4	124		包含層	手づくね土器		9.3	5.3	−	外：淡褐色 内：褐色	指頭圧痕、ナデ	ナデ		
137	5	124		包含層	手づくね土器		10.6	5.3	−	全面：黒褐色	ナデ	指頭圧痕、ナデ		
137	6	122		包含層	手づくね土器		(6.5)	−	−	全面：淡黒褐色	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ		
137	7	123		包含層	製塩土器		(14.4)	−	−	全面：淡褐色	荒いナデ	ナデ		
137	8	123	A区	包含層	製塩土器		12.6	−	−	外：黄褐色 内：淡赤褐色	ナデ	ナデ		
137	9	123		包含層	製塩土器		(12.2)	−	−	全面：淡赤褐色	ヨコナデ	ヨコナデ、指頭圧痕		
137	10	123	Ⅰ区	包含層	丹塗り	坏	17.2	2.9	−	全面：丹塗り	ナデ	ナデ、ケズリ		
137	11	124	C区	包含層	丹塗り	(坏) 皿	20.0	2.8	−	全面：丹塗り	ナデ	ナデ、ケズリ、ハケメ		
137	12	123	A区	包含層	丹塗り	皿	(23.2)	−	−	全面：丹塗り	ナデ	ナデ		
137	13	123	Ⅰ区	包含層	丹塗り	皿	−	−	−	全面：丹塗り		ナデ、ケズリ		
137	14	124	A区	包含層	丹塗り	坏	15.8	3.8	−	全面：丹塗り	ナデ	ナデ、ケズリ		
137	15	124		包含層	丹塗り	坏	16.0	3.8	−	全面：丹塗り	ナデ	ナデ		
137	16	124	A区	包含層	丹塗り	坏	15.0	3.5	−	全面：丹塗り	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、ケズリ		
137	17	123	Ⅰ区	包含層	丹塗り	坏	16.4	2.7	−	全面：丹塗り	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ		
137	18	124		包含層	丹塗り	坏	13.8	2.4	−	全面：丹塗り	ナデ	ナデ、ケズリ後ナデ		
137	19	124	Ⅱ区	包含層	丹塗り	坏	14.6	3.1	−	全面：丹塗り	ナデ	ナデ、ケズリ後ナデ、ミガキ		
137	20	123	A区	包含層	丹塗り	坏	14.4	3.4	−	全面：丹塗り	ナデ	ナデ、ケズリ		
137	21	123	B区	包含層	丹塗り	坏	−	−	−	全面：丹塗り	ナデ	ナデ		
137	22	123	A区	包含層	丹塗り	坏	−	−	−	全面：丹塗り	ナデ	ナデ		
137	23	123	A区	包含層	丹塗り	坏	−	−	−	全面：丹塗り	ナデ	ナデ		
137	24	123	B区	包含層	丹塗り	坏	−	−	−	全面：丹塗り	ナデ	ナデ		
137	25	123		包含層	丹塗り	蓋	−	−	−	全面：丹塗り	ナデ	ナデ	つまみ付	
137	26	123	B区	包含層	丹塗り	坏	14.0	−	−	全面：丹塗り	ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ		
137	27	123	Ⅱ区	包含層	丹塗り	鉢 (坏)	17.0	4.9	−	全面：丹塗り	ナデ	ナデ、ケズリ		
137	28	123	A区	包含層	丹塗り	坏	13.0	3.8	−	全面：丹塗り	ナデ	ナデ、ケズリ後ナデ		
137	29	123		包含層	丹塗り	坏	12.0	4.2	8.4	全面：丹塗り	ヨコナデ	ヨコナデ		
137	30	123	A区	包含層	丹塗り	高台付坏	−	−	(10.7)	全面：丹塗り	ナデ	ヨコナデ		
137	31	123		包含層	丹塗り	高台付坏	−	−	(12.4)	全面：丹塗り	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ		
137	32	123	B区	包含層	丹塗り	坏	(11.8)	−	−	全面：丹塗り	ナデ	ナデ、ケズリ		
137	33	124		包含層	丹塗り	坏	12.2	4.4	−	全面：丹塗り	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ		底部の一部に煤付着
137	34	124	D区	包含層	丹塗り	坏	12.5	3.9	8.0	全面：丹塗り	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ?		
137	35	124	D区	包含層	丹塗り	坏	(12.4)	3.6	−	全面：丹塗り	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ		
137	36	124	C区	包含層	丹塗り	坏	(10.8)	3.4	(7.0)	全面：丹塗り	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ナデ		
137	37	124		包含層	丹塗り	坏	(13.2)	3.5	(5.0)	全面：丹塗り	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ヘラキリ後ナデ		
137	38	124	A区	包含層	丹塗り	坏	(16.0)	3.4	−	全面：丹塗り	回転ナデ、ナデ	回転ナデ、ヘラ後ナデ		
137	39	124	Ⅰ区	包含層	丹塗り	高台付坏	−	−	12.2	全面：丹塗り	回転ナデ、ミガキ	回転ナデ、ナデ	螺旋状の暗文	
137	40	124	Ⅲ区	包含層	丹塗り	高台付坏	−	−	(15.0)	全面：丹塗り	回転ナデ、ナデ、ミガキ	回転ナデ、ナデ	螺旋状の暗文	

表14　垣ノ内遺跡遺構出土石器、鉄器観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	台帳番号	種　別	調査区	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備　考
26	17	20	1	石鏃	SI01中央穴	2.10	1.99	0.35	1.09	黒曜石	平基無茎石鏃(短身)分析 No.80580
45	9	32	2	剥片	SI13	3.50	5.37	1.17	17.48	瑪瑙	熱を受けた可能性がある
54	25	39	3	環状石斧	遺構2	7.63	(4.28)	2.22	80.70	－	1/2残存
45	8	32	1	鋳造鉄斧	SI13	4.40	6.40	1.20			基部の一部を欠損

表15　垣ノ内遺跡出土剥片石器観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	台帳番号	種　別	調査区	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備　考
139	1	127	1	石鏃	C区	2.08	1.32	0.30	0.62	黒曜石	有段凹基無茎石鏃
139	2	127	2	石鏃	B区	1.79	1.67	0.36	0.87	黒曜石	凹基無茎石鏃（短身）
			3	石鏃	B区	1.68	1.70	0.27	0.58	黒曜石	凹基無茎石鏃（短身）
			4	石鏃	C区	1.79	1.84	0.24	0.50	黒曜石	凹基無茎石鏃（短身）
			5	石鏃	D区	1.98	1.62	0.47	0.99	黒曜石	凹基無茎石鏃（短身）
139	3	127	6	石鏃	C区	2.34	1.33	0.27	0.60	黒曜石	凹基無茎石鏃（長身）
139	6	127	7	石鏃	B区	2.90	1.96	0.55	1.87	黒曜石	凹基無茎石鏃(長身)分析 No.80578
			8	石鏃	D区	1.82	1.35	0.28	0.51	黒曜石	凹基無茎石鏃（長身）
			9	石鏃	D区	2.05	2.24	0.52	1.50	黒曜石	凹基無茎石鏃（長身）
			10	石鏃	－	1.92	1.33	0.32	0.57	黒曜石	凹基無茎石鏃（長身）
			11	石鏃	D区	1.39	1.63	0.32	0.60	黒曜石	凹基無茎石鏃（長身）
			12	石鏃	B区	2.47	1.85	0.47	1.21	黒曜石	凹基無茎石鏃（長身）
			13	石鏃	C区	1.71	1.21	0.26	0.37	黒曜石	凹基無茎石鏃（長身）
139	4	127	14	石鏃	Ⅱ区	1.65	1.39	0.11	0.26	安山岩	平基石鏃（短身）
			15	石鏃	D区	2.31	1.71	0.33	1.68	安山岩	平基石鏃（短身）
			16	石鏃	D区	2.69	1.47	0.20	0.67	安山岩	平基石鏃（短身）
			17	石鏃	Ⅱ区	2.07	1.46	0.32	0.91	安山岩	平基石鏃（短身）
			18	石鏃	B・C区	1.87	1.27	0.15	0.44	安山岩	凹基無茎石鏃（短身）
			19	石鏃	D区	2.00	1.65	0.16	0.63	安山岩	凹基無茎石鏃（短身）
			20	石鏃	C区	1.85	1.75	0.26	0.57	安山岩	凹基無茎石鏃（短身）
139	5	127	21	石鏃	D区	2.20	1.54	0.28	0.95	安山岩	凹基無茎石鏃(長身)分析 No.80577
			22	石鏃	D区	2.57	1.48	0.23	0.88	安山岩	凹基無茎石鏃（長身）
			23	石鏃	Ⅱ区	1.91	1.40	0.22	0.48	安山岩	凹基無茎石鏃（長身）
			24	石鏃	Ⅰ区	1.73	1.48	0.32	0.57	安山岩	凹基無茎石鏃（長身）
			25	石鏃	D区	2.12	1.52	0.32	0.79	安山岩	凹基無茎石鏃（長身）
			26	石鏃	D区	2.27	1.71	0.53	2.06	安山岩	凹基無茎石鏃（長身）
			27	石鏃	C区	2.39	1.53	0.26	0.80	安山岩	凹基無茎石鏃（長身）
			28	石鏃	Ⅱ区	2.01	1.25	0.27	0.79	安山岩	凹基石鏃（未製品）
139	7	127	29	石鏃	D区	2.93	2.11	0.54	1.50	チャート	有段凹基無茎石鏃分析 No.80579
139	8	127	30	磨製石鏃	D区	2.90	1.88	0.29	1.85	チャート	凹基無茎石鏃（長身）
			31	磨製石鏃	Ⅱ区	2.31	1.83	0.21	1.06	チャート	凹基無茎石鏃（長身）
			32	磨製石鏃	Ⅰ区	1.95	1.49	0.20	0.67	安山岩	凹基無茎石鏃（長身）
			33	磨製石鏃	D区	2.10	1.48	0.24	0.92	安山岩	凹基無茎石鏃（長身）
139	13	126	34	スクレイパー	C区	7.65	3.40	0.99	26.33	黒曜石	分析 No.80581
139	10	126	35	スクレイパー	Ⅰ区	4.15	6.90	0.64	21.08	安山岩	分析 No.80583
			36	スクレイパー	A区	2.67	3.75	0.54	7.06	安山岩	
139	11	126	37	石匙	D区	6.34	6.33	0.71	31.98	安山岩	分析 No.80582
			38	石匙	B区	3.59	4.93	0.47	8.55	安山岩	
139	12	126	39	石匙	D区	7.26	4.31	0.87	23.17	安山岩	
			40	石匙	－	6.82	3.13	0.73	13.65	安山岩	
			41	石匙	B区	3.18	5.42	0.85	18.73	安山岩	
139	9	126	42	抉状耳飾り	C区	3.40	(1.70)	0.46	4.98	－	変成岩系石材
139	14	126	43	石包丁	Ⅱ区	12.63	5.65	0.54	55.82	－	未製品
139	15	126	44	石包丁	B区	5.94	4.80	0.36	16.17	－	刃部再生品か？
			45	石包丁	－	3.19	3.49	0.50	11.15	安山岩	破片
139	16	126	46	石包丁状石製品	Ⅱ区	9.05	4.37	0.74	42.55	安山岩	

表16　垣ノ内遺跡出土二次加工剥片、剥片観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	台帳番号	種　別	調査区	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	挿図番号	遺物番号	写真図版	台帳番号	種　別	調査区	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材
			47	二次加工剥片	－	1.86	1.22	0.21	0.71	黒曜石				101	剥片	C区	2.04	1.57	0.50	1.55	黒曜石
			48	二次加工剥片	3区	4.61	2.02	1.74	17.19	黒曜石				102	剥片	C区	2.12	1.25	0.77	2.13	黒曜石
			49	二次加工剥片	S105	1.69	1.25	0.27	0.61	黒曜石				103	剥片	C区	1.67	1.21	0.22	0.34	黒曜石
			50	二次加工剥片	B区	2.33	1.64	0.77	3.07	黒曜石				104	剥片	C区	2.40	1.22	0.25	0.60	黒曜石
			51	二次加工剥片	C区	2.38	1.41	0.48	1.56	黒曜石				105	剥片	C区	2.55	1.94	0.36	1.59	黒曜石
			52	二次加工剥片	C区	2.64	1.82	0.65	3.00	黒曜石				106	剥片	C区	2.11	1.22	0.77	1.81	黒曜石
			53	二次加工剥片	D区	1.87	1.43	0.46	1.21	黒曜石				107	剥片	C区	1.28	0.91	0.39	0.50	黒曜石
			54	二次加工剥片	D区	3.01	1.71	1.29	5.61	黒曜石				108	剥片	C区	3.46	2.37	0.56	2.95	黒曜石
			55	二次加工剥片	D区	1.56	1.51	0.36	0.91	黒曜石				109	剥片	C区	2.76	1.65	0.52	2.43	黒曜石
			56	二次加工剥片	Ⅲ区	7.31	5.12	1.25	59.59	安山岩				110	剥片	C区	2.64	1.36	0.53	1.90	黒曜石
			57	二次加工剥片	D区	6.53	2.58	0.80	16.82	安山岩				111	剥片	C区	1.63	0.55	0.15	0.18	黒曜石
			58	二次加工剥片	D区	2.94	1.97	0.31	2.53	安山岩				112	剥片	C区	2.24	1.69	0.45	0.92	黒曜石
			59	剥片	Ⅰ区	3.11	2.93	1.06	8.29	黒曜石				113	剥片	C区	2.11	1.50	0.65	1.61	黒曜石
			60	剥片	Ⅰ区	1.72	1.21	0.25	0.56	黒曜石				114	剥片	C区	2.68	2.29	0.82	4.77	黒曜石
			61	剥片	Ⅱ区	2.55	1.98	0.12	0.90	黒曜石				115	剥片	C区	2.71	2.21	0.68	2.13	黒曜石
			62	剥片	Ⅱ区	2.55	1.60	0.56	1.23	黒曜石				116	剥片	C区	3.26	1.23	0.66	2.32	黒曜石
			63	剥片	S106	1.62	1.78	0.42	0.61	黒曜石				117	剥片	C区	1.44	0.89	0.49	0.67	黒曜石
			64	剥片	A区	1.12	0.63	0.18	0.13	黒曜石				118	剥片	C区	1.40	0.84	0.15	0.20	黒曜石
			65	剥片	B区	1.08	0.96	0.31	0.27	黒曜石				119	剥片	C区	0.73	0.72	0.14	0.06	黒曜石
			66	剥片	B区	2.79	2.25	0.59	3.15	黒曜石				120	剥片	D区	3.39	2.38	0.79	6.41	黒曜石
			67	剥片	B区	3.03	2.17	0.39	1.80	黒曜石				121	剥片	D区	2.56	1.65	0.44	2.16	黒曜石
			68	剥片	B区	2.32	1.32	0.27	0.97	黒曜石				122	剥片	D区	1.99	1.60	0.51	1.38	黒曜石
			69	剥片	B区	3.78	2.29	0.56	4.41	黒曜石				123	剥片	D区	1.75	1.07	0.38	0.72	黒曜石
			70	剥片	B区	1.06	0.79	0.27	0.22	黒曜石				124	剥片	D区	1.26	1.12	0.16	0.20	黒曜石
			71	剥片	B区	1.71	1.46	0.46	0.86	黒曜石				125	剥片	D区	0.85	0.77	0.13	0.11	黒曜石
			72	剥片	B区	2.81	1.73	0.56	2.66	黒曜石				126	剥片	D区	1.72	0.93	0.29	0.42	黒曜石
			73	剥片	B区	1.64	1.40	0.30	0.63	黒曜石				127	剥片	D区	1.62	1.59	0.35	0.61	黒曜石
			74	剥片	B区	3.81	1.99	0.84	5.33	黒曜石				128	剥片	D区	1.15	0.66	0.14	0.13	黒曜石
			75	剥片	B区	2.69	2.05	1.12	6.33	黒曜石				129	剥片	D区	2.47	2.12	0.41	2.16	黒曜石
			76	剥片	B区	2.79	2.07	0.76	4.50	黒曜石				130	剥片	D区	1.86	1.61	0.47	1.45	黒曜石
			77	剥片	B区	2.63	1.46	0.70	2.27	黒曜石				131	剥片	D区	1.10	0.83	0.13	0.15	黒曜石
			78	剥片	B区	2.26	1.38	0.56	1.35	黒曜石				132	剥片	D区	1.98	1.82	0.98	2.47	黒曜石
			79	剥片	B区	3.37	1.69	1.06	3.37	黒曜石				133	剥片	D区	2.83	1.80	0.57	1.92	黒曜石
			80	剥片	B区	3.33	1.36	0.69	3.33	黒曜石				134	剥片	D区	1.47	0.69	0.44	0.46	黒曜石
			81	剥片	B区	2.82	2.02	0.63	2.44	黒曜石				135	剥片	D区	2.78	2.32	0.25	1.39	黒曜石
			82	剥片	B区	2.25	1.88	0.26	1.19	黒曜石				136	剥片	D区	2.26	1.42	0.44	1.44	黒曜石
			83	剥片	B区	1.92	1.33	0.61	0.98	黒曜石				137	剥片	D区	3.52	2.53	1.59	9.70	黒曜石
			84	剥片	B区	1.72	1.17	0.28	0.45	黒曜石				138	剥片	D区	1.15	0.62	0.09	0.09	黒曜石
			85	剥片	B区	2.92	1.47	0.59	2.81	黒曜石				139	剥片	D区	2.60	2.06	0.93	4.52	黒曜石
			86	剥片	B区	5.93	1.99	1.24	17.21	黒曜石				140	剥片	D区	1.49	1.34	0.39	0.59	黒曜石
			87	剥片	B区	2.68	1.68	0.71	3.50	黒曜石				141	剥片	D区	1.68	0.90	0.27	0.39	黒曜石
			88	剥片	B･C区	3.38	2.15	0.57	2.76	黒曜石				142	剥片	D区	2.59	1.24	0.99	2.77	黒曜石
			89	剥片	B･C区	2.28	1.58	1.13	2.68	黒曜石				143	剥片	D区	2.11	1.96	0.57	1.42	黒曜石
			90	剥片	B･C区	2.26	1.04	0.36	0.81	黒曜石				144	剥片	D区	3.32	1.23	0.59	2.01	黒曜石
			91	剥片	B･C区	2.22	1.47	0.25	0.69	黒曜石				145	剥片	D区	2.08	1.23	0.41	0.89	黒曜石
			92	剥片	B･C区	1.46	1.10	0.36	0.42	黒曜石				146	剥片	D区	2.13	1.33	0.84	2.57	黒曜石
			93	剥片	B･C区	1.28	0.87	0.08	0.14	黒曜石				147	剥片	D区	1.61	1.19	0.11	0.25	黒曜石
			94	剥片	C区	3.76	1.87	1.25	7.49	黒曜石				148	剥片	D区	1.06	0.87	0.12	0.12	黒曜石
			95	剥片	C区	2.84	1.22	0.45	1.34	黒曜石				149	剥片	D区	2.39	1.45	0.74	2.67	黒曜石
			96	剥片	C区	2.89	1.23	0.71	2.40	黒曜石				150	剥片	D区	0.74	0.72	0.14	0.11	黒曜石
			97	剥片	C区	1.80	1.47	0.24	0.56	黒曜石				151	剥片	D区	2.04	1.07	0.34	0.47	黒曜石
			98	剥片	C区	2.27	1.38	0.48	1.43	黒曜石				152	剥片	D区	1.96	1.33	0.40	0.83	黒曜石
			99	剥片	C区	2.28	1.57	0.70	1.54	黒曜石				153	剥片	D区	2.27	1.54	0.28	1.05	黒曜石
			100	剥片	C区	1.89	2.24	0.75	1.98	黒曜石				154	剥片	D区	1.89	0.96	0.37	0.68	黒曜石

挿図番号	遺物番号	写真図版	台帳番号	種　別	調査区	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	写真図版	挿図番号	遺物番号	台帳番号	種　別	調査区	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材
			155	剥片	D区	3.10	2.38	0.72	6.22	黒曜石				178	剥片	B区	1.81	1.61	0.16	0.39	安山岩
			156	剥片	D区	2.46	1.17	0.53	0.94	黒曜石				179	剥片	B区	3.21	1.93	0.62	3.68	安山岩
			157	剥片	D区	1.53	1.39	0.39	0.76	黒曜石				180	剥片	B·C区	2.59	2.11	0.57	2.41	安山岩
			158	剥片	D区	2.23	1.54	0.34	0.82	黒曜石				181	剥片	B·C区	2.46	1.66	0.68	2.18	安山岩
			159	剥片	D区	1.83	0.94	0.72	1.12	黒曜石				182	剥片	B·C区	2.22	1.33	0.42	1.17	安山岩
			160	剥片	D区	3.01	2.63	0.38	2.29	黒曜石				183	剥片	B·C区	2.28	1.63	0.37	1.19	安山岩
			161	剥片	D区	1.84	1.24	0.46	0.73	黒曜石				184	剥片	D区	4.21	1.68	0.41	3.51	安山岩
			162	剥片	D区	2.39	1.34	0.42	1.44	黒曜石				185	剥片	D区	2.04	1.71	0.26	0.76	安山岩
			163	剥片	D区	1.27	0.91	0.23	0.28	黒曜石				186	剥片	D区	2.90	2.04	0.48	2.28	安山岩
			164	剥片	D区	1.66	1.32	0.75	1.19	黒曜石				187	剥片	C区	3.09	1.29	0.35	1.44	安山岩
			165	剥片	D区	1.53	1.30	0.13	0.25	黒曜石				188	剥片	B区	1.72	1.02	0.96	1.63	水晶
			166	剥片	D区	1.15	0.60	0.32	0.25	黒曜石				189	剥片	C区	2.50	1.61	0.80	2.28	水晶
			167	剥片	トレンチ	2.84	2.69	0.92	5.38	黒曜石				190	剥片	D区	2.87	2.00	1.65	9.86	水晶
			168	剥片	－	2.22	0.97	0.53	1.03	黒曜石				191	剥片	D区	3.19	1.86	1.70	11.57	水晶
			169	剥片	－	2.03	1.58	0.30	0.67	黒曜石				192	剥片	D区	2.62	1.72	1.06	6.31	水晶
			170	剥片	加工段2	1.69	1.22	0.51	0.87	黒曜石				193	剥片	D区	2.10	1.68	0.67	2.26	水晶
			171	剥片	加工段2	1.19	0.60	0.07	0.08	黒曜石				194	剥片	D区	5.31	2.91	1.84	22.89	水晶
			172	剥片	C区	1.80	0.56	0.17	0.26	安山岩				195	剥片	D区	1.91	1.84	0.71	1.76	水晶
			173	剥片	S105	4.87	2.61	0.32	5.47	安山岩				196	剥片	－	4.31	2.13	1.24	12.28	水晶
			174	剥片	A区	2.48	1.97	0.35	1.44	安山岩				197	剥片	－	4.30	2.20	1.39	12.96	水晶
			175	剥片	B区	4.75	4.02	0.49	7.22	安山岩				198	剥片	－	2.50	1.97	0.99	3.71	水晶
			176	剥片	B区	4.42	1.77	0.38	3.28	安山岩				199	剥片	－	2.31	1.32	0.48	1.82	水晶
			177	剥片	B区	3.58	1.35	0.48	2.49	安山岩				200	剥片	－	2.69	1.92	0.92	4.45	夏岩

表17　垣ノ内遺跡出土石斧類観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	台帳番号	種　別	調査区	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備　考
138	1	125	193	磨製石斧	A区	12.89	5.25	4.37	443	緑色片岩	縄文 乳棒状石斧
138	3	125	194	磨製石斧	表採	12.46	4.91	1.78	147	緑色片岩	弥生 太形蛤刃石斧
138	4	125	195	磨製石斧	A区	12.17	5.68	3.74	474	－	弥生 太形蛤刃石斧
138	5	125	196	磨製石斧	B区	12.83	6.62	3.89	604	玄武岩	弥生 太形蛤刃石斧
138	6	125	197	磨製石斧	B区	8.39	4.23	1.72	91	緑色片岩	弥生 太形蛤刃石斧
			198	磨製石斧	D区	13.34	5.90	4.25	615	緑色片岩	弥生 No.2 太形蛤刃石斧
			199	磨製石斧	I区	7.93	4.91	3.12	176	緑色片岩	縄文 No.55 乳棒状石斧片
			200	磨製石斧	D区	7.95	3.62	1.50	51	－	弥生 再利用品
			201	磨製石斧	II区	(6.47)	5.70	3.92	254	玄武岩	弥生 No.53 太形蛤刃石斧片
138	2	125	202	磨製石斧	A区	8.51	5.31	3.75	299	緑色片岩	楔転用品
			203	楔	－	6.03	4.87	2.49	85	－	No.29

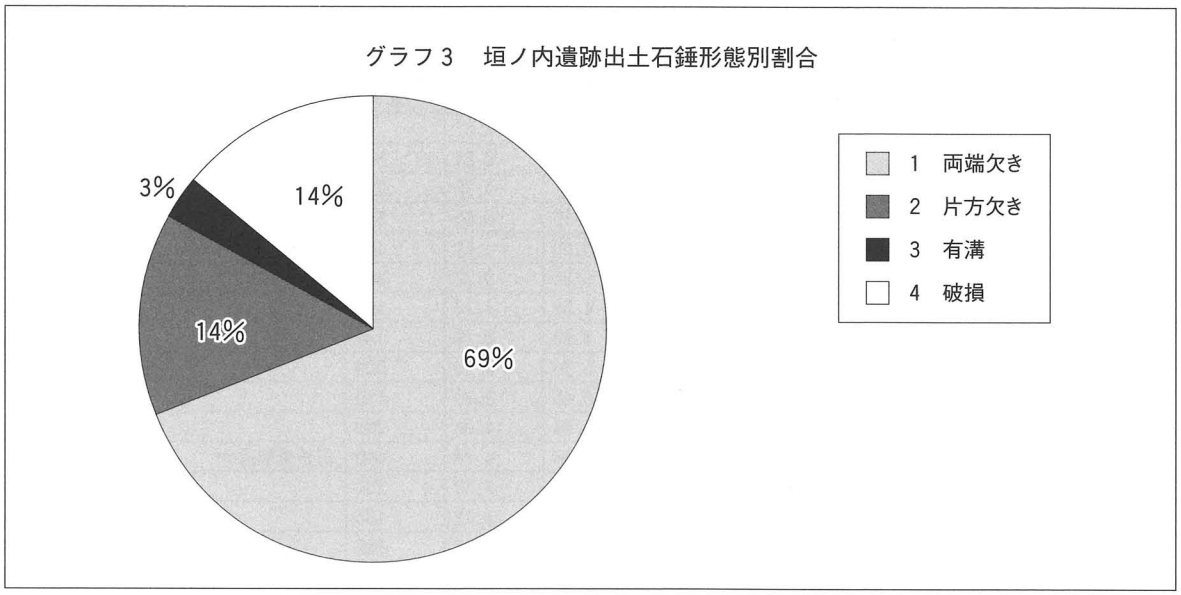
表18　垣ノ内遺跡出土砥石観察表

挿図番号	写真図版	遺物番号	台帳番号	種　別	調査区	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備　考
			204	砥石	II区	10.65	3.30	3.42	194		No.57
			205	砥石	I区	7.35	2.26	1.77	46		No.87
			206	砥石	B区	5.15	2.69	0.98	27		No. 8
			207	砥石	II区	7.13	6.12	0.90	39		
			208	砥石	II区	9.42	3.86	3.18	185		No.56
			209	砥石	II区	3.89	1.98	1.48	17		No.58

表19　垣ノ内遺跡出土石錘観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	No.	種別	形態	調査区	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
138	9	125	1	石錘	2	D区	6.07	3.98	1.35	64
			2	石錘	1	D区	6.43	4.87	2.23	98
			3	石錘	1	D区	6.32	5.33	2.05	106
			4	石錘	1	D区	6.66	5.73	2.59	127
			5	石錘	1	D区	7.00	5.94	2.27	125
			6	石錘	1	D区	9.88	5.369	1.92	163
			7	石錘	4	A区	5.42	6.79	2.80	140
			8	石錘	4	－	7.03	6.03	1.51	100
			9	石錘	1	－	9.56	4.12	1.09	64
138	10	125	10	石錘	1	D区	6.25	5.40	1.51	85
			11	石錘	1	B区	6.33	4.47	1.65	72
			12	石錘	4	C区	4.85	5.11	1.80	66
			13	石錘	1	B区	6.56	4.01	1.41	69
			14	石錘	1	－	6.08	5.17	1.28	60
			15	石錘	4	－	6.96	7.61	1.93	139
			16	石錘	2	B区	10.07	4.08	2.60	167
			17	石錘	1	B区	6.20	4.24	2.51	100
			18	石錘	4	B区	7.17	5.75	2.04	144
			19	石錘	1	C区	9.52	6.55	2.67	275
			20	石錘	1	C区	7.03	3.79	1.93	70
			21	石錘	1	C区	5.78	5.20	2.02	102
			22	石錘	1	C区	5.65	4.61	1.81	85
			23	石錘	1	B区	7.63	7.01	2.02	170
			24	石錘	1	B区	7.40	5.66	2.72	147
			25	石錘	4	B区	6.50	6.92	2.09	156
138	7	125	26	石錘	3	－	7.25	5.26	4.80	264
138	8	125	27	石錘	3	D区	7.53	5.94	5.19	352
			28	石錘	3	I区	6.85	4.84	4.67	215
			29	石錘	1	B区	9.10	5.35	2.82	220
			30	石錘	1	B区	9.26	6.02	2.04	200
			31	石錘	1	B区	7.68	5.07	2.02	135
			32	石錘	1	B区	7.08	5.71	2.77	125
			33	石錘	1	B区	7.09	4.46	2.05	100
			34	石錘	1	B区	7.30	4.79	1.82	95
			35	石錘	1	B区	7.65	5.28	1.51	85
			36	石錘	1	B区	8.12	4.88	2.08	125
			37	石錘	4	B区	6.12	6.64	2.24	115
			38	石錘	1	B区	7.35	5.83	2.04	145
			39	石錘	1	B区	8.35	6.16	1.51	125
			40	石錘	1	B区	7.32	4.68	1.90	110
			41	石錘	1	B区	8.70	6.91	1.89	125
			42	石錘	1	B区	9.24	4.34	2.41	140
			43	石錘	1	B区	6.78	5.56	2.04	80
			44	石錘	4	B区	7.30	5.67	1.98	135
			45	石錘	1	B区	6.41	6.08	2.30	120
			46	石錘	1	B区	5.71	4.57	1.70	70
			47	石錘	1	B区	6.63	5.35	2.50	110
138	11	125	48	石錘	1	B区	6.17	5.12	1.63	85
			49	石錘	1	B区	6.68	5.13	2.31	130
			50	石錘	1	B区	7.68	4.16	1.51	80
			51	石錘	1	B区	6.53	5.79	1.48	80
			52	石錘	1	B区	6.94	5.64	2.05	130
			53	石錘	1	B区	6.74	4.32	1.70	75
			54	石錘	1	B区	6.17	3.57	1.57	55
			55	石錘	1	B区	5.45	4.13	1.78	60
			56	石錘	1	B区	7.08	4.98	2.14	100
			57	石錘	1	B区	7.81	5.49	1.94	115
			58	石錘	1	B区	5.78	5.34	1.30	75
			59	石錘	1	B区	6.10	5.27	1.97	85
			60	石錘	1	B区	5.27	4.28	1.32	55
			61	石錘	1	B区	5.79	4.99	1.82	90
			62	石錘	1	B区	6.02	4.63	1.66	65
			63	石錘	1	B区	7.08	5.89	1.91	95
138	12	125	64	石錘	4	B区	5.64	4.77	1.36	50
			65	石錘	4	B区	7.27	6.14	1.76	95
			66	石錘	1	B区	6.99	5.78	1.70	100
			67	石錘	1	B区	8.31	6.31	2.59	210
			68	石錘	1	B区	6.23	5.87	2.48	125
			69	石錘	1	B区	6.80	5.58	1.93	120
			70	石錘	1	B区	7.54	4.74	1.98	95
			71	石錘	1	B区	6.41	5.89	1.75	110
			72	石錘	1	B区	6.68	3.67	1.78	85
			73	石錘	1	B区	7.27	4.36	2.06	115
			74	石錘	4	B区	5.14	5.53	1.45	45
			75	石錘	1	B区	5.78	4.09	1.61	55
			76	石錘	2	B区	5.42	3.95	1.91	65
			77	石錘	2	B区	5.91	5.95	2.35	100
			78	石錘	1	B区	6.73	6.00	2.02	120
			79	石錘	1	B区	7.67	5.95	1.96	125
			80	石錘	1	B区	6.02	5.34	1.66	85
			81	石錘	1	B区	5.94	4.64	1.50	80
			82	石錘	4	B区	5.80	5.29	2.06	75
			83	石錘	4	B区	8.51	5.16	2.31	145
			84	石錘	1	B区	6.21	4.72	1.24	60
138	13	125	85	石錘	1	B区	5.37	4.62	2.03	75
			86	石錘	1	B区	6.91	4.40	1.75	80
			87	石錘	1	B区	6.49	5.75	1.88	105
			88	石錘	1	B区	5.36	5.00	1.78	65
			89	石錘	1	B区	5.52	3.25	1.28	40
			90	石錘	1	B区	6.40	5.55	1.98	105
			91	石錘	1	B区	8.26	5.81	2.15	155
			92	石錘	1	B区	7.76	5.20	2.08	115
138	15	125	93	石錘	1	B区	6.48	5.00	1.76	90
			94	石錘	1	B区	5.06	5.69	1.75	80
			95	石錘	4	B区	7.46	4.17	1.59	80
			96	石錘	1	B区	5.08	4.74	2.00	80
			97	石錘	1	B区	5.80	4.47	1.06	45
			98	石錘	1	C区	12.31	8.27	2.59	350
			99	石錘	1	C区	6.92	4.51	1.63	75
			100	石錘	1	C区	7.43	6.89	1.56	130
138	16	125	101	石錘	1	C区	5.99	4.25	1.36	60
			102	石錘	1	C区	6.81	5.40	1.91	95
			103	石錘	1	C区	7.34	5.26	1.93	100
			104	石錘	1	C区	5.96	4.55	1.86	75
			105	石錘	1	C区	4.75	3.96	1.65	40
			106	石錘	1	C区	7.42	5.31	1.86	110
			107	石錘	1	C区	6.06	4.71	1.60	75
			108	石錘	1	C区	5.63	4.25	1.94	65
			109	石錘	1	C区	5.84	3.87	1.50	55
			110	石錘	1	C区	5.09	3.79	1.54	55
			111	石錘	2	I区	3.20	4.55	1.15	25
			112	石錘	2	I区	4.08	3.78	1.03	25
			113	石錘	2	I区	6.64	3.86	1.74	70
			114	石錘	2	I区	6.01	7.02	1.34	90
			115	石錘	2	I区	10.29	7.46	2.00	225
			116	石錘	1	I区	5.68	4.86	1.88	75
			117	石錘	4	I区	7.05	7.90	1.97	100
138	14	125	118	石錘	1	I区	7.44	5.18	2.61	150
			119	石錘	2	II区	3.08	2.86	1.17	10
			120	石錘	2	II区	9.23	7.26	1.70	205
			121	石錘	2	II区	12.00	6.80	2.58	345
			122	石錘	4	III区	5.29	6.01	1.22	30
			123	石錘	2	A区	6.37	4.65	1.64	85
			124	石錘	2	B区	5.06	4.68	2.08	70
			125	石錘	2	B区	5.64	6.24	1.60	90
			126	石錘	1	D区	7.62	6.90	3.07	250
			127	石錘	2	I区	8.35	4.23	2.75	155
			128	石錘	2	A区	6.63	4.28	1.86	84
			129	石錘	1	－	8.00	6.45	1.91	161

形態欄　凡例
1　両端欠き
2　片方欠き
3　有溝
4　破損



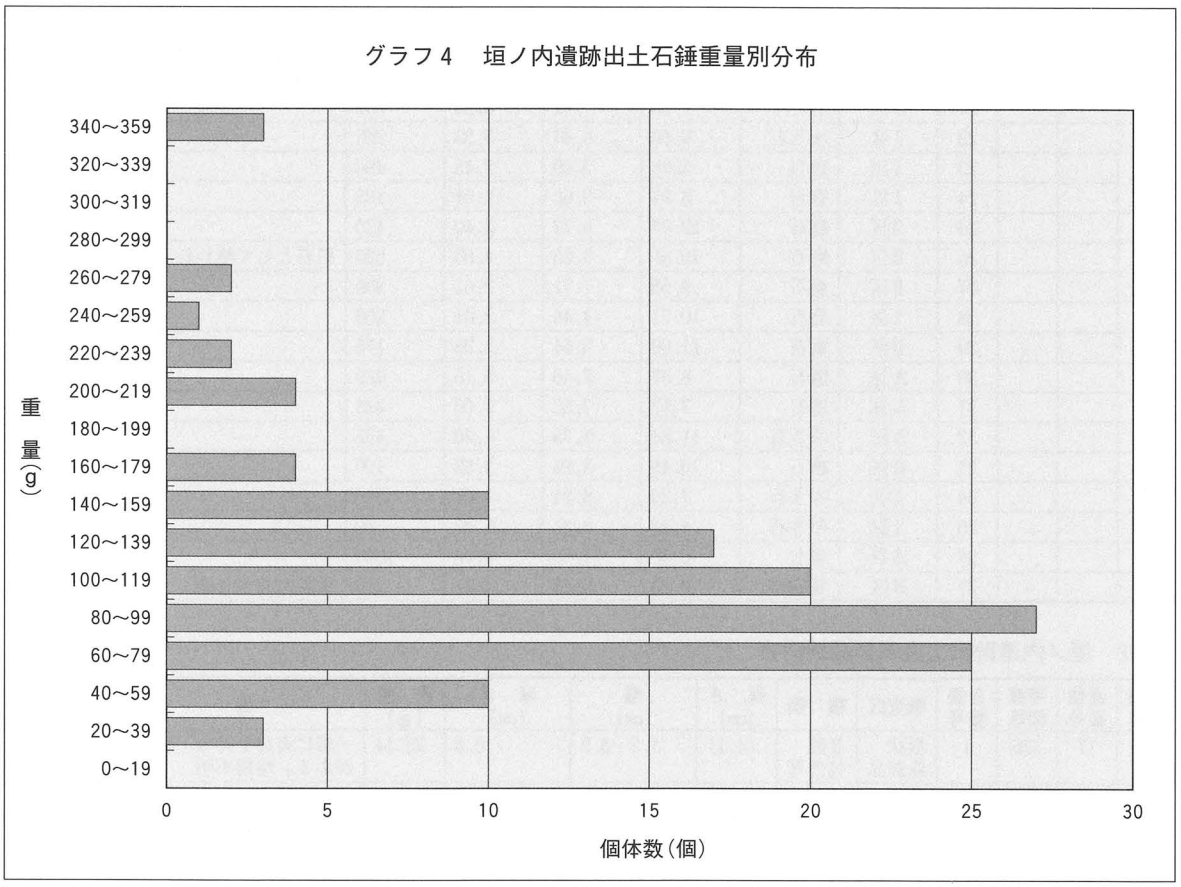


表20　垣ノ内遺跡出土銭観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	出土位置	名　称	寸　法（mm）							重さ（g）	初鋳年代
					a	b	c	d	e	f	厚さ		
140	1	－	Ⅱ区表土	寛永通寶	2.34	2.35	1.97	1.96	0.75	0.74	0.12	1.96	17末～18世紀
140	2	－	表採	寛永通寶	2.20	2.19	1.81	1.83	0.82	0.83	0.10	1.68	17末～18世紀

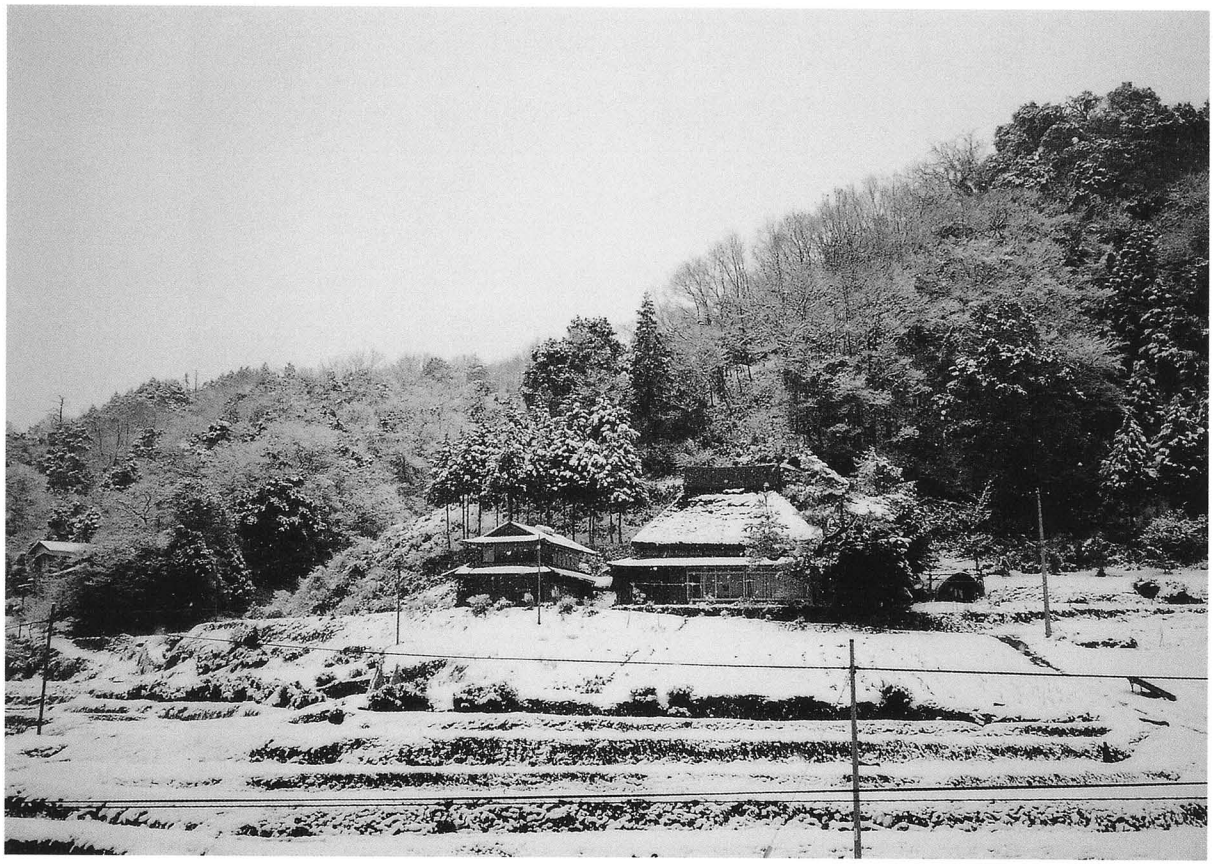
垣ノ内遺跡では二点出土しているが、いずれも銅製寛永通寶で17世紀末～18世紀代（Ⅲ期）に鋳造されたもである。

表21　垣ノ内遺跡出土礫石器観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	台帳番号	調査区	種　別	長　さ (cm)	幅 (cm)	厚　さ (cm)	重　量 (g)	備　　考
			1	－	磨石	5.97	4.78	2.07	90	
			2	－	窪み石	8.50	7.87	5.84	530	
			3	－	磨石	5.95	5.41	4.78	220	
			4	－	磨石	5.64	11.15	6.65	510	
			5	－	磨石	5.70	5.29	4.41	180	
			6	－	叩き石	8.48	5.22	5.32	365	
			7	B区	磨石	5.37	4.58	4.12	150	
			8	B区	叩き石	9.78	3.49	2.19	130	
			9	B区	叩き石	11.83	5.36	3.10	320	
			10	D区	叩き石	15.16	6.46	3.20	515	
			11	D区	叩き石	8.75	4.94	4.08	290	
			12	B区	叩き石	12.28	6.46	4.78	640	石斧未製品か
			13	B区	叩き石	11.29	5.21	2.52	230	
			14	B区	叩き石	9.79	3.48	2.42	135	
			15	B区	叩き石	10.73	6.24	2.87	340	
			16	B区	叩き石	12.61	5.44	3.62	380	
			17	D区	磨石	7.92	7.09	3.73	290	
			18	D区	磨石	10.32	8.39	3.60	495	
			19	D区	磨石	5.55	4.15	2.01	80	
			20	B区	磨石	6.16	5.94	3.12	180	
			21	D区	磨石	7.13	7.41	5.35	560	
			22	I区	叩き石	9.09	6.44	3.53	295	
			23	I区	磨石	5.28	9.69	7.45	480	
			24	I区	磨石	8.07	5.65	2.01	155	
			25	II区	磨石	12.97	5.72	3.40	420	
			26	II区	磨石	10.85	6.23	4.85	520	砥石として使われたものか
			27	II区	磨石	5.55	7.71	2.61	200	
			28	I区	磨石	10.71	4.46	3.01	250	
			29	II区	磨石	11.09	3.64	2.78	175	
			30	A区	磨石	8.37	7.40	5.16	420	
			31	A区	磨石	7.52	7.62	7.00	435	
			32	B区	叩き石	11.84	5.79	4.20	435	
			33	B区	磨石	10.45	3.96	3.52	190	
			34	I区	叩き石	7.23	8.24	4.54	390	
			35	I区	叩き石	4.40	3.54	3.32	80	
			36	A区	磨石	9.50	11.45	6.08	1000	
			37	B区	荒割礫	6.83	6.63	4.56	210	水晶の荒割り礫

表22　垣ノ内遺跡出土金属製品観察表

挿図番号	遺物番号	写真図版	台帳番号	調査区	種　別	長　さ (cm)	幅 (cm)	厚　さ (cm)	重　量 (g)	備　　考
138	17	126	1	板状鉄製品	II区包含層	(4.1)	3.2～3.9	0.6	35.14	一端に刃部を持ち、板状鉄斧の可能性がある。時期不明。
138	18	126	2	刀子	B区包含層	(8.5)	1.8	0.2	24.21	
138	19	126	3	棒状鉄製品	B区包含層	5.6	0.4～0.5	_	4.47	両端部欠損。鉄釘、鎹などの破片だろうか。時期不明。
138	20	126	4	短刀	C区包含層	(30.2)	刃部：2.5～2.7 茎部：1.4	刃部：4.5 茎部：4	181.76	平作り、平棟の直刀である。切先を欠く。関はX線写真から判断する限り片関だが、刃部側に欠損があるので、両関の可能性がある。茎部は徐々に幅が絞られ、茎尻は栗尻である。刀身部残存長19.8cm、茎長10.2cm、目釘穴径0.4～0.5cmである。刀身部、茎部とも木質が残存付着。短刀（刃部長一尺以下で、平作り）が多く作られる平安時代以降のものと考えられる。
138	21	126	5	簪	表土	16.2	0.2	－	4.88	真鍮製の簪で、二葉に分かれた松葉をモチーフにしたもの。交差部に玉を付ける玉簪に分類されるもので、葉の交差部は断面を扁平に、端部は円形に仕上げる。先端部は、先端をヘラ状に広げ耳掻き状に曲げている。江戸時代後半のものか？



調査前の垣ノ内遺跡（南から）平成６年３月

下：調査前空撮（南から）平成11年12月

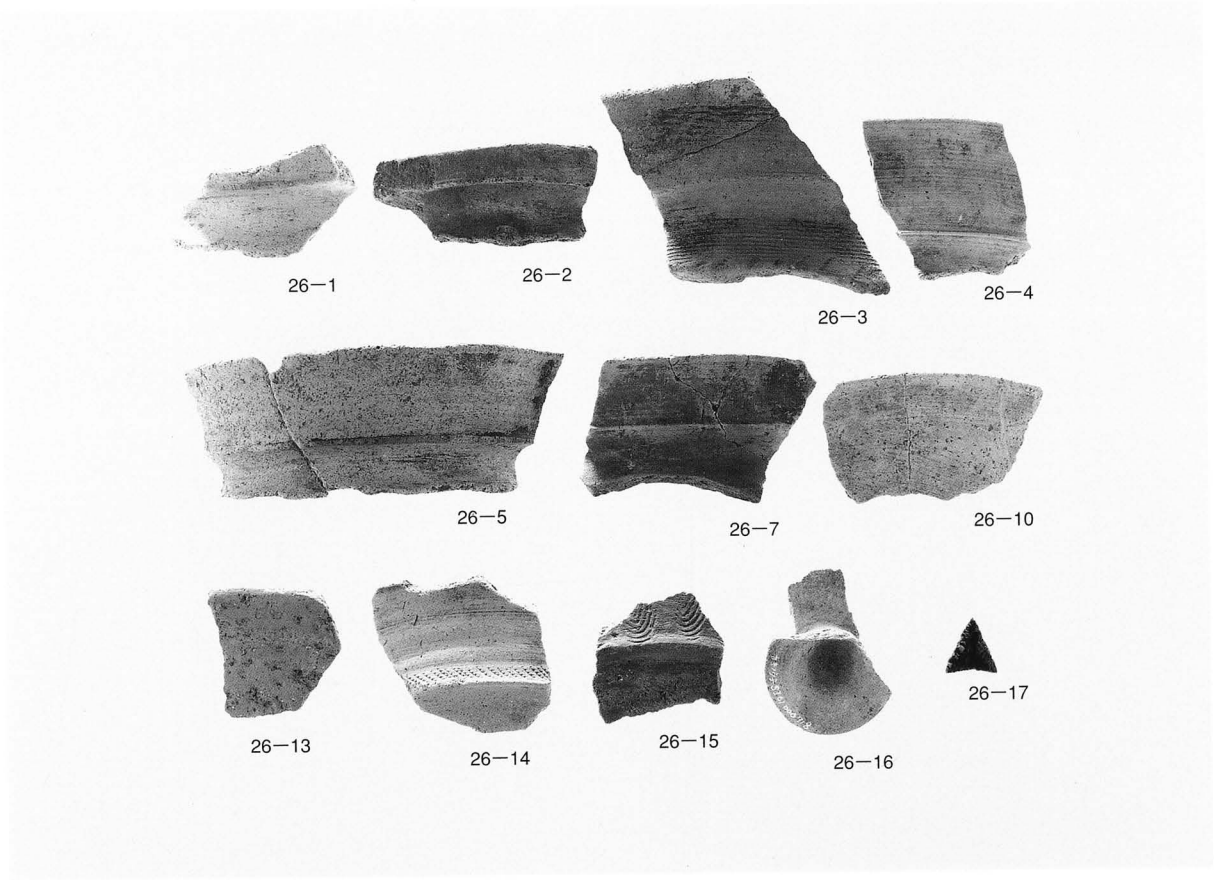
図版 18

平成12年度調査後全景（北西から）

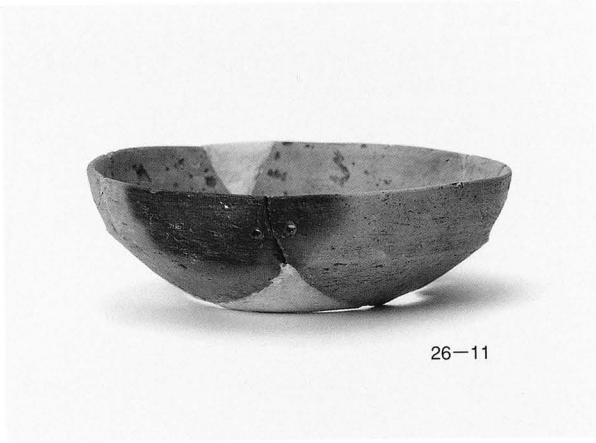
平成13年度調査後全景（南から）

SI01・07完掘状況（南から）

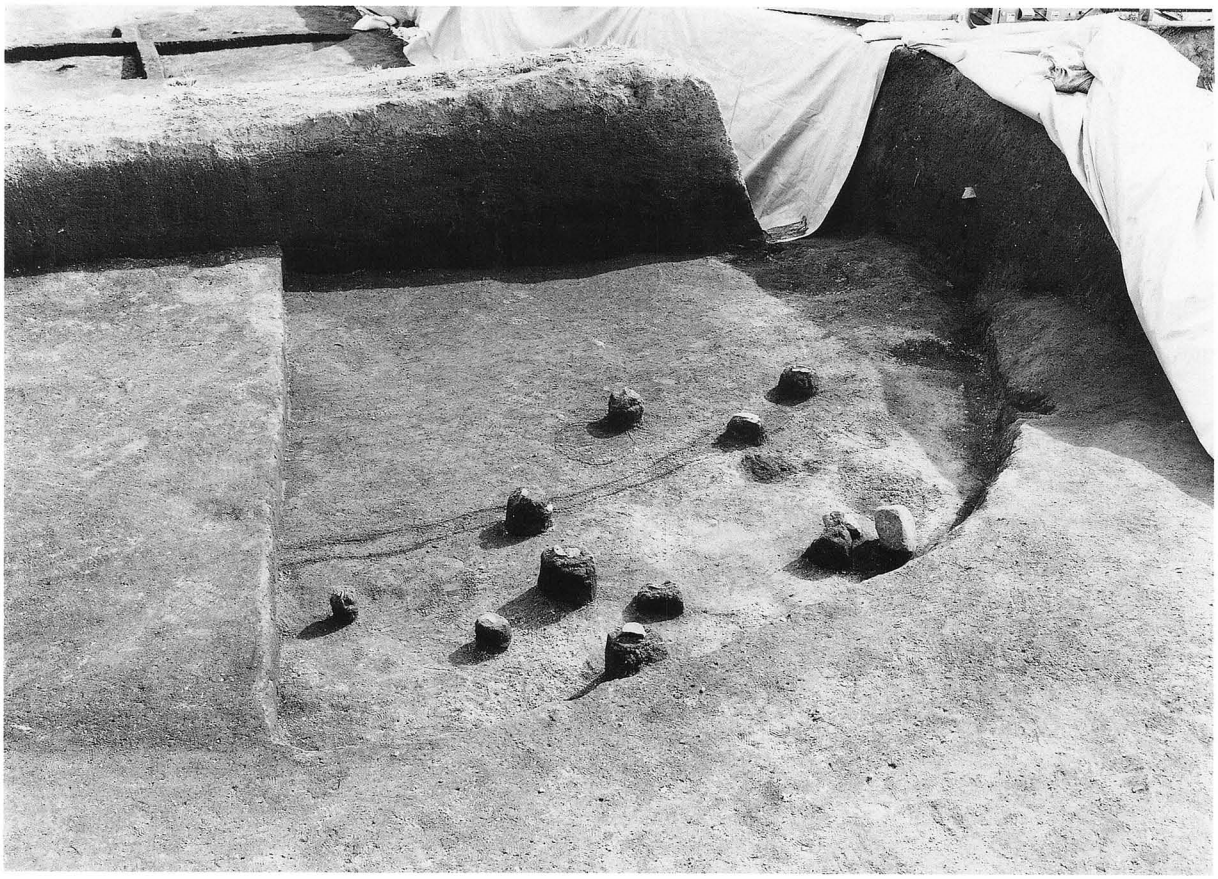
SI01・07完掘状況（北から）



SI01・07出土遺物

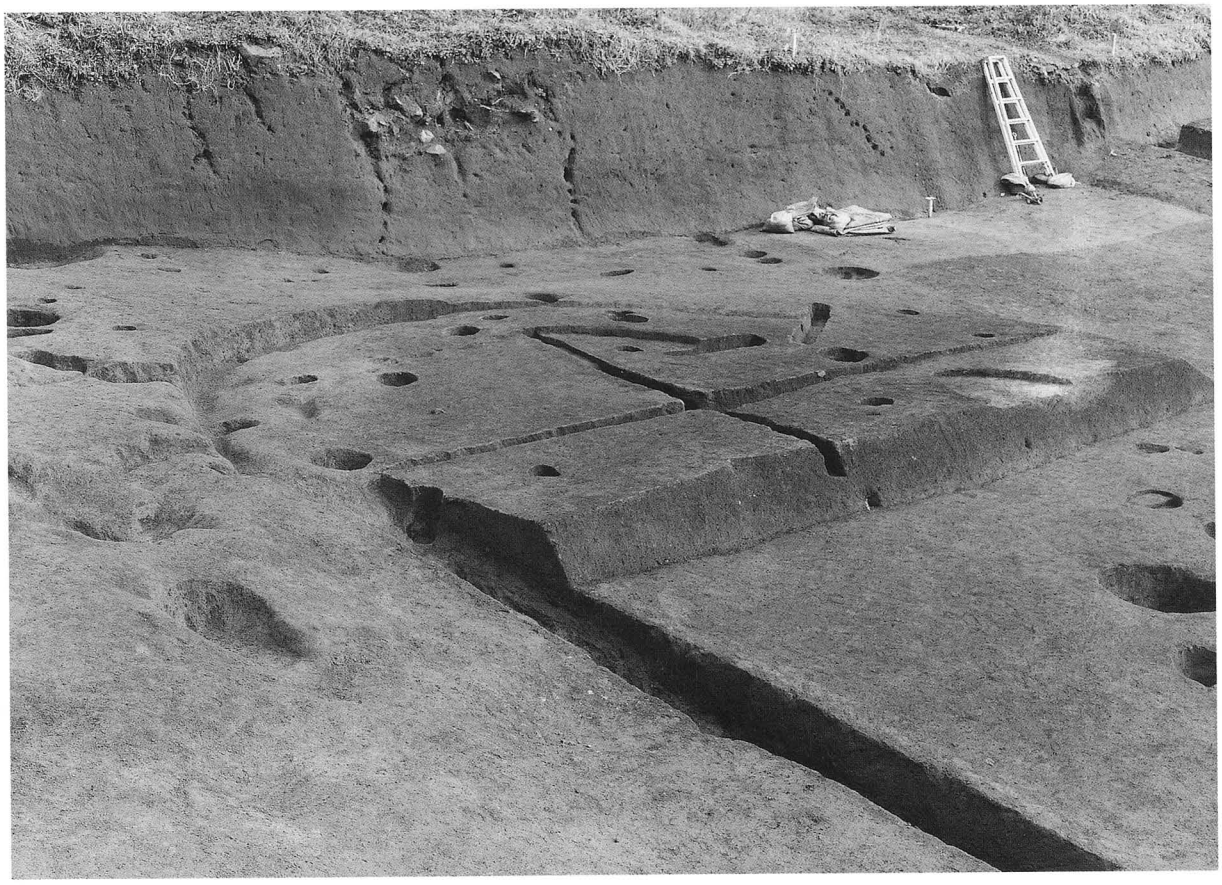


SI01・07出土遺物

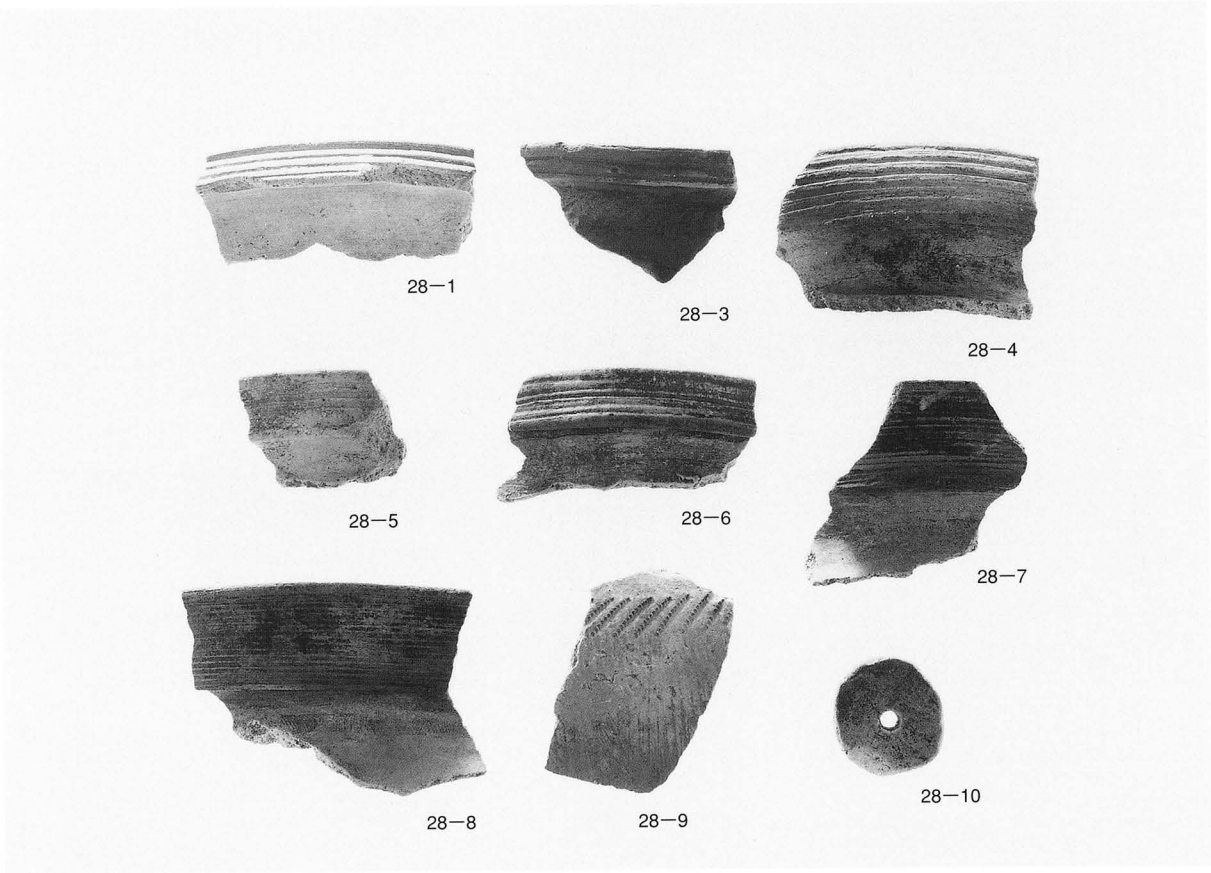


SI02・04半裁状況（北から）

SI02・04全景（北から）



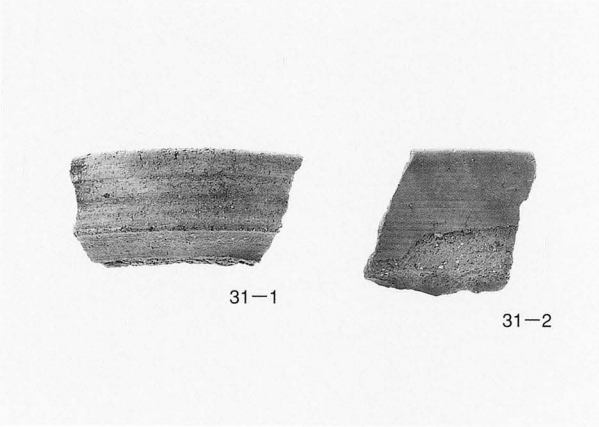
SI02・04完掘状況（南から）



SI02・04出土遺物

SI03完掘状況（南から）

28－2



31－1

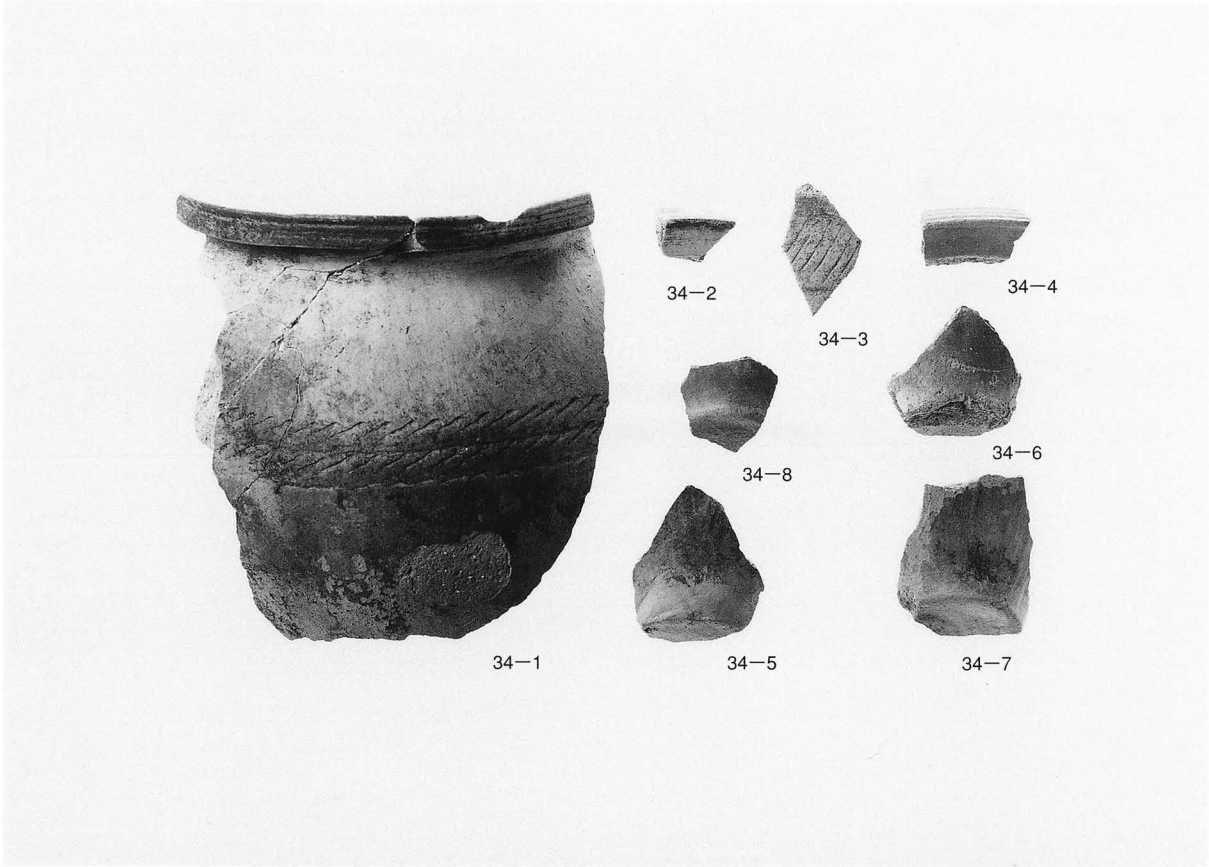
31－2

31－3

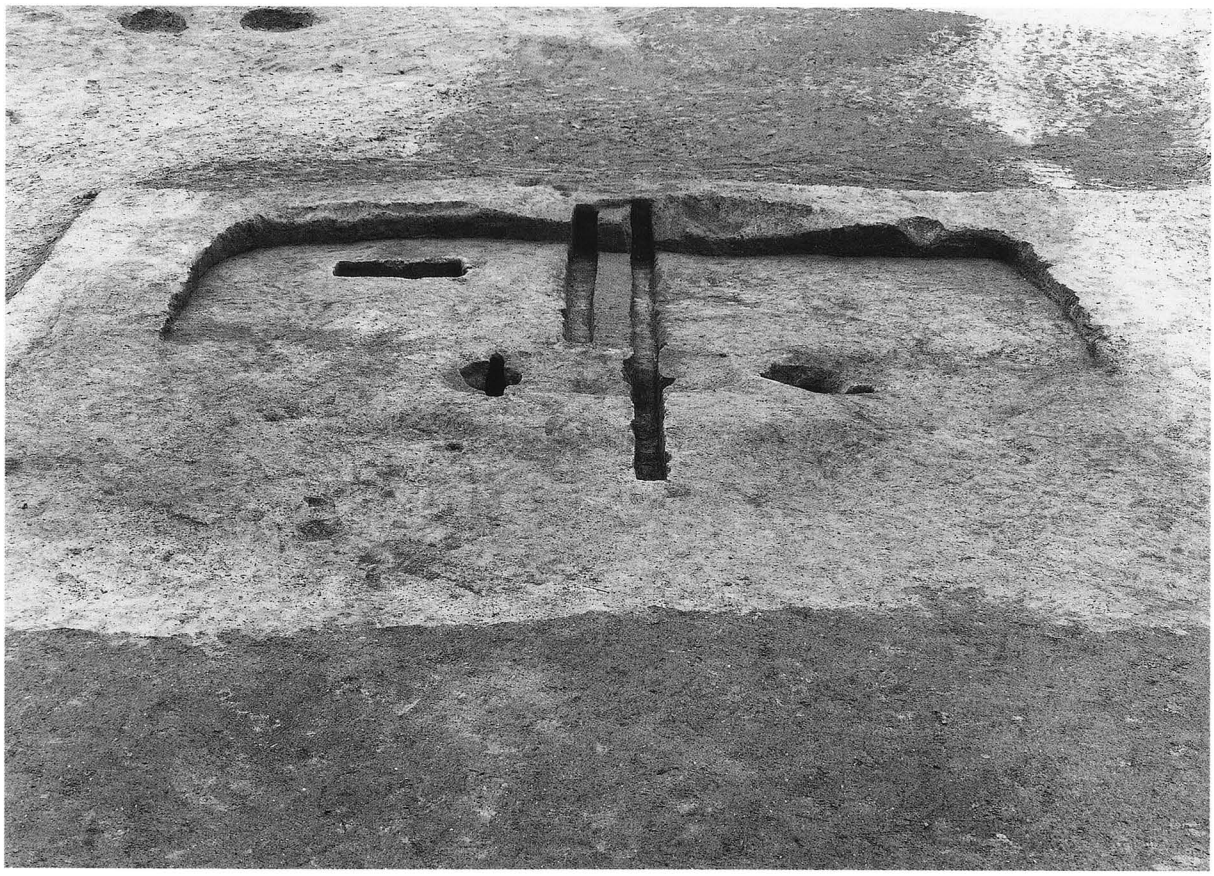
SI02・04, SI03出土遺物

SI05・08半裁状況（南から）

SI05・08完掘状況（南から）

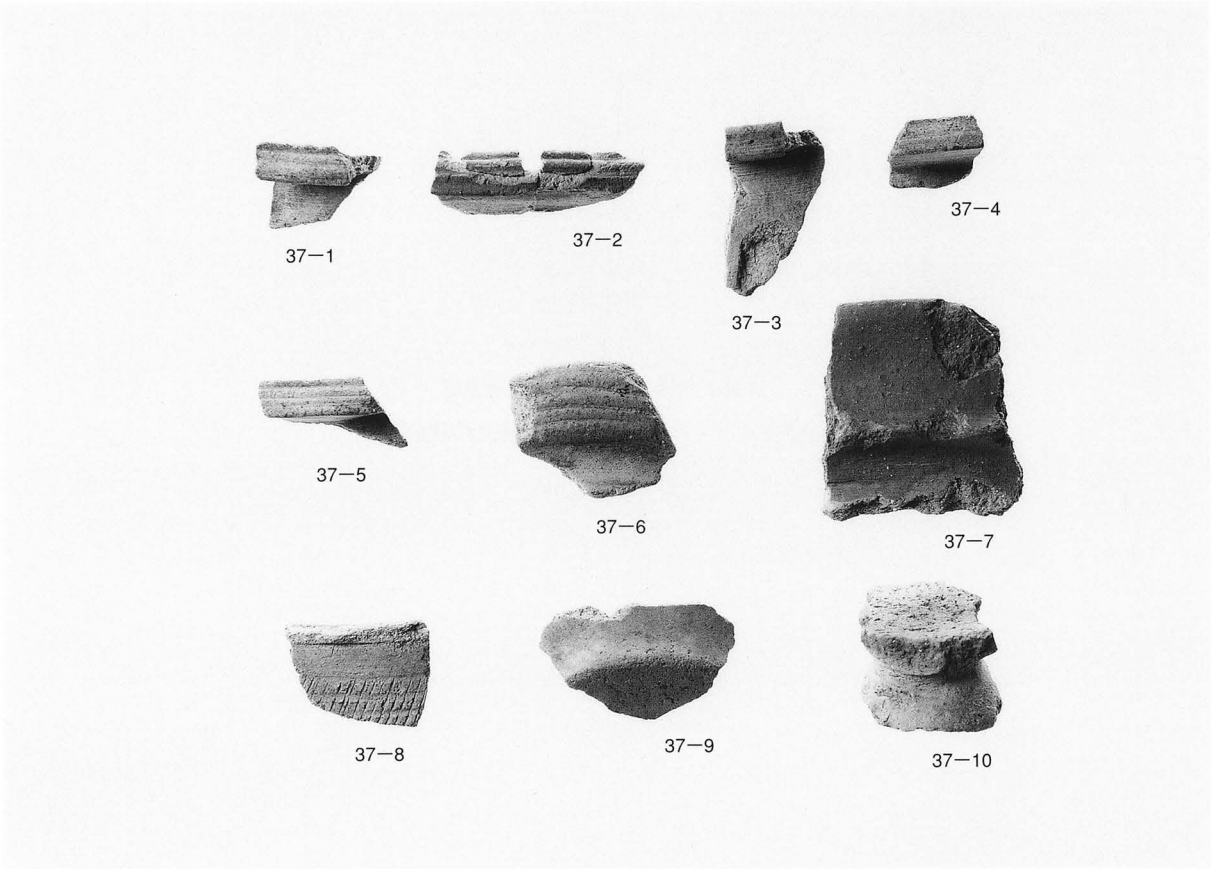


SI05・08出土遺物

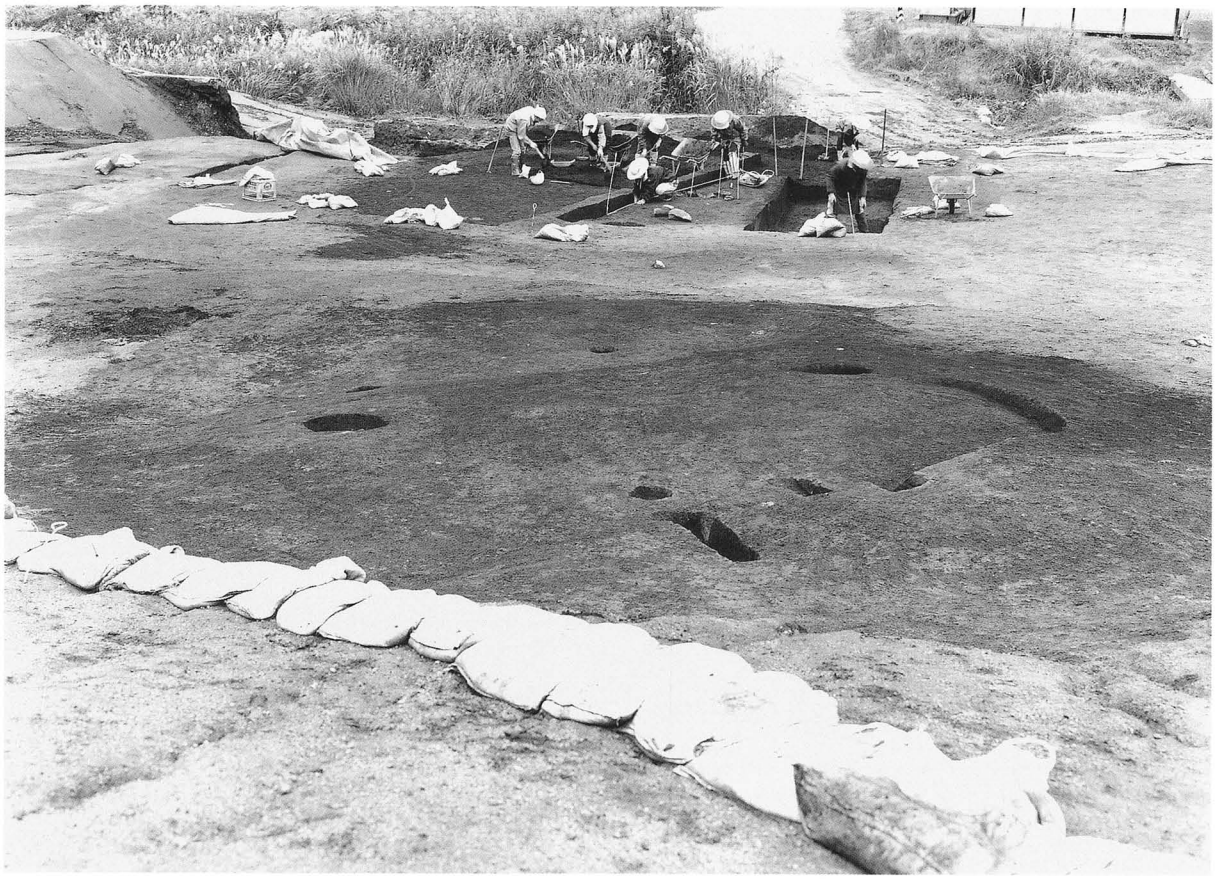


SI06完掘状況（南から）

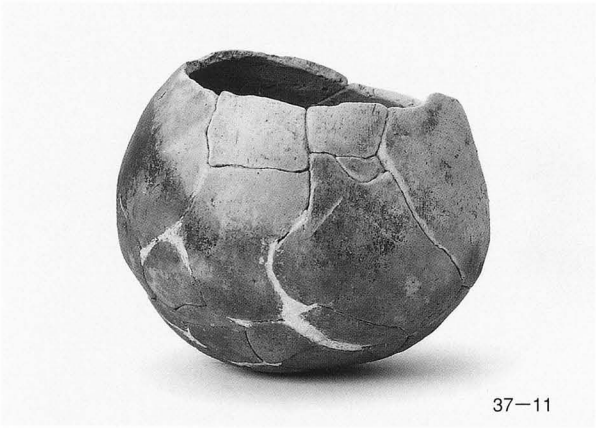
SI06セクション遺物出土状況（東から）



SI06出土遺物

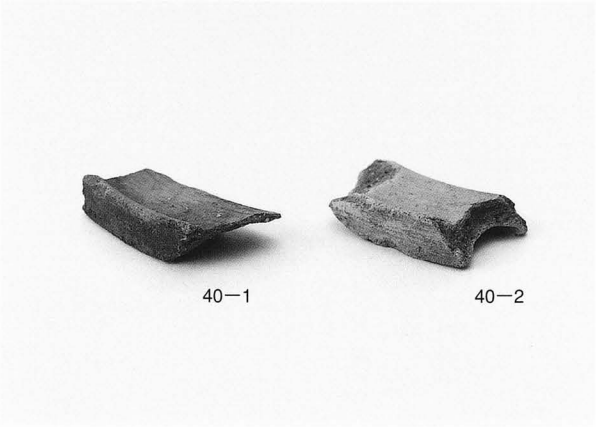


SI09完掘状況（北から）



37－11

40－3



40－1　40－2

SI06、SI09出土遺物